

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 天野 有 (1101)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	「授業科目:キリスト教学Ⅰ,Ⅱ」毎回講義の最後10分間を用いて、学生にコメントを書いてもらい、次回の講義に活かしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 参考書の作成	2003. 8 ~	「授業科目:教義学」の参考書としてカール・バルト『国家の暴力—死刑と戦争をめぐる創造論の倫理—』を出版した。
2 作成した教科書、教材、参考書 参考書の作成	2004. 3 ~	「授業科目:キリスト教学Ⅰ,Ⅱおよび教義学」の参考書として共著『生命の倫理—その規範を動かすもの—』を出版した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
われわれはそこで何を見出したか—反ナチ教会闘争の中で	分担執筆	2004. 4	新教出版社:新教コイノーニアVOL.20		41~50
準備のための聖書の個所	分担執筆	2004.12	日本バプテスト連盟:聖書教育第55巻第4号		29
聖書の学び(第40課~第52課)	分担執筆	2004.12	日本バプテスト連盟:聖書教育第55巻第4号		34~35、40~41、46~47、52~53、58~59、64~65、70~71、76~77、82~83、88~8、994~95、100~101、106~107
ヨハネによる福音書を読む—永遠の命	分担執筆	2004.12	日本バプテスト連盟:聖書教育第55巻第4号		30~33

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
カール・バルト(訳)「バルメン宣言第一テーゼについて」	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	197~215
カール・バルト「民族とは何か—<神の唯一の民族>と<諸民族>—」	2007. 3	西南学院大学論集:第64巻第1号	183~248

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 6.29	神学校週間を覚える集い(日本バプテスト連盟関西地方教会連合壮年会主催)	日本バプテスト大阪教会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 9. 3 ~ 2007. 9. 5	バルトにおけるキリスト論的信仰告白の展開としての三位一体論およびその<説教／祈りにおける語り>への実践神学的射程—クラッパートへの二つの問い—	日本K・バルト協会

社会活動

期間	活動内容
2005. 1. 9 ~ 2005. 1.10	中国・四国教会連合信徒研修会講演(「教会と国家」 I・II)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 青野 太潮 (1102)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価を含む)学生による授業評価調査	2004. 4 ~ 2007. 1	毎学期全学で取り組んでいる授業評価調査の集計結果を分析して参考にし、クラス運営に生かしている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 視聴覚的教育方法の採用	2004. 4 ~ 2007. 1	『キリスト教学Ⅰ、Ⅱ』において、テレビのドキュメンタリー番組の録画二つを見ることによって、視聴覚的な興味を喚起している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業採用	2004. 4 ~ 2007. 1	『演習』『新約釈義』『新約原典』において、メールによる質問を奨励して、それに応えることによって学生の疑問を解消している
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書、教材、参考書の使用	2004. 4 ~ 2007. 1	『キリスト教学Ⅰ、Ⅱ』『新約概論』において自らの著書『どう読むか、聖書』『十字架につけられ給ひしままなるキリスト』を教材に使用して授業を展開している
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 シンポジウムにおける講演・発題	2005. 3 ~ 2007. 3	毎年3月の卒業生のための神学部シンポジウムにおいてパネリストになることによって、学生が授業総括をすることを援助している

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『十字架につけられ給ひしままなるキリスト』	単著	2004. 9	コイノニア社		247
『聖書を読む・新約篇』	共著	2005.11	岩波書店		42
『「十字架の神学」の展開』	単著	2007. 3	新教出版社		443
On the Paradox of Christian Faith	分担	2006. 5	Touka Shobo:『Across the Pacific with Love』		111~120
キリスト教信仰における「パラドックス」をめぐって	分担	2006. 5	權歌書房:『太平洋を渡った愛の使徒』(L.K.シート先生献呈論文集)		133~146

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「障害者イエス」と「十字架の神学」	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	37~76
翻訳 ヘイキ・ライサネン「大いなる転換—初期キリスト教思想の『総説』における第一章としての〈終末論〉—」	2006. 3	西南学院大学論集:第63巻第1号	115~132

玉井忠純氏による土岐健治著『[改訂新版] 新約聖書ギリシア語初歩』(教文館、1999年)への批判	2006. 3	西南学院大学論集: 第63巻第1号	25~38
<西南学院大学大学院神学研究科開設記念講演>ヘイキ・ライサネン「最近の『新約聖書神学』」(訳)	2006. 3	西南学院大学論集: 第63巻第1号	1~24
パウロにおける「超越」と「内在」—ひとつの説教における考察—	2007. 3	西南学院大学論集: 第64巻第1号	39~58
「十字架の神学」をめぐって—とくに「贖い」の思想との関連における川島重成氏との対話—	2008. 3	西南学院大学論集: 第65巻第1号	1~35

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
論評・朴憲郁著『パウロの生涯と神学』		2005. 7	日本新約学会:『新約学研究』33号		8
国際新約聖書学会(SNTS) 59回大会(バルセロナ) 報告		2005. 7	日本新約学会:『新約学研究』33号		2
論評・小河陽著『パウロとペテロ』(講談社選書メチエ)		2006. 9	教文館:『日本の神学』(日本基督教学会機関誌)45号		6
福音によって真に自由にされた人(E・シュバイツァー教授追悼文)		2007. 7	新教出版社:『福音と世界』		6頁
<序文>山田隆牧師の説教集を推薦する		2007.10	新教出版社:山田 隆著『現代に聖書を読む』		12頁
Violent Conflict and Christian Belief		2007.11	Japanese Biblical Institute:AJBI30/31		8頁
パウロから読み解く「十字架につけられ給ひしまなるキリスト」(第一コリント書研究)2007. 4~2008. 3		2008. 3	バプテスト女性連合:『世の光』12回連載		72頁
「十字架の神学」をめぐって		2008. 3	新教出版社:『福音と世界』		18頁
「使徒教父」など15項目		2008. 3	日本キリスト教団出版局:『聖書学用語辞典』		10頁

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 3.28	Christian Belief and Violent Conflict	世界宗教学会 (IAHR)

社会活動

期間	活動内容
2007. 4 ~ 2008. 3	社会福祉法人「せいうん会」理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 G. W. バークレー (1103)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 板書の有効利用	2004. 4 ~ 2007. 1	聞き取りにくい言葉や重要な言葉は口頭だけではなく板書する。複雑な問題についても板書し、わかりやすい説明に努める。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~ 2007. 1	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書 学生との意見交換方法の改善	2002. 4 ~ 2007. 1	質問用紙を配布し、授業終了までに質問や意見を記入させ、当日授業終了後に提出させる。次回授業の冒頭で復習の意味も含め、主な質問や意見に対して回答を行う。

講演会

開催日時	講演名称	場所
2007. 7.18	FIBA(福岡インターナショナルビジネスアソシエーション)	アクロス福岡
2007.10.27	大井バプテスト教会伝道集会	大井バプテスト教会
2007.11.21	福岡ロータリー卓話	西鉄グランドホテル
2008. 3. 4	甘木ロータリークラブ例会卓話	ニュー松屋
2008. 8.22	中国・四国バプテスト教会連合大会	グリーンピアせとうち
2008.10.18	浦和バプテスト教会特別伝道集会	浦和バプテスト教会

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1993.10 ~	福岡ベタニア村協会協力牧師
2002. 9 ~	アジア・バプテスト神学大学院理事・常任理事
2004. 4 ~	International Journal of Spiritual Direction 編集・審査委員
2006.12 ~	福岡YMCA理事
2006.12 ~	九州市民大学評議員
2006.12 ~	福岡アジアマンス委員会委員
2006.12 ~	福岡アジア文化賞委員会委員

2006.12 ~	福岡アジア都市研究所顧問
2006.12 ~	福岡EU協会理事
2006.12 ~	福岡日伊協会顧問
2006.12 ~	福岡日英協会理事
2006.12 ~	福岡日米協会副会長
2006.12 ~	大学基準協会評議員
2006.12 ~	日本私立大学連盟理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 片山 寛 (1104)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 板書の有効利用	2003. 3 ~	大切な言葉、聞き取りにくいことばなどを板書するよう心がけている。板書のスピードが速すぎて、書きとれないと言われるほど、たくさん板書をするので、その意味で「学生泣かせ」の教師である。しかし学生が自分でノートを取ることは大切だと信じている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2006. 7 ~	「キリスト教学I」「キリスト教学II」という科目で、授業評価アンケートを実施している。アンケートは学期の終りに実施され、その結果は翌年の授業の参考になる。とはいえ、しんらつな回答は少なく、どうすれば受講者の「ホンネ」がわかるのかが、今後の課題である。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の質問を書かせて、次の授業で答える	2006. 9 ~ 2007. 1	授業の終りに、学生に質問を書かせて集め、次の授業で答えるという試みを、2005年度に行った。しかし、質問内容は概して平凡で、ステロタイプ化しており、答えに手間取るので授業が前に進まないなど、欠点も多かったため、以後は行っていない。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2006. 9 ~	キリスト教学IIの教科書として、拙著「風は思いのままに」(説教集)を使用している。この書の各章が、キリスト教を学ぶときの様々なテーマに沿っているため、使いやすい。しかし専門科目の授業では、内容が毎年変わるため、教科書は使いづらい。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座で担当	2005.10 ~	2005年度に「死とキリスト教」という主題で公開講座があり、「煉獄をめぐる黙想」という題で、2009年度に「現代における救い」という主題で公開講座があり、「死の舞踏の向こうに見える救い」という題で、思想史の立場から講演を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
風は思いのままに—若者にマラナ・タと祈る説教集—	単著	2006. 9	中川書店	片山 寛	233

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
滝澤・バルト・トマス	2005. 3	西南学院大学論集: 第62巻第1号	113~126
バプテスト「平和宣言」の意義と問題点	2006. 3	西南学院大学論集: 第63巻第1号	93~114
テオ・ズンダーマイヤー「大宗教—世界平和の障害要因かそれともその仲介者か?—」(訳)	2007. 3	西南学院大学論集: 第64巻第1号	167~182
サン・ヴィクトルのフーゴ—の三位一体論	2007. 3	西南学院大学論集: 第64巻第1号	71~87
B. クラッパート「イスラエルの神の『御名』の解釈としての三位一体論—三位一体論にとって旧約聖書とユダヤ教は何を意味するか—」(訳)	2007. 3	西南学院大学論集: 第64巻第1号	133~165

青野太潮「十字架の神学」への問いかけ	2008. 3	西南学院大学論集: 第65巻第1号	37～49
思考の開け・存在の開け—アンセルムスCur Deus homoからトマスへ—	2008. 3	西南学院大学論集: 第65巻第1号	51～60
古代・中世の教理史における死と葬儀	2009. 3	西南学院大学論集: 第66巻第1号	27～42
エルンスト・ファイル「カール・バルトとディートリッヒ・ボンヘッファーにおける宗教概念と『無宗教的キリスト教』というボンヘッファーの期待の歴史的検証」(訳)	2009. 3	西南学院大学論集: 第66巻第1号	67～94

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
神学の言葉、神学の場所—エーリヒ・プシュワラとアナロギア・エンティス	単著	2008. 9	九州大学哲学会: 哲学論文集44		91～107

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 4.27	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2008. 5.25	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2008. 6. 4 ～ 2008. 6. 6	西南女学院高校ミッション・ウィーク	西南女学院高校(小倉北区下道津)
2008. 6.22	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2008. 8.24	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2008. 8.30	全国壮年大会 模擬授業	西南学院大学
2008. 9.28	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2008.10.25 ～ 2008.10.26	大井バプテスト教会 特別伝道集会	大井バプテスト教会(東京都品川区)
2008.11.23	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2009. 1.17 ～ 2009. 1.18	久留米荒木教会 特別伝道集会	久留米荒木キリスト教会(久留米市荒木)
2009. 1.25	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2009. 2.22	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)
2009. 3.22	福岡キリスト教会 「キリスト教の歴史」学習会	福岡キリスト教会(福津市)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 9.29	シンポジウム「人間本性とその成就(救い)」(片山寛・谷隆一郎)提題	九州大学哲学会
2008. 4.26	「神学大全」Ⅱ-I 部第96問題第4項	トマス研究会

2008. 9. 1	寺園喜基「九州におけるバルト受容」(戦前編)への質問	日本バルト協会年次研究会
2008.10. 4	「神学大全」II - I 部第97問題第2項	トマス研究会
2008.12.20	「神学大全」II - I 部第97問題第4項	トマス研究会

社会活動

期間	活動内容
1993. 4 ~	福間キリスト教会協力牧師
2008.10 ~ 2010. 9	九州大学哲学会 常任委員
2008.12 ~ 2010.12	西日本哲学会 会計監査委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 小林 洋一 (1105)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~ 2007	『キリスト教学I, II』最終講義の最後の15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善につとめている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フィールドトリップ(実物教育)	2005. 4 ~ 2007	『旧約概論A, B』の授業において、学内にいる聖書植物園および大学博物館のキリスト教展示の案内をして実物教育をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~ 2007	『旧約概論A, B』講義概要を示したプリントを作成し、それをういて授業を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2004.10 ~ 2007	『キリスト教学II』講義概要を示したプリントを作成し、それをういて授業を行っている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
箴言におけるツエデク／ツエダカー／ツァディーケー新共同訳訳語の批判的検討ー(上)	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	1~24
箴言におけるツエデク／ツエダカー／ツァディーケー新共同訳訳語の批判的検討ー(下)	2007. 3	西南学院大学論集:第64巻第1号	1~37
マーク・Z・ブレットラー「ユダヤ教徒は聖書をどのように解釈するのか」(訳)	2008. 3	西南学院大学論集:第65巻1号	123~141
マーク・Z・ブレットラー「ヘブライ語聖書におけるフェミニスト的, 反フェミニスト的ヴィジョン」(訳)	2008. 3	西南学院大学論集:第65巻1号	143~165
マソラ研究 —反転のヌー—	2009. 3	西南学院大学論集:第66巻第1号	1~11
フィリス・トリプル(河野信子 通訳)「方法論としてのフェミニスト的旧約聖書解釈II」(編)	2009. 3	西南学院大学論集:第66巻第1号	55~66
フィリス・トリプル(河野信子 通訳)「方法論としてのフェミニスト的旧約聖書解釈I」(編)	2009. 3	西南学院大学論集:第66巻第1号	43~54

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

「キリスト教系学校の「百年史」編纂－『関西学院百年史』の場合－」	2006. 5	西南学院：西南学院史紀要Vol.1		40～51
ヘブライ語	2008. 3	日本キリスト教団出版局：聖書学用語辞典	樋口進他監修	309～311

講演会

開催日時	講演名称	場所
2004. 5. 3	2004年度九州バプテスト神学校スクーリング	志賀島国民休暇村
2004. 7.18	東北地方バプテスト連合牧師会	仙台バプテスト教会
2004.10.10	「中東問題とエルサレム」	大宮バプテスト教会
2004.11.28	「旧約聖書と『聖戦』」	大牟田フレンドシップ教会
2005. 9.11	福岡バプテスト地方連合信徒学校神学講座	平尾バプテスト教会
2005. 9.26	2005年度後期公開講座	本学
2006. 2.19	福岡バプテスト地方連合信徒学校神学講座	和白バプテスト教会
2006. 4. 7	2006年度神学部開講講演	本学
2008. 3. 5	日本バプテスト連盟献身者修養会	天城山荘
2008. 7.30	「福岡で学ぼう2008」アカデミック・カフェ	カフェ ポーヴェルジェ(福岡市)
2008. 8.29	全国バプテスト壮年大会	本学
2008. 8.30	全国バプテスト壮年大会	本学
2008. 9. 7	宮崎バプテスト教会牧師会	延岡キリスト教会
2008. 9. 8	宮崎バプテスト教会牧師会	延岡キリスト教会
2008. 9.19	ヨルダン社の文書伝道を支える会	本学

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 松見 俊 (1106)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価調査	2004.10 ~	毎学期全学で取り組んでいる評価調査の集計結果を読み、分析してクラス運営に生かしている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『キリスト教学I, II』では毎授業の感想、質問、反論を書いて提出させている。生徒の反応・評価を踏まえて講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業レジメプリント	2004.10 ~	『キリスト教学』は毎回A4、2枚の講義レジメを作成し、配布している。その他授業も必ずレジメを作成、配布している
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2007. 1.20	『教会形成論』の授業ではすでに出版した『活力ある教会づくり』を用い、『現代神学』のために『三位一体論的神学の可能性』を出版した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 学外連携のための講演会・研修会	2004.10 ~	卒業生が牧師として働く日本バプテスト連盟の諸教会、あるいは連盟の全国研修会で講演や研修会を行っている
4 その他の教育活動上特記すべき事項 海外の教会の支援	2007. 5. 1	教え子が牧師をしているシンガポール国際教会の支援
4 その他の教育活動上特記すべき事項 国外での講演	2007. 5. 2 ~ 2007. 5. 6	Asia Baptist Congressで『聖書研究』を行った

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
カール・バルト説教選集16	共著	2005.11	日本キリスト教団出版局	寺園喜基他	58
三位一体論的神学の可能性 あるべき「社会」のモデルとしての三一神	単著	2007. 1	新教出版社	松見 俊	1~271
キリスト者の礼拝	共訳	2009. 3	キリスト新聞社	F. M. ゼグラール/R. ブラッドリー	341
バプテストの礼拝	分担執筆	2005. 4	日本基督教団出版局:礼拝・礼拝学事典		1
バプテストの礼拝	分担執筆	2006. 2	日本キリスト教団出版局:キリスト教礼拝・礼拝学事典1	今橋朗他	3

キリストの現実に生きて	分担執筆	2007. 1	キリスト教育文書センター:本のひろば第583号	松見 俊	10～11
-------------	------	---------	-------------------------	------	-------

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
アメリカ「市民宗教」再考	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	127～146
ボンヘッファーの説教の分析の一つの試み	2006. 3	西南学院大学論集:第63巻第1号	63～92
「理論－実践」対概念の問題点－実践神学序説における一つのテーマとして－	2006. 3	西南学院大学論集:第63巻第1号	39～62
人間的直接性を超えて	2007. 3	西南学院大学論集:第64巻第1号	99～109
いわゆる「境界性人格障害」の人々への牧会	2007. 3	西南学院大学論集:第64巻第1号	111～131
死に逝く人々とその周囲の家族への牧会	2008. 3	西南学院大学論集:第65巻第1号	61～122

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ボンヘッファー神学の説教的分析の試み	共著	2006. 3	日本ボンヘッファー研究会:ボンヘッファー研究22	小海基	23

講演会

開催日時	講演名称	場所
2006. 8. 3 ～ 2006. 8. 5	東京バプテスト神学校公開講座	東京・八王子
2007. 1.15 ～ 2007. 1.16	公開講演	東京・目白
2007. 5. 5	聖書研究	タイ・チェンマイで行われたAsia Baptist Congressで
2007. 6.11	平和宣言推進委員会研修会	西南学院大学
2007. 7.16	第3回全国礼拝音楽研修会基調講演	名古屋
2007. 9. 4 ～ 2007. 9. 6	日本カール・バルト協会年次研修会	熱海スコールプラザホテル
2008.11.29	メンタルヘルス協会講演	百道パレス
2009. 1.17	九州バプテスト神学校公開講演会	姪浜バプテスト教会
2009. 2.11	日本バプテスト連盟西九州連合研修会	佐賀バプテスト教会
2009. 2.15 ～ 2009. 2.17	沖縄バプテスト連盟牧師研修会講演	沖縄那覇バプテスト教会

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 9. 4	K.バルトとJ.モルトマンの三位一体論	日本バルト協会年次研修会

社会活動

期間	活動内容
2005. 2	日本ルーテル神学大学教職セミナーで「バプテストの教会論」の講演
2005. 7	日本バプテスト連盟全国教役者会で講演
2007. 5. 1 ~ 2007. 9.28	告白劇「地獄のデッセンバー 哀れみの南京」福岡公演実行副委員長
2007. 7. 1 ~	ヨルダン社の文書伝道を支える会会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 須藤 伊知郎 (1107)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2004. 4 ~ 2009. 3	[授業科目:すべての科目]神学部開講の科目(キリスト教学I・II以外の科目)については、神学部の年来の伝統である全学生・教員参加のカリキュラム懇談会で神学部学生会が取りまとめた履修者のアンケートを踏まえた上で学生と懇談し、学生の忌憚ない批判・要望を授業内容・方法に反映させるよう努力した。さらに日本バプテスト連盟理事会選出の委員と神学部教員による神学教育協議会で、全国の諸教会のニーズと牧師養成の方向性について意見交換し、担当科目の授業内容・方法の改善を図った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2004. 4 ~ 2009. 5	[授業科目:新約神学]教科書(原著ドイツ語を筆者が試訳)の該当箇所を予めプリントして配布し、輪番で学生に要約発表させ、それを元にクラス全体でディスカッションさせた。発表担当の学生には前もって教科書と並んで参照すべき文献を指示し、レジュメの作成要領、発表の仕方等を指導した。また、各学期のテーマに応じて詳細な参考文献表を配布し、学生の学習意欲の向上に努めた。ディスカッションを通じて学生から出た質問に応じて、それが教科書の内容を越える場合には別途学生への理解を助ける資料を作成、次回授業の際に配布し、解説指導した。これらの工夫を通じて、学生がキリスト教神学の伝統的な教義という出来合いの「正解」を鵜呑みにするのではなく、神について自分の頭で考え、自分の言葉で語る、言葉本来の意味で「神学する」=「神について語る」こと(Theologia)の訓練を実践し、合わせて学生のプレゼンテーション、コミュニケーション能力を向上させることが
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2004. 4 ~ 2009. 5	[授業科目:演習・特殊講義/新約原典研究]新約原典の一段落の釈義を輪番で学生に発表させ、それを元にクラス全体でディスカッションさせた。授業の初めに発表の手順についてその要領(試訳、本文批評、伝承と編集の判別、釈義、宣教の課題の探求)をまとめた資料を配布し、指導した。特に本文批評については初学者がつかみやすいので、B.M.Metzger, A Textual Commentary on the Greek New TestamentのIntroductionを私訳したものを配布して詳しく解説した。ディスカッションの際には釈義が学問的な関心のみで終わることなく、現代の宣教の課題に込めるものであることに注意を喚起し、実践神学、特に説教への橋渡しとなるように留意した。履修者の大半を占める神学コースの学生にとっては、卒業後牧師として教会に赴任すると、毎週説教を準備する際に不可欠の基礎作業となるのが聖書原典の釈義であるため、この科目は高度の職業専門家養成という社会的な任務をも担っており、その観点で教育内容・方法を工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2004. 4 ~ 2009. 5	[授業科目:ギリシア語I・II]ギリシア語の習得には名詞、代名詞、形容詞の語尾変化、とりわけ動詞の複雑多岐にわたる語形変化を覚えねばならず、これが学習者にとって大きな負担となる。そこでこの負担をできる限り軽減するため、変化表に讚美歌、童謡、アニメソングなどの替え歌を作り、教室で歌って覚えやすくする工夫を施した。学生にも替え歌を作らせ、優秀作は授業で採用し、代々歌い継がれるものも出て来ている。その他随時行う小テストや、夏休み、冬休みの宿題プリントで、履修者のモチベーションの向上と記憶の定着を促した。またこの科目は次に新約原典、新約原典研究など原典講読を前提とする専門科目に進む土台をなすので、初出の重要単語については神学的な解説を加え、それらの科目への導入ともなるように工夫した。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2004. 4 ~ 2009. 5	[授業科目:キリスト教学I・II]毎回教科書で取り上げられている聖書箇所と関連する現代社会の諸問題を突き合わせてテーマを設定し、学生を小グループに分けてディスカッションさせた。各班には輪番で司会と書記を設けさせ、書記にはディスカッションの要点を発表させ、各班の書記の発表を聞いた上で、最後にクラス全体で意見を交換する、という授業形式を採った。ディスカッションを中心にする事によって学生が受け身にならず、積極的に授業に参加し、発言するように促し、特に多様な意見を認め、相手の立場に立っても考えた上で、自分の意見を明確に提示する、柔軟な思考能力およびコミュニケーションスキルを身につけるように指導した。また、毎回出席カードの裏に自由に感想、質問を書かせ、それを内容別に分類して無記名でコピーしたものを次回の授業の初めに配布して、それらにコメントを加え、学習内容のフィードバックと授業内容・方法の改善を図った。これは学生による授業評価ともなっている。この他、1学期に3回のチャペルレポートを課し、建学の精神の根幹をなす全学的なキリスト教教育との連絡を図った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2004. 4 ~ 2009. 5	[授業科目:すべての科目]授業第1回目にシラバスを配布し、ギリシア語I・IIを除いた科目については全学実施の学生による授業評価を行った。授業の目的、内容、構成、成績評価の方法、履修上注意すべき点等について詳細に説明した。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2004. 4 ~	[授業科目:キリスト教学I・II]須藤伊知郎「イエスのたとえ話」『聖書教育』第58巻1号、2007年、6-9、40-41、46-47、52-53、58-59、64-65、70-71、76-77、82-83、88-89、94-95、100-101、106-107、112-113ページ所収/Ichiro Sudo, Jesus Parables — Seisho Kyouiku Mission 3—, Japan Baptist Convention, 2007.
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2004. 4 ~ 2007. 4	[授業科目:新約神学]フェルディナント・ハーン著、須藤伊知郎訳『新約聖書神学I下』日本キリスト教団出版局、2007年
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2004. 4 ~ 2009. 5	[授業科目:新約神学]ゲルト・タイセン/アンネッテ・メルツ著、須藤伊知郎訳『史的イエス』日本キリスト教団出版局、近刊予定
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2006. 3 ~ 2007. 3	[授業科目:すべての科目]日本バプテスト連盟理事会選出の委員と神学部教員による神学教育協議会において、神学科主任として神学部のカリキュラム全般にわたって教育方法・教育実践に関して報告した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座の講師	2005.10. 3 ~	西南学院大学2005年度公開講座「死とキリスト教」の講師を務め、「新約聖書におけるイエスの死の理解」について講演した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ウルリヒ・ルツ『マタイのイエス山上の説教から受難物語へ』	共訳	2005. 7	日本キリスト教団出版局	関西学院大学神学部編	24~34, 49~67
Jesus' Parables — Seisho Kyouiku Mission 3—	単著	2007. 3	日本バプテスト連盟	Ichiro Sudo	1~39
新約聖書神学 I 下	単著	2007. 4	日本キリスト教団出版局	フェルディナント・ハーン	1~538

「イエスのたとえ話」	共同執筆	2007. 3	日本バプテスト連盟:『聖書教育』第58巻1号	編集人高市和久	6～9、40～41、46～47、52～53、58～59、64～65、70～71、76～77、82～83、88～89、94～95、100～101、106～107、112～113
イエス運動、イエス伝承、エビオン派、「空の墓」伝承、山上の説教、成就引用、パピアス、復活／復活物語、マイナー・アグリーメント、マタイ福音書研究、マタイ優先説、マルコ優先説、ユダヤ主義者、ユダヤ人キリスト者、霊能者(遍歴の)	分担執筆	2008. 3	日本キリスト教団出版局:聖書学用語辞典1	樋口進、中野実(監修)	22-23、43、73、135、171-172、277-278、297-298、327-328、331-333、340-341、369-370、393

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
ペトラ・フォン・ゲミュンデン(訳)「私の許に来なさい、あなた方教育を受けていない者たちよ」(ベン・シラ51, 23) — 聖書時代における知恵の諸表象 —	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	147～184
ペトラ・フォン・ゲミュンデン(訳)「革なめしのシモンとシモン・ペテロ—使徒行伝10, 1-35に基づく物語的説教—」	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	185～196
イエスの世代かマタイの世代か——「この世代」(マタイ23,36)をめぐる——	2007. 3	西南学院大学論集:第64巻第1号	59～70
人の子による「大イスラエル」の復興?—マタイ福音書10,23の釈義試論—	2009. 3	西南学院大学論集:第66巻第1号	13～25

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
伝道を考える—その2—現代を生きるバプテスト教会として	共著	2005. 8	日本バプテスト連盟:バプテスト601号	須藤伊知郎、柴田かおり	12
P. シュトゥールマツハー著／加藤善治・辻学共訳『ナザレのイエスと信仰のキリスト』	単独執筆	2005. 8	財団法人キリスト教文書センター:本のひろば563号		18～19
「マタイ福音書におけるethnos—28章19節のpanta ta ethne はイスラエルを含むか—」(査読)	単独執筆	2006. 8	日本新約学会:『新約学研究』第46号		5～18
上村静著『イエス—人と神と—』(査読)	単独執筆	2008. 8	日本新約学会:新約学研究第36号	須藤伊知郎	43～47

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007.10.29	Der Tod des Judas und der Kauf des "Blutackers" — eine Exegese von Mt 27,3-10 —	Biblische Sozietät der Theologischen Fakultät an der Universität Bern

社会活動

期間	活動内容
2005. 8. 8 ~ 2005. 8.10	日本バプテスト連盟宣教研究所・西南学院大学神学部共催セミナー及び牧師グループ研修
2008. 9.23	西南学院大学神学部主催・日本バプテスト連盟東京地方連合東ブロック共催 出張公開講演会講師

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 教授	氏名 寺園 喜基 (1108)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) プロトコルの作成	2005. 4 ~	授業科目:キリスト教倫理、組織神学概論において、前回の授業の概要を1名の学生が発表し、それに参加学生と教師とが訂正、加筆等を加え、プロトコル(講義のアウトラインの記録)を毎回作成している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	授業科目:組織神学概論の最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、その結果を講義の改善に努めている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
西南の風	単著	2008.10	梓書院		253

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日本における普及福音新教伝道会(AEPM)・普及福音教会の影響史	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	77~91
Die Wirkungsgeschichte des Allgemeinen Evangelisch-Protestantischen Missionsvereins (AEPM) und der Allgemeinen Evangelischen Gemeinde in Japan	2005. 3	西南学院大学論集:第62巻第1号	93~112
日本における普及福音新教伝道会(AEPM)・普及福音教会の影響史(その2) [独文]	2007. 3	西南学院大学論集:第64巻第1号	89~98

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
滝沢先生とドイツの師友たち		2004. 7	こぶし書房:「場」第26号		
苦難に立ち向かう能力とビジョン		2008. 1	日本キリスト教社会福祉学会:『キリスト教社会福祉学研究』40号		104~113
日曜日とスポーツ部の活動—西南学院の「日曜日問題」	単著	2009. 3	私大連:大学時報325号		124~129
ボン時代のバルトと滝沢	単著	2009. 3	創言社:思想のひろば20号		4~27

講演会

開催日時	講演名称	場所
2004. 5	「命と平和の霊」	大名カトリック教会
2004. 9.24	Die Wirkungsgeschichte des Allgemeinen Evangelisch-Protestantischen Missionsvereins (AEPM) und der Allgemeinen Evangel Evangelischen Gemeinde in Japan	ヨーロッパ青年研修出会うの家 (ドイツ・ワイマール)
2007. 6.16	東北アジア文化交流学会	チェジュ島貿易センター
2007. 6.22	日本キリスト教社会福祉学会	西南学院大学
2007. 7.31	シンポジウム発題(キリスト教学校教育同盟)	御殿場・東山荘
2007. 8. 6 ~ 2007. 8. 9	特別講義(東京バプテスト神学校)	ウェルサンピアたま
2008. 9.13	長崎大学学生YMCA創立100周年記念講演会	長崎大学ポンペ会館

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 2.21	古代と現代の諸宗教とのコンテストにおけるナザレのイエス	ハーン教授80才記念シンポジウム
2008. 3.28	ボン時代におけるカール・バルトと滝沢克己の出会いについて	キリスト教学会九州部会

社会活動

期間	活動内容
2001. 6 ~ 2004. 5	学校法人福岡女学院理事
2006. 6 ~	(学校法人) 福岡女学院評議員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 神学部	職名 准教授(特別教員)	氏名 金丸 英子 (1131)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2001.4 ~ 2007.7	『授業科目: キリスト教学1』 学期中に最低2回の豆テストを行い学習効果の改善に努めた。また、最後に応答シートを配布し、その日の講義の応答を書かせ、授業の改善に努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2001.10 ~ 2008.3	『授業科目: キリスト教学2』 学期中に最低2回の豆テストを行い学習効果の改善に努めた。また、最後に応答シートを配布し、その日の講義の応答を書かせ、授業の改善に努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2004.4 ~ 2006.7	『授業科目: 比較宗教論』 毎回、必須専門タームの豆テストを行い、学生の知識の蓄積を援助した。現役の仏教の僧侶をクラスに招き、講義をお願いし、効果をあげた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2008.4 ~	『授業科目: キリスト教学1』 学期中に最低2回の豆テストを行い学習効果の改善に努めた。また、最後に応答シートを配布し、その日の講義の応答を書かせ、授業の改善に努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2008.4 ~	『授業科目: 外書講読』 英語を原書で読む楽しさを実感できるように、学生自らがトピクスをして、積極的に授業に関わるように工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2008.4 ~	『授業科目: 演習』 毎回予習を課して、次回の講義で発表させ、積極的な授業の取り組みを工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2008.4 ~	『授業科目: バプテスト史』 毎回の予習と読書課題を与えて、講義への取り組みを促した。必要に応じて課題を与え、次回の講義で発表させた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 方法の工夫と授業評価	2008.4 ~	『授業科目: 教会史』 毎回の予習と読書課題を与えて、講義への取り組みを促した。必要に応じて課題を与え、次回の講義で発表させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進度計画と授業概要を示したプリント作成	2001.4 ~ 2007.7	『授業科目: キリスト教学1』 該当学期の進度計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進度計画と授業概要を示したプリント作成	2001.10 ~ 2008.3	『授業科目: キリスト教学2』 該当学期の進度計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。

2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進捗計画と授業概要を示したプリント作成	2004. 4 ~ 2006. 7	『授業科目： 比較宗教論』 該当学期の進捗計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。また、必要な関係資料を作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進捗計画と授業概要を示したプリント作成	2008. 4 ~	『授業科目： キリスト教学1』 該当学期の進捗計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進捗計画と授業概要を示したプリント作成	2008. 4 ~	『授業科目： 外書講読』 該当学期の進捗計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。また、必要な関係資料を作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進捗計画と授業概要を示したプリント作成	2008. 4 ~	『授業科目： 演習』 該当学期の進捗計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。また、必要な関係資料を作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進捗計画と授業概要を示したプリント作成	2008. 4 ~	『授業科目： バプテスト史』 該当学期の進捗計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。また、必要な関係資料を作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学期の進捗計画と授業概要を示したプリント作成	2008. 4 ~	『授業科目： 教会史』 該当学期の進捗計画表を作成し、初日に配布した。毎回、その日の講義内容の概要を示したプリントを作成し、配布した。また、必要な関係資料を作成し、配布した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
囚われの民、教会—南部バプテストの社会的姿勢に見る、教会と文化の関係史(J.L.Eighmy, Churches in Cultural Captivities)	単独執筆	2004. 6	教文館	J. L. エイミー	本文、索引共で、422頁
「バプテストと按手礼」	分担	2007. 1	日本バプテスト連盟宣教研究所：『宣研ブックレット4』		7~33
「バプテストは今なお、バプテストか—米国南部バプテストの歴史に見る、バプテスト精神の変容」	分担	2007. 3	関東学院大学出版会：『バプテストの歴史的貢献』		215~246

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
第二ロンドン信仰告白に見る、17世紀イギリス・バプテストの教派アイデンティティーについて		2005. 2	: 西南女学院大学紀要9		50~56
南部バプテストの女性たちとその歩み		2006. 4	日本バプテスト女性連合：『世の光』(12回連載)		
マイノリティーからマジョリティーへ： 宗教的文脈としてのアメリカとバプテスト		2007. 2	: 西南女学院大学紀要11		51~56
百年史編纂の視座を他大学から学ぶ—『同志社百年史』を例として—	単著	2008. 5	西南学院：西南学院史紀要Vol.3	金丸英子	47~60

講演会

開催日時	講演名称	場所
2006. 6	日本バプテスト連盟女性牧師・主事の会、同性差別委員会合同研修会	福岡国際バプテスト教会
2006.10	関東学院大学キリスト教と文化研究所公開講演会	関東学院大学
2007. 1	西南女学院キリスト教センター教育研究会	西南女学院
2007. 2	日本バプテスト連盟東京地方連合社会員会2・11集会	志村バプテスト教会
2008. 9. 8 ~ 2008. 9.10	日本バプテスト連盟宣教研究所「神学セミナー」	西南学院大学神学部室見寮
2009. 1	和白バプテスト教会の学習会	和白バプテスト教会
2009. 6	神学部による公開講座『現代における救い』	西南学院大学コミュニティーセンター

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 4	George Washington Bouldin's Attempt to Apply "Sound Baptist Policy" in the Japanese Soil.	American Society of Church History
2005. 9	17世紀イギリス・カルビン主義バプテスト信仰告白に見る分離派の影響	日本キリスト教史学会
2009. 7	Baptist Presence in Japanese Society – the Benefits and Costs for "others"	The International Conference on Baptist Studies

社会活動

期間	活動内容
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	日本バプテスト連盟資料保存員会委員
2008. 9. 1 ~	日本バプテスト連盟豊前キリスト伝道所協力牧師

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授(特別教員)	氏名 R. V. ブラウン (2101)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------------	------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	「授業科目:British Studies」 メールによる質問を受け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課外活動	2003. 4 ~	「授業科目:Public Speaking」学生に留学生(学内)を紹介し、プレテーションをするように指導
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008. 4 ~	「授業科目:全て」 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 補助教材の作成	2003. 4 ~	「授業科目:全て」テキストの補助教材としてプリントを作成
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2006. 4 ~	「授業科目:全て」 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 多読プログラムの設置	2003. 4 ~	「授業科目:Reading Skills・英語演習」西南学院大学図書館に多読プログラムの他の図書コーナーを導入
4 その他の教育活動上特記すべき事項 多聴ライブラリーの設置	2003. 4 ~	「授業科目:全て」多聴プログラムのためのCD・カセットを語学ラボラトリーに導入

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
An Evaluation of Extensive Reading Activities for Teaching Language	2005. 3	西南学院大学論集:第45巻第3号	127~145
Multi-word Verbs:Multiple Challenges for Learners of English as a Foreign Language	2007.11	西南学院大学論集:第48巻第1・2合併号	81~122
Factors to Consider when Teaching English Conversation	2007.11	西南学院大学論集:第48巻第1・2合併号	153~189

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Graded reading programs: Case 3		2006.10	Oxford University Press: Graded Reading Programs: The Experience of School and University Teachers in Japan		8~12
Extensive listening in English as a foreign language		2007.12	Tokyo, JALT.: The Language Teacher Vol.31/12		15~19
Incidental vocabulary acquisition from reading, reading-while-listening, and listening to stories		2008.10	Univ. of Hawaii: Reading in a Foreign Language Vol.20/2		136~163

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10. 9	Vocabulary Acquisition from Reading, Reading -while-listening, and Listening only to stories	JALT 2005: The 31st JALT International Conference on Language Teaching and Learning
2006. 8.18	Extensive reading classroom activities	Asia TEFL 2006: The 4th Asia TEFL International Conference
2008.11. 1	Oxford teacher's forum	JALT 2008: The 34th JALT International Conference on Language Teaching and Learning

社会活動

期間	活動内容
2003.11.24 ~	Title of Presentation: Researching Extensive Listening Name: The 29th JALT International Conference Place and Time: Granship Conference Center Shizuoka, Japan 21st-24th November 2003

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 江崎 義彦 (2102)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) DVD, 録音テープ、美術作品の活用	1980. 4 ~	「演習I」「演習II」「英米文学講読(詩)」など、映像と美術を紹介し、そして、詩の録音テープを聞かせたりしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2005. 4 ~	特に「演習I」「演習II」では、メールを活用し、レポートの提出をさせ、添削し、また卒業論文の指導に利用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 7 ~	適宜、該当クラスを選んで、学生による授業評価を実施。参考にすべきものは少ないが、活用してゆこうと思う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館チューター生の導入	2009. 4 ~	「英米文学文化概要」では、図書館のチューター制度を取り入れ、図書の検索、研究相談などで、特に、英文学科の一年生に刺激を与えている。
2 作成した教科書、教材、参考書 印刷物の配布	1980. 4 ~	「イギリス文学概説」「英米文学文化概説」「イギリス文学史」「演習II」「英語」などほとんどすべての担当科目で、多量の印刷物を配布し、学生の勉学に資している。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
反響する世界のナーシサス(Ⅱ)―On Wordsworth's "There was a Boy" as His "Personal Helicon"―	2004. 8	西南学院大学論集: 第45巻第1号	1~126
ロマン派の詩を読むための四つのトピック	2005.12	西南学院大学論集: 第46巻第1・2合併号	191~228
ジョン・キーツを恋うる歌 ―後の詩人及び詩に見るキーツの「死後の生」	2005.12	西南学院大学論集: 第46巻第1・2合併号	1~70
ワーズワスと閉ざされた<窓>(1) ―ロンドン・パノラマ・自叙伝―	2007. 2	西南学院大学論集: 第47巻第1・2・3合併号	1~81

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 8.23	ジョン・キーツを恋うる―歌後の詩及び詩人に見るキーツの死後の生―	イギリス・ロマン派文学研究会・第32回大会

2006. 8.22

Wordsworth と Metropolis－『序曲』第7巻を読む

イギリス・ロマン派文学研究会 第33回夏季研究会

2007.12. 8

“epiphany”を巡って—Wallace Stevensとロマン主義の伝統—

イギリスロマン派文学研究会 第10回冬季研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 古屋 靖二 (2103)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006. 4 ~	『授業科目:演習』 メールによるレポートを授業前までに受け付け、授業中にそれに関するコメントを与えながら、より深みのある授業を行なった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオ教材	2006. 4 ~ 2007. 3	『授業科目:英米文学・文化研究』 講義をビデオ教材を利用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 4 ~	『授業科目:英米文学講読(劇)』 最終回に近い授業の最後15分を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2004.10. 1	『授業科目:英米文学・文化研究』 専門科目であるイギリス文学論についての教科書『二歩進んだシェイクスピア講義』の出版を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2006.10 ~ 2007. 3	『授業科目:英米文学特殊講義』 講義概要を示したプリントおよび補助資料を作成し、配布を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
二歩進んだシェイクスピア講義	共著	2004. 9	大阪教育図書	古屋靖二、村里好俊、太田一昭	374

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
『じゃじゃ馬馴らし』の喜劇的世界 — 演技するヒーローとヒロイン	2004.12	西南学院大学論集:第45巻第2号	1~48
『ハムレット』(RSC/2001年)上演批評— 現代的演出法と政治劇的構想 —	2005. 3	西南学院大学論集:第45巻第3号	147~159
『テンペスト』を読む—プロスペローのプロジェクトと複合的イメージ—	2006. 3	西南学院大学論集:第46巻第3号	1~32

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

「テンペスト」における演劇性—劇中劇、幻影と実像をめぐって—	分担執筆	2008. 3	「テンペスト」受容研究：平成18年度～19年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書	大島久雄	58～80
ジョン・M・シングの紀行文『アラン島』の出版100周年に因んで	単著	2008.10	日本アイルランド協会：日本アイルランド協会会報第71号		1

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 9.17	プロスペローと複合的イメージ	九州シェイクスピア研究会
2005. 9.25	アラン島と劇作家シングー—荒涼とした、岩盤の島と海を舞台として—	日本ケルト協会ケルトセミナー
2006.11.21	ロンドンの今と昔—シェイクスピアと映像を通して—	福岡日英協会英国文学・文化紹介セミナー
2007.11.21	シェイクスピアの世界—喜劇『十二夜』を中心として—	福岡日英協会主催英国文学・文化紹介セミナー
2008. 3.29	歌舞伎とシェイクスピア劇：互いに映し合う鏡—『NINAGAWA十二夜』の場合—	九州シェイクスピア研究会
2008. 7.19	Kabuki Shakespeare : <i>NINAGAWA Twelfth Night</i>	SCAENA 2008 Shakespeare and His Contemporaries : Performance and Adaptation
2008.10.12	食材はシェイクスピアだが、蜷川味で新メニューを打ち出した歌舞伎『NINAGAWA十二夜』—セミナー「シェイクスピア上演・上演研究の今」—	第47回シェイクスピア学会

社会活動

期間	活動内容
2003. 8 ～ 2006. 3	日本シェイクスピア・グローブ・センター理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 金子 幸男 (2104)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~ 2008. 7	3, 4年の演習のクラス、および1年次の基礎演習のクラスではメールによって随時、レポート・卒論の書き方、参考図書の紹介、用語の調べ方、資料の使い方を指導している。 メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~ 2008. 7	各年度、一般英語、講読等30-50人前後の授業で、最終回に行う授業アンケートを活用して、後の授業の参考としている。また、文学史の授業(150人クラス)では終わりに授業に関する質問・感想を書かせて、学生の理解度の把握に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~ 2008. 7	文学史のクラスでは各回ごとの講義概要をプリントし、それを中心に講義を行った。 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
小説から歴史ヘディケンズ、フロベール、トーマス＝マン	単著	2004. 9	岩波書店		235
『ウォーターランド』を読むー物語・歴史ー	共著	2005. 5	開文社出版:	吉田徹夫監修	109~128
歴史から記憶の物語ヘーグレーム・スウィフト『ウォーターランド』ー	共著	2006. 2	研究社:	編集人津田 正	650~651

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
『テス』における記憶とアイデンティティー 記憶の場としてのストーンヘンジー	2005. 3	西南学院大学論集: 第45巻第3号	1~30
ホームズと近代の監視・管理社会ーフーコー的読解の試みー	2007. 2	西南学院大学論集: 第47巻第1・2・3合併号	101~127

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.10	ホームズに見られる近代の監視・管理社会(シンポジウムテーマ: 世紀末・モダニズム文学と支配)	日本英文学会九州支部第59大会

2008. 5.24 ~ 2008. 5.25 発表タイトル「歴史記述と文学の狭間」

日本英文学会第80回大会シンポジウム

シンポジウムタイトル
「ライフ・ライティングの虚実 人物造型と歴史記述の多様性」

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ~ 2008.10	日本ハーディ協会機関誌『ハーディ研究』編集委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 宮本 敬子 (2105)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:英語、英米文学文化講読、英米文学文化研究等』 最終講義の最後20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	『授業科目:演習I、演習II』 メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。また、卒論指導等の原稿をメールによってやりとりすることにより、個人指導の時間を効率的に確保するようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義内容に関する小テスト	2003. 4 ~	『授業科目:英米文学文化講読、英米文学文化研究等』 講義の最初の10分間を使って、学生の予習、復習状況をチェックする小テストを行っている。結果は1ヶ月ごとに集計して学生に返却し、授業における達成度を確認させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) E-Learning教材と授業の連携	2007. 4 ~	『授業科目:英語、ライティングスキル、CALL演習』 E-Learning教材ネットアカデミー、およびオンライン上の英作文添削ツール、クライテリアを授業内容と連携させ、学生が授業以外でも自主的に英語学習をするように動機付け、また学生の学習状況に応じて個人指導を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイント、ビデオ、インターネットを用いた講義	2007. 4 ~	『授業科目:英米文学・文化概説、アメリカ文学史、英米文学・文化研究、等』講義形式の授業では、パワーポイントによって作成した教材を用い、またビデオやインターネット上の視覚映像資料を利用することにより学生の興味・関心を高めるようにしている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学オープンキャンパスでの模擬講義	2004. 7 ~	語学ラボラトリー主任として、高校生を対象に、映画を利用した、英語リスニング力を高めるための模擬授業を行った。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Thinking through the Sexual Difference:Race, History and Community in <i>Paradise</i>	2004.12	西南学院大学論集:第45巻第2号	65~111
Toni Morrison, <i>Jazz</i> における愛と女性主体	2007. 2	西南学院大学論集:第47巻第1・2・3合併号	147~193
Toni Morrison, <i>Paradise</i> におけるトラウマの母性/女性表象	2009. 3	西南学院大学論集:第49巻第1・2・3合併号	25~52

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

Thinking through Sexual Difference : Toni Morrison's Love Trilogy(査読)	単著	2006. 2	UMI: Ph. D. Dissertation, State University of New York at Buffalo	Keiko Miyamoto	1~162
松本昇、君塚淳一、鶴殿えりか編 「ハーストン、ウォーカー、モリスン—アフリカ系アメリカ人女性作家をつなぐ点と線」書評	単著	2008. 7	アメリカ学会: アメリカ学会会報—The American Studies News Letter—No. 186	宮本敬子	4
『ジェンダー研究のフロンティア第5巻、欲望・暴力のレジーム—揺らぐ表象／格闘する理論』(竹村和子編、作品社、2008) 書評	単著	2009. 1	北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”: ジェンダー問題解決のカギを提示する最前線書誌情報誌 Cutting-Edge 第33号	宮本敬子	2

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007.10.13	Toni Morrison, <i>Paradise</i> における人種、歴史、共同体—トラウマの母性／女性表象を中心に—	第46回日本アメリカ文学学会全国大会
2008.10.25	Kara WalkerとToni Morrison—歴史再構築における人種・ジェンダー表象—(シンポジウム「アフリカン・アメリカンの歴史と文学の再考—奴隷貿易禁止法施行から200年を経て—」)	日本英文学会九州支部第61回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 F. オスターハウス (2106)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Class Methodology and use of technological support	2003. 4 ~	『スピーキングスキル』Courses are designed to foster cooperation in the communication experience. This enables everyone to play the dual role of student and teacher.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Class Methodology and use of technological support	2003. 4 ~	『演習 I』 Use of Internet for teaching research methods. Use of email for answering student concerns and for the submission, direction and correction of student papers. Use of CD/DVD player/projector to show examples and to use for classroom exercises. Students begin to take responsibility for making class reports and leading discussion.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Class Methodology and use of technological support	2003. 4 ~	『演習 II』 Use of Internet for teaching research methods. Use of email for answering student concerns and for the submission, direction and correction of student papers. Use of CD/DVD player/projector to show examples and to use for classroom exercises. Students have to also be able to lead a class discussion on their topic by using a multi-media presentation.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Class Methodology and use of technological support	2003. 4 ~	『英米文学・文化研究』 Extensive use of multi-media devices in the classroom to present material to support lecture, to further discussion, and/or to provide information gap exercises. Students also use email to ask questions outside of class and to present reports. The wealth of material found on the Internet allows creativity and flexibility. Since students are allowed to take these courses multiple times, this procedure is particularly suitable.
2 作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2003. 4 ~	『演習 I』Used materials that were being developed by myself for a text.
2 作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2003. 4 ~	『アメリカ文化論』Used text I wrote specifically for this class.
2 作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2006. 4 ~	『ライティングスキル IIA』Used basic material for a writing text under development.
2 作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2006. 4 ~	『ライティングスキル III』Used more advanced material for a writing text that I am currently developing.
2 作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2006. 4 ~	『スピーキングスキル IIA』Used material from a text that I am currently developing.

2	作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2007. 9 ~	『ライティングスキル IIB』Used more material for a writing text that I am currently developing.
2	作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2007. 9 ~	『ライティングスキル IIIB』Used advanced material for a writing text that I am currently developing.
2	作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2007. 9 ~	『スピーキングスキル IIB』Used material from a text that I am currently developing.
2	作成した教科書、教材、参考書 Use of own text	2007. 9 ~	『演習 I』Used text I wrote as background for class research.
4	その他の教育活動上特記すべき事項 Published book in support of Kyushu American Literature Society.	2005. 1.20 ~	Searching for the American Dream. Eihosha.

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Authenticating Chief Seattle's Speech	2009. 3	西南学院大学論集: 第49巻第1・2・3合併号	53~77

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 酒井 三千穂 (2107)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 5分間レポート	2003. 4 ~	『授業科目:英米文学講読』授業の最後に5分程度の時間をとり、その日に取り上げた個所についての短いレポートや質問を書かせ、学生の理解度チェックや質問への回答をしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 映像資料の利用	2003. 4 ~	『授業科目:演習I・II, 英米文学講読』授業で取り上げた作品について、映像資料が入手でき、授業時間が許す場合には、学生の理解の助けとなるように、授業の最終回に映像資料を上映している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『授業科目:アメリカ文学史』最終講義の最後15分程度を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる卒論作成サポート	2005. 4 ~	『授業科目:演習II』卒論についてのメールによる質問を受け付け、卒論執筆上の個別の質問を受け付けている。また、提出された原稿についてのコメントをメールを利用することによって、なるべく早く返すことにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の相互添削	2008.10 ~	『基礎演習』学生の提出したレポートや、参考文献リストについて、あらかじめ書き方のポイントを説明した上で、教室内で、相互チェックをさせている。その後、担当教員が、全体的なチェックをした上で、本人に返している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) クライテリオンの利用	2009. 4 ~	『ライティングスキルⅡA』インターネットを利用した英文の自動採点システム(クライテリオン)を利用して、学生の英作文向上に役立てている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
『私のアントニア』における道と鉄道	2008. 3	西南学院大学論集:第48巻3号	65~85

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 田部井 孝次 (2108)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	--------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2003. 4 ~	授業科目:「演習II」3年時の「演習I」のときの学生による研究発表と意見交換を下敷きとして、前半はテキストにそった研究発表、討論、後半は卒論論文指導をおこなう。卒論指導は授業以外に個人指導を取り入れ、個人単位の指導に力をいれている。またメールを最大限に利用し、ネット上での指導も同時進行で行っている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
天国の悪魔払い—マーク・トウェインとアメリカ・インディアン—	2007.11	西南学院大学論集:英語英文学論集第48巻第1・2合併号	1~44
言語のインフレーションのなかで—George Steinerの「The Portage to San Christobal of A. H.」を読む—	2008. 3	西南学院大学論集:第48巻第3号	47~64

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007.10.27	テリトリを超えてシンポジウム「ハック・フィン再訪」	日本英文学会九州支部第60回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 安河内 英光 (2109)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容・方法	1980.4～	ほとんど全科目においてテキストに関連する多くの資料を適宜配布して、テキスト理解と他分野への関心が広がるように努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容・方法の工夫	1980.4～	演習Ⅰ 演習Ⅱにおいては、それぞれ2年間と1年間の卒業論文作成スケジュールを設定し、1. 作家と作品の決定2. 作品のノート取り3. 批評書の収集4. 批評書のノート取り5. 論文の構想6. 論文の作成を適宜行わせ、各段階で作業の進捗状況を厳しくチェックした。これにより論文の内容が充実したと思う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容・方法の工夫	1980.4～	取り扱う作品によっては映画化されているものがあるので、{例、『武器よさらば』『欲望という名の電車』等)作品を読み終わったら、映画を鑑賞させ、学生の関心を引き、テキストとの違い、表現手段の違いによるテーマのとらえ方の違い等を理解させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003.4～	2003年度より導入された授業評価を毎年每学期数科目、今年度は全科目授業最後の15分を使って実施し、その結果を授業方法の改善に役立てている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2003.5～2006.7	西南学院大学が行っている社会人と対象にした公開講座で二度講演を行い社会と地域と大学との連携にもとづく文化活動、教育に貢献した。(2003年5月『都市を歩く—エルサレムから博多まで』において、第4回「ニューヨーク—孤独と無名性と狂気—」、2006年6月『英米作家とメトロポリス—ロンドンとニューヨーク—』第5回「摩天楼の光と影—ホイットマン、メルヴィル、ジェイムズ、フィッツゼラルドの絵がいたニューヨーク—」)

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
アメリカの60年代と文化戦争	2007.11	西南学院大学論集:第48巻第1・2合併号	45～80
レイモンド・カーヴァーの『大聖堂』—日常性に閉じ込められて—	2008.3	西南学院大学論集:第48巻第3号	9～45

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
武藤修二・入子文子編『視覚のアメリカン・ルネサンス』(世界思潮社)	単著	2006.7	アメリカ学会:アメリカ学会会報第161号		6
アメリカ文学とバートルビー現象—第47回日本アメリカ文学会全国大会に寄せて—	単著	2008.10	読書人:週刊読書人第2759号		6

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 5. 9	シンポジウム「モダニズムからポストモダニズムへ—カポーティと自我の問題—」	九州アメリカ文学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 准教授	氏名 藤野 功一 (2131)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:演習、英米文化論購読、アメリカ文学概説、LL演習、CALL演習、ライティングスキル、リーディングスキル、その他』最終講義前の2、3週間のいずれか一回の授業の最後15分間を使って、授業評価を実施し、学生の反応、感想を参考にしながら授業方法の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 電子メールによる授業サポート	2003. 4 ~	『授業科目:演習』 特に卒論指導において、電子メールによる授業内容についての連絡、メールによる質問の受け付け、および卒論の添削などを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) コンピューターおよびインターネットの活用	2004. 4 ~	『授業科目:LL演習、CALL演習、英語』 コンピューターおよびインターネットを活用した授業を行い、学生と講師双方のコミュニケーションに活用した。また、学生同士をカンパセーションパートナーにした英会話を活発に行わせるために、インターネットによる情報収集、コンピューター環境を活用した指導を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) TOEFL iBTでのスコアアップを目的とした、コンピューターを活用した授業	2007. 4 ~ 2007. 7	TOEFL iBT対策として、シャドーイングを行いながらのリスニング能力の向上、また、スピーキング・スキルテストについては、CALL教室備え付けのマイクに自分の音声を吹き込む作業を行わせ、評価を与え、TOEFL iBTテストにおけるスコアアップを図った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008. 9 ~	『授業科目:英米文学・文化講読、西洋文学その他』各授業の最初に授業内容についての簡単な質問に答えさせ、また、最後に授業の感想や意見を書かせて提出させることで、教員と学生間の相互のコミュニケーションを図り、授業内容の深化、改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) コンピューターおよびインターネットの活用	2008. 9 ~	『授業科目:CALL演習』TOEICのスコアアップを目的とした、コンピューターおよびe-learning教材を活用した授業を行った。TOEIC対策として、コンピューターを用いたシャドーイングを行ってリスニング能力の向上させている。また、実践的なTOEIC模擬テスト、また、Web上のBlackboardを用いた毎回の小テストとその評価により、学生の能力の向上を常にチェックし、評価を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2005. 4 ~ 2005. 7	『授業科目:英米文化論購読』 Frank Osterhaus氏、高田修平氏との共著として、教科書『Searching for the American Dream』(英宝社)を上梓し、この教科書を活用してアメリカの文化的思潮の源泉を歴史적으로おさえた後、黒人、アメリカ先住民といった、アメリカの歴史の中で影の部分に押しやられた人々、あるいはあるいはアメリカの大衆文化などについてテキストから学びながら、それを手がかりに、アメリカをより深く理解することを目的に、議論を深める授業を
2 作成した教科書、教材、参考書 講義ごとの英文エッセーの提出、添削、および毎回の英作文小テスト	2006. 4 ~ 2006. 7	『授業科目:ライティングスキル』 講義ごとに英文エッセーの提出を課し、エッセーは添削、評価の上返却し、各学生の実力の把握と英作文能力の向上を図った。また、毎回の英作文小テストにより、授業内容の定着を図った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 リカレント講座での社会との連携による英語教育法のワークショップ	2004. 4 ~ 2005. 3	西南学院大学リカレント講座「英語科教員のためのパワーアッププログラム」において、英語教育においてどのようにアメリカ文化、文学を教材として活用するかについての講義およびワークショップを行った。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 英語指導力開発ワークショップ2009(中学・高校担当者コース)	2009. 8. 6 ~	西南学院大学学内GP「英語指導力開発ワークショップ2009」において、英語教育の実践ワークショップを行い、前半を英語で、後半を日本語で授業を行い、英語を用いた英語教育の実践的な方法を実演しながら、日本における英語教育をさらに活性化させるための方法を示した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座における社会人に対する講義	2004. 4 ~	西南大学2004年公開講座『映画、まなざしの欲望』における第1回講義「グリフィス『国民の創生』:アメリカの光と影」、2005年公開講座『「2005年日本映画の旅」における第9回講義『原爆へのセンチメント—「ゴジラ」から「博士の異常な愛情」まで—』、2006年公開講座『英米作家とメトロポリス』における第6回講義『幻想のメトロポリス—ポール・オースターのニューヨーク』において、社会人を対象とする公開講座を行い、社会、地域との連携にもとづく文化活動、教育活動に貢献した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 国際交流を目的とした交換留学生に対しての、英語による日本文学講義	2007. 4 ~ 2007. 7	『授業科目:留学生別科:日本文学』 国際交流計画による学生の相互交流に基づき、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、中国、韓国の姉妹校・協定校から来日した学生たちに対して、英語によって日本文学の講義を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 なぜベンジーが最初の語り手なのか	2009. 5. 9 ~	—The Sound and the Furyにおける喪失とその可能性について— 九州アメリカ文学会55回大会

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Searching for the American Dream	共著	2005. 1	英宝社	Frank Ostehaus、高田修平、藤野功一	vii~viii 1~116, 教授資料全体
Class(階級・階層)	分担執筆	2008. 1	松柏社:フォークナー事典	日本ウィリアム・フォークナー協会編	99~100
“Brooch, The”(「ブローチ」)	分担執筆	2008. 1	松柏社:フォークナー事典	日本ウィリアム・フォークナー協会編	69
“Big Shot, The”(「親分」)	分担執筆	2008. 1	松柏社:フォークナー事典	日本ウィリアム・フォークナー協会編	44
Industry and Economy(南部の産業・経済)	分担執筆	2008. 1	松柏社:フォークナー事典	日本ウィリアム・フォークナー協会編	307~308
“Black Music”(「ブラック・ミュージック」)	分担執筆	2008. 1	松柏社:フォークナー事典	日本ウィリアム・フォークナー協会編	61

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
モダン・アメリカの陰影—現代の観客にとっての『国民の創生』の意味—	2005.12	西南学院大学論集:第46巻1・2合併号	85~148

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 3. 6	Renovation of Innovation: Haruki Murakami's Kafka on the Shore and the Shrek Series	SUNY Fredonia (ニューヨーク州立大学フレドニア校), FentonHall Room 105
2008. 3. 7	Haruki Murakami and Ryunosuke Akutagawa: An Introduction to Japanese Literature	SUNY Fredonia (ニューヨーク州立大学フレドニア校), FentonHall Room 105

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 5. 12	Bearing Miscegenation: Race, Text and Ideology in Faulkner's Absalom, Absalom!	九州アメリカ文学会第53回大会
2009. 5. 9	なぜベンジーが最初の語り手なのか —The Sound and the Furyにおける喪失とその可能性について—	九州アメリカ文学会第55回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 准教授	氏名 加藤 洋介 (2132)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~ 2007. 3	「授業科目:英米文学文化研究、英米文学講読IIほか」において、授業時間をつかって授業評価を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 美術館の利用	2006. 5 ~	「授業科目:演習I」において、市内の美術館の展覧会を訪れて講義を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館の利用	2008. 4 ~	「授業科目:基礎演習、演習 I、演習 II」において図書館ツアーを行い、資料収集の方法を説明し、学生の関心を高める努力を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア機器の活用	2009. 4 ~	「授業科目:ライティングスキル I」において、ウェブ教材を授業内容にとり込んだほか、教材をマルチメディア機器をつかって提示した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~ 2007.10	「授業科目:演習I,演習II、英米文学・文化研究ほか」において講義概要、参考図書リストを作成し、配布を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 著書の活用	2006. 4 ~	「授業科目:英米文学・文化研究、英米文化論講読II」において、著書を参考図書として利用し、学生の理解を高める工夫をした。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
D・H・ロレンスと退化論—世紀末からモダニズムへ	単著	2007. 6	北星堂書店	加藤洋介	252
第一次大戦とイギリス文学	分担執筆	2006. 3	世界思想社:	清水一嘉・鈴木俊次	35~68

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
『恋する女たち』における未来派の美学	2004.12	西南学院大学論集:第45巻第2号	49~64
退化論を超えて—ロレンスの詩学とそのコンテクスト—	2006. 3	西南学院大学論集:第46巻第3号	55~72
D・H・ロレンスの『虹』と進化論	2007. 2	西南学院大学論集:第47巻第1・2・3号	129~146
レイモンド・ウィリアムズの批評の位置	2008. 3	西南学院大学論集:第48巻第3号	1~8

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
香水をつけたハンカチーマックス・ノルダウの退化論と『虞美人草』(査読)	単著	2005.11	翰林書房:漱石研究18号		195~205
『チャタレー夫人の恋人』の健康法と踊りの文化	単著	2007. 8	研究社:英語青年2007年9月号		15~17
富山太佳夫他編著『D.H.ロレンスとアメリカノ帝国』	単著	2008. 5	読書人:週刊読書人2008年5月16日号		1

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 6. 4	テキストのなかの戦争-ウィンダム・ルイスと D.H.ロレンス-	日本ロレンス協会第36回大会
2006. 6.24	『チャタレイ夫人の恋人』の優生学(ワークショップ「ロレンスとファシズム的文化」)	日本ロレンス協会第37回大会
2007. 6. 3	The Adelphiのなかのエリオットとロレンス(ワークショップ「ロレンスと雑誌メディア」)	日本ロレンス協会第38回大会
2008.10.25	「ドリス・レスリング『黄金のノート』とニューレフトのもう一つの文化」(シンポジウム「ドリス・レスリング作品世界への誘い」)	日本英文学会九州支部大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 准教授	氏名 河原 真也 (2133)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-learning英作文支援ツールCriterionの利用	2007. 4. 1 ~ 2007. 8.31	『ライティングスキル I A』で、左記の学習支援ツールを用いて学生の作文能力向上を図った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2007. 4. 1 ~ 2008. 3.31	英文学科配当の講義課目、スキル科目、他学部配当の一般英語クラスにおいて、パワーポイントを用いた講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 4. 4 ~ 2008. 3.31	2007年度前期・後期すべての科目において授業評価を実施し、授業・講義の改善に努めた。特に一般英語科目、英文学科のスキル科目においては、この評価を基に授業の立案を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 英語リーディング教科書の作成	2007. 4. 1 ~	英語リーディング教材『グローバル・ビュー』を出版した。(朝日出版社発)
2 作成した教科書、教材、参考書 英語TOEIC教科書の作成	2008. 1.26 ~	資格試験向けの教材『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』を出版した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 学科ホームページの作成	2007.10 ~	英文学科のホームページを作成し、学科紹介のための情報や学生への連絡事項を随時更新している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 福岡県立伝習館高校における出張講義	2007.12. 7 ~	「欧米メディアにみるステレオタイプの日本人」というタイトルでパワーポイントを用いて講義した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
新TOEICテスト全パート完全征服ガイド	共著	2008. 1	朝日出版社	河原真也・野上良子	

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ジョイスの階級観と当時の中等教育事情(査読)	単独執筆	2007. 6	日本ジェイムズ・ジョイス協会:Joycean Japan18	河原 真也	20-30頁

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 准教授	氏名 三宅 敦子 (2134)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 単元ごとの単語テスト	2003. 4 ~	他学部向け一般教養の英語の授業で、テキストの単元ごとに単語テストを行い、語彙力の増加を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004. 4 ~	『演習Ⅰ』『演習Ⅱ』において授業中に質問できなかった内容などの解消や、毎回の授業で用いるレジュメの配布等を行なっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『通訳論』『LL演習』ほか 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館ツアーの利用	2005. 4 ~	『演習Ⅰ』『演習Ⅱ』において図書館での検索の仕方や本の探し方等のセミナーを年に一度行い、日々の学習やレポート・卒業論文作成などに役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-learning教材「アルクネットアカデミー」の利用	2007. 9 ~	『英語(183)』授業の一部として、また授業外の自主学習ツールとして左記の学習教材を利用し、学生の英語力向上を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館チューターの利用	2007. 9 ~	『イギリス文学概説』 図書館チューター制度を利用し、学生の予習を促した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-learning英作文支援ツールCriterionの利用	2007. 9 ~	『ライティングスキルⅠB(213)』授業外で左記の学習支援ツールを用いて学生の作文能力向上を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-learning教材「アルクネットアカデミー2」の利用	2008. 4 ~	『CALL演習A(2)』ほか。 授業の一部として、また授業外の自主学習ツールとして左記の学習教材を利用し学生の英語力向上を図ると同時に、授業外で学生の学習状況を管理している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントを使用しての授業の視覚化	2008. 4 ~	『英米文学・文化概説』『読書教養講座—快読！怪読！』においてパワーポイントを利用し、授業内容を視覚化することで、学生の授業の理解度の向上を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 単元ごとの単語テスト	2008. 4 ~	『英語Ⅱ』『ライティングスキル』ほか。 授業で前回の授業で学習した基本的表現や単語に関して、単元ごとに復習テストを行い学習内容の定着の向上を図っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2006. 9 ~	『イギリス文学概説』ほか 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。

2	作成した教科書、教材、参考書 授業で扱った作家に関する補足プリントの作成	2008. 4 ~	『英米文学講読Ⅱ(小説)』で取り上げた作家モームとウッドハウスに関する興味を引き出すために、彼らの伝記を簡単に解説したプリントを配布した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡県立中間高等学校における出張講義	2004. 5.26	「英文学って何だろう？」というタイトルで英文学という学問についてパワーポイントを用いて講義した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 大学オープンキャンパス模擬講義	2004. 5.26	「英文学ってなんだろう？」というタイトルで英文学という学問についてパワーポイントを用いて講義した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 リカレント講座B「英語科教員のためのパワーアッププログラム」での講義	2004. 8.23	「英語の背景Ⅰ：イギリス文化と言語」というタイトルでビデオを用いてイギリスのシットコムについて講義した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 地元中学校の進路学習における【社会人講話】講師	2005. 2.18	福岡市立原北中学校に出向き、大学教員という職について話をした。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡西陵高校における出張講義	2006. 6. 9	「イギリスの社会と文化」というタイトルでパワーポイントを用いて講義した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座「映画の中の子供たち」	2007. 5.18	「永遠に純粋な存在としての子供—オリバー・トウィスト」と題して『オリバー・トウィスト』の映画と小説について講義した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読書教養講座「快読！怪読！」公開授業	2007. 6. 2	講演者の児玉清氏と文学部外国語学部フランス語専攻真下弘子教授と読書促進について対談を行った。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 大学キャンパス相談会模擬講義	2007.10.27 ~	「高校1・2年生向けの英語勉強法」と題してパワーポイントを利用して講義をした。また講義内容の理解向上を図ってパワーポイントの資料のほかに補足資料を作成し配布した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 熊本県立熊本北高等学校における出張講義	2008.11. 8 ~	高校生が進路選択の際に参考になるようにパワーポイントを用い、「文学部・外国語学部への道」と題して、両学部における研究や授業の共通点・相違点について説明し、また関連学部として国際関係学部についても補足説明を行なった。その後これらの学部に進学するには高校時代にどのような学習を行なっておいてほしいかということについて希望を述べ、同時に受験のみならず将来も役立つ英語学習方を解説した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

ロンドン万国博覧会と趣味の教化(1)－1851: or the Adventures of Mr. and Mrs. Sandboys and Family, Who Came up to London to “Enjoy Themselves”, and to See the Great Exhibition におけるヘンリー・メイヒューの万博観－	2005.12	西南学院大学論集: 第46巻1・2第合併号	71～84
ロンドン万国博覧会と趣味の教化(2)－労働者階級とロンドン万博の教育的意図について－	2006. 3	西南学院大学論集: 第46巻第3号	33～54
_Hard Times_とHenry Cole—「よい趣味」への抵抗	2007. 2	西南学院大学論集: 第47巻第1・2・3合併号	83～100
Bleak Houseにおける家具とロンドン万博のインターアクティブな関係	2009. 3	西南学院大学論集: 第49巻第1・2・3合併号	1～23

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ヴィクトリア朝イギリスにおける居住空間と階級意識表象との関係の分析		2007. 5	:(若手研究(B))平成16年度科学研究費補助金実績報告書、平成17年度科学研究費補助金実績報告書、平成18年度科学研究費補助金実績報告書		
Isobel Armstrong, Victorian Glassworlds: Glass Culture and the Imagination 1830-1880(Oxford UP, 2008)		2009.11	日本ヴィクトリア朝文化研究学会: ヴィクトリア朝文化研究第7号		97～101

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 9.25	シンポジウム「言語教育における詩の位置」英詩教授法— 今昔物語	日本イェイツ協会
2009. 8.22	A Network of Discourses on Art Education and Interior Decorations from the 1840s to the 1890s: <i>Art Journal</i> , Charles Dickens, and George Gissing.	Research Society for Victorian Periodicals Conference / Victorian Networks & the Periodical Press: 41st Annual Conference

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授(特別教員)	氏名 C. R. チェイス (2201)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------------	------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Movie scene study	2003. 4 ~	[授業科目: 英語演習, スピーキングスキル] Introduced movie scene transcripts and videos in classes to provide opportunities for English listening, speaking and reading practice.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Students' class evaluations	2004. 4 ~	[授業科目: 時事英語, 英語演習, 英米文学・文化研究] Requested written course evaluations each month, to monitor student opinions, motivation and interest in class materials and activities.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Use of Wikipedia	2004. 4 ~	[授業科目: 英米文学・文化研究] Introduced wikipedia pages to provide information about complex topics in both Japanese and English.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Internet Videoconferencing	2006.10 ~ 2006.12	[授業科目: 英語演習] Held several English language videoconferences between Japanese and Korean classes.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Internet discussion forum	2006.10 ~ 2007.12	[授業科目: 英語演習, ライティングスキル] Used English language message board to connect Korean, Japanese and U.S. students, providing opportunities for cross-cultural communication.
2 作成した教科書、教材、参考書 Designed Course Website	2004. 4 ~	[授業科目: 英米文学・文化研究] Created web pages providing information, images and links to the world-wide web. Used by teacher during class to introduce topics, used after class by students for additional study.
2 作成した教科書、教材、参考書 Learning English プリント	2005. 4 ~	[授業科目: 英語演習, スピーキングスキル]. Illustrated handout provided students with information for improving English speaking and listening skills with movie DVDs.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Presentation to teachers.	2003.10.11 ~	The Learner Centered Revolution. JALT(全国語学教育学会)(於: 北九州).
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Presentation to students.	2004. 6.21 ~	How to Enjoy Learning English. Presentation (於: 福岡女子短期大学)(太宰府市).
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Teacher workshop.[英語指導力開発ワークショップ]	2004. 8.23 ~	The Natural Way Languages are Learned Workshop for High School English teachers describing children's natural language acquisition process.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Presentation to teachers.	2006.10. 7 ~	Motivating students with Movie DVDs and screenplays. ATEM(於: 西南学院大学) Seinan University.

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Experimenting with Computer Mediated Communications Technologies: Connecting Japanese & Korean EFL Students Via the Internet (西南学院大学 英語英文学論集)	2007. 2	西南学院大学論集: 第47巻第1・2・3合併号	195~223
Teaching English with Movie Screenplays: A Four Skills Approach	2007.11	西南学院大学論集: 第48巻1・2合併号	123~152

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
The Japan-Korea Culture Exchange Project.	共同執筆	2007.10	Multilingual Matters: Online Cultural Exchange: An Introduction for Foreign Language Educators	Alexander,P.と共同執筆	259~263

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.10	Using the Internet to Connect Students Globally (Alexander, P. と共同発表)	JALT(全国語学教育学会)
2006.10.17	全国的学会の全国大会 2006.10.07 Motivating Students with Movie DVDs & Screenplays	映画英語教育学会九州支部第8回大会
2006.10.31	Developing ESL Communities of Practice between Japanese and Korean Students(Alexander, P. と共同発表)	14th Korea TESOL International Conference
2008. 8. 6	The JKCE Project : Japanese & Korean Students Communicating Online	World CALL 2008
2008. 9. 6	The Creative Use of Movies in Language Teaching	ATEM九州支部第10回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 藤本 滋之 (2202)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	1995. 4. 1 ~	『授業科目:演習(ゼミ)』 個々の学生の研究テーマについて、質問への回答、必要な文献紹介、卒業論文・ゼミ論文作成の助言などを、授業後・オフィスアワーの直接面談のほか、メールを利用して行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) オンライン教材の活用	2005. 4. 1 ~ 2007. 7.31	『授業科目:英語演習Ⅰ』 米国ETS提供のオンライン英語ライティング評価システムCriterionを利用して、英語・日本語による論文の書き方・読み方、スピーチの構成法を指導している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 朝日ヘラルド英語論文コンテストへの参加	2006. 5. 1 ~ 2008. 6. 1	『授業科目:英語演習Ⅰ』 授業の課題の一つとして、朝日新聞社主催の大学生英語論文コンテストに参加している。2006年度と2008年度に入賞者各1名(全国約500名(2006年度)~700名(2008年度)中入賞者計6名)、2007年度は大学として感謝状を授与された。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業概要を示した配布資料の作成	1991. 4. 1 ~	『授業科目:全科目』 授業計画、授業内容のポイント、復習用資料等、すべて資料を配布し、それに基づいて授業を進めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書『やさしく書ける英語論文』(松柏社)の改訂	2007. 4.10	『授業科目:英語演習Ⅰ』 授業の内容を整理しまとめたものを2002年1月に一般書籍として公刊し、授業で活用していたが、授業での反省を踏まえて改訂した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡県高等学校英語教育研究部会講演会における講演	2005. 6. 8	福岡県の高等学校教員を対象とし、「英語教育再考:大学生の英語力の実情に基づく提案」と題して講演し、高校と大学の英語教育に関する情報・意見の交換を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
英語と文法と(鈴木英一教授還暦記念論文集)	共著	2007. 3	開拓社	溝越彰・小野塚裕視・藤本滋之・加賀信広・西原俊明・近藤真・浜崎通世	378
WillとBe Going To再考(査読)	分担執筆	2007. 3	開拓社:英語と文法と(鈴木英一教授還暦記念論文集)	藤本滋之	207~218

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
主題関係に基づく結果構文の分析	2009. 3	西南学院大学論集:第49巻第1・2・3号	79~106
言葉のリズムと音楽のリズムの関係に関する一考察	2009. 3	西南学院大学論集:第49巻第1・2・3号	107~131

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
英語を書くときに役立つ英文法を考える	単著	2006. 3	筑波英語教育学会:筑波英語教育27	藤本滋之	81~100
Review article: Lisa Lai-Shen Cheng and Norbert Corver (eds.) (2006) <i>Wh-Movement: Moving On</i> . MIT Press. (査読)	単著	2008. 3	日本英文学会: Studies in English Literature (English Number)49	Shigeyuki Fujimoto	168-178
主題関係に基づく結果構文の分析	単著	2009. 3	日本英語学会: JELS26	藤本滋之	41~50

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 6.18	英語を書くときに役立つ英文法を考える(シンポジウム「英語教育で英文法を考える」)	筑波英語教育学会第25回記念大会
2007. 7.21	結果構文	福岡言語学会(2007年度第1回例会)
2008.11.15	主題関係に基づく結果構文の分析	日本英語学会第26回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 福田 靖 (2203)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~ 2007. 3	演習:学生の発表、ディスカッション、コメントを併用した。 E-learning形式のショートテストで理解度をチェックした。 英語演習I: reading, listening, video, report 課題を併用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~ 2007. 3	貿易商務論: パワーポイントを使って説明することで理解を助けた。
2 作成した教科書、教材、参考書 e-learning教材を作成した。	2006. 4 ~	講義概要を示したパワーポイントスライドを作成した。 ショートテスト、講義資料を用いて、e-learning教材を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 call 授業用の教材を作成した。	2007. 4 ~	call教室で使用するプリント教材を作成した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Plain English から見た DM レター・ライティングの事例 研究	2004. 8	西南学院大学論集: 第45巻第1号	147~182

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1972. 4 ~	北九州貿易協会貿易実務・貿易英語セミナー講師
2003. 4 ~	日本商工会議所ビジネス英語検定試験委員
2005. 1 ~	日商ビジネス英語検定試験委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 今堀 義 (2204)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「ことばとコミュニケーションB」・「コミュニケーション概論」教育方法の工夫	2003. 4. 1 ~	実践的なコミュニケーション能力向上のためのエクササイズを考案し導入
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「コミュニケーション講読」・「演習」教育方法の工夫	2003. 4. 1 ~	異文化体験エクササイズとして、異文化体験シミュレーションゲーム、車いす・視覚障害体験などを考案し導入
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) すべての授業について独自のホームページを開設	2003. 4. 1 ~	開設したホームページに、シラバス、講義予定表、課題、講義ノートなど必要な資料を載せて、学生がダウンロードできるようにした。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 7 ~	本学による授業評価をほぼ全授業に導入
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「コミュニケーション概論」教育方法の工夫	2006. 4. 1 ~	学生が多人数クラス以外の場合、質問やコメントをしやすいようにHP上に掲示板を開設
2 作成した教科書、教材、参考書 「コミュニケーション講読」教材	2003. 4. 1 ~	講義ノート及びエクササイズ資料の作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「演習」教材	2003. 4. 1 ~	講義ノート及びエクササイズ資料の作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語演習II」教材	2003. 4. 1 ~ 2004. 7.15	教科書の代わりに講義ノートの作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語B」教材	2003. 4. 1 ~ 2004. 7.15	教科書の代わりに講義ノートの作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語演習I」教材	2003. 4. 1 ~ 2007. 1.15	教科書の代わりに講義ノートの作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語」(商学部向け)教材	2003.10. 1 ~	教科書の代わりに講義ノートの作成

2 作成した教科書、教材、参考書 「ことばとコミュニケーションB」教材	2003.10. 1 ~ 2006. 7.15	講義ノート及びエクササイズ資料の作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語」(経済学部向け)教材	2004.10. 1 ~ 2005. 1.15	教科書の代わりに講義ノートの作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「コミュニケーション概論」教材	2006. 4. 1 ~	講義ノート及びエクササイズ資料の作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語IIC」教材	2006. 4. 1 ~ 2006. 7.15	教科書の代わりに講義ノートの作成
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語」(国際文化向け)教材	2007. 4. 1 ~ 2007. 7.15	教科書の代わりに講義ノートの作成

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Identity management theory: Facework in intercultural relationships.	共著	2005. 1	SAGE: Theorizing about intercultural communication	W. B. Gudykunst(編者) (W. R.Cupach共著)	195~210
On living in-between.	単著	2006. 1	Pearson Education: AmongUS: Essays on identity belonging, and intercultural competence(教科書)2nd Edition	M. W. Lusting and J. Koester(編者)	270~281
On becoming "American."	単著	2006. 1	Pearson Education: AmongUS: Essays on identity belongig, and intercultural competence(教科書)2nd Edition	M. W. Lusting and J. Koester(編者)	258~269

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
—/bunka/と研究者・教育者との主体—客体の関係—	単著	2008. 5	日本コミュニケーション学会:スピーチ・コミュニケーション教育21	今堀 義	83~95
Profiling family communication standards: A U.S.-Japan comparison	共著	2009. 2	Sage: Communication Research	Matsunaga, Masaki & Imahori, Tadasu Todd	3~31

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 2	Color-ful indeed: Comparison of identity management facework between People of Color and Whites in U. S. American interethnicrelationships.	Western States Communication Association (米国西部地域コミュニケーション学会) (M.Matsunaga, Torigoeと共同発表)

2006. 6.20	Identity management theory: Facework in intercultural relation stips—Applpcations in European contotexts	Internaional Communication Association (国際コミュニケーション学会)
2007.11.18	Profiling family communication standards: A U.S.-Japan comparison.	National Communication Association(全米コミュニケーション学会) (M.matsunaga. A.Miyaharaと共同発表)
2008. 6.18	Juxtaposing “local” and “global” identities: A case of Japanese identity.	International Conference on Language and Social Psychology.
2008. 6.19	Key note address(基調講演): Beyond Bill Gudykunst: A dialectical reflexivity approach to studying culture and communication?	International Conference on Language and Social Psychology
2008.11.23	Pros and Cons of Asiancentric Paradigm of Communication	National Communication Association(全米コミュニケーション学会)

社会活動

期間	活動内容
2002.11 ~ 2005. 5.31	Western Journal of Communication 編集員
2003. 7 ~ 2005. 6	福岡市姉妹都市委員会ボルドー一部会 委員
2003. 7 ~ 2005. 6	西日本銀行国際財団 評議員
2003.10 ~	日本プロコーチ認定評議会 理事
2004.11 ~	Journal of International Communication Research 編集員
2005. 6. 1 ~ 2010. 5.31	日本コミュニケーション学会理事
2005.10 ~ 2007.11	学術雑誌 (Communication Reports, Western States Communication Association)(米国西部地域コミュニケーション学会) 発刊の編集長
2006. 6. 1 ~ 2008. 5.31	日本コミュニケーション学会誌「ヒューマン・コミュニケーション研究」「スピーチ・コミュニケーション教育」編集員
2007. 1.10 ~	Journal of International and Intercultural Communication 編集員
2007. 6.16 ~ 2007. 6.17	日本コミュニケーション学会年次大会大会委員長
2008. 6. 1 ~ 2010. 5.31	日本コミュニケーション学会会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 伊藤 彰浩 (2205)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~ 2008. 3	担当科目の最終講義の最後の20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2004. 4 ~ 2008. 3	担当科目講義概要を詳しく示したプリントを作成し、配布した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 井上幼稚園父兄懇談会における講演	2008. 1.27 ~	幼稚園児の父兄を対象とする講演会の講師として参加した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
コーパス・データを用いた『文末重点の原則』の妥当性 検証(査読)	共著	2004. 5	英語コーパス学会: 英語コーパス研究10	高橋薫と共同執筆	111~117
A corpus-based validation study of the Universal Processing Hypothesis in English relative clause formation(査読)	共著	2006. 1	Leuven Catholic University: International Journal of Applied Linguistics.149, 150	山下淳子と共同執筆	77~92

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『統語的複雑度指数』の妥当性検証	単著	2004. 7	愛知学院大学: 愛知学院大学教養部紀要52		63~70
Two types of translation tests: Their reliability and validity(査読)	単著	2004. 9	Elsevier: System: An International Journal of Educational Technology and Applied Linguistics32		395~405
因子分析を用いた大学入試センター試験『英語』の妥 当性検証	単著	2005. 1	愛知学院大学: 愛知学院大学語研紀要30		47~59
口語英語の記述と分析による関係節の難度に関する 仮説の妥当性検証(査読)	単著	2005. 3	大学英語教育学会: 大学英語教育学会紀要40		15~17
英語関係節の難度決定要因の探求(査読)	単著	2005. 3	大学英語教育学会: 大学英語教育学会関東甲越地区 2004年度研究年報1		17~19
The author responds: A brief clarification.(査読)	単著	2005. 3	Elsevier: System: An International Journal of Educational Technology and Applied Linguistics.33		202~204

A validation study on the English language test in a Japanese nationwide university entrance examination (査読)	単著	2005. 6	Asian EFL: Asian EFL Journal Quarterly.7	90~116
Japanese EFL learners' sensitivity to configurational distinction in English relative clause comprehension (査読)	単著	2005.10	Leuven Catholic University: International Journal of Applied Linguistics.147, 148	45~62
The generalization of instruction on genitive relative clause in the acquisition of English as a foreign language (査読)	単著	2006. 7	Leuven Catholic University: International Journal of Applied Linguistics.151	99~114
The isomorphic mapping hypothesis: Evidence from Japanese as a second language. (査読)	単著	2006. 8	日本認知科学会: 日本認知科学会第23回大会発表論文集	178~183
The interpretation of Japanese word order patterns by adult English-speaking learners of Japanese as a second language. (査読)	単著	2006. 9	Oxford University Press: Applied Linguistics.28	466~473
日本人英語学習者の文理解における関係節付与の選好性(査読)	単著	2006.10	大学英語教育学会: 大学英語教育学会紀要45	81~93
第二言語習得における名詞句の接近度階層の妥当性検証: なぜ属格は高い正確度で解答されるのか(査読)	単著	2008.11	大学英語教育学会: 大学英語教育学会九州・沖縄支部紀 伊藤彰浩 要13	17~31

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 7. 5	二言語(日本語・英語)併用者の文処理における関係節付与の選好性	第22回大学英語教育学会九州・沖縄支部研究大会
2008. 7.27	The Interpretation of Japanese Word Order Patterns by Kindergarteners Acquiring Japanese as a First Language	The 6th International Conference of Cognitive Science

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 川瀬 義清 (2206)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:英文法』他 最終講義の最後の15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) On-line Essay Scoring “Criterion”の利用	2004. 9 ~	『授業科目:英語演習 I』 On-line Essay Scoring “Criterion”を用い、学生の英文作能力の向上をはかっている。 また、このCriterion利用は、2005年4月より英語専攻全体の取組として、カリキュラムの中に取り入れている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) プレゼンテーションソフトの活用	2005. 4 ~	『授業科目:ことばとコミュニケーションA ことば中心』 PowerPoint、keynote、OHC等のマルチメディアを利用し、分かりやすく情報を提示する工夫を凝らした授業を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-learning教材を用いた授業実践	2005. 9 ~ 2006. 1	『授業科目:英語』 e-learning教材アルク・ネットアカデミーを用い、学生一人ひとりのレベル、進度に合わせた授業を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業のサポート	2006. 4 ~	『授業科目:英文法』 授業の課題について、メールを用いコメント、質問の受付等を行い、授業内容の理解を深めるよう努めている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 松下教育研究財団コンピュータ支援語学学習システム実践活用セミナー における講演	2006. 8.25	中学・高校の英語教師を対象とするセミナーにおいて「CALLを利用した語学教育の方向」と題した基調講演を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 長崎純心女子高校におけるCALL講習会講師	2007. 3. 8	長崎純心女子高校において、CALL教室を生かした授業の方法について講習を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 松下教育研究財団コンピュータ支援語学学習システム実践活用セミナー における講演	2007. 8. 2	中学・高校の英語教師を対象とするセミナーにおいて「多様化するComputer Assisted Language Learning」と題した基調講演を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 長崎純心女子高校におけるCALL講習会講師	2007. 8.21	長崎純心女子高校において、CALL教材について、実践的な利用方法に関する講習を行った
4 その他の教育活動上特記すべき事項 CALL教室導入	2004. 5 ~ 2005. 9	語学ラボラトリーに新たにCALL教室を導入するに当たり、導入検討委員として中心的な役割を果たした

4 その他の教育活動上特記すべき事項
マルチメディア教材作成セミナー企画

2006. 7.28

学外の専門家を講師として招き、英語関係教職員を対象とする、マルチメディア教材の作成に関するセミナーの企画、実施をした。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
日本語・英語力支援教育:問題提起	単著	2005.10	日本リメディアル教育学会	川瀬 義清	55～56

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 2. 6	NetAcademy を利用した読解力、文法力養成	日本リメディアル教育学会九州部会

社会活動

期間	活動内容
2005. 6 ～	メディア教育開発センター研修講座講師
2005.11 ～	日本英語学会評議員
2006. 8 ～	松下教育研究財団コンピュータ支援語学学習システム実践活用セミナー講師
2007. 8 ～	日本リメディアル教育学会理事
2007. 8 ～	松下教育研究財団コンピュータ支援語学学習システム実践活用セミナー講師
2008.10 ～	メディア教育開発センター研修講座講師

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 久屋 孝夫 (2207)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の声(授業後提出コメント)に基づく授業改善	2003. 4 ~	全科目に関して毎時間、講義授業に関する専門的質問、授業に関する問題提起を してもらっている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-mailによる作文添削指導	2003. 4 ~	英語演習(一年次)で学生がプレゼン用に制作する資料の学習指導と支援
2 作成した教科書、教材、参考書 My Fair Lady (パワーポイント版)	2003. 4 ~	英語演習における授業提示用の資料集(配布)150枚
2 作成した教科書、教材、参考書 Song of the Week (パワーポイント版)	2004. 4 ~	英語授業で毎週冒頭に一曲聴かせる英語の唄のコレクション
2 作成した教科書、教材、参考書 The Adventure of English	2005. 4 ~	教科書の図解入り解説要約版100枚
4 その他の教育活動上特記すべき事項 Word Watching in the Woods of English	2004. 4 ~	高校での出張講義に使用する配布資料兼パワーポイント教材

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
性差別文化からの解放 を作り直す～	単著	2005. 3	福岡県人権研究所:部落解放史No.117		38～94
地域に必要な女性の力	共著	2006. 2	久留米市文化観光部生涯学習推進課:久留米市女性グ ループのつどい記録集(第33回)第33号	縄崎順子	4～9
育児(意気地)なしから育児(意気地)あり ～父親の子育て責任～	単独執筆	2008. 2	:季刊 まいづる すみれ号No.250		11～12
グラウンド・ゼロの体験を教材化し共有すること～A Letter from Okinawa の実践発表に触発されて～	単独執筆	2008.11	沖縄県高教組:沖縄県高教組情報2008号外3号		1～5

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2002. 6 ~ 2004. 5	福岡市総合計画審議会委員
2002. 7 ~ 2004. 6	福岡市西市民センター運営審議会委員
2004. 4 ~ 2005. 3	福岡市人権問題啓発講師
2004. 7 ~ 2005. 6	福岡市西市民センター運営審議会委員
2005. 4 ~ 2006. 3	福岡市人権問題啓発講師
2005. 7 ~ 2006. 6	福岡市西市民センター運営審議会委員長
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	福岡市西市民センター審議会委員(委員長)
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	福岡市同和人権研修講師
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	福岡県青少年アンビシャス運動おやじ講座講師
2007. 4 ~ 2008. 3	福岡市西市民センター審議会委員(長)
2007. 4 ~ 2008. 3	福岡県青少年アンビシャス運動おやじ講座講師
2007. 4 ~ 2008. 3	福岡市同和人権研修講師
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	福岡市西市民センター運営審議会委員(長)
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	福岡県青少年アンビシャス運動おやじ講座講師
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	福岡県高等学校教職員組合共同研究者
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	福岡市人権問題啓発講師
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	福岡県教職員組合共同研究者
2009. 4. 1 ~ 2010. 3.31	福岡市西市民センター運営審議会委員(長)
	福岡市人権問題啓発講師
	福岡県高等学校教職員組合共同研究者
	福岡県教職員組合共同研究者

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 宮原 哲 (2208)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メーリングリストによる授業サポート	2003. 4 ~	できる限り、すべての授業でメーリングリストを作成し、授業内容の質問に答えたり、提出物の指導などに利用している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~	学内既成の授業評価を用い、学生から各授業への反応、評価を取り入れ、改善努力の材料としている。
2 作成した教科書、教材、参考書 エクササイズ作成・実施	2003. 4 ~	コミュニケーション関連の授業で、概念・理論の実体験をするため、さまざまな個人用・グループ用「エクササイズ」を作り、利用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 詳細シラバスの作成・配布	2003. 4 ~	各授業で、学期始めに授業の目的、課題、スケジュール、採点方法などを詳細に記述したシラバスを配布している
2 作成した教科書、教材、参考書 テキスト執筆	2006. 4 ~	1992年に刊行していた「入門コミュニケーション論」を全面改訂し、「新版・入門コミュニケーション論」として出版。授業で活用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 生徒指導に関する講演	2005.11. 7	福岡地区公立高校父母教師連合会研修会で、生徒・児童とのコミュニケーションについて講演した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・実践に関する研修	2007. 4.15 ~ 2008. 2.28	小学校教員を対象とし、「英語活動」に関する講演を行い、研究授業の助言者として研修に参加した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 英語教員ワークショップ	2009. 8 ~	中高の英語教員向けのワークショップで講師として異文化コミュニケーションの指導を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
超コミュニケーション哲学	単著	2005. 2	西日本新聞社		203
新版 入門コミュニケーション論	単著	2006. 5	松柏社	宮原 哲	247
ニッポン人の忘れもの	単著	2008.10	西日本新聞社	宮原 哲	183

Toward Theorizing Japanese Interpersonal Communication Competence from a Non-Western Perspective	分担執筆	2004. 5	SAGE: Intercultural Con	Fred. E. Jandt	281~292
Communication as an Academic Field: East Asia, Case of Japan	共著	2008. 4	Blackwell Publishing: International Encyclopedia of Communication II	Wolfgang Donsbach(編)	602~609

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008.11.21 ~ 2008.11.24	Pros and Cons of an Asiancentric Paradigm of Communication: Pro Argument	National Communication Association

社会活動

期間	活動内容
2006. 8 ~	糟屋郡志免町男女共同参画推進審議会会長
2009. 4 ~	RKB毎日放送番組審議委員
2009. 8 ~	日本コミュニケーション学会会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 D. オルソン (2209)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	---------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容・方法の工夫	2006. 4 ~	「マスコミ論」の学生にグループにわけ、独習研究をさせ、発表させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 7 ~	「マスコミ論」授業終了時点で授業評価を実施、講義改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 6 ~	「スピーキング・スキルIII」の授業途中、授業評価を実施し、授業全体の改善に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要	2006. 4 ~	「マスコミ論」講義資料・概要を作成、プリントで配る
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要	2006. 4 ~	「ゼミ」の講義内容を作成、プリントで配る
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要	2006. 9 ~	「パブリック・スピーキング」の講義概要を作成、プリントで配る
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要	2007. 4 ~	「ゼミ」の講義内容を作成、プリントで配る
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要	2007. 4 ~ 2007. 5	「マスコミ論」のため概要を作成し、WEBCTに載せました
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要	2007. 9 ~ 2007.10	パブリックスピーキングの講義概要を作成し、WEBCTに載せました
2 作成した教科書、教材、参考書 授業内容・方法の工夫	2008. 4 ~	「ゼミ」の教材を作成し、WEBCTに載せている。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、講義概要	2008. 4 ~	「英語総合演習」の教材を作成し、WEBCTに載せています。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Creating Conditions for War: A Generic Analysis of Bush's War Rhetoric	2004. 8	西南学院大学論集: 第45巻第1号	147~182
The Speeches of Toshiki Kaifu: Arguing Ethos and Ethos as Argument	2005. 3	西南学院大学論集: 第45巻第3号	183~214

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 9.25	西南地区協議会関連資料調査のこれまでと今後の課題	キリスト教学校教育同盟第4回百年史編纂委員会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 武井 俊詳 (2210)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2001. 4 ~	担当授業科目全部(『経済英語』;『ビジネス英語』;『演習』;『英語演習I』;『英語演習II』;『英語』)でメールによる質問を受け付け、回答し、また、次の授業で公開して、問題点を解決している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる課題の提供と課題の添削	2001. 4 ~	『ビジネス英語』;『演習』で、課題を出し、それについての議論(質問、解答、添削など)を実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 視聴覚教室の活用	2001. 4 ~	担当授業科目全部(『経済英語』;『ビジネス英語』;『演習』;『英語演習I』;『英語演習II』;『英語』)で、適宜視聴覚教室を利用してビデオやDVDを視聴させて映像による「実態」の理解を促進している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる外国学生(韓国)との文通	2002. 4 ~	『ビジネス英語』;『演習』などで、韓国釜山の釜慶国立大学校の英語英文学科教授の朴梅蘭教授と提携して英文による文通をさせ、英文レターの実践と日韓の文化理解を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールで卒業課題の提出とその作品集をCDで	2002. 4 ~	『演習』の卒業課題をメールの添付書類で提出させ、その作品集をCDにまとめ、卒業式に記念として渡している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2002. 4 ~	『英語演習 I』で備付の図書(英文の小説などの読み物でレベル別に書かれたものを課外で読むように勧め、読書の結果報告を文書でさせている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	担当授業科目全部(『経済英語』;『ビジネス英語』;『演習』;『英語演習I』;『英語演習II』;『英語』)の所定の期間に授業評価を実施し、次年度の講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005. 4 ~	『ビジネス英語』;『演習』などで、適宜パワーポイントを活用した授業を実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) CALLシステム活用	2006. 4 ~	『ビジネス英語』でCALLシステムを活用して視聴覚および文書添削など実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-learning教材による英作文演習	2006. 4 ~ 2008. 3	e-learning教材としてCRITERIONを活用して、英作文の演習(課題の提出、添削指導など)を実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2000. 4 ~	担当授業科目全部(『経済英語』;『ビジネス英語』;『演習』;『英語演習I』;『英語演習II』;『英語』)で講義概要や参考文献を示したプリントを作成し、配布を行っている。

2	作成した教科書、教材、参考書 毎回の小テストと解答例の配布	2000. 4 ~	『英語演習I』;『英語演習II』;『英語』などで、毎回小テストを実施するため、作成した問題及びその解答例をプリントして配布している。
2	作成した教科書、教材、参考書 参考資料の作成と配布	2000. 4 ~	担当授業科目全部(『経済英語』;『ビジネス英語』;『演習』;『英語演習I』;『英語演習II』;『英語』)で、適宜、参考資料を作成し配布している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ビジネス英語の教育方法などの学会発表	1982. 4 ~	『ビジネス英語』の教育方法についての研究発表をこれまでも数回、所属する国際ビジネスコミュニケーション学会で行ったし、今後も発表課題の1つにする。

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.11. 7	Vancouver: Is It an Ideal City for Those Wishing to Improve Their English Proficiency(査読)	Asia TEFL 2005 (The 3rd Asia TEFL International Conference)
2007. 9.18	Did UCP600 Adopt Some of My Suggestions for Improvement of UCP500?	国際ビジネスコミュニケーション学会九州山口支部大会
2008. 3.22	UCP is yet to be of "Complete Plain Words"	国際ビジネスコミュニケーション学会九州山口支部大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 准教授	氏名 樋口 功 (2231)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 英語専攻の学生用、実践的な英語音声学と音声訓練のためのテキストの作成	2000. 4 ~	『授業科目:英語演習I』 英語専攻の学生の到達度, 到達目標に特化した音声学のテキスト(ハンドアウト)を作成, これを音読テキスト, 映画教材等と併用することにより, 英語音声学と実践的な音声訓練を融合すべく工夫をした。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学習意欲の高い学生のための聴講制度	2000. 4 ~	『授業科目:英語B』 受講生に対し, 私自身が担当する英語専攻の授業の聴講をすべて許可し, 特に学習意欲が高い学生のサポートを行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 英語を専攻しない学生用、実践的な英語音声学と音声訓練のためのテキストの作成・編集	2002. 4 ~	『授業科目:英語B』 英語を専攻しない学生のニーズ・到達目標にあわせた音声学テキスト(ハンドアウト)を作成, 映画等を教材に用い, 英語音声学と実践的な音声訓練を融合した授業を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 現場のニーズに合わせた英語指導に関するテキスト作成	2004. 4 ~	『授業科目:演習』 現場のニーズに合わせた指導法, 授業の組み立て方, 資料作成法・文書作成法等に関するテキストを作成した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 私書の貸し出し	2004. 4 ~	『授業科目:演習』 英語の自学用教材, 専門書, 啓発書に至るまで, 私書を開放し, 学生に対して常時貸し出しの体制をとった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新米教員のための書籍・ツール一覧作成	2004. 4 ~	『授業科目:演習』 現職の教員から得た情報をもとに, 新米教員にとって不可欠である書籍, ツールの一覧表を作成, 配布した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育実習準備すべき書籍・ツール一覧の作成	2004. 4 ~	『授業科目:英語科教育法』 教育実習の際に持参し参照すべき資料として, 授業の組み立て・留意点に関する資料を作成した。教員の必要不可欠である書籍, tool の一覧表を作成し, 紹介した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育実習中への学生へのバックアップ	2004. 4 ~	『授業科目:英語科教育法』 実習中の学生に対して, Eメール・電話を通してのバックアップ体制を整えた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディクテーション課題の結果分析による弱点克服テキストの編集	2004. 4 ~	『授業科目:英語演習I』 学生の弱点と到達度を把握するために, 毎回, ディクテーションの課題を課し, その結果を分析し, 学生の弱点を集中的に克服すべきテキストを編集・自作した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 英語専攻の学生のためのテキスト作成	2004. 4 ~	『授業科目:英文法』 英語専攻の学生に特化したテキストを自作した。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 実践的英語教育者のための勉強会開催	2005. 4 ~	『授業科目: 演習』 現在実際に高校で使用されている教科書を用い、課外にて勉強会を実施した。この活動を通し、現場の教員に要求される英語の知識・スキルに対する認識を促し、在学中および将来に向けての努力目標を明らかにするように努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 現職教員招聘	2005. 4 ~	『授業科目: 演習』 さまざまなタイプの現職の教員を授業の内外で招聘した。目的は以下の通りである。 1) 学生時代になすべきこと、努力目標を明らかにする。 2) 職業選択の際の判断材料・情報を提供する。 3) 教育現場の現状、学習指導以外の教員の仕事等に関する認識を高め、在学中の努力目標を明らかにする。 4) 現職の教員との交流の場、ネットワークを構築する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒業生からの教職体験情報の提供	2005. 4 ~	『授業科目: 演習』 学生の自覚を促し、努力目標を明確にするために、現在教職についている卒業生からのEメールを編集、『新米教師奮闘記』を作成、本人の許可を取り、ゼミ生に公開した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 実践的な教育実習模擬授業	2005. 4 ~	『授業科目: 英語科教育法』 模擬授業は、教育実習に実際に着ていく予定の服装で行うように指示し、授業のスキルばかりでなく、服装、言動等に至るまで指導した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教員をめざす学生のための問題集(文法編)作成	2006. 4 ~	『授業科目: 演習』 『教員を目指す学生のための問題集(文法編)』を作成し、課外にて勉強会を行なった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 模擬授業とビデオ撮影によるフィードバック	2006. 4 ~	『授業科目: 演習』 正規の授業時間帯・課外活動にて、模擬授業とそのフィードバックを行った。模擬授業の際は、ビデオカメラで学生の授業を収録し、本人が客観的に自分の授業を把握し、分析できるように工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育実習生の体験情報の提供	2006. 4 ~	『授業科目: 英語科教育法』 教育実習に向かう学生の認識を高めるため、4年生の有志にリアルタイムで教育実習実況中継をEメールにて送ってもらい、それを編集、『教育実習奮闘記・実況中継』を作成、本人の許可を取り英語科教育法の受講生に配布、質疑応答の時間を設けた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ネイティブスピーカーと英語音声指導に関する勉強会	2007. 4 ~	『授業科目: 演習』 2007年度は、ネイティブスピーカーと共同で、発音・音読の指導、英語の音声の指導法に関する勉強会を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 現職教員招聘	2007. 4 ~	『授業科目: 英語科教育法』 授業時間帯に、現職の教員を招聘した。目的は以下の通りである。 1) 学生時代にすべきこと、努力目標を明らかにする。 2) 職業選択の際の判断材料を提供する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育実習を想定した学習指導案の作成指導	2007. 4 ~	『授業科目: 英語科教育法』 課題レポートとして、教育実習を想定した学習指導案を提出させ、実習校に迷惑をかけない程度になるまで、指導、再提出を繰り返した。

4 その他の教育活動上特記すべき事項 英語専攻卒の教員を中心としたOB会の設立	2004. 4 ~	英語専攻卒の教員を中心にOB会を設立し、卒業生のバックアップ体制を整えた。主たる目的は以下の通りである。 1) Eメール・電話による質問・相談の常時受け付け。 2) 就職に関する相互情報交換とサポート。 3) 指導法、書籍・tool等に関する情報交換。 4) 会員、在学生との交流。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ロンドン大学夏期音声学講座ツアー企画・サポート	2007. 4 ~	教員を目指す学生を対象に、ロンドン大学夏期音声学講座へのツアーを企画、学内GPIにて奨学金を獲得した。2007年度は、10名(うち私費参加一名)の学生が参加。現地に同行し、授業前の早朝勉強会・質問会等を通し参加学生をサポートした。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 高等学校でのチューター制度の準備	2007. 4 ~	高等学校を中心に、教員を目指す本学の学生を、有償でチューター、教務補助等として受け入れていただけるように交渉、2008年度実施のメドをたてた。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Information Flow and Particle Selection in Japanese Copular Sentences ...	2005. 3	西南学院大学論集: 第45巻第3号	31~65

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「日本語の名詞述語文の連続性と「ハ」「ガ」の選択」	単著	2006. 4	大学書林: 『言外と言内の交流分野 小泉保博士傘寿記念論文集』	上田功・野田尚(編)	525~534

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 准教授	氏名 清宮 徹 (2232)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『ビジネス英語購読』『コミュニケーション概論』『英語演習』など、すべての科目で授業評価を行い、講義の改善に反映させた。大学が授業評価を導入する以前から、自分で授業評価シートを開発・作成し、学生からのフィードバックを行っていた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2003. 4 ~	『ビジネス英語購読』『コミュニケーション概論』『経済英語』『ことばとコミュニケーション』において、パワーポイントを使って、講義を行い、工夫を行った。また、学生の講義にたいする理解を補助するため、パワーポイントの資料を配布した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットの活用	2003. 4 ~	『ビジネス英語購読』『コミュニケーション概論』『経済英語』『ことばとコミュニケーション』において、インターネットを活用し、講義を行った。とくに、通商白書の英語版を読むなど、課題の教育効果を高めるためにインターネット利用を指導した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	配布するシラバスにメールアドレスを掲載し、質問や出欠席などの情報を受け、またメールによって学生の個人的な質問などに回答した。
2 作成した教科書、教材、参考書 シラバスの作成と活用	2003. 4 ~	全ての教科書について、シラバスを作成し、これを基に講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ホームページの作成と活用	2003. 4 ~	自らのホームページを作成し、これを通じて、講義情報やシラバスを公開し、またパワーポイントの資料を配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 他大学FDにおける講演	2005. 6 ~	九州にある大学Aにおいて、FDの一環として講演依頼を受け、私のアメリカ時代の教育方法や講義の進め方などについて講演を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 学外授業の推進	2003. 4 ~	工場見学(トヨタ自動車九州)や近隣の小学校見学を、『演習』の学生や留学生別科の学生に行った。また、『演習』や『ビジネス英語購読』の学生に、公開講座へ参加する課題を与えるなど、講義に幅を持たせた。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Why companies tell lies in business: A Japanese case in the food industry(査読)	共著	2006. 3	SAGE: Case Studies in Organizational Communication: Ethical Perspectives and Practices	S. May編者	287~304
ことばの中の倫理的なまなざし: 組織の語りと不祥事	分担執筆	2009. 3	ナカニシヤ出版: 語りと騙りの間なし	高井俊次、他(編)	169~190

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
異文化組織の協働コミュニケーション: 日米社員のフレーム収斂化	2005. 3	西南学院大学論集: 第45巻第3号	67～96
Subculture Assessment in Japanese Multinational Organizations	2005.12	西南学院大学論集: 第46巻第1・2合併号	149～190

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
21世紀型組織のリーダーシップとリスクマネジメント	単著	2005. 5	リスクマネジメント協会: リスクマネジメント Today 第8巻1号		39～43
危機に強い組織のためのコミュニケーション戦略	単著	2006. 3	リスクマネジメント協会: リスクマネジメント Today第9巻1号		25～30
職場の日常性に潜むコミュニケーションリスク	単著	2008. 3	リスクマネジメント協会: リスクマネジメントToday第11巻第1号		89～96
ことばの力とリスクマネジメント: ヨーロッパ組織論の視点	単著	2009. 3	リスクマネジメント協会: リスクマネジメントToday第12巻第1号		15～19

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 3.29	リスクマネジメント協会2008年年次大会	アクロス福岡
2008. 6. 4	ビジネスシヨウ九州2008	福岡国際会議場

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 9	倫理的意思決定のジレンマ? それとも組織虚偽? : 雪印の事例にみる組織コミュニケーション	国際ビジネスコミュニケーション学会九州山口支部大会
2005.10.22	異文化組織のソーシャルネットワーク: 日本従業員のグループ間コミュニケーション	第78回日本社会学会大会
2006. 6	Transformation of Organizational Identity in Corporate Hegemony: Critical Perspectives to Japanese Corporate Misconduct(査読)	56th Annual Conference of International Communication Association
2007. 5.15 ~ 2007. 5.18	Japanese Corporate Misconduct: Organizational Identity in Communication Risk and Moral Disorder(査読)	Annual Conference of European Academy of Management (EURAM)
2007. 5.30 ~ 2007. 6. 1	Communication Perspectives and Strategies to Improve Corporate Reputation: Lessons from Japanese Business Misconduct(査読)	11th International Conference on Reputation, Brand, Identity & Competitiveness
2007. 7. 4 ~ 2007. 7. 7	Japanese Corporate Apology: Critical Perspectives to Japanese Formality of Apology(査読)	23rd Annual Colloquium of European Group for Organizational Studies (EGOS)
2007. 7.11 ~ 2007. 7.13	Reconsider and Reconstruct Critical Management from Eastern Point of View(査読)	5th International Conference of Critical Management Studies
2007. 9.17 ~ 2007. 9.18	Japanese Capitalism and Organizational Communication: Critical Perspective to the Dark Side of Japanese Management(査読)	22nd Employment Research Unit (ERU) Annual Conference

2008.10. 4

組織の不祥事とリスクマネジメント

日本情報経営学会関東支部会と言語派組織情報研究部会との合同会議

社会活動

期間	活動内容
2004. 3 ~	リスクマネジメント協会 評議員
2005.12 ~ 2007. 7	第5回批判的経営研究国際学会Convenor(マンチェスター大学)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 講師	氏名 C. ドーハティ (2241)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	----------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Art and Ornament: Japanese Aesthetics in Modernism	単著	2005. 3	Iizuka, Fukuoka: 九州工業大学情報学部紀要18	C.L. Daugherty	67~81
The English Sound System: Theory and Practice	共著	2007. 9	Tokyo: Temple University Japan Studies in Applied Linguistics49	R. Cvitkovic and C.L. Daugherty	1~101
Something to write about: Movies as Materials for Beginning Academic Writing	単著	2007. 9	Seoul, Korea: STEM Journal6 (2)	C.L. Daugherty	211~231

講演会

開催日時	講演名称	場所
2004. 9.21	芸術と装飾: 和の美と西洋モダニズムとの共鳴	田川美術館

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 9.17	Movies as Materials for Beginning Academic Writing Practice	第7回映画英語教育学会九州支部大会
2005.10.12	Active Listening and Speaking for Two: A Method for Effective Pair Learning	大阪外国語大学シンポジウム
2007. 6. 9	Focus on Content: Materials and Techniques for Teaching Beginning Academic Writing	JALT北九州支部
2007. 7.14 ~ 2007. 7.15	Writing with A Purpose	Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium
2007. 9. 1	Why Does the Devil Wear Prada? Women in Fashion or Intelligence	第9回映画英語教育学会九州支部大会(シンポジウム)
2008. 4.19	Showcasing a multi-facetted approach to movies in the EFL classroom	The 12th STEM Conference
2008. 7.12	Elementary School Teachers' Beliefs about Teaching Cultures	Temple University and JALT 3rd Annual Applied Linguistics Colloquium
2008.11. 2	ESL Academic Writing for Focus on Content	The 34th JALT International Conference on Language Teaching and Learning

社会活動

期間	活動内容
2006. 1 ~ 2009. 8	Temple University M.S.Ed (TESOL)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 J. -L. アズラ (2301)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語による論文作成能力涵養のための教育	2004. 4 ~	『フランス語表現法(エクリ)』フランス語による論文作成能力を涵養する授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語コミュニケーション能力涵養のための教育	2004. 4 ~	『フランス語基礎』『フランス語初級』ほか。コミュニケーション能力涵養のため、イミディアット・メソッドを導入し、特に毎回会話テストを実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語会話の実践およびその成果の授業内容へのフィードバック	2004. 4 ~	『フランス語初級』毎回フランス語らしい仕方で会話を実践し、その成果を評価しながら以降の教育内容を決定していく授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス社会に関する調査および論文作成の教育	2004. 4 ~	『「現代フランス社会と現代フランス人を知る一日仏比較を通して」演習』各種調査(文献、各種統計、インタビュー、アンケートなど)を行って論文を書く授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス社会理解のための教育	2004. 4 ~	『「現代フランス社会と現代フランス人を知る一日仏比較を通して」演習』現代のフランス社会を知るために、特に家族形成、労働事情、都市構造をテーマに取り上げた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス人のための日本事情に関する教育	2004. 9 ~	『授業科目: 日本研究入門(別科留学生対象)』『日本研究入門』ほか。日本人の日常生活と異文化間コミュニケーションに関する授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語による自己表現能力涵養のための教育	2004.10 ~	『フランス語表現法(オラル)』フランス語の口頭による自己表現能力を涵養するために、学生全員が日常的な話題の会話を実践する授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語音声に関する教育	2004.10 ~ 2005. 2	『フランス語音声学』フランス語のリズムとイントネーションを身につけ、聞き取り能力と表現能力を向上させるための授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語のディクテーション・音読・暗唱の実践およびその成果の授業内容へのフィードバック	2004.10 ~ 2008. 7	『フランス語音声学』毎回ディクテーションや音読、暗唱などを行い、その成果を評価しながら以降の教育内容を決定していく授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語によるレポート作成のための教育	2005. 4 ~	『フランス語表現法(エクリ)』フランス語で短いレポートが書けるようになることを目指す授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 電子メールによるフランス人とのコミュニケーション	2005. 4 ~	『特殊講義(留学予定者および希望者のためのフランス語の授業)』学生は、電子メールによってフランス在住のフランス人学生とコミュニケーションを行った。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 翻訳・レポート作成の教育およびその成果の授業内容へのフィードバック	2005. 4 ~	『フランス語表現法(エクリ)』毎回短いレポートを日本語からフランス語に翻訳し、自分の選んだテーマでフランス語の短いレポートを書く授業を実施した。また、毎回の成果を以降の授業内容にフィードバックさせていった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 留学準備のための教育	2005. 4 ~	『特殊講義(留学予定者および希望者のためのフランス語の授業)』実際の資料を利用して、フランスでの滞在を想定した授業を行った(寮生活、スーパーでの買い物や銀行、不測の危機への対処法、フランス人とのコミュニケーション方法や友人関係、観光など)。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語の音読教育	2005. 4 ~ 2006. 2	『フランス語音声学』フランス語らしい発音や音節、イントネーションで音読できるようになることを目指した授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 映画の活用	2005.10 ~	『「映像を通して見た社会」演習』様々な映画の場面を見ながら、20世紀の社会の歴史を研究して行く授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 電子メールによる調査	2005.10 ~	『「映像を通して見た社会」演習』学生は、電子メールによってフランス人を対象とするアンケート調査を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語による論述文作成のための教育およびその成果の授業内容へのフィードバック	2006. 4 ~	『フランス語表現法(エクリ)』毎回フランス語で短い論述文を書く練習を行い、その成果を以降の授業内容にフィードバックさせていった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語によるマイクロソフト・ワードの活用	2006. 4 ~ 2007. 2	『授業科目:フランス語表現法(エクリ)』フランス語のマイクロソフト・ワードを使用する方法(入力、特殊な綴り、フランス語の書式など)の教育を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語によるマスメディアの活用	2007. 4 ~ 2007. 7	『フランス文化研究』フランスとフランス社会を知るために、フランス語のマスメディア(雑誌、新聞、新聞のオンライン版など)を利用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語の音読教育	2007. 4 ~ 2008. 2	『フランス語音声学』フランス語らしい発音や音節、イントネーションで音読できるようになることを目指した授業を実施した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語によるマイクロソフト・ワードの活用	2008. 4 ~ 2008. 7	『授業科目:フランス語作文』フランス語のマイクロソフト・ワードを使用する方法(入力、特殊な綴り、フランス語の書式など)の教育を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語作文の執筆およびその成果の授業内容へのフィードバック	2008. 4 ~ 2008. 7	『フランス語作文』毎回提出される作文を以降の授業内容にフィードバックさせていった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス社会に関するテーマごとの教育およびその成果の授業内容へのフィードバック	2008. 4 ~ 2008. 7	『フランス文化研究』毎回学生は取り上げられたテーマに関する質問に答えた。また、その答えを以降の授業内容にフィードバックさせていった。
2 作成した教科書、教材、参考書 プリント教材の作成	2004. 4 ~	『フランス語初級』『日本研究入門』ほか。練習プリント、小テスト、作文教材、プリント教材集を作成した。

2	作成した教科書、教材、参考書 学生の論文集の作成	2004. 4 ~	『「現代フランス社会と現代フランス人を知る一日仏比較を通して」演習』演習において学生が執筆した論文を論文集にまとめた。
2	作成した教科書、教材、参考書 フランス語会話教科書の改訂	2005. 4 ~ 2006. 2	『フランス語基礎』授業で使用するフランス語初級会話の教科書『Conversations dans la classe, version 2003』を改訂し、『Conversations dans la classe, version 2007 basique/avancee』を出版した。
2	作成した教科書、教材、参考書 フランス語会話教科書の改訂	2006. 4 ~ 2007. 2	『フランス語基礎』授業で使用するフランス語初級会話の教科書『Conversations dans la classe, version 2003』を改訂し、『Conversations dans la classe, version 2007 basique/avancee』を出版した。
2	作成した教科書、教材、参考書 フランス語教科書の作成	2006.10 ~ 2007. 2	『フランス語初級(英文学科学生対象)』初級会話と文法が同時に学べる教科書『Conversation & Grammaire』の出版を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書 フランス語読解教科書の作成	2008. 4 ~ 2008. 7	『フランス語作文』『授業科目: フランス文化研究』フランス語読解を行いながらフランス社会について学ぶ教科書『La societe francaise』を作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2004年秋季会話教育研究会(大阪大学)における発表	2004.10. 9 ~ 2004.10.10	現職語学教師を対象とする研究会にて、“Gerer sa conversation, gerer le rapport a l’ autre”という題目で発表を行った。(L. Benoit共同発表)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2004年秋季会話教育研究会(大阪大学)における発表	2004.10. 9 ~ 2004.10.10	現職語学教師を対象とする研究会にて、“La prononciation dans le cours de conversation”という題目で発表を行った。(M. Drigues共同発表)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2005年秋季会話教育研究会(京都大学)における発表	2005.10.22 ~ 2005.10.23	現職語学教師を対象とする研究会にて、“La gestion de la classe”という題目で発表を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2006年秋季会話教育研究会(立教大学)におけるワークショップ	2006.10.15 ~	現職語学教師を対象とする研究会にて、会話教育の方法であるイミディアット・メソッドの模擬授業を行い、学習者体験の機会を提供した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2006年秋季会話教育研究会(立教大学)における発表	2006.10.15 ~	現職語学教師を対象とする研究会にて、“La gestion de la classe (II)”という題目で発表を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2006年秋季会話教育研究会(立教大学)における発表	2006.10.15 ~	現職語学教師を対象とする研究会にて、「イミディアット・メソッドにおける会話以外の要素—発音、文法、文字—」という題目で発表した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2007年秋季会話教育研究会(京都大学)における発表	2007.11. 3 ~	現職語学教師を対象とする研究会にて、“Tests oraux et tests ecrits” という題目で発表を行った。(Bruno Vannieu共同発表)

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『Immediate Conversations 1』	共著	2004.11	Immediate Press	Scott Brown, John Brewer, Nigel Randell, Meiko Ikezawa, Bruno Vannieu, Jean-Luc Azra	56
『日本語で!!—今すぐいっしょに話す日本語会話—』	共著	2005. 8	アルマ出版	池澤明子 ジャン=リュック・アズラ 高崎麻由	232
『Conversation in Class』	共著	2006. 2	アルマ出版	Richmond, S., Vannieuwenhuysse, B., Torikawa, T., Azra, J.-L.	112
『プチ日本語で!!—今すぐいっしょに話すための本—』	共著	2006. 7	アルマ出版	池澤明子 ジャン=リュック・アズラ 高崎麻由	96
『Conversation et Grammaire』	共著	2007. 3	アルマ出版	Mitsuru Ohki Jean-Luc Azra Bruno Vannieuwenhuysse	95
『Conversations dans la classe: version 2007 BASIQUE』	共著	2007. 4	アルマ出版	Jean-Luc Azra, Bruno Vannieuwenhuysse, 他	154
『Conversations dans la classe: version 2007 AVANCEE』	共著	2007. 4	アルマ出版	Jean-Luc Azra, Bruno Vannieuwenhuysse 他	146
『Societe francaise』	共著	2008.10	アルマ出版	Jean-Luc Azra Olivier Lorrillard Bruno Vannieuwenhuysse 三木賀雄 池澤明子 市川まり子	76

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
“Decider” au Japon et en France —A propos des difficultes d'ordre culturel rencontrees par les entreprises francaises qui travaillent avec le Japon—	2005. 2	西南学院大学論集: 第46巻	1~31
フランスにおける日本のステレオタイプ—ピエール・ロチからパリ・マッチまで—	2005.10	西南学院大学論集: 第47巻	73~106
La nouvelle orthographe et son usage dans l'internet francais	2006. 2	西南学院大学論集: 第48巻	39~74
Utilisation de notions-clefs pour la comparaison entre cultures: le cas de la culture du travail en France et au Japon	2007. 9	西南学院大学論集: 50	43~98
Utilisation de notions-clefs pour la comparaison entre cultures (2) —Identite et Roles en France et au Japon—	2008. 2	西南学院大学論集: 51	1~40

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Decoupe syllabique liaisons, enchainements, rythme	単著	2004. 5	大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ: 第18回関西フランス語教育学会紀要18号		8～11
Rediger en francais: pour une approche par competences de l'ecrit	単著	2005. 3	獨協大学外国語教育研究所: 第18回獨協大学フランス語教授法研究会報告		55～57
L'apprentissage de mots nouveaux dans une approche par competences	単著	2005. 7	関西フランス語教育学会: 第19回学会紀要		4～7
The Immediate Method	共著	2005. 8	Tokyo, JALT.: JALT2004 Conference Proceedings.	AZRA, J.-L., Ikezawa, M., Rowlett, B., Vannieuwenhuysse, B.	527～536

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.10.10	La prononciation dans le cours de conversation (Michel Drigues 共同発表)	2004年秋季会話教育研究会
2004.10.10	Gerer sa conversation, gerer le rapport a l'autre (Louis Benoit 共同発表)	2004年秋季会話教育研究会
2004.11. 7	Rediger en francais: pour une pratique par objectifs de l'ecrit	第18回獨協大学フランス語教授法研究会
2004.11.20	The Immediate Method	Japan Association of Language Teachers (JALT) 2004 conference "Language Learning for Life"
2005.10.22	La methode Immediate: des questions, des reponses	2005年秋季会話教育研究会
2006.10.15	イメディアット・メソッド模擬授業(学習者体験)	2006年秋季会話教育研究会
2006.10.15	イメディアット・メソッドにおける会話以外の要素—発音・文法・文字—	2006年秋季会話教育研究会
2006.11.18	フランスの意思決定、企業における役割分担	日仏経営学会(第1回フランス流通セッション)
2008.11.23	Testing students in a conversation class	Immediate Method Autumn Workshop 2008
2009. 3.27 ~ 2009. 3.28	Produire de la prononciation? Quelle prononciation et quelle phonetique pour les debutants et les faux-debutants?	関西教育学会
2009. 3.27 ~ 2009. 3.28	Traiter la culture au quotidien dans les cours de lecture ou d'expression ecrite.	関西教育学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 北垣 徹 (2302)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『連帯の新たなる哲学 福祉国家再考』	単著	2006. 5	勁草書房	ピエール・ロザンヴァロン	1~259
モーリス・アルヴァックス『集合的記憶』	分担執筆	2004.12	弘文堂:『文化人類学文献事典』	小松和彦他	13
分裂病の60年代—転換期の精神医学	分担執筆	2005. 5	京都大学人文科学研究所:1960年代の研究—生活文化と意識における変容の国際比較	富永茂樹	39~51
社会ダーウィニズムとは何だったのか—19世紀後半フランスにおける事例	分担執筆	2008. 4	九州大学出版会:『生命の倫理2—優生学の時代を越えて』	山崎喜代子	3~33
分裂病の六〇年代—転換期の精神医学	分担執筆	2009. 3	世界思想社:『転回点を求めて—一九六〇年代の研究』	富永茂樹	202~222

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
道徳の在処を求めて—19世紀フランス社会思想の探究—	2005. 2	西南学院大学論集:第46巻	33~63
翻訳の政治学—江戸末期から明治初期にかけてのフランス語との格闘—	2005.10	西南学院大学論集:第47巻	107~130
共和国の科学と道徳—19世紀フランス社会思想の探求(二)	2007. 9	西南学院大学論集:第50巻	1~41

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
田中拓道『貧困の共和国』	単独執筆	2006. 4	図書新聞:図書新聞2772号		5
〈幻想〉としての歴史—フランソワ・フェレにおける共産主義の歴史とフランス革命史	単著	2008. 4	京都大学人文科学研究所:『人文学報』第96号		67~100

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10.29	動物磁気論のエピステーメ	第9回精神医学史学会
2006. 4.22	プラグマティズム再考—デュルケーム・ニーチェ・ウィリアム・ジェームズ	第12回デュルケーム／デュルケーム学派研究会
2006.10.20 ~ 2006.10.22	フランス型「市民社会」モデルの可能性	第31回社会思想史学会大会
2006.10.27 ~ 2006.10.28	社会学と精神医学—デュルケームとジャネ	第10回精神医学史学会大会
2007. 2.20	進化心理学を読む	分科会「生命倫理の学際的研究」
2008.11. 1	Du reve interpretant an reve interprete: pre-histoire de la theorie onirique freudienne	Colloque franco-japonais“Traduire le reve”
2008.11.29	社会ダーウィニズムと優生学—フランスの事例	第20回日本生命倫理学会大会

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ~	精神医学史学会評議員
2003. 4 ~ 2006. 3	精神医学史学会評議員
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	精神医学史学会評議員
2008. 4 ~ 2011. 3	精神医学史学会評議員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 真下 弘子 (2303)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 7 ~	『授業科目:フランス語基礎、フランス文化研究、フランス語文法』最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、板書方法等講義の改善に反映させた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) HPIによる授業内容の公開	2005. 3 ~	『授業科目:演習』ゼミナールの学生による発表を抜粋してHPIに載せ、授業内容を広く知ってもらえるよう試みた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディアの活用	2005. 4 ~	『授業科目:フランス文学概論、文化演習』等の講義でマルチメディアを活用し、VTR、DVD、CDやスライドを活用して学習効果を上げた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 演習(ゼミ)での個別学習スキル養成	2009. 4 ~	『授業科目:演習』学生一人一人を個別に面談しながら、論文のテーマ設定、参考資料の探し方、問題意識の確認など、きめ細かく学習技術の習得方法を指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2004. 4 ~	『授業科目:西洋文学、フランス文学概論』講義概要を示したプリントを作成し、あらかじめ配布し、予習を行わせた上で授業に臨ませて理解力の向上をはかった。
2 作成した教科書、教材、参考書 学習目標達成度をはかるための小テストの作成と実施	2004. 4 ~	『授業科目:フランス語基礎、フランス語表現法』学習項目の各単元終了ごとに小テストを作成、実施し、目標達成度をチェックし、結果を吟味して各学生に適切なアドバイスを与え自習に役立たせた。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイント教材の作成	2009. 4 ~	『授業科目:フランスモード研究、フランス文化演習』各文化事象の理解を促進させるために図表や図式、写真などを用いて独自の教材を作成し、講義で活用した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座講師	2004.10 ~ 2007. 6	『映画の中の子供たち』『眼差しの欲望』等の映画に関する公開講座の講師をつとめた。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座での鼎談	2006. 6. 2	『授業科目:読書教養講座』公開講座で児玉清氏、三宅敦子准教授と鼎談を行なった。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
La religion de la seconde majesté — Sur Alexandre le Grand de Racine —	2007. 9	西南学院大学論集:第50巻	99~111

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Le mythe du fratricide —le théâtre et la théologie dans La Thebaïde de Racine —(査読)	分担執筆	2004.10	17世紀仏演劇研究会: エイコス15号		207~221
Racine et l'humanisme de Port-Royal(査読)	分担執筆	2006. 7	Bibliothèque Mazarine: Chroniques de Port-RoyalNo.56		175~192

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 9.23	Racine et l'humanisme de Port-Royal	Société des Amis de Port-Royal
2008.10.31 ~ 2008.11. 1	Le songe et la narration—Athalie et le Dit du Genji	Colloque franco-japonais Traduire le rêve

社会活動

期間	活動内容
2009. 5 ~	日本フランス語フランス文学会学会誌編集委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 西村 牧夫 (2304)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎時間のテストと添削	2003. 4 ~ 2008. 3	1年生の文法では毎時間テストを行い、学生の理解度をチェックしている。解答を添削する過程で、学生ひとりひとりの長所や短所が分かり、非常に有効な方法である
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マンツーマンの指導	2003. 4 ~ 2008. 3	1年生の文法では毎週自作の練習問題をさせながら教室を回りすべての学生に声をかけ、質問に答えたり、ヒントを与えたりしている。このやり方で、できる学生は自分の力で伸びていく一方で、遅れがちな学生をある程度救うことができる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 映画シナリオの日仏対訳作成	2004. 4 ~ 2005. 3	フランス語演習で学生と協力しフランス映画 Conte d' Automne, Conte d' Hiver, アメリカ映画 Le Chocolat(フランス語音声)の3つの日仏対訳を完成(2004年度ゼミ論集に掲載)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小説の日仏対訳作成	2006. 4 ~ 2007. 3	フランス語演習で学生と協力し『星の王子様』の日仏対訳を完成(2006年度ゼミ論集に掲載)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 映画シナリオの日仏対訳作成	2007. 4 ~ 2008. 3	フランス語演習で学生と協力しフランス映画 Amelie, フランスTV映画 Le proces de Bobignyの2つの日仏対訳を完成(2008年度ゼミ論集に掲載)
2 作成した教科書、教材、参考書 プリント教材を自分で作成	2003. 4 ~ 2008. 3	すべての授業にプリント教材を作成。とくに、1年生の文法では学生の理解度に合わせることができ、有効であると考えている。また、時事フランス語ではできるだけTVニュースをフランス語に起こし、最新ニュースを扱うよう心がけている
4 その他の教育活動上特記すべき事項 仏和辞典の編集・執筆	2003. 4 ~ 2008. 3	入門から上級程度までの学習者を対象とした辞書を編纂・執筆中で、文例が多いことからフランス語教育に寄与できると考える

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
我、弾劾す — 作品と翻訳の間 —	2006.10	西南学院大学論集: 第49号	63~113
『星の王子様』— 花の命は短くて —	2006.10	西南学院大学論集: 第49号	115~176
『嘔吐』— 作品と翻訳の間(2) —	2008. 2	西南学院大学論集: 第51号	73-130

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
シンポジウム報告		2004. 6	日本フランス語学会: フランス語学研究第37号		92~93

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.12.16	半過去を俯瞰する: “期間限定” から “愛情表現” まで	日本フランス語学会

社会活動

期間	活動内容
2004. 4. 1 ~ 2007	フランス語教育振興協会 評議員
2005. 4. 1 ~ 2009. 3.31	日本フランス語教育学会 学術顧問
2007. 4. 1 ~ 2008. 3.31	日本フランス語学会 責任者
2007. 4. 1 ~ 2008. 3.31	日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員
2008. 4. 1 ~ 2009. 3.31	日本フランス語学会 副責任者

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 小熊 和郎 (2305)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2003.10 ~ 2009. 5	1年次『フランス語基礎(文法)』(カリキュラム改正後名称は『フランス語基礎文法』)では、学生の学力低下に対応するために、少ない内容をステップを踏みながら復習にも力点をおいて基礎能力を螺旋状に高める努力をしている。具体的には、(1)毎週の宿題と添削(間が空かないように翌週に返却)と(2)毎授業ごとの5分間小テストを実行している。フランス語と既習の英語の知識ならびに母語の日本語を有機的に結びつけるために、文法説明には対照的観点を多く取り入れている(音声、文法)。また、文法を日常の言語活動に結びつけるために、映像教材(旅行、CMなど)を10分程度取り入れて文化的・語学的説明を行うことがある。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2003.10 ~ 2009. 5	『フランス語文法』(2年次)も学習意欲と学力の低下が近年著しく、様々な工夫を導入している。1年次の基礎文法の内容を復習しつつ、フランス語文法全体の鳥瞰を目標としている。1年次からの継続で、毎週の宿題(翌週に返却)と定期的5分間小テストを実施。教科書補助のためのプリント教材を作成している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2003.10 ~ 2009. 5	3.4年次『フランス語学概論』は、特に日本語から見てわかりにくい動詞時制構造(半過去vs.複合過去)、時間副詞表現、限定詞(冠詞、不定形容詞)、テキスト内での話題連続性を確保する際の日仏のストラテジーの相違、語彙の意味野と接辞接続表現や論証法などについて、練習問題と解説からなる自作のプリントを使用。学習内容を確実にするための宿題とその添削を毎回行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教材	2004. 3 ~ 2009. 5	毎回、ゼミは学生の個人研究の発表指導を行い、その成果を論集の形で年度末にまとめている。2003-2004年度、2005-2006年度、2008-2009版がある。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日仏語の人称概念－出会いとすれ違い－	2005.10	西南学院大学論集:第47巻	45~72
Mettreの柔軟性と制約	2009. 3	西南学院大学論集:第52巻	1~26

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Clef の意味論(論(査読))		2005. 6	日本フランス語学会:フランス語学研究39号		65~70
Deux verbes "toucher" en japonais: sawaru et fureru (査読)		2005.11	Presses universitaires de Franche-Comte: D'une langue a l'autre (Actes du colloque)	シンポジウム論文集	225~242
dejaと encore-時間・主体間関係・評価-(査読)		2005.11	三修社:フランス語ををを探るフランス語学の諸問題3	東京外国語大学グループ (セメイオン)	143~155

Moo et la subjectivite.(査読)		2006. 3	慶応義塾大学:Cognition et emotion dans le langage	慶応義塾大学 COE 論文 集	141~158
Perderと状態変化(査読)	単著	2006. 5	日本フランス語学会:フランス語学研究40		36~38
Identite et variations du verbe _yaru_en japonais(査読)	単著	2007. 1	Presses universitaires de Franche-Comte: Constructions verbales et production de sens	D.Lebaud,C, Paulin & K.Ploog(eds)	307~320

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.12.11	「もう」と déjà の主観性	21世紀人文科学COE プロジェクト(心性史)「心と感情の言語表現」 2004年度成果報告会
2006. 1.27	Etude d' un verbe japonais "yaru":construction de la<distance> et variations	colloque international: constructions verbales et production de sens
2007. 1.19	"moo"japonais par rapport a"deja"français	Seminaire du groupe "Theorie des Operations Predicatives et Enonciatives"
2007. 5.25	ima (maintenant) en japonais et l'alterite	Colloque International "Alterite dans les theories de l'enonciation"
2007. 6.22	"yaru" en japonais	Seminaire du groupe "Theorie des Operations Predicatives et Enonciatives"

社会活動

期間	活動内容
2003 ~ 2005	実用フランス語技能検定試験(福岡会場) 責任者
2009. 4 ~ 2010. 3	福岡国際交流協会評議員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授(特別教員)	氏名 L. シュヴァリエ (2306)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------------	---------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) student training and self-assessment	2004 ~	授業科目:フランス語科教育法 During the 2nd semester, students invite a small number of friends in class as French absolute beginners and try their teaching skills on them. This class is filmed and then viewed by the students for self-assessment.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) improvement of writing skills	2005. 4 ~ 2006. 9	授業科目:フランス文化研究II Implementation of a guided self-correction and self-assessment system to improve writing skills in French.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) use of recording devices	2005. 9 ~	授業科目:フランス語音声学 Systematic use of recording devices (LL, tape recorder) for pronunciation self-assessment and final exams.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Use of Internet in class	2006. 9 ~ 2007. 9	授業科目:時事フランス語 Use of Internet run French TV news as a base for class activities
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) use of computer in class	2009. 4 ~	授業科目:フランス語コミュニケーション演習 use of Internet and computer based activities to develop communication skills and learning strategies.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) creation of student portfolio	2009. 4 ~	授業科目:フランス語会話 creation and implementation of a student portfolio to help develop learning strategies and self-assessment.
2 作成した教科書、教材、参考書 Specific course design to meet all levels	2006. 4 ~ 2006. 9	授業科目:フランス語中級 Specific course design made according to the students different levels and concerning both oral and writing skills. The main reason is the absence of adequate textbooks.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第18回独協大学フランス語教授法研究会にてワークショップ	2004.11. 7	「Integration de ressources Internet aux activites de classe」というワークショップをした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第20回フランス語教育研究会にてワークショップ	2006. 3.31	「La correction des productions ecrites」というワークショップをした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第21回フランス語教育研究会にてワークショップ	2007. 3.30	「Heterogeneite des niveaux et utilisation du CECR」というワークショップをした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本フランス語教育学会2007年度春季大会におけるシンポジウム	2007. 5.18	「Comment determiner les objectifs dans les manuels pour debutants?」というシンポジウムに司会として参加した。

日本フランス語教育学会2007年度春季大会にてPungier氏、Rico-Yokoyama氏と共同発表

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Les habitudes d' enseignement-apprentissage des langues au Japon	2008. 2	西南学院大学論集: 51	41-59
La dynamique d' enseignement-apprentissage en classe de FLE: une intensite faible dans le contexte educatif japonais	2008. 2	西南学院大学論集: 51	61-72

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Integration de ressources Internet aux activites de classe	単著	2004.11	獨協大学フランス語教授法研究会: 第18回獨協大学フランス語教授法研究会18号		17~19
NOEL-JOTHY F., SAMPSONIS B., Certifications et outils d' evaluation en FLE	単著	2007.10	日本フランス語教育学会: Revue japonaise de didactique du francais 2-1		299-301
Les facteurs a l'oeuvre dans le maintien de l'enseignement traditionnel de la grammaire au Japon	単著	2008.10	日本フランス語教育学会: Revue japonaise de didactique du francais, Etudes didactiques vol.3, n.1	Laurence Chevalier	pp. 67-83
Compte rendu du symposium du congres de printemps 2007 "Comment determiner les objectifs dans les manuels pour debutants?"	単著	2008.10	日本フランス語教育学会: Revue japonaise de didactique du francais, Etudes didactiques vol.3, n.1		164-166
Bronckart J-P., Bulea E., Pouliot M. (2005), "Repenser l'enseignement des langues : comment identifier et exploiter les competences?"	単著	2008.10	日本フランス語教育学会: Revue japonaise de didactique du francais, Etudes didactiques vol.3, n.1	Laurence Chevalier	pp. 256-258

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.11. 7	Integration de ressources Internet aux activites de classe	第18回獨協大学フランス語教授法研究会
2006. 3.31	La correction des productions ecrites	第20回関西フランス語教育研究会
2007. 3.30	Heterogeneite des niveaux et utilisation du CECR	第21回関西フランス語教育研究会
2007. 5.18	La salle de classe comme lieu d' experimentations	日本フランス語教育学会
2007.10. 7	Representations de l' enseignement-apprentissage de la grammaire du FLE chez des universitaires japonais	日本フランス語教育学会2007年度秋季大会

2008. 3.28	Enseigner en tandem:repenser le decoupage de l'enseignement—appren tissage	第22回関西フランス語教育研究会
2009. 4. 5	Contextualisation et culture éducative: l'occasion de repenser l'enseignement/apprentissage du FLE au Japon	国際研究集会2009

社会活動

期間	活動内容
2004. 4 ~	関西フランス語教育研究会運営委員
2006. 6 ~	「Revue japonaise de didactique du francais」日本フランス語教育学会誌編集委員会・委員
2007. 5.18 ~	日本フランス語教育学会2007年度春季大会シンポジウムの司会「Comment determiner les objectifs dans les manuels pour debutants?」(明治大学)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 武末 祐子 (2307)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テスト実施	2003. 4 ~	(授業科目:フランス語基礎)「フランス語基礎」のもう一方の授業では、直接コミュニケーションがはかれるように対話型教室で行っており、各課が終了するたびに理解度を測るために小テストを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レジュメの作成と工夫	2003. 4 ~	(授業科目:西洋文学、フランス文学概論) 文学作品の解説をよりわかりやすくするため、その日の講義のレジュメを配布しているが、最近ではイラストや写真なども入れ、視覚的に理解できるようにしている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価アンケート	2003. 4 ~	(授業科目:フランス語基礎、フランス語表現法エクリ、フランス文学概論、フランス文化研究、西洋文学) 毎年、授業評価アンケートを実施している。次の授業には学生の意見を取り入れたり、自分の授業の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 映像の導入	2004. 4 ~	授業科目:西洋文学、フランス文学概論、演習) 文学作品の解説は、聴いていると退屈になる恐れがある。文学作品で映画化されたものがあれば、それを紹介している。最近では毎回の授業で時間を決めて映像を見せている。また、解説の補助手段として、パソコンで映像を準備しておき、それも見せている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) web活用、パソコン教室でパワーポイントを使っての発表	2005. 4 ~	(授業科目:フランス文化研究I) インターネットのフランス語のサイトから情報を収集し、自分の研究に取り入れ、それをプレゼンテーションするという形式を採用している。フランス語を理解し、情報収集の仕方とプレゼンの仕方を総合的に学習する機会となっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) CALL教室での多機能利用学習	2006. 4 ~	(授業科目:フランス語基礎)「フランス語基礎」は1年生用の授業である。週に1度、CALL教室で、フランス語の発音練習、文法課題、web活用による異文化理解など、さまざまな機能を使って学生のフランス語に対する興味をかき立て、各人が新しい発見ができるようにしている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業用プリント配布	2006. 4 ~	(授業科目:フランス語基礎、フランス語表現法エクリ) それまで必要な部分のみ資料としてプリントを配布していたが、その日行うことをすべて書き出し配っている。そのようにすることによって、その日の目的が学生により明確に伝わるようになった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 出席カードの裏の利用	2006. 4 ~	(授業科目:西洋文学、フランス文学概論)講義で時間がなくなったとき質疑応答ができなくなるので、その日の講義で質問があるとき、あるいはコメントがあるときは、出席カードの裏に書いてもらい、それを次の講義のときに提示し回答している。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2007. 4 ~	フランス語副教材、DVD『フランス新発見』Notre recherche sur la France, 2007.4.文部科学省主催「高度情報化推進特別経費(教育学術コンテンツー教育学術情報データベースなどの開発計画)」および、西南学院大学教育研究推進機構による補助金による制作
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2007. 4 ~	日本フランス語フランス文学会広報委員

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Sur le sublime de Longin a Hugo	2005. 2	西南学院大学論集: 第46巻	65～111
印象派と浮世絵に見られる自然観－モネと広重－	2005.10	西南学院大学論集: 第47巻	23～44

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
動機づけを強め、自律をめざすという観点から取り組んだ学生によるDVDフランス語副教材 (Developper les motivations et favoriser l' autonomie : realisation d' un DVD)	単独執筆	2008.10	日本フランス語教育学会: Revue japonaise de didactique du francais Volume 3		192～202

講演会

開催日時	講演名称	場所
2009. 3.11	Conference Claude Monet	Aix=Marseille 第3大学
2009. 3.18	Conference Claude Monet	Aix=Marseille 第3大学

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007.10. 7	動機づけを強め、自律をめざすという観点から取りくんだ学生によるDVDフランス語副教材	日本フランス語教育学会2007年度秋季大会
2007.12.16	DVD制作とICTによる異文化理解	国際シンポジウム「ICTによる外国語教育と自律学習—2つのコストと学習支援」
2008.10.31 ～ 2008.11. 1	Les rêves de Julien dans la légende de saint Julien l' Hospitalier	日仏シンポジウム「夢を翻訳する」Le colloque franco-japonais "Traduire le rêve"

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 T.トリュベール (2308)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	--------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Use of Internet	2004. 9 ~	In the following classes: [French composition], [French Writing] and [French Communication]. I have been leading an exchange with the College Notre Dame in Besancon (France) for 5 years now, with the teacher Mr. Perbet, every year for a semester. The students write to each other using Word and learn how to write a letter in French. Every week they write about a different theme which has been agreed on at the beginning of the semester. Although the students write to each other individually (or by group), they don't address their letter to the personal email address of their pen-friend but to the mailing list of the class <atelier.trubert@seinan-gu.ac.jp> so that the teachers (in order to correct and mark) and the other students (in order to learn) may access freely and witness the whole exchange. There is also a Home Page to this exchange < http://www.seinan-gu.ac.jp/~trubert/ecrit2005.html > with photos, a calendar and the letters of the students.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Use of a Portfolio	2008. 4 ~	In the following class: [French basic conversation]. I have been using a portfolio since the year 2008, and only with the first year students, in order to teach them how to learn French. It may help them indeed to think about their own habits of learning and reasons why learning French. In 2008 the portfolio was distributed on paper but since 2009 it has been online (wiki style) on the University server: every student can write on his own portfolio anytime and from anywhere, without the others knowing about its content ; only the teachers can read it.

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Methodologie lexicometrique: Annexe A (les 21 101 adjectifs du francais), Annexe B (les 267 textes du corpus de fiction)	2006. 2	西南学院大学論集: 第48巻	75~180
La place de l'adjectif en francais (IV) : methodologie lexicometrique	2006. 2	西南学院大学論集: 第48巻	19~38
Analyse lexicometrique du medialecte dans Bardadrac	2006.10	西南学院大学論集: 第49号	1~62

1 専任教員の教育・研究業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 和田 光昌 (2309)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) リレー形式によるフランス語教育	2003. 4. 1 ~	フランス語専攻の一年次の「フランス語基礎」、共通科目の「フランス語初級」の授業で、週に二回から五回あるフランス語の授業を連携させ、共通の教科書を用い、担当教員間で進捗等を連絡しあった授業を進めた。別々の教科書を用いるより、より一貫した外国語教育を行うことができた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パソコンを用いた授業内容の提示	2003. 4. 1 ~	「フランス文化研究」などの授業において、パワーポイント等を用いて、授業で扱うテキストに関しての補足的資料を提示したり、講義形式の授業では内容のレジュメを提示した。受講生にとって、時代の背景を画像でみることができたり、話を聞くポイントが明確になるなどのメリットがあると思われる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランス語の授業における小テストの実施	2003. 4. 1 ~	「フランス語基礎」、「フランス語表現法」などのフランス語専攻の専門科目で語学を扱う授業において、一ヶ月から三ヶ月に一度の割合で小テストを実施した。そのたびに復習することになるので、学んだ内容のいっそうの定着を期待できる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゼミ論集の刊行	2003. 4. 1 ~	「演習」において、一年間のゼミのまとめとしてゼミ論集を刊行した。目的がはっきりすることで、意欲的に自分のテーマにとりくむことが期待できる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) テーマ別でのテキスト講読	2005. 4. 1 ~	従来ある作家のある作品だけを扱うことが多かった講読の授業を、作家や作品ではなく、一つのテーマを決めて、それに沿って複数の作家、作品を扱うようにした。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) テーマに基づいた作文の授業	2005. 4. 1 ~	日本語の単文をフランス語に訳すのではなく、ひとつのテーマについて書かれたフランスの新聞記事を読み、それについての意見をフランス語で書いたり、逆に、同じテーマについて書かれた日本語の記事をフランス語に訳したりした。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フランスの時事問題についての学際的展開の試み	2005. 4. 1 ~	「フランス事情」などの授業において、フランスの今日の社会問題を取り上げ、それを、文学、思想、文化史の観点から通時的に俯瞰することを試みた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メーリングリストの活用	2006. 4. 1 ~	ゼミにおいてメーリングリストを作成し、日程や授業内容、発表者とその題目などの連絡、学生の個別の相談などに利用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 速読形式の講読の授業	2006.10. 1 ~ 2007. 3.31	予習してくるだけでなく、やさしいフランス語のテキストをその場で読み解く練習をした。直読直解の練習になる。
2 作成した教科書、教材、参考書 教室での提示資料の作成	2003. 4. 1 ~	上記の提示のための資料を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 参考文献の作成	2005. 4. 1 ~	文化・文学系の授業において、学生のレポート作成に役立つような、関連書物のリストを作成し、配布した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Madame Bovary et les savoirs	分担	2009. 2	Presse Sorbonne Nouvelle :		199~206

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
De l'instruction a l'education: le role de l'enseignement de la lecture dans Bouvard et Pecuchet de Flaubert	2005. 2	西南学院大学論集: 第46巻	113~131
日本自然主義の命運	2005.10	西南学院大学論集: 第47巻	3~22
Enfant et propriete -- quelques reflexions sur la correlation de l'education et de la propriete dans Bouvard et Pecuchet de Flaubert	2006. 2	西南学院大学論集: 第48巻	1~18
Bibliographie du chapitre X de Bouvard et Pecuchet sur l'Education--d'apres les notes de lecture de Flaubert conservees a la Bibliotheque municipale de Rouen(Folio 169-208,g226(2))	2008. 2	西南学院大学論集: 第51巻	131~140
Eduquer et ecrire---Le dossier pedagogique de Bouvard et Pecuchet de Flaubert	2009. 3	西南学院大学論集: 第52巻	39~47

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
砂漠とピラミッド -- フロベール『汝何を望まんとも』論	単著	2007.12	現代文学刊行会:『現代文学』76号	和田光昌	24~38.

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 5.19	1870年代のフロベール	日本フロベール研究会第2回研究会
2006. 6.28	Haine et fascination de la masse insignifiante chez Flaubert	Colloque international de Cerisy "Flaubert, ecrivain"
2006.11.17	Magnetisme et phrenologie dans Madame Bovary	Colloque international "Madame Bovary et les savoirs"
2007.12. 7	Une lecon de choses inattendue ou comment Victor a appris la notion de la propriete dans Bouvard et Pecuchet de Flaubert	日仏シンポジウム"Comment nait une oeuvre litteraire" (京都大学、関西日仏学館共催)

2007.12.16	Comment interpreter l'ambiguite epistemologique dans Bouvard et Pecuchet de Flaubert	グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」 第2回国際研究集会「バルザック、フロベール作品の生成と解釈の問題」
2008.11. 1	Le Pont flottant des songes de Tanizaki ou l'invention d'un pere anti-oedipien	国際シンポジウム Traduire le reve
2008.12.11	Eduquer et ecrire – le dossier pedagogique de Bouvard et Pecuchet	国際シンポジウム Edition des dossiers documentaires de Bouvard et Pecuchet

社会活動

期間	活動内容
2005. 6 ~ 2009. 5	日本フランス語フランス文学会学会誌編集委員
2007. 1. 1 ~	近現代テキスト・草稿研究所 (I.T.E.M.) (フランス科学研究センター所属) 海外研究員
2008.12 ~ 2010.11	日本フランス語フランス文学会九州支部会学会誌編集委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 福浦 幾巳 (3101)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目;全科目』において、最終講義において最後の15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) HP・マルチメディアの利用	2003. 4 ~	『講義科目;全科目』について、マルチメディア(PPT・エクセルなど)を利用して工夫を凝らした講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	『授業科目;全科目』において、メールにおける問題の提示・受付を行い、これに対する適切な指導を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~	『授業科目;全科目』について、原則として、毎回、講義概要を示したレジュメを配布して講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2007. 4. 1 ~	『授業科目:税務会計論・簿記原理』 講義をパワーポイントとOHPを利用し、工夫を凝らして行なっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-Learningシステムの構築	2008. 4. 1 ~	『授業科目:簿記原理』ブラックボードを採用し、エクセル等を利用したシステムの構築により講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書	2003. 5 ~	『パソコンで学ぶ「ビジュアル簿記の基礎」ムイスリ出版』を原著とする韓国版の作成 ■福浦幾巳外共著「会計学の基本」として刊行、2003年5月。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書	2003. 6 ~	福浦幾巳編著『税法入門ゼミナール』
4 その他の教育活動上特記すべき事項 簿記の「E-Learning」コンテンツ作成	2003. 3 ~	「中村学園大学E-Learningシステム『ヨードン簿記』」学生の自学自習・補完を支援するWEBを利用した簿記のシステムをを本格的に稼働

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『図解「リレーショナル簿記」(中級編)』第1章(1~23頁) 他	分担執筆	2005. 5	創成社	福浦幾巳編著	

『税法入門ゼミナール』(改訂版)	分担執筆	2005.10	創成社	福浦幾巳編著	
『図解「リレーショナル簿記」(初級編)』第1章(1～9頁)他	分担執筆	2006.5	創成社	福浦幾巳編著	
『現代会計学と会計ビッグバン』	共著	2007.6	森山書店	梶田隆三・由井俊範共編著	147～157
図説「租税法の基礎」	共著	2008.7	中央経済社	福浦幾巳	50
損金経理(60～61頁), 損金算入項目(61頁), 損金不算入項目(61頁), 適用税率(68頁)	分担執筆	2007.3	税務経理協会:コンパクト連結会計用語辞典	松原成美	
会費等(15頁), 入会金等(1089～1090頁), 組合事業の損益(337頁), 協同組合等の損益(317～318頁), 更生会社の損益(458～459頁), 従業員団体の損益(705頁)	分担執筆	2007.5	中央経済社:会計学大辞典	安藤英義・新田忠誓・伊藤邦雄・廣本敏郎	
法人税法第22条2項の「益金の額」の構造	分担執筆	2008.9	同文館出版:		97～115

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
租税判例における「役員給与」規制の回顧と動向	2007.6	西南学院大学論集:第54巻第1号	1～26
電子帳簿保存における法規制の現状と諸問題	2009.6	西南学院大学論集:第56巻第1号	27

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
簿記教育におけるE-Learningの有用性に関する研究(中間報告)	共著	2004.8	:日本簿記学会年報第19号		6～12
中小企業の資本充実に対する税法の影響—同族会社の留保金課税を中心として—		2004.10	中村学園大学:中村学園大学流通科学研究第4号		31～41
簿記教育におけるE-Learningの有用性に関する研究(最終報告)	共著	2005.8	:日本簿記学会年報第20号		6～11
税率・配当課税, 留保金課税, その他	単著	2005.9	第一法規:税務会計研究第16号		99～120
知的資産と課税問題		2005.11	中村学園大学:中村学園大学流通科学研究第5巻第2号		25～35
「電子」媒体における帳簿保存の法規制の現状と諸問題	単著	2007.9	税務経理協会:税経通信第62巻第12号		41～49
ICT化の進展を背景とした会計教育の課題	単著	2008.1	中央経済社:企業会計第60巻第1号		113～118

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.8	簿記教育におけるE-Learningの有用性に関する研究	第20回日本簿記学会全国大会
2004.10	統一論題「中小会社会計基準と税務会計」	第16回税務会計研究学会

2004.12.7	最近の租税判例における公正処理基準の動向」	第74回日本会計研究学会九州部会
2006.1	E-Learningによる税法教育の試み	第12回日本商業教育学会九州部会
2007.9	租税法からみた「公会計おける税の位置づけ」論争の検討	国際公会計学会全国大会
2007.10	ネットワーク社会における税務会計の諸問題最終報告	第18回税務会計研究学会

社会活動

期間	活動内容
2004.4～	私立大学情報教育協会会計学教育IT活用研究委員(現在に至る)
2004.4～2007.3	国際公会計学会理事
2007.12～2009.12	太宰府市運営協議会委員(現在会長)
2008.4～2009.3	私情協会会計学教育FD/IT活用委員会委員
2008.11～2010.11	太宰府市税制審議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 土方 久 (3102)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 史実をイメージしてもらうためのプロジェクターの使用	2003. 4 ~	「授業科目:簿記会計史」プロジェクターを使用して、15世紀からの簿記資料、20世紀の会計資料から史実をイメージしてもらい、講義に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義修得を確実にするための模擬試験	2003. 4 ~	「授業科目:簿記原理Ⅰ」講義修得を確実にするために、講義の前半と後半に模擬試験を実施、解説して解答している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	「授業科目:簿記会計史」教務課に指定された期間の講義終了前15分程度、授業評価を実施。教務課の集計結果を参考に、事後の講義に反映させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義修得を確実にするための模擬試験	2008. 4 ~	「授業科目:会計学原理」講義修得を確実にするために、講義の後半に模擬試験を実施、解説して解答している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を明示したプリント作成	2004. 4 ~	最初の講義で講義要綱のプリントを配布して、何を修得するか理解してもらい、以後、講義の2~3回ごとに、講義内容をまとめた講義概要のプリントを配布して、何を修得したか理解してもらっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2005.12	「簿記会計史」: 土方久著『複式簿記の歴史と論理』(森山書店)、2005.12
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2006. 4	「簿記原理Ⅰ」: 土方久著『新版複式簿記入門』(中央経済社)、2006.4
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2008.11	「会計学原理」: 土方久著『複式簿記会計の歴史と論理』(森山書店)、2008.11
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 講演	2009. 9.26	「簿記原理」と「会計学原理」の教育方法・教育実践について、「日本簿記学会」の講演者、「日本会計史学会」の報告者として参加している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
複式簿記の歴史と論理—ドイツ簿記の16世紀—	単著	2005.12	森山書店	土方久	1~452
新版 複式簿記入門	共著	2006. 4	中央経済社	土方久、工藤栄一郎	1~77

複式簿記会計の歴史と論理—ドイツ簿記の16世紀から複式簿記会計への進化—	単著	2008.11	森山書店		1～604
近代会計成立史	分担執筆	2005.4	同文館:	平林喜博	36～52
簿記・会計の原理—ドイツ系会計学の源流を探る—	分担執筆	2005.11	東京経済情報出版:	戸田博之・安平昭二	123～140
20世紀におけるわが国会計学研究的軌跡	分担執筆	2005.11	白桃書房:	戸田博之・興津裕康・中野常男	48～65
パワーアップ簿記	分担執筆	2006.12	税務経理協会:	興津裕康	11～19

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
16世紀における複式簿記の風景	2004.7	西南学院大学論集:第51巻第1号	137～171
ドイツ簿記とイタリア簿記の交渉(Ⅲ)—Schweicker, Wolfgang 1549年—	2004.7	西南学院大学論集:第51巻第1号	1～59
イタリア簿記の原型—Pacioli, Luca 1494年—	2004.9	西南学院大学論集:第51巻第2号	1～45
イタリア簿記の原型(Ⅱ)—Pacioli, Luca 1494年—	2005.2	西南学院大学論集:第51巻第3・4合併号	1～34
ドイツにおけるイタリア簿記の発展—Goessens, Passchier 1594年—	2005.6	西南学院大学論集:第52巻第1号	1～25
ドイツにおけるイタリア簿記の発展(Ⅱ)—Goessens, Passchier 1594年—	2005.9	西南学院大学論集:第52巻第2号	1～42
ドイツにおけるイタリア簿記の発展(Ⅲ)—Goessens, Passchier 1594年—	2005.12	西南学院大学論集:第52巻3号	1～48
ドイツにおけるイタリア簿記の展開—Sartorium, Wolfgangum 1592年—	2006.2	西南学院大学論集:第52巻第4号	1～28
ドイツにおけるイタリア簿記の展開—Sartorium, Wolfgangum 1592年—(Ⅱ)	2006.6	西南学院大学論集:第53巻第1号	1～23
ドイツにおけるイタリア簿記の展開—Sartorium, Wolfgangum 1592年—(Ⅲ)	2006.9	西南学院大学論集:第53巻第2号	1～38
ドイツにおけるイタリア簿記の再生—Gamerstelder, Sebastian 1570年—	2007.2	西南学院大学論集:第53巻第3・4合併号	25～79
ドイツにおけるイタリア簿記の再生(Ⅱ)—Gamersfelder, Sebastian 1570—	2007.6	西南学院大学論集:第54巻第1号	27～79
ドイツにおけるイタリア簿記の再生(Ⅲ)—Gamersfelder, Sebastian 1570—	2007.9	西南学院大学論集:第54巻第2号	49～106
複式簿記会計への進化—17世紀から19世紀までの単式簿記と複式簿記—	2007.12	西南学院大学論集:第54巻第3号	1～42
16世紀から18世紀までにドイツに出版される簿記の印刷本の目録(資料)	2007.12	西南学院大学論集:第54巻第3号	169～196

複式簿記会計への進化(Ⅱ)—17世紀から19世紀までの単式簿記と複式簿記—	2008. 3	西南学院大学論集:第54巻第4号	1~43
複式簿記会計への進化(Ⅲ)—17世紀から19世紀までの単式簿記と複式簿記—	2008. 6	西南学院大学論集:第55巻第1号	1~58
複式簿記会計の歴史と論理—ドイツ簿記の16世紀から複式簿記会計への進化—	2008. 6	西南学院大学論集:第55巻第1号	187~205

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
複式簿記の歴史と構造	単著	2004. 4	近畿大学経済学会:生駒経済論叢第2巻第1号		1~11
後給付、財産法、財産目録、中和化、動的貸借対照表、保守主義の原則、前給付	分担執筆	2005. 5	税務経理協会:現代会計用語辞典第3版	興津裕康、大矢知浩司	3・102・187・203~204・242・245
複式簿記の発達と、その背景にある中世ドイツ都市史に関する実例研究	単著	2006. 2	西南学院大学学術研究所:seinan riceca 第10号		4~5
移管品、自製材(原)料、正規の簿記の原則、貸借対照表能力、棚卸資産、棚卸資産原価、投資	分担執筆	2007. 5	中央経済社:会計学大辞典第5版	安藤英義・新田忠誓・伊藤邦雄・廣本敏郎編	21、634、793~794、893~894、913、1027~1028
一致の原則、基礎有高法、ゲルトマツハー、拘束有高、資産、資産の現金性、支出、シュヴァイカー、収益、収入、シュマーレンバッハ、成果、損益、貸借対照表能力、投資有高比較性の原則、費用、評価論の発展、フィッシャー、マールベルク	分担執筆	2007.12	同文館:会計学辞典第6版	神戸大学会計学研究室編	25~26、274~275、358、432、577~578、578~579、582~583、628~629、643、651~652、714、784~785、799~800、901、1001~1002、1013~1014、1018~1019、1032~
冒険貸借と徴利禁止令—大航海時代における複式簿記からの疑問—	単著	2008. 7	近畿大学経営学部:商経学叢55巻1号		9~19

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.10.23	イタリア簿記の原型	神戸大学会計史研究会
2006. 4.29	ドイツ簿記の16世紀	神戸大学会計史研究会
2007. 8.25	複式簿記の歴史と論理	日本簿記学会
2008. 8.25	冒険貸借と徴利禁止令—大航海時代における複式簿記からの疑問—	日本会計史学会

社会活動

期間	活動内容
----	------

1995. 6 ~	山苞の会(福岡県久留米市田主丸町)推進委員
2000.12 ~	財団法人・九州大学出版会、編集企画委員
2001. 8. 1 ~ 2005. 2. 4	田主丸町・情報公開審査会 委員長
2002. 4 ~ 2010. 3	福岡商工会議所・簿記検定試験委員
2004. 4 ~ 2008. 3	財団法人・大学基準協会・相互評価委員会(商学・経営学系専門評価分科会)委員
2005.10 ~ 2009. 9	日本会計史学会、理事
2007.11 ~ 2009.10	財務会計研究学会、理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 伊藤 龍峰 (3103)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 6 ~	『授業科目:会計監査論』最終講義の卒後の20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの作成	2005. 4 ~	『授業科目:会計監査論』および『講義科目:簿記原理 I』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2005. 4. 1	『授業科目:簿記原理 I』についての教科書の出版をおこなっている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
職業倫理と価値観	単著	2005. 2	日本監査研究学会:	高田敏文編	84~94

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
会計参与制度について	2006. 2	西南学院大学論集:第52巻第4号	195~208

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
財政健全化法と監査領域の拡大	単著	2009. 3	中央経済社:『企業会計』第61巻第4号	伊藤龍峰	p.p.34~40

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 1. 9	明治大学大学院会計専門職研究科2007年度第4回特別講義	明治大学大学院会計専門職研究科
2008. 9.11	「内部統制関連セミナー」パナソニックCCシステムコンサルティング主催	WITH THE STYLE FUKUOKA
2009. 1.22	日本公認会計士協会北部九州会 継続的専門研修会	福岡朝日会館
2009. 1.26	福岡県監査委員事務局職員研修会	福岡県監査委員事務局会議室

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 3.29	自治体監査制度の検討に向けて—自治体財政健全化法の施行を契機として—	日本会計研究学会第81回九州部会
2009. 3.28	地方公会計制度改革の問題点	日本会計研究学会第83回九州部会
2009. 7	内部統制監査をめぐる諸問題	日本管理会計学会第28回九州部会

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ~	福岡商工会議所簿記検定委員
2003. 9 ~ 2006. 9	日本監査研究学会理事
2005. 4. 1 ~	システム監査学会理事
2005. 7 ~	福岡県監査委員
2005.12 ~ 2008.11	平成18・19・20年公認会計士試験委員(監査論担当)
2008.12. 1 ~	福岡市特別職報酬等審議会会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 西野 宗雄 (3104)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
銀行業部門における諸銀行の競争	2007. 2	西南学院大学論集:第53巻第3・4合併号	101~124

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 小川 浩昭 (3105)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 9 ~	前期の授業評価結果を後期の最初の講義で取り上げ、結果をどう受け止め、どこをどう改善するかを受講者に明確にしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒業論文発表会	2007. 1 ~	4年生の最終ゼミを2, 3, 4年合同のゼミとし、4年生一人一人がパワーポイントを使って卒論の報告を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントの活用	2006. 4 ~	原則パワーポイント・シート12枚以下、A3版1枚ものの資料を作成し、講義の流れがわかりやすい資料を配布している。また、必ずポイントの整理、復習のための問題を入れて、復習ができるようにしている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ論文集の作成	2005. 3 ~	4年生卒業論文、3年生全九州大会論文、2年生市場見通しと各学年のメインのゼミ活動を論文集の形でまとめ年度の終わりに発行している。論文集には卒論の講評、私からの贈る言葉も含めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 商経ゼミナール連合会	2006. 5 ~	学生の自治組織のゼミナール連合会が機能しておらず、研究発表会などの活動が低迷していたため、ゼミナール連合会の顧問に就任し、ゼミ連活動を軌道に乗せ、学生の自治組織として復活するように指導している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代保険学—伝統的保険学の再評価	単著	2008. 2	九州大学出版会	小川浩昭	304
保険事業のイノベーション—商品開発・事業展開と経営革新	共著	2008. 6	慶應義塾大学出版会	石田成則編	71-96

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
相互会社の現代的考察	2005. 2	西南学院大学論集: 第51巻第3・4合併号	233~258
保険学と隣接科学—社会保障論・社会政策学の社会保険—	2005. 6	西南学院大学論集: 第52巻第1号	99~124
現代における保険の本質	2005. 9	西南学院大学論集: 第52巻第2号	101~136
保険の相互扶助性について	2006. 2	西南学院大学論集: 第52巻第4号	59~98
保険・金融のイノベーション	2007. 2	西南学院大学論集: 第53巻第3・4合併号	155~190
保険における偶然性とリスク	2007. 6	西南学院大学論集: 第54巻第1号	81-98

金融論的保険分析の批判的考察	2007. 9	西南学院大学論集: 第54巻第2号	107-142
保険教育と保険学の体系—カリキュラムの考察	2008. 6	西南学院大学論集: 第55巻第1号	99-150
『現代保険学—伝統的保険学の再評価』の論理	2008.12	西南学院大学論集: 第55巻第2・3合併号	27-69
保険教育と保険学の体系—テキストの考察(戦前)	2009. 3	西南学院大学論集: 第55巻第4号	91-178

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
保険理論の新展開	単著	2008. 3	福岡大学: 福岡大学商学論叢第52巻第3・4号		

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.13	予定利率引下げに関する保険業法の改正について	生活経済学会
2005. 2.12	社会保険の保険学的考察	社会政策学会九州部会第80回研究会
2006. 8. 5	リスクマネジメントのイノベーション	保険事業のイノベーション研究会
2008. 7.29	『現代保険学—伝統的保険学の再評価』九州大学出版会、2008年をめぐって	一橋大学保険ワークショップ

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 小川 雄平 (3106)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新聞記事の採り入れ	2000.4～	[授業科目:貿易論]現実との関わりを認識させ、講義への関心を持たせるために、貿易に関連する新聞記事はコピーして受講生に配布し、授業で解説するようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 出席カードの裏面の利用	2004.4～	[授業科目:貿易論・貿易史]講義科目は受講生が多いこともあって、授業中に質問をし難いようなので、質問があれば出席カードの裏面に記すように、書ききれない場合はメールにするように指導している。質問事項があった場合には、次の講義で答えるようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 視聴覚教材の利用	2004.4～	[授業科目:貿易論]受講生の多い(300人)講義科目であるので、ビデオ・OHC・パワーポイントが利用できる場合は採り入れ、読み辛い板書に代えるようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 院生チューターとサブゼミの活用	2005.4～	[授業科目:演習Ⅱ]ゼミ生の興味・関心にしたがって全員をいくつかのサブゼミに編成し、博士後期課程の院生をチューターとして活用することで、サブゼミ毎に全九州ゼミ大会に参加させているが、ゼミ生の授業への主体的な取り組みが保持される。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント	2006.9～	[授業科目:貿易史]毎回講義概要をプリントにして配布。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 港湾見学	2005.11～	[授業科目:演習Ⅰ]博多港を見学させることで、物流への関心が高まる。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゲストスピーカーの活用	2006.11	[授業科目:貿易論]九州経済産業局国際企画調査課長を招へいし、地場企業の対アジア進出・貿易戦略を講演してもらって好評だった。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
東アジア地中海経済圏	単著	2006.9	九州大学出版会		224
地方版自由貿易協定	分担執筆	2004.11	吉林人民出版社:	王勝今、李玉潭、朱顕平	48～65
A concrete image of a localized network of free zones	分担執筆	2005.12	Korea Research Institute for Human Settlements: Collaborative Regional Development across the Korea-Japan Strait Zone	WonBae KIM Naoto TAKAKI Daeshik LEE	473～483
5北朝鮮の「対外開放」	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	178～179
2中国東北地区の開発計画	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	126～128

I 北東アジアの局地経済圏構想	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	103~104
2環日本海経済圏構想の変遷	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	108~109
II 北東アジアの開発構想	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	121~122
4日韓海峡経済圏	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	112~113
5地方間経済交流	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会編	149~150
3韓中経済交流	分担執筆	2006.10	国際書院:北東アジア事典-	環日本海学会	147~148

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日韓自由貿易協定—地方版自由貿易協定の視覚から—	2004. 9	西南学院大学論集:第51巻第2号	71~88

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
動き始めるか日本海物流	単著	2006. 4	:北陸中日新聞		1
東北アジアの胎動と「東アジア地中海経済圏」	単著	2007. 5	:アジア共生学会年報第3号	アジア共生学会	26~34
中国東北と日本九州	単著	2008. 9	東アジア学会:東アジア研究第10号		3~8
福岡—釜山「超広域連携」の可能性	単著	2009. 3	鹿児島国際大学:地域経済政策研究第10号		17~26
中国東北部に経験持ち寄る	単著	2009. 3	北陸中日新聞:北陸中日新聞2009年3月23日		1

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 4.24	東アジア経済圏における我が国地域ブロックの発展戦略	東アジア学会定例研究会
2004. 7. 1	日韓FTAへの一提案	韓国国際通商学会国際学術シンポジウム
2004. 8.19	地方版自由貿易協定	北東アジア地域平和と発展第11回国際学術会議
2004.10. 5	2004年上半期の朝鮮の貿易動向	朝鮮問題研究会
2005. 4.26	朝鮮の貿易動向	朝鮮問題研究会 第39回会合
2005.10.20	物流共同体とエネルギー共同体による連帯意識の醸成	第10回社会経済国際シンポジウム
2005.12.10	東アジア地中海の時代を拓く	東アジア学会・香港アジア太平洋学会合同国際シンポジウム
2005.12.17	動き始めた中朝国境地域	朝鮮問題研究会
2006. 7. 7	朝鮮の貿易	朝鮮問題研究会

2006.10.14	東北アジアの胎動と「東アジア地中海経済圏」	第2回アジア共生学会国際シンポジウム
2007. 6.16	東アジア地中海の時代を拓くー物流共同体の構築による東北アジアの平和ー	東北アジア文化学会
2007. 9.15	中国東北と日本九州	東アジア学会・東北財経大学合同国際シンポジウム
2007.11.10	中国製食品の安全性をめぐる諸問題	日本商品学会西日本部会秋季研究大会
2007.11.24	東北アジアの海洋文化交流と「東アジア地中海経済圏」	東北アジア文化学会
2008. 9.26	九州が拓く「東アジア地中海」の時代	九州・中国ビジネス研究会
2008.11.15	国境を超える地域連携	現代韓国朝鮮学会

社会活動

期間	活動内容
1991.10 ~	東アジア学会理事
2001. 9 ~ 2004. 4	(財)アジア太平洋センター企画委員会委員長
2002.10 ~	北東アジア(環日本海)学会副会長
2002.11 ~	東アジア都市会議研究部会福岡市代表委員
2004. 4 ~	NPO 法人アイセック・ジャパン全国理事
2004. 7 ~ 2005. 3	日韓自由貿易協定の影響と日韓海峡経済圏の可能性に関する調査委員会(九州地域産業活性化センター)
2005. 7 ~	(財)福岡アジア都市研究所評議員
2005.10 ~ 2009. 5	国土審議会計画部会専門委員
2005.12 ~ 2007. 3	福岡県国土形成計画検討委員会委員
2007. 4 ~ 2009. 3	私立大学連盟学生委員会委員
2007. 9 ~	NPO 法人九州アジア人材技術交流協会理事
2008. 4 ~ 2009. 6	(財)福岡結核予防会理事
2008. 4 ~ 2009. 7	九州圏広域地方計画プレ協議会学識者懇談会委員
2008. 9 ~ 2009. 3	「韓国南部地域と九州地域の超広域経済連携モデル策定」日韓合同調査委員会委員長
2008.12 ~	NPO 法人西日本日中企業家協力会理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 王 忠毅 (3107)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	1998.4～	『授業科目:ゼミナール』 メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 自作ホームページによる授業サポート	1999.4～	『授業科目:外書講読』:講義資料・プリントなどを作成してから自作のホームページに載せ、履修生に自由にダウンロードさせることによって、予習と復習を促している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 自作ホームページによる授業サポート	1999.4～	『授業科目:多国籍企業論』:講義資料・プリントなどを作成してから自作のホームページに載せ、履修生に自由にダウンロードさせることによって、予習と復習を促している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003.4～	『授業科目:多国籍企業論』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005.4～	『授業科目:多国籍企業論』 講義をパワーポイントとOHPを利用し、工夫を凝らして行なっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	1999.4～	『授業科目:外書講読』 講義内容を示したプリントを作成し、自作ホームページで公表。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	1999.4～	『授業科目:多国籍企業論』 講義内容を示したプリントを作成し、自作ホームページで公表。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 海外企業・工場見学・異文化体験	1998.4～	『授業科目:ゼミナール』:毎年2月末にゼミ生を海外の企業を見学させ、実際のビジネスに対する理解を深めながら、異文化体験をする。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ合宿	1998.8～	『授業科目:ゼミナール』:毎年夏休みを利用して研究発表合宿を行うことによって、学生の学習意欲を高める。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
日本企業による対中投資の決定要因の変化に関する実証分析	単独執筆	2006.11	九州大学出版会:企業財務制度の構造と変容第10章	牟田正人・池上恭子[編]	181～203

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日系多国籍企業の資金調達戦略－内部資本市場を中心として－	2006. 2	西南学院大学論集：第52巻第4号	99～122
日系多国籍企業の企業内貿易と企業パフォーマンス	2006. 9	西南学院大学論集：第53巻第2号	39～60
日本企業による対中投資の資金調達と企業内取引－移転価格問題の再評価－	2007.12	西南学院大学論集：第54巻第3号	75～94
日本企業による対中投資とその企業内取引に関する一考察－海外現地法人に対する所有政策を中心に－	2009. 3	西南学院大学論集：第55巻第4号	179～202

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
The financial Strategies of Japanese MNCs and internal capital market.	単著	2004. 4	Columbia Business School: Working PaperNo.223		1～16

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10.15	日本企業による対中投資の決定要因に関する実証分析	日本国際経済学会第64回全国大会
2007. 9.15	日本企業の対中投資資金調達戦略	東アジア学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授(特別教員)	氏名 立石 揚志 (3108)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2 作成した教科書、教材、参考書 海外直接投資教科書の作成	2007. 3 ~	「投資実務」についての教科書の出版を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
海外直接投資とアジアの貿易循環	単著	2007. 3	ふくろう出版	立石 揚志	97

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「食と農」から考える九州と中国の共生	2005. 2	西南学院大学論集: 第51巻第3・4合併号	127~144
アジアの中の日本と中国 FTA/EPA and FDI	2006. 2	西南学院大学論集: 第52巻第4号	179~194
東アジア共同体構想	2007. 3	西南学院大学論集: 第53巻第3・4号合併	325~339
新段階の中国経済	2008. 3	西南学院大学論集: 第54巻第4号	119~136

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
中国経済をどう見るか	単著	2004. 8	データマックス: I. B. 企業情報2004年夏期特集号		25~29
外国人材活用について	単著	2005. 2	福岡情報ビジネス: ACTIV2005年春号		16~19
チャイナファクターとチャイナリスク	単著	2005. 3	(社)国際経済研究センター: 国際経済研究通巻第273号		3~5
アジアの中での中国と日本	単著	2006. 1	(社)国際経済研究センター: 国際経済研究282号		5
グローバル化と福岡市の未来	単著	2007. 9	財団法人福岡アジア都市研究所: 都市政策研究第4号		1~7
最新の中国動向	単著	2009. 5	福岡県中小企業振興センター:		1~10

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 2.18	久留米企業立地セミナーin大阪	大阪 ホテル・グランヴィア大阪

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1994. 4 ~ 2008. 3	独立行政法人中小企業基盤整備機構 国際化支援アドバイザー
1997. 4 ~	九州国際エフエム番組審議委員会 委員長
2001. 4 ~ 2005. 3	文部科学省国際日本文化研究センター共同研究員
2001. 5 ~	NPO 国際社会貢献センター賛助会員、活動会員
2001.11 ~	NPO 翁林国際交流基金理事
2003. 4 ~	福岡県中小企業振興センター 国際取引特定相談員
2003. 4 ~	中国社会科学院 中日経済研究センター特別高級研究員
2005.10 ~ 2006. 3	海外高度人材活用方策策定審査委員会委員長 (九州経済産業局)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 渦原 実男 (3109)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) VTRの活用	2003.4 ~ 2007.11	「授業科目:商学総論」講義をVTRやマルチメディアを活用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) VTRの活用	2003.4 ~ 2007.11	「授業科目:外書講読Ⅰ・Ⅱ」講義をVTRやマルチメディアを活用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) VTRの活用	2003.4 ~ 2007.11	(授業科目:演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ)講義をVTRやマルチメディアを活用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003.4 ~ 2007.11	「授業科目:商学総論」メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003.4 ~ 2007.11	「授業科目:演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ」メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003.4 ~ 2007.11	「授業科目:商学総論」教科書で重要な専門用語を示したプリントを作成配布し、理解度チェックのため活用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学公開講座における講演	2005.10.21 ~ 2006.3.3	中小企業経営者を対象とする公開講座「ビジネスの今がわかる」で、第2回「今日の流通とマーケティング」を講演した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学公開講座における講演	2007.9 ~ 2007.12	一般市民を対象とする公開講座「生活とビジネス」で、第2回「生活者志向のマーケティングと流通革新」を講演した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
日米流通業のマーケティング革新	単著	2007.4	同文館出版	渦原実男	267
マーケティングと小売商業	共著	2008.9	五紘舎	渦原実男 那須幸雄 安部文彦 岩永忠康	59~77
「マーケティング」と「空き店舗問題」	分担執筆	2006.6	学文社:経営教育事典	日本経営教育学会編	2

流通と消費者	分担	2008. 4	慶応義塾大学出版会:流通と消費者	岩永忠康 佐々木保幸	1~18
--------	----	---------	------------------	------------	------

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
商店街の再生とコミュニティ・ビジネス	2004. 7	西南学院大学論集:第51巻第1号	105~135
米国での小売業態革新の研究	2006. 9	西南学院大学論集:第53巻第2号	61~92
ウォルマートの経営戦略転換とマーケティング	2008.12	西南学院大学論集:第55巻第2・3号	89~114

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
小売の国際化、国際比較研究の動向と課題	単著	2004.11	日本流通学会:流通No.17		54~60
小売企業の環境経営とグリーン・マーケティング課題(査読)	単著	2005. 3	日本消費経済学会:日本消費経済学会年報第26集		213~219
小売業の国際マーケティングと消費者適応	単著	2005.10	慶應義塾大学出版会:流通・マーケティング	渡辺好章	153~171
小売の国際マーケティング研究(査読)	単著	2006. 4	日本消費経済学会:日本消費経済学会 年報(2005年度)第27集	渦原実男	133~140
小売のマーケティングイノベーションの研究	単著	2006. 4	日本流通学会:日本流通学会 年報(2005年度)第18号	渦原実男	72~79
消費者との連携による小売業の社会的責任活動	単著	2006. 9	日本消費者教育学会:消費者教育第26冊	渦原実男	65~75
トイザラスの日米小売マーケティング比較研究	単著	2006.10	日本流通学会:日本流通学会 年報(2006年度)第19号	渦原実男	29~38
流通のグローバル化の課題(査読)	単著	2007. 4	日本消費経済学会:日本消費経済学会年報(2006年度)第28集	渦原実男	151~157
日米の小売マーケティング・イノベーション研究(査読)	単著	2008. 3	日本消費経済学会:日本消費経済学会年報(2007年度)第29集	渦原実男	89~96

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.13	小売企業の環境経営とグリーンマーケティング課題	日本消費経済学会第29回全国大会
2004. 6.19	小売業のソーシャル・マーケティングの現状と課題	日本消費者教育学会九州支部会
2004. 9.25	小売のマーケティングイノベーションの研究	日本消費経済学会九州部会
2004.10.10	小売業のソーシャル・マーケティングの現状と課題—地域小売業とイオンの社会的責任活動事例を中心に—	第24回日本消費者教育学会
2004.10.30	小売のマーケティングイノベーションの研究	日本流通学会第18回全国大会
2004.12. 5	小売の国際マーケティング研究	日本消費経済学会西日本大会
2005. 3.28	トイザラスの日米小売マーケティングの比較研究	日本消費経済学会九州部会

2005. 6.18	米国での消費市場環境の変化と小売業の対応	日本消費者教育学会九州部会
2005.10. 9	小売の国際マーケティング研究	日本消費経済学会
2005.10.22	トイザラスの日米小売マーケティング比較研究	日本流通学会
2006. 4.22	流通のグローバル化の課題	日本消費経済学会九州部会
2006. 5.21	流通のグローバル化の課題 ー共通化と多様化の相克ー	日本消費経済学会第31回全国大会
2006.10.15	米国での消費市場環境の変化と小売業の対応	日本消費者教育学会第26回全国大会
2006.12.10	日米の小売のマーケティング・イノベーション研究	日本消費経済学会西日本大会
2007. 5	日米の小売のマーケティング・イノベーション研究	日本消費経済学会第32回全国大会
2007.12. 9	米国ウォルマート社のCSR経営課題	日本消費経済学会西日本大会
2008. 6. 7	顧客との価値共創マーケティングと消費者政策	日本消費者教育学会 九州部会
2008. 6.28	ウォルマートの小売マーケティングと経営課題	日本産業科学学会 九州部会
2008. 8. 9	総合小売業のプライベート・ブランド戦略	日本消費経済学会 九州部会
2008.10.12	顧客との価値共創マーケティングと消費者政策	日本消費者教育学会第28回全国大会
2008.10.26	イオンのマーケティングと経営課題	日本流通学会第22回全国大会
2008.12.13	ウォルマートの経営戦略転換とマーケティング	日本消費経済学会 西日本大会

社会活動

期間	活動内容
1997. 7 ~	福岡市環境審議会委員
2002. 8 ~ 2006. 3	NPO 九州総合研究所研究員
2003. 4 ~	NPO コンシューマー福岡副会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 福田 晴仁 (3131)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(関西大学)	2004.10.1 ~ 2005.3.31	『授業科目:実践経営英書』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(大阪経済大学)	2005.4.1 ~ 2008.9.30	『授業科目:公益企業論』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(関西大学)	2007.4.1 ~ 2007.9.30	『授業科目:経営英書入門』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(立命館大学)	2007.10.1 ~ 2008.3.31	『授業科目:公益企業論』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(関西大学)	2007.10.1 ~ 2008.3.31	『授業科目:実践経営英書』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(西南学院大学)	2008.4.1 ~ 2008.9.30	『授業科目:ロジスティクス論』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価(西南学院大学)	2008.4.1 ~ 2008.9.30	『授業科目:外書講読Ⅰ』 1回の講義の最後20分間を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2005.12.6 ~	『授業科目:公益企業論』 専門科目「公益企業論」についての教科書の出版を行なった。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容に関連するプリントの配布	2008.4.1 ~ 2008.9.30	『授業科目:ロジスティクス論』 講義内容に関連するプリントを作成し、随時配布を行なった。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ルーラル地域の公共交通—持続的維持方策の検討—	単著	2005.12	白桃書房		236

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
地方鉄道における貨物輸送の意義	2009. 6	西南学院大学論集: 第56巻第1号	61-76

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
物流政策における臨海鉄道の意義(査読)	単著	2006. 9	大阪経大会: 大阪経大論集57巻3号		53~75
臨海鉄道の現状と経営課題—専用鉄道の活用による維持方策の検討—(査読)	単著	2006.12	ジェイアール貨物・リサーチセンター: 第7回鉄道貨物振興奨励賞受賞論文集		127~136
地方鉄道を調べると貨物輸送との関係が見えてきた	単著	2007. 5	ジェイアール貨物・リサーチセンター: JR貨物ニュース177号		3
専用線維持費に公的支援を	単著	2007. 6	ジェイアール貨物・リサーチセンター: JR貨物ニュース179号		3
ゼロイン貨物駅—神栖駅	単著	2007. 9	ジェイアール貨物・リサーチセンター: JR貨物ニュース186号		3
ゼロイン専用線—奥野谷浜駅に接続する専用線	単著	2007.10	ジェイアール貨物・リサーチセンター: JR貨物ニュース188号		3
観光における鋼索鉄道の意義(査読)	単著	2008. 1	公益事業学会: 公益事業研究59巻4号		23~32
ゼロイン専用線ルポ—王子製紙米子工場と伯耆大山駅	単著	2008. 4	ジェイアール貨物・リサーチセンター: JR貨物ニュース200号		3
Significance of Freight Transport in Regional Railways (査読)	単著	2009. 3	東日本鉄道文化財団: Japan Railway & Transport ReviewNo. 52		16~23
大都市近郊の海外離島における航路の現状—福岡県の事例(査読)	単著	2009. 5	運輸調査局: 運輸と経済69巻5号		42~52

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 7. 7	ルーラル地域の公共交通	日本交通学会関西部会
2007. 4.27	観光における鋼索鉄道の意義	公益事業学会関西部会
2007. 6. 9 ~ 2007. 6.10	観光における鋼索鉄道の意義	公益事業学会
2009. 7.11	我が国の民営貨物鉄道の現状	日本物流学会九州部会・日本港湾経済学会九州部会合同部会 2009年度第1回研究会

社会活動

期間	活動内容
2008. 7. 1 ~ 2009. 6.30	西南学院大学衛生委員会委員
2008. 7. 1 ~ 2009. 6.30	西南学院大学教員組合委員

2009. 7. 1 ~ 2010. 6.30

西南学院大学教員組合委員

2009. 7. 1 ~ 2010. 6.30

西南学院大学学生相談室運営委員

2009. 7.11 ~

日本物流学会九州支部副支部長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 西田 顕生 (3132)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2003. 4 ~	『授業科目:証券論』 パワーポイントを活用した講義を行い、受講者の理解力向上に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義資料の学内ホームページへの掲示	2004. 4 ~	『授業科目:証券論』 講義内容を示したプリントを学内ホームページに掲示し、学生の利便性向上に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学外授業の実施や他大学ゼミとの交流会の実施	2004. 4 ~	『授業科目:演習 I・II』 実務家や他大学などの学生との交流を図ることで受講生の学習意欲の向上に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2003. 4 ~	『授業科目:証券論』 講義内容を示したプリントを作成し、配布を行っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
九州産業読本	分担執筆	2007. 3	西日本新聞社	財団法人九州経済調査協会 編	234~247
『地域浮沈の分水嶺—拡大する地域格差と九州経済』 (2008年版九州経済白書)	分担執筆	2008. 2	財団法人九州経済調査協会	財団法人九州経済調査協会 編	109~130

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「制度融資の現状と課題」	単著	2005. 3	北九州産業社会研究所:「中小企業の自立化」に関する調査研究報告書	西田顕生	88~106
「肥後銀行—資産の健全性と安定した財務基盤」	単著	2005.11	金融ジャーナル社:『金融ジャーナル』第46巻第11号	西田顕生	33~41
「鹿児島銀行—格付けは全国地銀でトップクラス」	単著	2005.12	金融ジャーナル社:『金融ジャーナル』第46巻第12号	西田顕生	31~39
「北九州地域における中小企業金融の実態—ミスマッチの実態と解消の方途」	単著	2006. 3	北九州産業社会研究所:北九州地域における中小企業金融の現状と今後の課題	西田顕生	5~26
「十八銀行—地域経済再生に全力投球」	単著	2006. 9	金融ジャーナル社:『金融ジャーナル』第47巻第9号	西田顕生	39~46
「大分銀行—地元での貸出金強化が課題」	単著	2006.10	金融ジャーナル社:『金融ジャーナル』第47巻第10号	西田顕生	31~38

「北九州地域の中小企業金融の現状と企業の意識－アンケート調査の結果を中心に」	単著	2006.12	信金中央金庫:『信金中金月報』第5巻第14号	西田顕生	4～29
「沖縄県の金融市場の現状と新たな展開」	単著	2006.12	財団法人九州経済調査協会:『九州経済調査月報』第60巻第12号	西田顕生	3～13
「佐賀銀行－収益源の多様化が急務」	単著	2007.11	金融ジャーナル社:『金融ジャーナル』第48巻第11号	西田顕生	37～42
「宮崎銀行－地元の事業再生に積極対応」	単著	2007.12	金融ジャーナル社:『金融ジャーナル』第48巻第12号	西田顕生	39～44
日本九州地域の地域金融の現状と課題	単著	2008. 9	東アジア学会:東アジア研究第10号		49～51
「南九州のアグリクラスター」	単著	2009. 8	財団法人日本地域開発センター:『地域開発』第539号	西田顕生	7～10

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.12. 4	地域金融機関におけるリレーションシップバンキングの現状と課題	日本金融学会西日本部会
2006. 4.30	「北九州地域の企業金融の現状と企業の意識」	日本金融学会2006年度春季大会
2006.12. 2	「北九州地域の中小企業金融の現状と企業の意識」	東アジア学会

社会活動

期間	活動内容
2008. 4 ～	北九州市中小企業融資制度検討委員会 委員
2008. 4 ～	沖縄振興開発金融公庫政策評価業務検討委員会 委員
2008. 4 ～	(財)九州経済調査協会 客員研究員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 高橋 聡 (3133)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義のサポート	2003. 4 ~	『授業科目:簿記原理Ⅰ』 学生が講義時間中に理解できなかったところをメールやオフィスアワー等で受け付け、解説をすることで、学生の理解促進をはかるとともに、検定試験等に合格する学生が増えるよう、資格試験に必要なスキルを講義内で反映させるように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義のサポート	2003. 4 ~	『授業科目:財務諸表論』 学生が講義時間中に理解できなかったところをメールやオフィスアワー等で受け付け、解説をすることで、学生の理解促進をはかるとともに、制度設計の裏に隠れる会計理論の大きな流れを意識させる講義をするように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義のサポート	2003. 4 ~	『授業科目:演習』 学生が講義時間中に理解できなかったところをメールやオフィスアワー等で受け付け、解説をすることで、学生の理解促進をはかるとともに、制度設計の裏に隠れる会計理論の大きな流れを意識させることを通じて、会計に対する一定の見方を養える講義をするように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義のサポート	2005. 4 ~	『授業科目:卒論指導』 学生が卒業論文を作成する際に、その内容を十分に理解しないで論述していると思われる表記について、必要な参考資料を呈示するだけでなく、論文作成で必要な推敲の仕方等の指導を個別に行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容に関するレジュメの作成	2003. 4 ~	『授業科目:簿記原理Ⅰ』 その講義の際に重要と思われる箇所に焦点を当てたレジュメを練習問題とともに作成し、配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容に関するミニテストの作成	2003. 4 ~	『授業科目:簿記原理Ⅰ』 講義内容を理解できたかを確認するミニテストを作成し、配布するとともに、間違った箇所についての解説・復習すべき箇所の指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容に関するレジュメの作成	2003. 4 ~	『授業科目:財務諸表論』 その講義の際に重要と思われる箇所に焦点をあてたレジュメ・資料を作成し、配布している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 演習講義時間外活動の充実	2003. 4 ~	『授業科目:演習』 他学年・社会人を含めた合宿や課外活動を通じ、学生の活動範囲を広げるよう努めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 他大学との研究交流会の実施	2004. 4 ~	『授業科目:演習』 他大学の学生と研究に関する交流会を実施し、学生の活動範囲を広げるよう努めている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ブランド資産の会計—認識・評価・報告	分担	2004. 6	東洋経済新報社	古賀智敏監 訳	第5章～第7章

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
無形財の開示に関する事例研究	2004. 9	西南学院大学論集: 第51巻第2号	89～114
無形財の会計的側面	2005. 6	西南学院大学論集: 第52巻第1号	125～138
資産の評価概念と無形財の価値評価	2005. 9	西南学院大学論集: 第52巻第2号	137～154
リース会計基準改正とセール・アンド・リースバック取引	2008. 3	西南学院大学論集: 第54巻第4号	95～118
リース会計基準改正とニューアプローチ	2008. 6	西南学院大学論集: 第55巻第1号	151～186
無形財会計のゆくえ	2009. 3	西南学院大学論集: 第55巻第4号	305～328

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
知的資本の会計的側面(1)		2005. 3	中央経済社: 企業会計Vol.57No.3		78～80
知的資本の会計的側面(2・完)		2005. 4	中央経済社: 企業会計Vol.57No.4		78～80
引当金・偶発債務・偶発試算および後発事象の会計		2005.11	同文館: 国際会計基準と日本の会計実務—比較分析／仕分・計算例／決算整理—[新版]第12章&1・&2	神戸大学IFRSプロジェクト・あずさ監査法人IFRSプロジェクト編	250～279
無形資産会計		2006. 3	創成社: 会計利益計算の構造と論理第13章	上野清貴編	236～250
知的資産報告の可能性		2006.12	森山書店: 會計第170巻第6号		103～118
知識創造化社会における無形財の認識・測定と開示の方向性		2009. 4	中央経済社: 財務会計のイノベーション—公正価値・無形資産・会計の国際化による知の創造—第9章	古賀智敏編	145～165
日本のリース会計基準の分析—レシーの会計—		2009. 8	税務経理協会: リース会計基準の論理第2章	佐藤信彦・角ヶ谷典幸編	31～62
セール・アンド・リースバックの会計		2009. 8	税務経理協会: リース会計基準の論理第8章	佐藤信彦・角ヶ谷典幸編	193～215

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 9	会計利益計算の構造と論理に関する総合研究	日本会計研究学会

社会活動

期間	活動内容
2005. 4. 1 ～ 2007. 3. 31	大学入試センター試験 教科科目第1委員会委員
2007. 4. 1 ～ 2008. 3. 31	大学入試センター試験 教科科目第1委員会臨時委員
2007.10.26	「コーポレート・ガバナンスとアカウントビリティ」(公開講座『生活とビジネス』第5回担当)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 高野 学 (3134)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 説明方法(大教室での講義)	2006. 4 ~	大教室での講義(科目名:工業簿記論、原価会計論)では、毎回レジュメを配付することによって板書の時間を削減し、レジュメの内容を補足する場合に板書を行っている。また、科目の性質上、説明だけでは理解が不十分であるため、練習問題を解くことによって学生の理解の定着を図っている。この練習問題については、学生に黒板を使って解答してもらい、その後、教員が解説を行っている。これにより、教員は学生の理解度を把握することができるとともに、学生は緊張感を持って問題に取り組むことができる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 説明方法(少人数の講義)	2006. 9 ~	少人数の講義(主に演習)では、テキスト、新聞記事を使った報告・討論の形式で行っている。ここでは、3人一組の班を作り、班ごとに報告を行い、その後の討論も班ごとに質問を考えて質疑応答を行っている。班ごとに活動することで、チームワークの大切さ、コミュニケーションの難しさ、そして自分の考えとは異なる視野の広い考え方が共有できることを学生に実感してもらう狙いがある。また、授業外における取り組みとしては、工場見学に行き、普段学習していることが企業の実務においてどのように用いられているのかを実際に確認してもらっている。さらに、就職活動を終えた4年生を招き、就職活動を控えた3年生に対して就職活動の心構え、準備、面接での質問事項等の就職体験談を話してもらう機会を設けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価とその結果の活用	2006. 9 ~	講義の改善については、学生による授業評価アンケートを必ず実施し、これを活用している。特に授業評価に対する自由記述欄は、学生からの具体的な改善事項が示されているので、これを参考にして講義の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施	2006.11 ~	工業簿記論、原価会計論では、授業中に行う練習問題についての理解度を確認するため、また学期末の試験対策として、小テストを実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教材	2006. 4 ~	大教室の授業では、毎回の講義につきレジュメを作成しており、そのレジュメの中には説明だけではなく、練習問題も毎回3~5題入れている。 少人数の講義では、講義の狙いや方向性を示すために主に最初の講義用にレジュメを作成している。また、講義の中で資料の収集の仕方を説明する場合は、パソコンを用いて図書館の学術ポータルにアクセスし、具体的な資料の収集方法を指導している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座	2007.11. 2 ~	2007年度後期 商学部公開講座(於:西南コミュニティセンター)において「物の値段と原価の関係」というテーマで講義を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
第16章 「ABC/ABMと原価管理」	分担執筆	2005. 2	ミネルヴァ書房:企業会計の構造と変貌	成田修身編著	231~242
第6章 「利益管理」	分担執筆	2007. 5	中央経済社:ベーシック管理会計	西村明・大下丈平編著	83~95

第2部テレコム企業の現状と課題 第8章「KDDIの経営分析－NTTの対抗軸をめざして」、第9章「ソフトバンクの経営分析－総合テレコム企業への転換」	分担執筆	2007. 7	唯学書房:日本のリーディングカンパニーを分析する No.4 流通/テレコム	野中郁江・井上照幸編著	第8章 201～231 第9章 233～262
第2章 「財務情報分析」	分担執筆	2008. 5	税務経理協会:管理会計レクチャー〔基礎編〕	門田安弘編著	17 ～ 32

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「総合通信事業者へと変貌したソフトバンクの経営分析」	2006. 9	西南学院大学論集:第53巻第2号	93～120
「総合通信事業者3社の経営分析」	2007. 2	西南学院大学論集:第53巻第3・4合併号	287～324
電気通信事業におけるユニバーサル・サービス基金制度－基金の算定方法を中心として－	2007. 9	西南学院大学論集:第54巻第2号	165～192
「原価計算基準」における価格計算目的の意義	2009. 2	西南学院大学論集:第55巻第4号	329 ～ 352

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
電電公社時代の料金規制	単著	2005. 2	明治大学大学院:商学研究論集(明治大学大学院商学研究科)第22号		119～138
電気通信の料金設定における原価概念の弾力性	単著	2005. 9	会計理論学会:会計理論学会年報第19号		64～71
電気通信の料金規制と原価計算の役割	単著	2006. 3	明治大学大学院:明治大学大学院博士論文		
学会ルポ 日本会計研究学会第78回九州・沖縄部会		2006.11	中央経済社:企業会計Vol.58 No.11		57
電気通信事業におけるユニバーサル・サービス基金の算定方法とその課題	単著	2008.10	会計理論学会:会計理論学会年報第22号		63～72

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6	長期増分費用方式に関わる問題点	公益事業学会 第54回全国大会
2004.10	電気通信の料金設定における原価概念の弾力性	会計理論学会 第19回全国大会
2006. 7.22	電気通信の料金規制にみる原価の弾力性－公正報酬率規制と長期増分費用方式を中心として－	日本管理会計学会 九州部会
2006.12.23	「電気通信事業のABC」	門田経営会計研究所研究会
2007. 1.27	「総合通信事業者へと変貌したソフトバンクの経営分析」	大分会計学研究会
2007.10.21	電気通信事業におけるユニバーサル・サービス基金の算定方法とその課題	会計理論学会 第22回全国大会
2009. 4	「原価計算基準」における価格計算目的の意義	日本管理会計学会 九州部会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 講師	氏名 福島 一矩 (3141)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用およびWeb上での資料公開	2009. 4 ~	担当科目「管理会計論」においてパワーポイントを用いて講義を行った。また、資料はWebサイトよりダウンロードができるようにした。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の主体的学習	2009. 4 ~	担当科目「管理会計論」において、インターネットを用いて企業情報を収集させ、その分析を行うなど、学生の主体的な学習を促進した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日本企業における標準原価計算の歴史的展開:実態調査の文献サーベイに基づく考察	2009. 6	西南学院大学論集:第56巻第1号	77-97頁

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
日本企業の管理会計実態(3):実態調査研究の文献サーベイを中心として(査読)	共著	2009. 4	慶應義塾大学商学会:三田商学研究第52巻第1号	吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好	25-35頁
業績評価の納得性に関する概念的フレームワーク(査読)	単著	2009. 4	経営行動科学学会:経営行動科学第22巻第1号	福島一矩	13-20頁
日本企業における管理会計(1):実態調査研究の文献サーベイを中心に	共著	2009. 9	中央経済社:企業会計第61巻第9号	吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好	79-83頁
日本企業における管理会計(2):製造業の実態調査	共著	2009.10	中央経済社:企業会計第61巻第10号	吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好	134-140頁
わが国管理会計の書誌学的研究:1980-2007	共著	2009.10	産業経理協会:産業経理第69巻第3号	吉田栄介・近藤隆史・福島一矩・妹尾剛好	70-81頁
日本企業における管理会計(3):製造業の実態調査	共著	2009.11	中央経済社:企業会計第61巻第11号	吉田栄介・福島一矩・妹尾剛好	130-136頁

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2009. 5.23	わが国製造業における管理会計の実態調査	慶應義塾大学大学院高度化推進研究費助成金研究プロジェクト報告会

2009. 7.11	日本的管理会計の原理に関する実証分析	日本組織会計学会研究会
2009. 9. 6 ~ 2009. 9. 7	日本企業におけるコストマネジメント手法の利用に関する実証分析	日本原価計算研究学会
2009.10.17	我が国管理会計研究論文におけるフィールドスタディの方法論上の特徴と諸問題	神戸大学管理会計研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 藤岡 豊 (3201)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ケース・メソッドによる経営教育	2003.12.22 ~	『授業科目:演習Ⅰ』 ケース・メソッドを用いて、経営学における理論と現実の橋渡しを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎回の出席確認	2004. 3 ~ 2004. 9	『授業科目:国際経営論・基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅲ・外書購読Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ』 受講者の出席を毎回確認して、学習態度を正確に把握し、適正な成績評価に結びつけている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2004. 3 ~ 2004. 9	『授業科目:経営学総論』 パワーポイントを使用して、工夫を凝らしながら講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施と模範解答の配布	2004. 4 ~ 2004. 9	『授業科目:外書購読Ⅰ』 受講生に毎回小テストを課して、その累積点により成績を評価している。採点した小テストは翌週の授業の冒頭で模範解答とともに返却して、受講生の復習に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールと面談による個別指導	2004. 4 ~ 2005. 3	『授業科目:演習Ⅱ・演習Ⅲ』 演習Ⅱでは進級論文、演習Ⅲでは卒業論文の作成を指導している。その過程で、メールと面談による個別指導を行って、通常の講義では徹底できなかった点について補足している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールと面談による個別指導	2005. 4 ~ 2006. 3	『授業科目:演習Ⅱ・演習Ⅲ』 演習Ⅱでは進級論文、演習Ⅲでは卒業論文の作成を指導している。その過程で、メールと面談による個別指導を行って、通常の講義では徹底できなかった点について補足している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒業論文集の作成	2005. 4 ~ 2006. 3	『授業科目:卒業論文』 受講生の卒業論文を「卒業論文集」として製本し、全員に配布してお互いの研究成果を共有している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005.10 ~ 2005. 3	『授業科目:国際経営論・演習Ⅰ・演習Ⅲ・基礎演習Ⅲ』 最終講義の最後15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎回の出席確認	2005.10 ~ 2006. 3	『授業科目:国際経営論・基礎演習Ⅱ・演習Ⅰ・演習Ⅲ』 受講者の出席を毎回確認して、学習態度を正確に把握し、適正な成績評価に結びつけている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005.10 ~ 2006. 3	『授業科目:経営学総論』 パワーポイントを使用して、工夫を凝らしながら講義を行っている。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～2006.9	『授業科目:基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅲ・外書講読Ⅰ』 最終講義の最後15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2006.4～2006.9	『授業科目:国際経営史・経営学総論』 パワーポイントを使用して、工夫を凝らしながら講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施と模範解答の配布	2006.4～2006.9	『授業科目:外書講読Ⅰ』 受講生に毎回小テストを課して、その累積点により成績を評価している。採点した小テストは翌週の授業の冒頭で模範解答とともに返却して、受講生の復習に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎回の出席確認	2006.4～2007.3	『授業科目:国際経営論・国際経営史・基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ・基礎演習Ⅲ・外書講読Ⅰ・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ』 受講者の出席を毎回確認して、学習態度を正確に把握し、適正な成績評価に結びつけている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒業論文集の作成	2006.4～2007.3	『授業科目:卒業論文』 受講生の卒業論文を「卒業論文集」として製本し、全員に配布してお互いの研究成果を共有している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.10～2007.3	『授業科目:国際経営論・基礎演習Ⅱ・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ』 最終講義の最後15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ケース・メソッドによる経営教育	2006.12.18～	『授業科目:演習Ⅰ』 ケース・メソッドを用いて、経営学における理論と現実の橋渡しを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～2007.9	『授業科目:国際経営史・基礎演習Ⅰ・外書講読Ⅰ』 最終講義の最後15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2007.4～2007.9	『授業科目:国際経営史・経営学総論・経営学基礎研究』 パワーポイントを使用して、工夫を凝らしながら講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施と模範解答の配布	2007.4～2007.9	『授業科目:外書講読Ⅰ』 受講生に毎回小テストを課して、その累積点により成績を評価している。採点した小テストは翌週の授業の冒頭で模範解答とともに返却して、受講生の復習に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎回の出席確認	2007.4～2008.3	『授業科目:国際経営論・国際経営史・基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ・外書講読Ⅰ・外書講読Ⅱ・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ・国際経営論特殊講義』 受講者の出席を毎回確認して、学習態度を正確に把握し、適正な成績評価に結びつけている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールと面談による個別指導	2007.4～2008.3	『授業科目:演習Ⅱ・演習Ⅲ』 演習Ⅱでは進級論文、演習Ⅲでは卒業論文の作成を指導している。その過程で、メールと面談による個別指導を行って、通常の講義では徹底できなかった点について補足している。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒業論文集の作成	2007. 4 ~ 2008. 3	『授業科目:卒業論文』 受講生の卒業論文を「卒業論文集」として製本し、全員に配布してお互いの研究成果を共有している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ケース・メソッドによる経営教育	2007. 6.18 ~ 2007. 7. 2	『授業科目:基礎演習Ⅰ』 ケース・メソッドを用いて、経営学における理論と現実の橋渡しを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.10 ~ 2008. 3	『授業科目:国際経営論・基礎演習Ⅱ・外書購読Ⅱ・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ』 最終講義の最後15分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施と模範解答の配布	2007.10 ~ 2008. 3	『授業科目:外書購読Ⅱ』 受講生に毎回小テストを課して、その累積点により成績を評価している。採点した小テストは翌週の授業の冒頭で模範解答とともに返却して、受講生の復習に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ケース・メソッドによる経営教育	2008. 1. 7 ~	『授業科目:基礎演習Ⅱ』 ケース・メソッドを用いて、経営学における理論と現実の橋渡しを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ケース・メソッドによる経営教育	2008. 1.21 ~	『授業科目:演習Ⅰ』 ケース・メソッドを用いて、経営学における理論と現実の橋渡しを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2004. 4. 1 ~	『授業科目:経営学総論』 『経営学総論[新版]』(権歌書房)を経営学科の教員全員で執筆・出版して、受講生の学習に役立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用スライドのウェブサイトでの公開	2006. 4 ~ 2006. 9	『授業科目:国際経営史・経営学総論』 講義で使用するスライドを筆者のウェブサイトで公開して、受講生の予習と復習に役立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用スライドのウェブサイトでの公開	2007. 4 ~ 2007. 9	『授業科目:国際経営史・経営学総論』 講義で使用するスライドを筆者のウェブサイトで公開して、受講生の予習と復習に役立てている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゲスト・スピーカーの招聘	2003. 6.11 ~	『授業科目:国際経営論』 国際経営の経験をもつ社会人を講義に招聘して、受講生に国際経営の実践的な知識を提供している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゲスト・スピーカーの招聘	2003.12.17 ~	『授業科目:国際経営論』 国際経営の経験をもつ社会人を講義に招聘して、受講生に国際経営の実践的な知識を提供している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ研修合宿の実施	2004. 7.17 ~ 2004. 7.18	『授業科目:演習Ⅱ・演習Ⅲ』 演習Ⅱと演習Ⅲの受講者全員でゼミ研修合宿を阿蘇の司ピラパークホテルで行っている。演習Ⅱの受講者が半年間の研究成果をパワーポイントを使って報告し、演習Ⅲの受講者がそのコメントを担当する。演習Ⅱの受講者による自らの研究の反省狙っている。

4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゲスト・スピーカーの招聘	2005.12. 6 ~	『授業科目:国際経営論』 国際経営の経験をもつ社会人を講義に招聘して、受講生に国際経営の実践的な知識を提供している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ研修旅行の実施	2006. 2.25 ~ 2006. 2.28	『授業科目:演習Ⅲ』 演習Ⅲの有志で台湾へのゼミ研修旅行合宿を行っている。台湾市内の観光とともに日系多国籍企業の台湾工場を見学して外国に関する理解を深めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ研修合宿の実施	2007. 2.19 ~ 2007. 2.20	『授業科目:演習Ⅰ・演習Ⅱ』 演習Ⅰと演習Ⅱの受講者全員でゼミ研修合宿を志賀島休暇村で行っている。演習Ⅱの受講者が1年間の研究成果をパワーポイントを使って報告し、演習Ⅰの受講者がそのコメントを担当する。演習Ⅱの受講者による自らの研究の反省と、演習Ⅰの受講者による自らの研究の構想を狙っている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ研修旅行の実施	2007. 2.25 ~ 2007. 2.27	『授業科目:演習演習Ⅰ・演習Ⅱ・Ⅲ』 演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲの有志で中国・上海へのゼミ研修旅行合宿を行っている。上海市内の各種施設を見学して外国に関する理解を深めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ研究発表会の実施	2008. 2.16 ~	『授業科目:演習Ⅰ・演習Ⅱ』 演習Ⅰと演習Ⅱの受講者全員でゼミ研究発表会を行っている。演習Ⅱの受講者が1年間の研究成果をパワーポイントを使って報告し、演習Ⅰの受講者がそのコメントを担当する。演習Ⅱの受講者による自らの研究の反省と、演習Ⅰの受講者による自らの研究の構想を狙っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
第6章 国際経営	分担執筆	2004. 4	権歌書房:経営学総論[新版]	西南学院大学商学部経営 学科協議会	75~93
ESSAY6 ケース・リーダーとして学んだこと	分担執筆	2007. 3	慶應義塾大学出版会:ケース・ブックⅠ ケース・メソッド 入門-	石田英夫・星野裕志・大 久保隆弘	26~27

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
多国籍企業の国際研究開発の現状—市場志向から技術志向へ—	2005. 2	西南学院大学論集:第51巻第3・4合併号	145~187
多国籍企業の国際研究開発の新たな分析視角—要因・目的・効果の観点から—	2005. 6	西南学院大学論集:第52巻第1号	59~98
国際研究開発マネジメントの動態的理解—海外研究所の進化に即して—	2005. 9	西南学院大学論集:第52巻第2号	67~100
国際研究開発の構造類型—準トランスナショナル組織の構築—	2006. 2	西南学院大学論集:第52巻第4号	123~158
技術の逆移転の3つの要因—技術特性・組織特性・統合メカニズム—	2007. 9	西南学院大学論集:第54巻第2号	1~48

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 9.27	レノボによるIBM(PC事業部門)の買収	ケース・メソッド研究会
2008.10.23	キューバ・ミサイル危機	ケース・メソッド研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 小島 平夫 (3202)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 自身のウェブサイト(日本語版, 英語版)の活用	1998. 9. 1 ~	授業科目:経営学総論;ビジネス情報技術入門、ビジネス情報技術演習 I;経営統計学;日本の企業経営 B(留学生別科授業)。自身のウェブサイトに講義ノートや実習課題を掲載し、課題ではダウンロード可能な自作 Excel ファイルや財務省ウェブサイトのデータベース等にリンクを張るなど、工夫を凝らして講義や実習を行う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4. 1 ~	授業科目:経営統計学、ビジネス情報技術入門、ビジネス情報技術演習 I。指定された期間内に、講義の20分を使って授業評価を実施し、その結果を反映させた講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2003. 4. 1 ~	授業科目:経営学総論。「経営統計」のテーマでパワーポイントを利用した講義。スライドの随所でウェブサイトへリンクを張って、最新の企業経営の様子を表示する工夫をしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) CDの活用	2003. 4. 1 ~	授業科目:基礎演習 I, II, III;外書講読 I;演習 I, II。企業経営の基礎及び実践的ビジネス英語を教授すべく、CDによりビジネス英語ヒアリング訓練を行う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) e-Learning システム(WebCTおよびMoodle)の活用	2005. 4. 1 ~	授業科目:ビジネス情報技術入門。WebCTおよびMoodleを活用し、情報倫理、ビジネス情報技術(Word, Excel, PowerPoint等)の講義、実習指導を行う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大規模データベースの活用	2006. 9. 1 ~	授業科目:演習 II, III。ゼミ生は、大学図書館内で利用可能なデータベース「日経 NEEDS-FinancialQUEST」から企業の財務データをExcel形式でダウンロードし、Excelで「同業他社」比較を柱とした経営分析を行い、最終的にWordで卒論を作成する。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料製本	2003. 4. 1 ~	授業科目:基礎演習 I, II, III;外書講読 I。企業経営の基礎及び実践的ビジネス英語を教授すべく、「英語で学ぶMBA」の資料を製本、学生に配布し講義。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゲストスピーカーとして他大学教員、実務家の招聘	1999. 4. 1 ~	授業科目:経営統計学;ビジネス情報技術演習 I;基礎演習 II。SASによるプログラミング、貿易と国際物流、最近の損害保険市場の動向、などのテーマで実習指導、講演を学外講師に依頼。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座	2004. 5. 7 ~	西南学院大学公開講座「現代のビジネス—現状・理解・展望—」において、演題「企業財務情報の将来予測」について講演。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座	2007.12. 7 ~	西南学院大学公開講座「生活とビジネス」において、演題「ビジネス予測で生活の将来を考える」について講演。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Building a Business Time-series Forecasting System: With the Intervention Analysis of Japanese Yen Exchange Rate Behavior	2005. 2	西南学院大学論集: 第51巻第3・4合併号	35~100
What Drives U.S. Outbound Foreign Direct Investment in the Asian and Pacific Region?: Industry-Level Evidence from a Panel Data Study	2009. 3	西南学院大学論集: 第55巻第4号	1~56

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Forecasting Japanese Yen Exchange Rate Behavior with an Intervention Analysis	単著	2005. 3	日本オペレーションズ・リサーチ学会: 日本オペレーションズ・リサーチ学会2005年春季研究発表会アブストラクト集		210~211
Impulse Responses of Exchange Rate and Prices under Purchasing Power Parity: Japanese Evidence from An Extracted Inflation-Based Study	単著	2006. 7	UCLA Anderson School of Management: UCLA Anderson School - Finance Working Papers Website (http://www.anderson.ucla.edu/x5962.xml) (http://www.anderson.ucla.edu/documents/areas/fac/finance/11-06.pdf)11-06	Hirao Kojima	1~35
Do Real Exchange Rates Follow a Random Walk?: Extracted Inflation-Based Evidence from Japanese Yen	単著	2006. 7	UCLA Anderson School of Management: UCLA Anderson School - Finance Working Papers Website (http://www.anderson.ucla.edu/x5962.xml) (http://www.anderson.ucla.edu/documents/areas/fac/finance/12-06.pdf)12-06	Hirao Kojima	1~33

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.11. 6	時系列予測システムの構築: Box-Jenkins 手法の適用	日本オペレーションズ・リサーチ学会「不確実性下のモデル分析とその応用」研究部会
2005. 3.17	Forecasting Japanese Yen Exchange Rate Behavior with an Intervention Analysis	日本オペレーションズ・リサーチ学会2005年春季研究発表会

社会活動

期間	活動内容
2004. 4. 1 ~ 2006. 3.31	日本オペレーションズ・リサーチ学会九州支部副支部長
2006. 4. 1 ~ 2008. 3.31	日本オペレーションズ・リサーチ学会九州支部支部長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 野藤 忠 (3203)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容への質問と回答	2000.4～	『授業科目:演習』授業時間以外にも必要な時間をもち、授業中に質問できなかった内容などの回答に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義内容の充実化の工夫	2006.10～	『授業科目:経営史』『経営思想論』会社を訪問して取材したり、関連する書籍、雑誌、新聞、テレビ、ビデオ、DVDなどの教材を調べて関係の深い内容や情報を講義のなかに取り入れて、講義内容がいっそう充実するように工夫を凝らしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの活用	2007.4～	『授業科目:経営史』『経営思想論』授業科目の理解を深めるために講義のなかでビデオやプロジェクターを利用し、講義内容が理解しやすいように創意工夫をしている。プリントを配布したり、板書をしたりして講義内容がよく理解できるように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.12～	『授業科目:経営史』『経営思想論』最終講義の数週前の講義時間中に15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの作成	2000.4～	『授業科目:経営史』『経営思想論』講義概要を示すとともに、講義内容を豊富にするために、授業に関連するプリントを作成し、配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2000.4～	『授業科目:経営史』『経営思想論』専門科目の「経営史」と「経営思想論」についての教科書を出版し、講義に活用している。教科書として拙著『ツァイス企業家精神』(九州大学出版会)を作成している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 学生による発表	2000.4～	『授業科目:演習』学生が自ら関心をもつテーマについて調べ、他の学生の前で発表するようにし、本人はもとより集団の学習を向上させようと努めている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「モノづくり」の伝統と革新—ツァイス社	分担執筆	2005.2	有斐閣:外国経営史の基礎知識		280～281

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
エルンスト・アッペの経営構想	2004.9	西南学院大学論集:第51巻第2号	45～69
カールツァイス経営精神の継承	2005.2	西南学院大学論集:第51巻第3・4合併号	101～126
社会的使命と経営思想	2005.6	西南学院大学論集:第52巻第1号	27～57

日本におけるカールツァイス社の事業活動	2005. 9	西南学院大学論集: 第52巻第2号	43～66
日本におけるツァイスアイコンカメラの創造	2005.12	西南学院大学論集: 第52巻第3号	67～89
ツァイスアイコン経営史	2006. 2	西南学院大学論集: 第52巻第4号	29～57
イエナカールツァイス財団定款	2006. 6	西南学院大学論集: 第53巻第1号	63～115
経営史学生成の背景	2007. 2	西南学院大学論集: 第53巻第3・4合併号	125～153
20世紀初頭のカールツァイス社の経営活動	2007.12	西南学院大学論集: 第54巻第3号	43～73
経営者エルンスト・アッペの生涯	2008. 3	西南学院大学論集: 第54巻第4号	45～76
経営学創造へのアイデアとヒント	2008. 6	西南学院大学論集: 第55巻第1号	59～97
エルンスト・アッペの経営の理想への思索	2008.12	西南学院大学論集: 第55巻第2・3合併号	1～26
エルンスト・アッペの経営の理想の追求	2009. 3	西南学院大学論集: 第55巻第4号	57～90

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1996. 6 ～ 2008. 5	前原市政治倫理審査会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 佐々木 武夫 (3204)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2006.11 ~ 2007.11	「演習2」では、毎年 学内のゼミ連大会に参加し報告することを義務づけている。この際、近年パワーポイントを利用するよう指導している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2007. 4 ~ 2008. 8	大学のメールボックスには、文書による課題の指示書を送ったり、資料を送ったりしている。また、メールに添付しての課題の提出を求めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 7 ~ 2008. 8	「経営社会学」講義の最後の10分を利用して、西南学院のフォーマットに従った授業評価を実施。そのほかA4の用紙を用い、記述式の授業評価を実施して、授業の改善を進めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2000. 4 ~ 2008. 8	講義で複雑な内容の部分は、次回の講義の時に要約プリントを作り、理解の促進に取り組んでいる。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法の改善	2005. 4 ~ 2008. 8	学会参加等の行事の折、教育方法の改善についての情報交換をして、教育方法の改善に努めている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法の改善	2007. 4 ~ 2008. 8	できるだけ具体的なイメージをもってもらうため、統計等の数値やグラフ・表などを利用して、そのデータと理論との関連を理解させるよう教育方法の改善に取り組んでいる。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育かつ上特記すべき事項	2007. 3 ~ 2008. 8	隣国、とくに韓国や中国の経済や経営の変化の理解を促すため、3年次に当地へのゼミ旅行をおこない、当地の大学生と交流を持ち、比較的費用のかからない方法で現地社会見学を実施している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ポスト開発期の東アジア	共著	2006. 6	花書院	佐々木武夫 編著	210

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
グローバル・スタンダードと社会的影響—二つのファンダメンタリズムとグローカリズム—	2004. 7	西南学院大学論集: 第51巻第1号	83~103
現代グループにおける労使関係の動態—1987年から1999年にかけての変化を中心に—	2005. 2	西南学院大学論集: 第51巻第3・4合併号	259~291

ポスト開発社会のダイナミズムとディレンマ—韓国における労働法改正の過程と労働者の政治参加—	2005.12	西南学院大学論集:第52巻第3号	91~120
産業構造変動と雇用動態—北部九州における自動車産業とIC産業を事例として—	2008.3	西南学院大学論集:第54巻第4号	77~94
本田技研工業と成果主義の導入—1990年代における経営構造改革を事例として—	2009.3	西南学院大学論集:第55巻第4号	203~256

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.5.21	政治化された社会のダイナミズムとディレンマ	第63回西日本社会学会
2007.11.8	福岡(九州)地域の産業構造変化と雇用政策	韓・日 地域雇用 国際シンポジウム
2007.12.22 ~ 2007.12.23	日本的経営と成果主義	日本社会分析学会

社会活動

期間	活動内容
2006.10 ~ 2007.3	多重債務者自立支援研究事業の研究員
2007.11.9 ~	西南学院大学2007年度後期 公開講座 「生活とビジネス」 第7回「日本的経営と成果主義管理」

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 史 一華 (3205)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 演習関連の講義での補習教材の制作	2005. 4. 1 ~	近年学生の基礎学力の違いが大きな問題となっている。特に実習関連の講義では、学生の作業が遅れると、次の講義の進行に支障が起きてしまう。講義をスムーズに進行し、できるだけ多くの学生に講義の進度についていけるように、課題ごとに実習の詳細手順と説明を含んだ電子教材を作成している。これを利用すれば、遅れたり、欠席したりする学生は、自分のペースで放課後の時間で講義に追いつくことができ、また一般の学生もこれを復習や確認に利用することができる。
2 作成した教科書、教材、参考書 データベース言語のための演習システム	2000. 4. 1 ~	Webとデータベースの連携でWebブラウザ上で、簡単にデータベース言語を実行するためのe-Learningシステムを構築した。学生は、教材を参考しながら、与えられた様々な検索要求に対して検索命令を作成し、システムに送信する。システムでは、これを自動的にチェック(採点)し、検索結果、採点結果、コメント、解説例題を学生に提供する。これによって学生は何時でもどこからでもデータベース言語の学習ができるようになる。
2 作成した教科書、教材、参考書 データベース論の講義資料の電子化	2002. 4. 1 ~	データベース論の講義に関するすべての講義内容(パワーポイント資料300枚以上)と資料(数十ページ)を電子化し、講義のホームページで学生に提供し、学生の予習、復習に役立っている。また、講義の理解度をチェックするために、重要な概念を中心に自動演習のためのシステムも提供している。
2 作成した教科書、教材、参考書 SAINSO7教育コンテンツの制作	2007. 7. 1 ~ 2007.10. 1	全学の情報処理基礎教育や情報処理機器利用をスムーズに推進するために、e-Learning教材を数名の先生と一緒に制作し、全学に公開した。これからはさらに教材に演習問題などを入れて自学自習のできるコースウェアとして整備していく予定である。
2 作成した教科書、教材、参考書 ビジネス情報処理演習講義資料の電子化	2007.10 ~ 2009. 4	「ビジネス情報処理演習」の講義では、企業の現場でのデータ管理のためのIT技術を中心に、データの取得・管理、簡易システムの制作、基幹系システムとの連携など多くの実用技術を学習する。学生により自然の形でビジネスデータ管理の必要性・やり方を理解させるために、現場の実用的な課題を最新のソフト(Access2007)を使って、計画からシステムの完成までの一連のプロセスを理論と技法の二つの側面から解説するテキストを作成し、オンラインで学生に提供している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 相互評価システムの作成	2006. 2. 1 ~ 2007. 2. 1	講義では、学生の学習状況の把握や予習復習の促進には、講義内容に関する宿題(問題を答えさせる)は非常に有効な手段である。しかし、大人数講義では、それを頻繁に行うことは採点時間などの問題がある。この問題を解決するために、学生が宿題を相互評価を行うためのシステムを開発した。教員は問題、採点要求、点数配分、採点期間、採点者数などをシステムに設定すれば、学生間で相互評価が行われます。学生は評価作業を通して、評価者の側面から問題の出題のねらい、答え方、問題などへの理解を深められるように期待している。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
WEB サービス連携のためのトランザクションの隔離性について(査読)	共著	2005. 3	電子情報通信学会: DEWS2005CD-ROM	徐海燕、古川哲也、史一華	1~8

WEB サービスによる統合学習システムの拡張について	共著	2005. 3	電子情報通信学会: 信学技報Vol.104, No.703	史一華、小柳 健、十田佑介、徐 海燕	61~66
並行ワークフローにおけるデータの従属性	共著	2005. 6	電子情報通信学会: 信学技報Vol.105、No.119	徐海燕、古川哲也、史一華	63~68
Web サービスにおけるトランザクションの隔離性(査読)	共著	2005. 6	日本データベース学会: 日本データス学会 LettersVol.4, No.1	徐海燕、古川哲也、史一華	33~36
複合 Web サービスにおける並行実行の正当性(査読)	共著	2005. 7	データベースとWeb 情報システムに関するシンポジウム: DBWeb2005	徐海燕、古川 哲也、史一華	157~164
Web サービスによる e-Learning システム間の情報共有	共著	2005. 9	情報処理学会: 第4回情報科学技術フォーラムCD-ROM	小柳健、史一華、徐海燕	1~6
Web サービスによるe-Learning システム間の BBS 連携	共著	2006. 3	電子情報通信学会: 信学技報Vol.105, No.632	史一華、小柳健、徐海燕	19~24
一貫性に基づく複合Web サービスのトランザクション管理	共著	2006. 3	情報処理学会: 火の国情報シンポジウム2005CDROM	徐海燕、古川哲也、史一華	1~6
ワークフローの特徴に基づくトランザクションの正当性(査読)	共著	2006.11	データベースとWeb 情報システムに関するシンポジウム: DBWeb2006	徐海燕、古川哲也、史一華	297~304
学習履歴マイニングによる学習支援手法について	共著	2007. 3	情報処理学会: 火の国情報シンポジウム2007論文集	直江弘次、徐海燕、史一華	B-8-2
eラーニングにおける学習評価ツールの試作	共著	2007. 3	電子情報通信学会: 信学技報Vol.106, No.583	史一華、徐 海燕	53~58
プログラミング教育のための可視化ツールの開発	共著	2007. 9	電子情報通信学会: 信学技報Vol.107, No.205	史一華、徐 海燕	11~16
隔離性の分割による正当なスケジュールの検討(査読)	共著	2007.12	日本データベース学会: 日本データベース学会 LettersVol.6, No.3	徐海燕、古川哲也、史一華	pp.21-24
シラバスデータのXML化とその検証について	共著	2008. 2	情報処理学会: 火の国情報シンポジウム論文集	持田祐介、高木智美、徐海燕、史一華	B-3-2
多様な演習システムのサービス化と統合	共著	2009. 3	電子情報通信学会: 信学技報Vol.108, No.470 ET2008-93	史一華、徐海燕	1~6
SQL演習問題自動出題演習システムの開発	共著	2009. 3	情報処理学会: 火の国情報シンポジウム論文集	内田英喜、森本順一、史一華、徐海燕	C-2-1
Webモール実験システムの開発と実践	共著	2009. 3	情報処理学会: 火の国情報シンポジウム論文集	筒井亮太、木本博己、松崎大祐、徐海燕、史一華	B-4-4
一貫性と隔離性の細分による並行実行の正当性の検証(査読)	共著	2009. 3	情報処理学会: 情報処理学会論文誌データベース Vol.2, No.1	徐海燕、古川哲也、史一華	22~32

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 9.18 ~ 2007. 9.19	学習者適応型e-Learning演習システムの開発	電気関係学会九州支部連合大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 田中 謙一郎 (3206)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	『授業科目:経営科学;基礎演習Ⅲ』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006.4～	『授業科目:演習Ⅰ;演習Ⅱ;演習Ⅲ』 メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2006.4～2007.3	『授業科目:経営科学;BIT演習;BIT入門』 講義をパワーポイントとOHPを利用し、工夫を凝らして行なっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 LMS(e-learning)ソフトMoodleを用いた教材の作成	2006.4～	『授業科目:経営科学;BIT演習』 講義内容や用語集、小テスト、課題などを作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 Adobe Flash Playerを用いた教材の作成	2009.4～	『授業科目:経営科学;BIT演習』 講義資料を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 LMS(Learning Management System; e-learning)ソフトMoodleを用いた 試験問題の作成	2009.7～	『授業科目:経営科学;演習Ⅲ;演習Ⅱ』 定期試験問題を作成し、システムに採点させた。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他の教育活動上特記すべき事項	2008.5.1	近接の科目、生産管理論に出席し、毎回王先生とブリーフィングを行った。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
経営危険度の判別分析	2005.12	西南学院大学論集:第52巻第3号	121～138
経営危険度とニューラル・ネットワーク	2007.2	西南学院大学論集:第53巻第3・4合併号	191～209
「TOCとDBR」(生産マネジメント・ノート(1))	2008.12	西南学院大学論集:第55巻第2・3合併号	71～88

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 教授	氏名 吉武 春光 (3207)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットを活用した学生教育	1995.4～	『授業科目:全科目』 ホームページに講義資料を置いたり、電子メールを使って学生とのコミュニケーションを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) eビジネスに関する催し物に、ゼミとして参加	2002.10～	『授業科目:演習II』 eビジネスに関する催し物「SOHOビジネス交流会 in 福岡」の運営に、ゼミとして参加し、eビジネスを肌で感じさせた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゼミ用Webサーバの設置	2003.4～2006.3	『授業科目:演習I、演習II』 ゼミ活動としてeビジネスモデルの試行をするために、ゼミ用のWebサーバを設置した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Blogを使った授業	2004.4～2004.9	『授業科目:基礎演習』 コンテンツの更新の容易さに注目して Blog を教育目的に使用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) eラーニングシステム Moodle を使った授業	2004.10～	『授業科目:全科目』 eラーニングシステム Moodle を使った授業を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) eラーニングシステム WebCT を使った授業	2005.4～2006.3	『授業科目:ビジネス情報技術入門』 eラーニングシステム WebCT を使った授業を試行した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) eビジネスに関する催し物に、ゼミとして参加	2005.11～	『授業科目:演習II』 eビジネスに関する催し物「SOHOフェア2005」の運営に、ゼミとして参加し、eビジネスを肌で感じさせた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 在外研究先から、ゼミ生の卒論を添削、指導	2006.4～2007.3	『授業科目:演習III』 遠方からインターネットを使用した教育がどこまで可能かを探る意味で、在外研究先のオーストラリアから、eラーニングシステム Moodle を使って、ゼミ生の卒論を添削、指導した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゼミとして大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストへ参加	2009.4～	『授業科目:演習II』 九州ニュービジネス協議会が主催する「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」への参加を計画している。
2 作成した教科書、教材、参考書 学内IT教育用の教科書を作成した	1998.7～2005.4	毎年、改訂を行いながら、「SAINS入門」というタイトルの学内IT教育用の教科書を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 学内IT教育用のコンテンツを作成	2007.8～	学内GPの助成を受けて、Webサーバ上に、Wiki を使った学内IT教育用のコンテンツを作成した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
SAINS入門—2004年度版—	共著	2004. 4	ムイスリ出版	吉武春光、井手順子	190
SAINS 入門 SAINS04版	共著	2005. 4	ムイスリ出版	吉武春光、井手順子	180

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
SDRT による談話の意味記述	2007. 2	西南学院大学論集: 第53巻第3・4合併号	211～238
Prologを使ったSDRT表記の実現	2009. 3	西南学院大学論集: 第55巻第4号	257-304

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 鄭 義哲 (3231)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントやエクセルの利用	2006. 4 ~	『授業科目:財務管理論、演習 I、II』 講義を行った後、問題を出し、理解度を確認する。この際に、できる学生には前に出てもらい、解説を直接学生にしてもらうことにしている。する方もされる方も刺激になり、モチベーションアップにつながっていると思う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 7 ~	『授業科目:財務管理論、外書講読』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、次年度の授業に反映するようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義の内容をまとめたプリント作成	2006. 4. 1 ~	『授業科目:財務管理論』 講義概要を要約したレジュメと関連新聞記事を作成し、配布している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
パーソナルファイナンス入門	分担執筆	2006. 4	中央経済社:	榊原・城下・姜・砂川(編著)	143~158
知的資産ファイナンスの探求	分担執筆	2007. 1	中央経済社:	古賀・榊原・與三野(編著)	129~139

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
成長機会価値に対する研究開発投資と変動性の効果	2007. 2	西南学院大学論集:第53巻第3・4合併号	263~285
研究開発投資を巡る実証研究のレビュー	2007. 9	西南学院大学論集:第54巻第2号	143~164
研究開発投資とリスクの関係について:設備投資との比較分析	2007.12	西南学院大学論集:第54巻第3号	151~168

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
システムティック・リスクに対する成長機会の効果	単著	2004. 6	:六甲台論集(神戸大学)		
研究開発投資と株式市場の評価—日本の製造業を対象とした実証分析—	単著	2005. 3	:博士学位請求論文(神戸大学)		
R&D企業の株式パフォーマンス:異常リターンとR&Dファクター(査読)	単著	2005.10	:証券アナリストジャーナル第43巻10号	鄭義哲	98~109

研究開発投資と株式リターン(査読)	単著	2006. 4	中央経済社:経営財務研究25	鄭義哲	2~15
企業の研究開発投資と株価形成	共著	2006. 7	社団法人日本証券アナリスト協会:証券経済アナリスト ジャーナル44	榊原・與三野・鄭・古澄	48~58

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.10	研究開発投資と株式リターン	第28回日本経営財務研究学会全国大会
2005. 5	R&D企業の株式パフォーマンス:異常リターンとR&Dファクター	平成17年度第1回日本経営財務研究学会西本部会
2006. 3	Value relevance of R&D capital information: evidence from Tokyo stock exchange	29th European Accounting Association
2006.10.21	研究開発投資と株価	九州ファイナンス研究会
2006.10.25 ~ 2006.10.27	The effects of R&D investments:evidence from Japan	2ND WORKSHOP ON VISUALISING, MEASURING AND MANAGING INTANGIBLES AND INTELLECTUAL CAPITAL
2009. 2.27	長期インセンティブ制度としてのストックオプションの意義	資本政策研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 平木 真朗 (3232)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2 作成した教科書、教材、参考書 少人数授業での個人発表方法を示したプリント作成	2007. 4 ~	『授業科目：基礎演習Ⅰ』『同：基礎演習Ⅲ』 資料からの必要情報のメモ、レジメの作成、口頭発表の方法を示したプリントを作成し、配布し、説明を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2007. 4 ~	『授業科目：基礎演習Ⅰ』『同：基礎演習Ⅲ』 講義概要を示したプリントを作成し配布し説明を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 少人数授業での個人発表方法を示したプリント作成	2007. 9 ~	『授業科目：基礎演習Ⅱ』『同：演習Ⅰ』 資料からの必要情報のメモ、レジメの作成、口頭発表の方法を示したプリントを作成し、配布し、説明を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2007. 9 ~	『授業科目：基礎演習Ⅱ』『同：演習Ⅰ』 講義概要を示したプリントを作成し配布し説明を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
労使関係管理	分担執筆	2004. 6	ミネルヴァ書房：現代日本企業の経営学	田代義範	129～146

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 9. 6	電気通信事業における人員問題の展開	社会政策学会(九州部会)

社会活動

期間	活動内容
2006. 8. 3 ~ 2008. 3.31	福岡県労働基準協会連合会有期労働契約改善事業
2006. 9. 1 ~ 2006.11. 2	福岡地方最低賃金審議会専門部会委員
2007. 9.18 ~ 2007.10.30	福岡地方最低賃金審議会専門部会委員
2008. 7 ~ 2009. 3	仕事と生活の調和推進事業推進コンサルタント(社団法人全国労働基準協会福岡県支部)
2008. 9 ~ 2008.10	福岡地方最低賃金審議会福岡特定最低賃金専門部会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 齊藤 靖 (3233)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2005. 4 ~	『授業科目:ゼミナール』 メールによる質問を受け付け、授業中に対応できなかった質問に対する返信や、学生のレポートを修正したものを送信するなど活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『授業科目:経営管理論』 最終の講義の終了15分前に授業評価アンケートを実施し、その結果に基づいて授業改善に取り組んでいる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005. 4 ~	『授業科目:経営管理論, 外書講読』 講義でパワーポイントを利用し、工夫を凝らして行なっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2005. 4 ~	『授業科目:経営管理論論』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
JCO 臨海事故のミクロ分析とその限界	2005.12	西南学院大学論集:第52巻第3号	189~224
JOC 臨界事故の発生とその影響	2006. 2	西南学院大学論集:第52巻第4号	209~240
“不適切な「介入」”の可能性:高リスク組織研究との関連から	2006. 6	西南学院大学論集:第53巻第1号	25~62
航空交通管制システムの発展プロセス	2007. 2	西南学院大学論集:第53巻第3・4合併号	341~381
規則の垂直的不整合:「常陽」第3次操業の事例分析	2007.12	西南学院大学論集:第54巻第3号	95-150

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 講師	氏名 王 曉華 (3241)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2008. 4. 7 ~ 2009. 5. 1	『授業科目:基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱ、演習Ⅰ、演習Ⅱ』 パワーポイントを利用し、学生に発表させるを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2008. 4. 7 ~ 2009. 5. 1	『授業科目:生産管理論、外書講読Ⅰ、Ⅱ、基礎演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』 メールによる質問を受け付け、回答などに努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2008. 4. 8 ~ 2009. 5. 1	『授業科目:生産管理論』 講義をパワーポイントで作成し、工夫を凝らして行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2008. 4. 8 ~ 2008. 7.17	『授業科目:生産管理論』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したPDF作成	2009. 4. 7 ~ 2009. 5. 1	『授業科目:生産管理論』 講義概要を示したPDFを作成し、ホームページの掲載している。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Module-Based Modeling of Production-Distribution System Considering Shipment Consolidation(査読)	共著	2006.12	Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.: Proceedings of the 2006 Winter Simulation Conference	王 曉華 高桑 宗右工門	1477~1484
Performance Analysis of a Transportation-Inventory System: Simulation and Statistical Approach(査読)	単著	2007. 1	日本ロジスティクスシステム学会:『日本ロジスティクスシステム学会誌』第7巻 第1号	王 曉華	79~89
Performance Analysis of an Arborescent Supply Chain System: Simulation and Statistical Approach(査読)	単著	2007.11	日本ロジスティクスシステム学会:『日本ロジスティクスシステム学会誌』第7巻 第2号	王 曉華	59~66

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 8.27	Performance Analysis of an Arborescent Supply Chain: Simulation and Statistical Approach	日本ロジスティクスシステム学会 第9回全国大会
2006.12. 5	Module-Based Modeling of Production-Distribution System Considering Shipment Consolidation	The 2006 Winter Simulation Conference

2008.11.15	シミュレーションによるサプライチェーンの設計と分析	日本物流学会九州部会
2008.12.28	Simulation Modeling and Analysis of Supply Chain Systems	International Seminar on Manufacturing Management and Environmental Management
2009. 3.29	Simulation Analysis for a Cross-Docking System with Temporary Storage	Asia Pacific Conference on Information Management 2009 (APCIM 2009)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 商学部	職名 准教授	氏名 佐藤 正弘 (3242)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008.4～	『授業科目:基礎演習Ⅰ』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008.4～	『授業科目:基礎演習Ⅲ』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008.4～	『授業科目:外書講読Ⅰ』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2008.4～	『授業科目:基礎演習Ⅲ』 講義にパワーポイントを利用し、工夫を凝らして行なっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2008.4～	『授業科目:経営学総論』 講義にパワーポイントを利用し、工夫を凝らして行なっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2008.9～	『授業科目:マーケティング論』 講義にパワーポイントを利用し、工夫を凝らして行なっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008.9～	『授業科目:外書講読Ⅱ』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008.9～	『授業科目:マーケティング論』 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2009.4～	『授業科目:基礎演習Ⅰ』 講義にパワーポイントを利用し、工夫を凝らして行なっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2008.4～	『授業科目:経営学総論』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『ファッション・マーケティング』第4章「ファッション市場を把握するために」を担当	分担執筆	2007. 1	IFIビジネススクール, ファッション・マーケティング研究会:	上原征彦監修	56～65
『戦略的SCMケイパビリティ』小林一・佐藤正弘著「第2章: 戦略的SCMと競争優位」の第6節～第10節を担当	分担執筆	2007. 3	同文館出版:	諸上茂登, M.KOTABE, 大石芳裕, 小林一編著	41～52

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
消費の目的と文脈を考慮した製品選択	2009. 3	西南学院大学論集: 第55巻第4号	353～374

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「ずらしゆくイノベーション-顧客満足のジレンマからの脱却を目指して-」	単著	2005. 2	明治大学大学院:『商学研究論集』第22号		183～198
「MRPシステムとMAPS-TOCの比較」担当: 419～421頁	共著	2005. 3	明治大学Global e-SCM 研究センター:『2004年度「e-SCM」研究論文集』	(西剛広・佐藤正弘・折戸洋子・佐藤佑樹)	399～422
「e-SCMにおける顧客満足の本質」	単著	2005. 3	明治大学商学研究所:『商学論叢』第87巻特別号		181～192
「協働型マーケティングにおける顧客満足」	単著	2006. 2	明治大学大学院:『商学研究論集』第24号		183～198
「日本におけるSCMの現状分析」	単著	2006. 3	明治大学商学研究所:『商学論叢』第88巻特別号		89～101
「顧客満足についての新しい概念」(研究ノート)	単著	2006. 3	日本ダイレクトマーケティング学会:『Direct Marketing Review』Vol.5		25～40
「マーケティング理論における顧客満足概念の新展開」	単著	2007. 3	:明治大学(博士論文)		
ソーシャル・マーケティングの新たな可能性を求めて—Volvic「1L for 10Lプログラム」の事例から—	単著	2009. 3	明治大学商学研究所:明大商学論叢第91巻特別号NO. 2		137～149

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.15	「MRPシステムとMAPS-TOC(TOCにもとづく基準生産計画)の比較」(西剛広・佐藤正弘・折戸洋子・佐藤佑樹)	日本経営システム学会第34回全国大会
2006. 3.18	「カテゴリーと顧客満足-目的志向カテゴリーにおける顧客満足の予備的考察-」	日本商業学会関東部会
2006. 5.21	「プロセスの顧客満足」	日本経営システム学会第36回全国大会
2006.12. 9	「コンセプト・イノベーションと顧客満足」	日本経営システム学会第37回全国大会
2007. 3.29	「Influence of Corporate Ethical/unethical Behavior on Customer Satisfaction」	The Ninth ETHICOMP International Conference on the Social and Ethical Impacts of Information and Communication Technology
2007. 5.26	「消費の目的を考慮した製品選択プロセス」	日本経営システム学会第38回全国大会

2007.12. 8	「CSRと企業価値の関係性」	日本経営システム学会第39回全国大会
2008. 7. 5	「ソーシャル・マーケティングの新たな可能性:Volvic 1L for 10Lプログラム」	日本比較経営学会第33回全国大会
2009. 4.25	「ソーシャル・マーケティング研究の新展開」	日本商業学会九州部会
2009. 7. 4	「顧客情報の活用実態と課題-CRM戦略に関連させて-」(共同発表)	日本ダイレクトマーケティング学会第8回全国研究発表大会

社会活動

期間	活動内容
2004. 4 ~ 2007. 3	明治大学学術フロンティア推進事業「先端的グローバル・ビジネスとITマネジメント—Global e-SCMIに関する研究—」Global Logisticsサブ・プロジェクト研究員
2005. 3 ~ 2008. 2	株式会社アーチャー新社「小売店と生活者の対話研究会」アシスタント・コーディネーター
2007. 5 ~	日本経営システム学会評議員
2007. 6 ~	明治大学オープンリサーチセンター「クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーション —経営品質科学に関する研究—」スマート・ビジネス & マーケティング サブ・プロジェクト研究員
2009. 2 ~	日本ダイレクトマーケティング学会「九州DBM研究会」補佐
2009. 4 ~	日本ダイレクトマーケティング学会九州部会副部会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 中馬 正博 (4101)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義内容を復習するための実習課題の作成	2007. 4. 1 ~ 2007.10. 1	「授業科目:基礎統計学、統計学総論、経済情報処理実習」エクセルによる実習課題について、データの更新、出題内容の追加・改善を図る。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる課題提示と添削指導	2007. 4. 1 ~ 2007.10. 1	「授業科目:基礎統計学、統計学総論、経済情報処理実習」講義内容の理解を確実なものとするために、約2週間の期限を設け課題に取り組んでもらい、評価を与え、その過程で生じた疑問に答える。学部教育充実経費によるSAの活用により、基礎統計学、統計学総論については、より丁寧なコメントを付すことが可能となった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パソコン教室の活用	2007. 4. 1 ~ 2007.10. 1	「授業科目:基礎統計学、統計学総論、経済情報処理実習」パソコン教室を利用して、容易に計算による講義内容の確認、正確な作図による表示および説明ができるように配慮している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 7. 3 ~ 2007. 7. 6	「授業科目:基礎統計学、統計学総論、経済情報処理実習、基礎演習Ⅰ」前期授業評価を実施、講義改善に努力している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 前期試験採点結果の返却	2007. 9.26 ~ 2007. 9.27	「授業科目:基礎演習Ⅰ、演習Ⅰ、演習Ⅱ」若干のコメントを記入した個別の採点結果の写しを正解と一緒に受講者に返却する。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 前期の個別出席率データの収集と前期試験結果との関係を検討	2007. 4. 1 ~ 2007.10. 1	「授業科目:基礎統計学、統計学総論」高得点者はほぼ完璧な出席、低得点者は出席率と無関係に存在することを散布図として図示、復習の重要性を受講者に訴えた。

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 8.21	「受講生のモチベーション・アップと教育効果を高めるための受講者数制限」	第37回ガイダンス教育研究会

社会活動

期間	活動内容
2004. 4 ~ 2005. 3	(財)福岡アジア都市研究所評議員
2005. 4 ~ 2006. 3	(財)福岡アジア都市研究所評議員
2006. 4 ~ 2007. 3	(財)福岡アジア都市研究所・評議員
2007. 4 ~ 2008. 3	(財)福岡アジア都市研究所評議員
2008. 4 ~ 2009. 3	(財)福岡アジア都市研究所評議員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 江副 憲昭 (4102)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	『授業科目:ミクロ経済学2』『授業科目:基礎演習1』『授業科目:基礎演習2』 毎学期、講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レポート	2006.4～	『授業科目:ミクロ経済学2』 レジメの各章末に10 ～20の練習問題を作成し、その解答を受講生にレポートにして提出させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 中間試験	2006.4～	『授業科目:ミクロ経済学2』 授業の理解を深めるため、 毎学期2回の中間テストを実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) オフィスアワー	2006.4～	様々な学習上の相談に対応するため、週に3回、昼休みにオフィスアワーを設定している。
2 作成した教科書、教材、参考書 レジメの作成	2006.4～	『授業科目:ミクロ経済学2』 講義内容を詳しく解説した レジメを作成し、それを受講生に配賦して講義を勧めている。それにより予習と復習が容易になっている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ミクロ経済学講義・演習	共著	2005.10	勁草書房		1～330

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
クレジットカード・ネットワークにおけるインターチェンジ料金について	2006.6	西南学院大学論集:第41巻第1号	35～62
RBA(オーストラリア中央銀行)のクレジットカード・インターチェンジ料金規制について	2006.9	西南学院大学論集:第41巻第2号	39～72
両面性市場と競争政策	2009.3	西南学院大学論集:第43巻第4号	1～23

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
クレジットカード・ネットワークと料金規制	単著	2007.7	:公益事業研究第59巻1号		9～10

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 6	日本経済のディレンマ	
2006. 2.18	クレジットカードネットワークにおけるインターチェンジ料金について	西日本理論経済学会
2006. 5.11	RBA(オーストラリア中央銀行)のカード会社に対するインターチェンジ料金規制について	日本応用経済学会
2007. 5.12	クレジットカード・ネットワークと料金規制	公益事業学会九州部会

社会活動

期間	活動内容
2004.10 ~ 2007.10	福岡地区水道企業団事業の再評価委員会委員
2005. 5. 1 ~ 2010. 3.31	福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金審議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 花田 洋一郎 (4103)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業サポート	2003. 4 ~	授業科目『演習』『基礎演習』では、メールを使い、講義に関する様々な質問に応じている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目『西洋経済史』に関して、授業の初めに用紙を配り、その日の講義内容に関する質問や講義に対する要望、改善希望などを毎回受講者に書いてもらい、次回で回答する。質問についても詳しく答える。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 7. 2	授業科目『西洋経済史』『外書講読2』『基礎演習1』『基礎演習2』に関して、授業最後の10分を使って授業評価を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント	2003. 4 ~ 2008. 1	授業科目『西洋経済史』『基礎演習』において、関連事項に関する情報を整理したプリントを配布し、補助教材として利用。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容に関する画像データの活用	2007. 6. 4	授業科目『西洋経済史』において、西欧の歴史に関するVHSテープやDVDを補助教材として活用。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 TNC文化大学講演	2005. 2.22	西洋中世経済史の研究内容について講演
4 その他の教育活動上特記すべき事項 TBS世界遺産監修	2006. 8.13	中世の市場都市プロヴァンの番組担当

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Provins, ville de Champagne du XIIIe au XVe siècles. Études sur les institutions et les habitants provinciaux	単著	2005. 8	Touka Shobo	HANADA Yoichiro	31

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
フランス中世都市における財政・租税制度—トロワの場合(2)—	2004. 6	西南学院大学論集: 第39巻第1号	63~82

14世紀中葉プロヴァンの会計記録再考—1360年会計簿エディションの試み—	2005. 3	西南学院大学論集: 第39巻第4号	1~29
フランス中世財政・租税史料論の動向	2008. 3	西南学院大学論集: 第42巻4号	1~29

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
近世スイス農村市場と国家	単著	2004.12	そしえて: 市場史研究24	岩井隆夫著	180~134
近世ロンドンとパリにおける人口史料について—ヴァネッサ・ハーディング氏の業績をめぐって—	単著	2007. 4	:	岡崎敦編著「西欧中世比較史料論研究」平成18年度研究成果年次報告書平成17~19年度科学研究費補助金基盤研究(B)	71~76
2005年~2006年 フランス在外研究報告	単著	2007. 5	: 日仏歴史学会会報第22号		9~12
中世都市の財政状況(13世紀後半)	単著	2007. 6	岩波書店: 世界史史料 第5巻 ヨーロッパ世界の成立と膨張17世紀まで	歴史学研究会編	176~178
シャンパーニュ地方都市トロワのカルチュレールについて	単著	2007.11	: 関西大学西洋史論叢第10号		22~43
「書評会 西谷正浩『日本中世の所有構造』開催にあたって」	単著	2007.11	: 九州歴史科学35号		96~97
「フランス中世後期都市史の視点から」(シンポジウム 小山啓子『フランス・ルネサンス王政と都市社会—リヨンを中心として—』(2006年)をめぐって)	単著	2007.12	: 西洋史学論集45号		147~150
ヴァネッサ・ハーディング「名前と数—近世ロンドンにおける情報の収集と共有(1500年頃-1700年)」		2008. 2	: 歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究(研究成果年次報告書平成19年度)	渡辺浩一編(平成16~19年度科学研究費補助金基盤研究(A))	37~44
小山啓子『フランス・ルネサンス王政と都市社会』	単独執筆	2008.11	: 九州歴史科学36号		72~79
ヴァネッサ・ハーディング「名前と数—近世ロンドンにおける情報の収集と共有(1500年頃~1700年)」	単訳	2009. 3	岩田書院:	渡辺浩一編著『中近世アーカイブズの多国間比較』岩田書院	245~256

講演会

開催日時	講演名称	場所
2005. 2.22	中世ヨーロッパ世界の光と影—社会経済史的視点から—	TNCパヴェリアホール
2006. 8.13	TBS世界遺産「中世市場都市プロヴァン(フランス)」 監修	東京(TBS)
2007. 6.18 ~ 2007. 6.21	歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究(科学研究費補助金基盤研究(A)、研究代表者 渡辺浩一、国文学研究資料館国際研究会(パリ シンポジウム)への通訳としての参加およびプロヴァン市公式訪問オーガナイガー兼通訳	パリ市及びプロヴァン市

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
-----	----	-----

2004. 6.26	フランスにおける中世国家・都市財政研究の現状と課題—藤井報告へのコメントとして—	近代国家の生成史研究会
2004. 9.25	フランス中世税制の諸側面	七隈史学会
2005. 7.17	中世後期ヨーロッパにおける行・財政史料—フランスを中心にして—	西欧中世史料論研究会
2006. 4. 5	Aperçu des recherches par les historiens médiévistes japonais sur la France au Moyen Age depuis 1990	Conférence doctorale. Master Recherche Droit romain, droit médiéval et tradition romanistique centre d'Études Romanistiques d'Auvergne (EA 2147)
2006. 4. 6	Une étude sur les institutions financières de la ville de Provins aux XIIIe – Xve siècles	Conférence doctorale. Master Recherche Droit romain, droit médiéval et science politique. Salle tradition romanistique centre d'Études Romanistiques d'Auvergne (EA 2147)
2006. 5.11	Les institutions financières de la ville de Provins aux XIIIe – XIVe siècles	UMR 7002 Moyen Age Formation et Conférences organisées par CNRS et Université Nancy 2
2006.10.14	15世紀シャンパーニュ諸都市におけるブルゴーニュ派と市当局の対応	ブルゴーニュ公国史研究会
2006.10.29	「14・15世紀の都市行・財政史料の伝来状況について—プロヴァンとトロワの場合—」	近代国家生成史研究会
2006.11.21	中世後期における都市史料の伝来とその性格について	「歴史的アーカイヴズの多国間比較に関する研究」パリ準備研究会
2007. 7.10	Financial Administration of the French City in the Late Middle Ages:A Case of the Finances of Troyes	International Medieval Congress
2007.10.20	コメント:フランス中世後期都市史の観点から	九州西洋史学会2007年度秋季大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 小出 秀雄 (4104)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 電子メールによる授業サポート	2003.4～	担当するほとんどの講義において、講義内容に関する質問、成績の照会等を電子メールで受け付けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 半期分の予定表の作成(学生の主体的な計画立案と実施)	2003.4～	授業科目:『基礎演習1・2』、『演習1・2』 半期分の予定表をあらかじめ作成し、学生に相談させ埋めさせている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒業論文の執筆サポート	2003.12～	授業科目:『演習2』 論文の提出前に原稿の細部を確認し、改善のための指導を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価アンケートの実施	2004.4～	担当するほとんどの講義において、授業評価アンケートを実施し、その結果を授業改善に活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイント等PC教材の利用	2006.4～	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』、『基礎演習2』、『演習2』など スライド・写真等の視覚的教材を活用している。また、学生のプレゼンにも活用させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 専門論文の配布	2006.4～	授業科目:『演習1・2』 自著の専門論文を、論文の書き方を指導するために配布している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容・資料のweb上での公開	2006.4～	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』、『演習1・2』 毎回の授業内容や配布資料の情報などを、随時公開している。
2 作成した教科書、教材、参考書 補助プリント資料の作成	2003.4～	授業科目:『入門経済数学』、『環境政策』、『環境経済学』、『経済英語1・2・3』など テキストの内容を補完するプリント資料を作成し配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書 参考書の一部の作成	2006.4.25	授業科目:『環境政策』 参考書(分担執筆)の一部を作成し出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 演習紹介の公表	2003.10～	授業科目:『演習1』 新年度の演習募集のため、ゼミ紹介の文章を作成し公表している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学広報誌でのインタビュー記事の発表	2008.10.10	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』 「SEINAN Spirit」No.166(8頁)に、普段授業で教えていることを盛り込んだ「環境問題を、経済学の考え方をういて見てみよう」というタイトルの記事を発表した。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学の教育研究に関する講演	2009. 3. 9	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』 韓国・釜山大学校でのワークショップにおいて、西南学院大学の概要と環境・エネルギーに関する教育研究の状況を紹介した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座	2004.12.17	授業科目:『環境政策』 「日本経済は京都議定書を守れるか」というタイトルで、公開講座を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 「交歓ゼミ」の実施	2005. 8 ~	授業科目:『演習2』 毎年8月末に一泊二日で、他大学と交歓ゼミを行い、互いの研究成果を報告し、親睦を深めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 城南高等学校での出張講義	2006.11.15	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』 「地球温暖化対策を経済学的に考えよう」というタイトルで、出張講義を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座	2008. 6.19	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』 「環境政策と経済学」というタイトルで、一般向けの公開講座を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 オープンキャンパス模擬講義	2008. 7.26	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』 「地球温暖化対策を経済学で考えよう」というタイトルで、高校生向けの模擬講義を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学生協九州地域センター「エコツアー」での講演	2008. 9.17	授業科目:『環境政策』、『環境経済学』 「環境問題の視点:地球温暖化と廃棄物を中心に」というタイトルで、大学生向けの講演を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
資源循環経済の一般均衡モデルと外部性の内部化政策(一橋大学審査博士学位論文)	単著	2007.10	一橋大学	小出秀雄	vii+158
資源循環経済と外部性の内部化	単著	2008.11	勁草書房	小出秀雄	216
環境政策	分担執筆	2006. 4	勁草書房:公共経済学	緒方隆・須賀晃一・三浦功編	225~252
外部不経済、経済調和条項、経済的手法、循環型社会、パーク・アンド・ライド、ハンドの定式、風評被害、レスポンシブル・ケア	分担執筆	2009. 1	成文堂:確認環境法用語230	黒川哲志・奥田進一・大杉麻美・勢一智子編	8, 22~23, 34, 50, 52, 54, 66

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Double Waste Reduction under Standards	2005. 1	西南学院大学論集:第39巻第3号	31~52
不法投棄の隠蔽が行われるときの最適な政策の組み合わせ:前編	2005.10	西南学院大学論集:第40巻第2号	47~62

不法投棄の隠蔽が行われるときの最適な政策の組み合わせ:後編	2005.12	西南学院大学論集:第40巻第3号	59~84
青森・岩手県境不法投棄問題の経過と視察レポート:研究資料として	2006.6	西南学院大学論集:第41巻第1号	127~166
A Theoretical Analysis of Polluter-Pays Principle with 'Allocated Costs' between Economic Agents	2006.12	西南学院大学論集:第41巻第3号	53~79
“前払い”か“後払い”か?:不法投棄抑制の一つの判断基準	2007.2	西南学院大学論集:第41巻第4号	39~51

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
家電リサイクル法の料金支払制度と不法投棄政策(査読)	単著	2004.6	比較経済体制学会:比較経済体制学会年報第41巻第2号		49~60
家電リサイクル法の料金制度と経済的手法(査読)	単著	2004.8	勁草書房:現代経済学研究11	西日本理論経済学会編	3~24
家電リサイクル法における料金制度と処理責任の数量効果	単著	2004.8	一橋大学経済研究所:ディスカッションペーパーシリーズ BNo.30	久保庭眞彰編	45~74
環境規制の遵守と罰金の基礎理論:廃棄物処理法の場合	単著	2005.10	一橋大学経済研究所:ディスカッションペーパーシリーズ BNo.32	久保庭眞彰編	13~37
廃家電製品の引取料金と処理責任の数量効果(査読)	単著	2006.10	勁草書房:現代経済学研究13	西日本理論経済学会編	117~149
リチャード.C.ポーター著『入門 廃棄物の経済学』	単著	2006.11	東洋経済新報社:環境経済・政策学会年報11	環境経済・政策学会 編	321~324
廃棄物処理の政策と社会的費用の推計例(査読)	単著	2009.1	比較経済体制学会:比較経済研究第46巻第1号		115~125
細田衛士著『資源循環型社会—制度設計と政策展望—』	単著	2009.4	慶應義塾大学出版会:三田学会雑誌102巻1号		177~180
An Economic Approach and Local Policy Implementation to Internalize Externality in Resource Circulation City	単著	2009.12	九州大学:Proceedings of The 3rd International Symposium on the East Asian Environmental Problems		114~119

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.3.8	環境規制の遵守と罰金の基礎理論	環境経済ワークショップ2005
2005.5.21	廃家電製品の引取料金と処理責任の数量効果	西日本理論経済学会第129回例会
2005.9.18	廃棄物の不法投棄と罰金の抑制効果	日本経済学会秋季大会
2006.1.28	不適正処理の抑制に罰金の強化は有効か	九州環境技術創造道場
2006.6.13	Optimal Waste Policies When Illegal Disposal can be Concealed	日本応用経済学会春季大会
2006.7.4	Optimal Waste Policies When Illegal Disposal can be Concealed	Third World Congress of Environmental and Resource Economists

2006.12. 3	Waste Management Policies for Dealing with Illegal Disposal and Concealment	The 5th International Conference of Japan Economic Policy Association
2006.12.16	外部性の内部化と拡大生産者責任:モデル分析の含意	EPR(拡大生産者責任)ワークショップ
2007. 6.10	「拡大生産者責任」政策の経済的効率性	日本応用経済学会春季大会
2007.12.11	資源循環経済の一般均衡モデルと外部性の内部化政策:学位論文概要	環境・サテライト研究会
2008. 5.31	廃棄物処理の政策と社会的費用の推計例	比較経済体制学会第48回全国大会
2009. 3. 9	Research Activities of Seinan Gakuin University on Energy and Environment	Workshop on Energy and Environment in Busan City (The 1st University Collaboration Meeting between Fukuoka and Busan City)
2009. 7. 4	韓国の最終処分場	第1回コンソーシアム共同研究会
2009.10. 3	資源循環・低炭素型都市づくりの学際研究:2009年7~9月の活動概要	第2回コンソーシアム共同研究会
2009.11. 7	釜山・大邱のごみ処理施設および再資源化施設	第3回コンソーシアム共同研究会
2009.11.25	福岡市・北九州市の電気自動車の導入状況	国公立大コンソーシアム・福岡 電気自動車研究会(社会インフラグループ)

社会活動

期間	活動内容
2008.10. 9 ~	福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会経営手法専門部会・副部会長
2008.10.28 ~	「国公立大コンソーシアム・福岡」推進会議メンバー・本学サブリーダー

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 仲澤 幸壽 (4105)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 導入授業におけるグループ制演習方式	2003. 4.13 ~ 2009. 2. 3	1年次の基礎演習において、報告、討論、進行評価の担当にグループ分けし、ローテーション化し定期的に編成替えをすることによって学生間の融和を促進すると共に、常に全員が演習に参加することで活性化を達成した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 導入事業における新聞記事等の利用	2003. 4.13 ~ 2009. 2. 3	1年次の基礎演習において、全員に毎週の新聞記事のなかから最も関心のあった記事、経済記事、為替の動き等をレポート形式で提出させ、幾人かは発表させることによって、時事問題と経済問題への関心を醸成した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 担当する科目間の理解度の分析と授業への反映	2005. 4. 8 ~ 2009. 2. 1	経済数学 I とミクロ経済学 I という1年次の基本的科目に関して、数学学習の得意な学生にもかかわらずミクロ経済学 I の修得を苦手とする学生の特性を分析し、双方の授業へ反省させる試みを行った。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
経営者心理と販売戦略: 過剰需要期待分析序論	2004. 6	西南学院大学論集: 第39巻第1号	145~192
経営上の意思決定における心理と景気変動	2005. 1	西南学院大学論集: 第39巻第3号	179~232
保険の任意加入と強制加入	2005. 3	西南学院大学論集: 第39巻第4号	159~186
運針関数と素数生成アルゴリズム: 有限不定回数手順モデルに関するノート	2005. 6	西南学院大学論集: 第40巻第1号	53~66
政策決定における過信	2006. 3	西南学院大学論集: 第40巻第4号	61~82
過信, 慢心, アノマリー	2007. 2	西南学院大学論集: 第41巻第4号	1~25
欲求発達階層型効用関数の試み	2007.12	西南学院大学論集: 第42巻第3号	71~100
選好逆転現象の合理的解釈	2008. 3	西南学院大学論集: 第42巻第4号	31~51
階層型効用関数の応用分析: 2部門モデルと複合財	2009. 3	西南学院大学論集: 第43巻第4号	59~79

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授(特別教員)	氏名 M. ミュー (4106)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	-------------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目:『経済英語表現 I』・『時事英語 I』・『英語演習 I』 すべての教科で、最終講義日に授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2003. 4 ~	授業科目:『経済英語表現 I』・『時事英語 I』・『英語演習 I』 すべての講義でパワーポイントや視聴覚教材を利用し、工夫している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	授業科目:『経済英語表現 I』・『時事英語 I』・『英語演習 I』 すべての授業でメールによる質問を受け付けている。また課題もメールでの提出を認めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~	授業科目:『経済英語表現 I』・『時事英語 I』 視覚教材のスクリプトや質問シートのプリントを作成し、配布を行なった。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Marketisation & trade in higher education services: towards a balance between efficiency & equity	2005. 1	西南学院大学論集: 第39巻第4号	93~124
From GATT to the WTO:Implications for Developing &Developed Countries	2005. 6	西南学院大学論集: 第40巻第1号	29~52
Economic Analysis of Law: Uses & Limitations	2007.10	西南学院大学論集: 第42巻第1・2合併号	81~114

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 相模 裕一 (4107)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) オフィスアワーによる講義内容の質問	2004.4 ~ 2007.3	『授業科目:金融論』 問に毎週応じている。	講義内容についての質
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004.4 ~ 2007.3	『授業科目:演習 I・II』 絡に毎回用いて、理解度を深めてるよう勤めている。	質問の受付と課題の連
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005.4 ~ 2006.3	『授業科目:外書講読 I』 間学生による授業評価行い改善に努めている。	前期と後期の2回、15分
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用の資料集を作成	2006.4 ~ 2007.3	『授業科目:金融論』 プリントを毎回配布している。	講義内容に関する資料

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
預金保険制度, BIS規制, そして市場規律	2007.10	西南学院大学論集:第42巻1・2合併号	115~126

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 新谷 正彦 (4108)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パソコンの活用	2003. 4 ~	『授業科目:計量経済学』パソコンソフトを利用し、計量経済モデルの推定と、それを用いた経済予測の方法を受講生に追体験させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) OHPの活用	2003. 4 ~	『授業科目:基礎演習』新聞の経済記事、および関連統計資料を、OHPを利用して表示し、現実の経済事情の理解を容易にするように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『授業科目:計量経済学』『基礎演習』最終講義の15分を使用して、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 テキスト『計量経済学』の編集と執筆および出版	2006. 4 ~ 2007. 1	Σを使用しない「計量経済学」をコンセプトとして、『計量経済学』のテキストの編集と執筆および出版を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
計量経済学	共著	2007. 4	勁草書房	新谷正彦、山田光男編集	3~36、101~109
教育と所得格差	共著	2008.10	日本評論社	本台進 新谷正彦	1~254
スカブミ県チサアート郡の農家経済	分担執筆	2004. 8	日本評論社:通貨危機後のインドネシア農村経済	本台 進	59~71
産業部門における過剰就業	分担執筆	2004. 8	日本評論社:通貨危機後のインドネシア農村経済	本台 進	139~161
通貨危機と産業連関構造の変化	分担執筆	2004. 8	日本評論社:通貨危機後のインドネシア農村経済	本台 進	95~116

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
インドネシアの社会会計行列から見た所得格差の推移	2004. 6	西南学院大学論集:第39巻第1号	193~233
インドネシア経済危機における所得分布の変化—社会会計行列からの接近—	2004. 9	西南学院大学論集:第39巻第2号	81~131
インドネシアにおける所得格差要因としての教育効果の分析—2002年スサナス個別結果表利用による接近—	2005. 3	西南学院大学論集:第39巻第4号	187~226
インドネシア貧困家計の消費行動の数量分析—消費保険仮説の検証—	2005.12	西南学院大学論集:第40巻第3号	85~129

ジャワ島家計の消費パターン—疑似パネルデータを用いた消費保険仮説の検証—	2006. 6	西南学院大学論集: 第41巻第1号	89~125
タイ国農家家計の合理的行動: スパンブリ県の農家経済調査による分析	2007. 2	西南学院大学論集: 第37号	1~152
インドネシアにおける所得格差要因としての教育効果の分析: 再論—1998年, 2000年, 2002年および2004年スサナス個別結果表利用による接近—	2007.12	西南学院大学論集: 第42巻第3号	133~178
インドネシアにおける教育に対する資本制限—2002年スサナス個別結果表利用による接近—	2008. 3	西南学院大学論集: 第42巻第4号	53~89
ジャワ島家計の貯蓄行動—2005年スサナス個別結果表利用による接近—	2008. 9	西南学院大学論集: 第43巻第1・2合併号	63~82
ジャワ島家計の労働供給行動—2005年サカナス個別結果表利用による接近—	2009. 3	西南学院大学論集: 第43巻第4号	81~117

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
インドネシア経済危機と所得格差の変化	単著	2007.10	勁草書房: 現代経済学研究第14号		3~36

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 吉岡 慎一 (4109)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業改善	2006. 4 ~	「社会保障論」毎年、講義毎に講義ノートに加筆、修正を加え常に前年度よりは改善されたまた新しい内容の講義を学生に提供している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業効果の確認	2006. 4 ~	「社会保障論」講義毎に常に3~4回、質疑応答を行い、学生の理解を確認しながら講義を進めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業効果の確認	2008. 4 ~	「社会保障論」講義において定期テスト以外に小テストを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料プリントの作成	2007. 4 ~ 2008. 9	「社会保障論」講義の参考図表のプリントを作成し配布を行った。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日本における所得再分配と所得移動度	2005. 1	西南学院大学論集: 第39巻第3号	233~258
貧困の測定と所得再分配	2006. 3	西南学院大学論集: 第40巻第4号	83~106
日本における貧困の計測: 確率優越と貧困曲線	2006.12	西南学院大学論集: 第41巻第3号	147~167
日本における所得分配の絶対的及び相対的不平等の計測: 一般化ローレンツ曲線と基数型測度	2007.10	西南学院大学論集: 第42巻1・2合併号	127~150
絶対的及び相対的所得不平等度の要因分解	2008.12	西南学院大学論集: 第43巻第3号	69~105

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 崔 宗煥 (4131)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006.4 ~ 2007.10.1	『授業科目:演習Ⅰおよび演習Ⅱ』 メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代韓国経済—進化するパラダイム—	共著	2005.4	日本評論社	環日本海経済研究所	1~48

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
1990年代以降の韓国経済の成長と構造的矛盾	2004.6	西南学院大学論集:第39巻第1号	1~62

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
韓国経済の21世紀のスタートライン	単著	2004.8	環日本海経済研究所:ERINA Discussion paperNo.0406		1~36

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.5.15	1990年代以降の韓国経済の成長と構造的矛盾	韓国経済研究会
2004.8.30	日本経済と一経済圏としての九州	韓日経商学会東アジア経済経営学会共同国際学術大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 伊佐 勝秀 (4132)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「セル生産方式」「3次元CADと製造システム」	分担執筆	2006.9	共立出版:『進化経済学ハンドブック』なし	進化経済学会編	346～7,348～9

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
ヘックマン・モデルの基本構造－労働計量経済学における応用を中心に－	2007.10	西南学院大学論集:第42巻第1・2合併号	1～34
新規高卒者の就職市場の制度と変容－福岡県下4高校の調査結果から－	2008.3	西南学院大学論集:第42巻第4号	91～112
人事制度における補完性－プリンシパル・エージェント・モデルによる接近－	2008.12	西南学院大学論集:第43巻第3号	47～67

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.6.3～2006.6.4	新規高卒者の労働移動－都道府県データを用いた分析－	社会政策学会
2006.9.9	新規高卒者の地域間労働移動－都道府県データを用いた分析－	社会政策学会九州部会第83回研究会
2006.10.21～2006.10.22	モラルハザード・モデルの実証戦略－雇用契約モデルを中心とした研究サーベイ－	日本経済学会
2007.1.27	新規高卒者の就職市場の制度と進化－福岡県下4高校の調査結果から－	進化経済学会九州部会研究会
2008.6.7	On potential biases in the measurement of mobility	日本応用経済学会

社会活動

期間	活動内容
2006.7.1～2007.3.31	社会政策学会第114回大会企画委員
2006.12.2～	学会報告論文のコメンテーター(日本国際経済学会九州・山口地区研究会(於 北九州市立大学北方キャンパス)報告論文「労働力輸出政策と経済発展－日本の経験をめぐって」へのコメント)

2007. 4. 1 ~ 2008. 3.31	社会政策学会第116回大会企画委員
2008. 4. 1 ~ 2008. 6.30	社会政策学会第116回大会企画委員
2008. 5.25	社会政策学会第116回大会「自由論題・第5 社会保障」座長
2008. 6. 7	学会報告論文のコメント(日本応用経済学会2008年度春季大会(於 熊本学園大学)報告論文「中央ナースセンター求職登録データによる潜在看護職の求職行動に関するマイクロ分析」へのコメント)
2008. 6.12	「働く・働けない・働かない」を考える—労働経済学への招待」(2008年度前期公開講座「経済と経済学の現在」第6回目担当)
2008.11.22	学会報告論文のコメント(日本応用経済学会2008年度秋季大会(於 金沢大学)報告論文「正社員と非正社員の代替弾力性の計測」へのコメント)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 加藤 浩 (4133)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業の内容を確認させるレポート	2006.4 ~ 2007.3	『授業科目:産業組織論』一つのテーマについて講義が終了するごとに、授業内容を確認し、それを応用して考えさせるレポートを課した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 質問票	2007.4 ~ 2008.3	『授業科目:産業組織論』出席を取る目的も兼ねて、授業の最後に、出席カードを配り、その裏に授業の内容に関する質問や、授業の改善点などを自由に記述させ提出してもらった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットの利用	2009.4 ~	「授業科目:基礎演習Ⅰ」報告内容に関連するテーマの最近の新聞記事を「日系テレコム21」などを用いてスクリーンに写し出し、テーマの理解をより深めることに成功した。
2 作成した教科書、教材、参考書 英字新聞の問題集	2006.4 ~ 2007.3	『授業科目:外書講読』毎回の授業において英字新聞を切り取って作成した問題を配布し、その場で読み要約させるという授業を行った。併せて、必要な経済英単語をまとめたプリントを配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 英語文献の補助資料	2007.4 ~ 2008.3	『授業科目:経済英語』インターネットやコンピューターに関わる英語文献の講読を助ける目的で、必要なコンピューター用語をまとめた資料を配布したり、写真などをパワーポイントで提示した。
2 作成した教科書、教材、参考書 Webによる教材配布	2009.4 ~ 2009.7	「授業科目:産業組織論」講義で扱う資料をblack boardで配布し、予習、復習の一助とした。加えて、授業で触れなかった高度な内容、数学的発展等の解説もWeb上に載せ、自習学習を促した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
耐久財独占企業によるアフター・マーケットの独占化について	2007.10	西南学院大学論集:第42巻第1・2合併号	55~79

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
新製品導入、中古市場および下取りの理論的考察	単著	2007.6	名古屋大学経済学会:経済科学第55巻第1号	加藤浩	27~43

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
-----	----	-----

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 島田 竜登 (4134)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 各種データベースの利用	2006.4～	『授業科目:基礎演習・演習』 学内ネットワークおよびOPAC等を利用し、図書やデータの検索方法を実演し学生の利用を促すとともに、的確な参考文献等の指示に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006.4～	『授業科目:基礎演習・演習』 メールによる質問等を受け付け、速やかにアドバイスを行えるように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.7～	『授業科目:日本経済史・経済英語』 各学期に1回、講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 調査実習	2007.4～	『授業科目:演習』 ゼミ研修旅行や学外授業等の制度を利用し、学外で経済史関係の史跡や文献調査の実習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 プリントの作成	2006.4～	『授業科目:日本経済史』 毎回の講義内容に即したデータや史料からなるプリントを作成・配布し、データ等の分析を行いながら講義を進めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 外国人ゲストスピーカーの招請	2006.7～	『授業科目:日本経済史』 外国における当該分野の研究者を適宜、ゲストスピーカーとして招き、授業を共同で行う。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
近世日本経済のアジア史的意義—「勤勉革命」論と「鎖国」の見直し論をめぐって—	2006.6	西南学院大学論集:第41巻第1号	63～87
近世日本のシャム貿易史研究序説—18世紀におけるアジア間貿易構造の変化—	2006.9	西南学院大学論集:第41巻第2号	73～100
18世紀前半におけるオランダ東インド会社のアジア間貿易	2008.9	西南学院大学論集:第43巻第1・2合併号	37～62

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Copper Trade, Asia	単著	2007.1	Macmillan Reference USA(Thomson Gale): Encyclopedia of Western Colonialism since 1450Vol. 1	Thomas Benjamin et al. (eds)	279

Bullion Trade, South and Southeast Asia	単著	2007. 1	Macmillan Reference USA(Thomson Gale): Encyclopedia of Western Colonialism since 1450Vol. 1	Thomas Benjamin et al. (eds)	168～169
ヨーロッパにおける捕鯨史研究の現状—オランダを中心に—	単著	2007. 4	:立教大学日本学研究所年報6		86～98
一八世紀末長崎出島におけるアジア人奴隷—オランダ東インド会社の貿易に関するひとつの社会史的分析—	単著	2008. 3	早稲田大学出版部:『地域間の歴史世界—移動・衝突・融合—』	鈴木健夫編	339～363
銅からみた近世アジア間貿易とイギリス産業革命	単著	2008. 8	山川出版社:『グローバル・ヒストリーの挑戦』	水島司編	141～153
[Book Review] Imperial Connections: India in the Indian Ocean Arena, 1860–1920 (By Thomas R. Metcalf)	単著	2009. 1	:International Journal of Asian Studies6-1		139～140
Siamese Trade in Agricultural Products with Japan and China in the Eighteenth Century	単著	2009. 5	Routledge: Intra-Asian Trade and Industrialization: Essays in Memory of Yasukichi Yasuba	A.J.H. Latham and Heita Kawakatsu (eds.)	52～75

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 6.10	ヨーロッパにおける捕鯨史研究の現状—オランダを中心に—	公開シンポジウム「捕鯨を通して見る世界(II)—捕鯨史研究の現状と課題—」
2006. 8.22	Siamese Trade in Agricultural Products with Japan and China in the Eighteenth Century	XIV International Economic History Congress
2006.10.21	オランダの近世アジア間貿易—オランダ東インド会社史研究の再考—	経営史学会西日本部会
2006.11.14	グローバルイゼーション下の18世紀インド—オランダ東インド会社の日本銅貿易を事例として—	2006年度第4回南アジア学会定例研究会(東京)
2006.11.25	オランダ東インド会社と近世アジア経済—VOC文書の書誌学的研究から見る「帝国」の構造—	「情報と帝国」研究会
2007. 4.21	オランダ東インド会社の日本銅貿易—グローバル・ヒストリーとしての一つの試み—	社会経済史学会九州部会
2007. 6.23	オランダ東インド会社のアジア間貿易	「情報と帝国」研究会
2007. 7. 6	オランダの長崎貿易と「黒坊」—出島のアジア・アフリカ人に関する社会史的分析—	「地域間交流史」研究部会
2007. 8.24	オランダ東インド会社のアジア間貿易	社会経済史学会近畿部会夏季シンポジウム「近世アジア貿易とヨーロッパ—世界史像の転換をめぐって—」
2008. 2.16	会社時代のバタヴィア—近世アジア比較港市研究のための覚書—	「東南アジアの港町」研究会
2008.10. 1 ~ 2008.10. 3	The Import Trade in Precious Metals and the Economy of Japan, 1763–c.1850	Third International Workshop: Monies, Markets, and Finance in China and East Asia, 1600–1900
2008.10.11	海域アジアの通商網と近世長崎貿易—唐蘭貿易という複合チャンネル構造の意義—	九州華僑華人研究会第20回記念大会
2008.11. 1	環シナ海と銭貨—近世期の東・東南アジア通商圏における小額貨幣—	出土銭貨研究会第15回研究大会
2008.12.27	長崎貿易の再検討—近世日本経済の世界史的意義—	比較文明学会九州支部第34回研究会

2009. 1.24	長崎出島のアジア人奴隷とオランダ東インド会社	「アジアの港町」研究会
2009. 3. 2	South-East Asian Tin Production and its Export Trade in the Eighteenth Century	「グローバルヒストリー研究の新展開と近代世界史像の再考」研究会
2009. 4.25	東インド会社と近代世界システム—オランダ東インド会社の事例から—	九州歴史科学研究会2009年度4月例会
2009. 7.12	オランダ東インド会社のアジア間貿易	国際商業史研究会
2009. 8. 3 ~ 2009. 8. 7	Invisible Links: Maritime Trade between Japan and India in the Early Modern Period	XVth World Economic History Congress
2009. 8. 3 ~ 2009. 8. 7	South-East Asian Tin Production and its Export Trade in the Eighteenth Century	XVth World Economic History Congress

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 市東 亘 (4135)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	「授業科目: マクロ経済学I, 経済原論」で年に2回授業評価を実施し, 講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 復習用講義ビデオのオンライン配信	2003. 4 ~	「授業科目: マクロ経済学I, 経済原論」で2003年度から2005年度までの3年分の講義を学生の復習用にホームページでオンライン配信している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) eラーニングシステムの活用	2005. 3 ~	「授業科目: マクロ経済学I, 経済原論, 演習I, 演習II」の講義用ホームページをオープンソースのeラーニングシステムを用いて構築し, 教材配布, 質問への回答, 重要事項のアナウンスなどに活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義に備えた春休み事前学習用教材の配布とオンライン確認テストの実施	2005. 3 ~	「授業科目: 演習I」において, 高度な学習を目指すため, 講義に必要な数学やその他知識に関する宿題付き教材を講義が始まる前の春休みに毎週配布し, 宿題の添削を通して学習指導を行なっている。さらに, 各宿題提出2週間後に記憶を定着させるための復習を促すため, 各宿題毎にオンラインテストを実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) オンライン・テストの実施	2005. 4 ~	「授業科目: マクロ経済学I, 経済原論」で講義の単元毎にオンラインの小テストを実施することにより, 学生に継続した学習を促すよう努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「日経ストックリーグ」への参加	2005. 6 ~	「授業科目: 演習I」で投資学習の論文コンテストである「日経ストックリーグ」に2005年度より参加し, 第三者による学生の論文評価を取り入れている(在外研究中の2006年度を除く)。2005年度には1チームが入選を果たした。
2 作成した教科書、教材、参考書 穴埋め式講義ノートの改訂	2004. 4 ~ 2005. 3	「授業科目: マクロ経済学I, 経済原論」で使用していた穴埋め式講義ノートをLaTeXを用いて書き換え見やすくした他, 内容も大幅に変更した。
2 作成した教科書、教材、参考書 穴埋め式講義ノートの作成	2005. 4 ~ 2006. 3	「授業科目: 演習I」で穴埋め式講義ノートをLaTeXで作成し, 学生が講義中にノートを取る時間を短縮させ, 講義に耳を傾ける時間を増やせるよう配慮した。
2 作成した教科書、教材、参考書 穴埋め式講義ノートの作成	2008. 9 ~ 2009. 3	「授業科目: 経済数学」で穴埋め式講義ノートをLATEXで作成し, 学生が講義中にノートを取る時間を短縮させ, 講義に耳を傾ける時間を増やせるよう配慮した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用Webページの作成	2008. 9 ~ 2009. 3	「授業科目: 経済数学」で講義資料の配布や, 学生との質疑応答用のWebページを作成し公開した。

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 3.27	Decreasing Impatience and Stability in the Endogenous Time Preference Model	国際会議プレゼンテーションワークショップ

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 山村 英司 (4136)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用とその内容の公開	2003. 4 ~	「経済地理」、「地域開発論」の講義内容をパワーポイントでまとめ講義に利用している。さらに、これを個人HP上で公開し、講義内容の理解を促進させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	「経済地理」、「地域開発論」、「基礎演習Ⅱ」講義改善の参考とするため。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントを利用したプレゼンテーションの訓練	2004. 4 ~	「演習Ⅰ」では、後期の時間を利用して個人報告をパワーポイントを利用して行うようにしている。これにより、プレゼンテーション方法の習熟を目指している。
2 作成した教科書、教材、参考書 統計分析の実践とEXCEL利用	2007. 4 ~	「基礎演習Ⅱ」で、統計分析の手法を学ぶため、EXCELを利用したデータ構築方法と分析方法(回帰分析)を実習する。さらに、分析結果をレポートにする方法を訓練している。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
新しい地域開発学に向けて—共同体的慣習と経済的効率性—	2004. 6	西南学院大学論集: 第39巻第1号	299~366
児島縫製業産地研究第一次予備調査トリップレポート	2005. 1	西南学院大学論集: 第39巻第3号	259~277
教育システムのメカニズム・デザインとその効果(Ⅰ)— 経済地理試験成績の決定因に関する若干の考察—	2005. 6	西南学院大学論集: 第40巻第1号	1~28
日本プロ野球産業の行方と「市場の声」	2005.10	西南学院大学論集: 第40巻第2号	63~84
児島縫製業産地研究: 調査票の構造と目的	2005.10	西南学院大学論集: 第40巻第2号	85~97
児島縫製業産地研究: 調査票プレテストおよび本調査 のトリップレポート	2006. 3	西南学院大学論集: 第40巻第4号	107~147
日本プロ野球改革と韓国プロスポーツ産業市場: 地域 開発と日韓プロ野球産業再生への道	2006. 9	西南学院大学論集: 第41巻第2号	101~126
児島縫製業産地研究: 追加調査のトリップレポート	2007. 3	西南学院大学論集: 第41巻第4号	53~61

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

集積の経済と立地選択の変遷過程—関東市区における加工組立5産業の事例研究1960～2000年—(査読)	単著	2004. 9	日本経済研究センター: 日本経済研究50号		105～123
社会的信頼、人的資本、そして学習効果のダイナミクス(査読)	単著	2005. 4	岩波書店: 『経済研究』vol.56 No.2		111～122
Time Path in innovation, imitation, and Growth(査読)	共著	2005. 5	Springer: Journal of Evolutionary Economicsvol.15(2)	Sonobe, T Otsuka, K	169～186
中国内陸部産業の生産効率の変化と輸出拡大過程(査読)	共著	2005. 7	アジア経済研究所: アジア経済第46巻第7号	申寅容	34～53
企業間生存競争と産業発展プロセス—戦後日本オートバイ産業の発展—(査読)	単著	2006. 1	岩波書店: 『経済研究』vol.57No.1		30～44
Technological Change and Catch-up and Capital Deepening: Relative Contributions to Growth and Convergence: Comment(査読)	共著	2007. 2	Electronic Publication: Economics Bulletinvol. 15(3)	Shin, I	1～8
Dynamics of Agglomeration Economies and Regional Industrial Structure: The Case of the Assembly Industry of the Greater Tokyo Region, 1960–2001(査読)	共著	2007.12	Elsevier: Structural Change and Economic Dynamics18(4)	Shin, I	483～499
The benefit of efficiency improvement on growth and convergence: A study using Japan panel data(査読)	共著	2008. 5	Elsevier: Economics Lettersvol. 99(1)	Shin,I	209～211
Determinants of trust in a racially homogeneous society(査読)	単著	2008. 7	Economics Bulletin: Economics Bulletinvol. 26(1)		1～9
The influence of a leader and social interaction on attendance: The case of the Japanese professional baseball league, 1952–2003(査読)	共著	2008. 7	Elsevier: Journal of Socio–Economicsvol. 37(4)	Shin,I	1412～1426
Team payroll, competitive balance, and team performance in the Japan professional baseball league: A study using 1993–2004 panel data(査読)	単著	2008. 9	University of Rajshahi: Empirical Economics Lettersvol. 7(9)		909～916
The effects of inequality, fragmentation, and social capital on collective action in a homogeneous society: Analyzing responses to the 2005 Japan Census(査読)	単著	2008. 9	Elsevier: Journal of Socio–Economicsvol. 37(5)		2054～2058
Socio-economic effects on increased cinema attendance: The case of Japan(査読)	単著	2008.11	Elsevier: Journal of Socio–economicsvol. 37(6)		2546～2555
Impact of formal and informal deterrents on driving behavior(査読)	単著	2008.11	Elsevier: Journal of Socio–economicsvol. 37(6)		2505～2512
Diffusion of home computers and social networks: A study using Japanese panel data(査読)	単著	2008.12	Routledge: Applied Economics Lettersvol. 15(15)		1231～1235
The market for lawyers and social capital: Are informal rules a substitute for formal ones?(査読)	単著	2008.12	Berkeley Electronic Press: Review of Law & Economicsvol. 4 (1) Article 23		499～517
Technology transfer and convergence of performance: An economic study of FIFA football ranking(査読)	単著	2009. 2	Routledge: Applied Economics Lettersvol. 16(3)		261～266

Effects of Income Inequality on Growth through Efficiency Improvement and Capital Accumulation(査読)	共著	2009. 6	Routledge: International Economic Journalvol. 23(2)	Shin, I	237~258
Rethinking rational addictive behaviour and demand for cinema: a study using Japanese panel data(査読)	単著	2009. 7	Routledge: Applied Economics Lettersvol. 16(7)		693~697
Formal and informal deterrents of crime in Japan: Roles of police and social capital revisited(査読)	単著	2009. 8	Elsevier: Journal of Socio-Economicsvol. 38(4)		611~621
Dynamics of social trust and human capital in the learning process: The case of the Japan garment cluster in the period 1968-2005(査読)	単著	2009.10	Elsevier: Journal of Economic Behavior & Organizationvol. 72(1)		377~389

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.12.11	生産効率性変化、技術革新、そして地域産業構造	第18回ARSC 研究発表大会
2006. 6. 3 ~ 2006. 6. 4	The Influence of a Leader and Social Interaction on Attendance: The Case of the Japanese Professional Baseball League, 1952-2003	日本経済学会 (春季大会)
2008.12.11	The role played by social capital:A case of Japan.	Seminar of Ph.D program of business school of Munich Univ.

社会活動

期間	活動内容
2004. 3 ~ 2004. 5	アジア経済研究所業績評価委員会専門委員
2007.11. 1 ~ 2008. 1.30	Referee for Journal of Asian Economics.
2008.10 ~ 2008.12	Referee service for Journal of Transportation Engineering.
2009. 1 ~	Referee service for Journal of Socio-Economics.

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 講師	氏名 近藤 春生 (4141)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008. 4 ~	『授業科目:経済英語 I』『授業科目:基礎演習 I』『授業科目:基礎演習 II』『授業科目:財政学総論』において、授業評価の実施を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内演習	2008. 4 ~	『授業科目:基礎演習 I』『授業科目:基礎演習 II』『授業科目:財政学総論』において、授業内容についていけているかを明らかにし、授業運営に生かすため、各回の授業内容に関する簡単な小レポートを複数回課した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テスト	2008. 4 ~	『授業科目:経済英語 I』において、テキストのセクション単位で小テストを行い、学生の理解度を把握するとともに、解答は採点、返却、解説をすることで授業の復習に役立ててもらっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) オフィスアワー	2008. 4 ~	授業で質問できなかった点など、様々な学習上の相談に答える時間として、週1日約1時間オフィスアワーを設定している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 財務省職員向け研修『EXCEL統計・計量経済基礎研修』講師 財務省財務総合政策研究所	2008. 8	財務省職員および財務総合政策研究所へ民間企業より出向している研究員向けに、省内の業務や研究活動を行う上で必要となるEXCELの操作方法および計量経済分析の手法について解説を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「地方財政の資本化に関する実証分析—都市データを用いた検証—」	分担	2008. 2	中央経済社:貝塚啓明・財務省財務総合政策研究所編『分権化時代の地方財政』第9章	近藤春生	307~333

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「市町村財政における資本化仮説の実証分析」	2009. 7	西南学院大学論集:44(1)	1~30

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「地方財政支出に関する政治経済分析」(査読)	単著	2007. 7	:『公共選択の研究』48	近藤春生	4~17
「社会資本整備における政治経済学的側面」	単著	2008. 3	:『フィナンシャル・レビュー』89	近藤春生	68~92
「固定資産税率制限と自治体歳出の効率性」	単著	2008. 4	:『季刊住宅土地経済』68	近藤春生	36~39
「社会資本の効率性と政府間財政移転—資本化仮説に基づく実証分析—」	単著	2008. 7	:『季刊住宅土地経済』69	近藤春生	29~35

「知事の在職期間と財政運営」(査読)	共著	2008.10	:『財政研究』4	小林航・近藤春生	218～232
Political Economy of Public Capital Formation in Japan	単著	2008.12	:Public Policy Review4(1)	Haruo Kondoh	77～110

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.17	「地方政府の財政支出に関する政治経済分析」	統計研究会財政金融研究委員会(統計研究会財政班)
2005.10.22	「地方政府の財政支出に関する政治経済分析」	日本財政学会第62回大会
2006. 7. 1	「地方財政支出に関する政治経済分析」	公共選択学会第10回大会
2006.10. 8	「資本化仮説に関する実証分析—わが国の地方財政統計を用いた分析—」	日本財政学会第63回大会
2007. 9.10	「資本化仮説と社会資本の効率性」	(財)日本住宅総合センター開催・住宅経済研究会
2007.10.27	「知事の在職期間と財政運営」	日本財政学会第64回大会
2007.11.17	「社会資本整備における政治経済学的側面」	日本応用経済学会2007年度秋季大会
2008. 5.20	「社会資本整備における政治経済学的側面」	九州大学応用経済学ワークショップ
2008.10. 6	「地方財政運営に関する政治経済学的分析」	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム 市民社会におけるガバナンスの教育研究拠点、政策形成分析ユニット コンファレンス
2009. 6.14	「市町村財政における資本化仮説の実証分析」	日本応用経済学会2009年度春季大会
2009.10.17	「都市の財政運営と政治経済学」	日本財政学会第66回大会
2009.11.22	「地方財政運営の時系列分析」	日本応用経済学会2009年度秋季大会

社会活動

期間	活動内容
2008. 4 ～	財務省財務総合政策研究所 特別研究官
2008.12.20	朝日新聞(夕刊・地方版) 2009年度予算原案に関するコメント

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 吾郷 健二 (4201)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4.20 ~ 2009. 7.30	全科目においてメールによるサポートを行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 詳細なシラバスの配布と説明	2003. 4.20 ~ 2009. 7.30	全科目においてシラバスを作成し、第1回目に授業内容と目標の説明を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課題提出の実施	2003. 4.20 ~ 2009. 7.30	「授業科目:世界経済論」では6回程度レポートを提出させた。学生にとっては復習と自発的な学習の機会となり、教員にとっては学生の理解度を知る機会となった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による議論の活性化	2003. 4.20 ~ 2009. 7.30	ゼミでは必ず、学生自身による活発な質疑応答や議論の活性化を促進している。このプロセスで、論理的思考力と説得的な表現力を鍛えられるので、2年間のゼミを終えて、卒業する時点では、大部分の学生が非常な満足を感じて卒業している。
2 作成した教科書、教材、参考書 テキストを指定し、適宜プリントを配った。	2003. 4.20 ~ 2009. 7.30	全科目において、テキストを指定し、事前に学生の学習を義務づけた。講義中は、教師の説明をよく理解することに集中するようにしむけた。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ゲストスピーカーとしてのOBの活用	2003. 4.20 ~ 2009. 7.30	「世界経済論」では、年に1度くらいのペースで、各界で活躍しているOBにゲストスピーカーとしてきていただいて、話をしていただいている。総じて学生には好評で、刺激を与えている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代経済学——市場、制度、組織——	共著	2008. 9	岩波書店	吾郷健二、佐野誠、柴田徳太郎	137~163
コーヒーとバナナの世界経済——「地獄の道」への競争——	単著	2008.10	中川書店		133
ラテンアメリカは警告する	分担執筆	2005. 4	新評論:	内橋克人、佐野誠	167~194

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
NAFTA の<神話>とメキシコ経済の現実(1994—2003年)	2005. 1	西南学院大学論集:第39巻第3号	1~30

カリブバナナ輸出小国の悲劇:WTO 自由貿易原則の一掃結	2005.12	西南学院大学論集:第40巻第3号	1~58
ジャマイカ:楽園の真実	2006.6	西南学院大学論集:第41巻第1号	1~34
コーヒー危機の意味	2006.12	西南学院大学論集:第41巻第3号	1~51
一次産品問題としての綿花問題再登場の意味	2008.12	西南学院大学論集:第43巻第3号	1~46

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
解説:脱グローバル化	単著	2004.4	明石書店:	ウォールデン・ベロー著 戸田清 訳	215~221

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.9.26	アジアのラテンアメリカ化	東アジア学会
2005.12.16	NAFTA の(神話)とメキシコ経済の現実(1994~2003年)	同志社大学人文科学研究所第6(世界経済)研究会
2006.3.3	カリブバナナ輸出小国の悲劇-EU バナナ輸入制度改革のインパクト-	九州EU研究会第39回研究会
2006.6.10	カリブバナナ輸出小国の悲劇	国際開発学会春季大会
2006.12.16	NAFTAの<神話>とメキシコ経済の10年(1994~2003年)	日本国際経済学会関西支部研究会
2009.10.18	一次産品問題として綿花問題再登場の意味	日本国際経済学会第68回全国大会

社会活動

期間	活動内容
2004.4.1 ~ 2009.5.31	ADB福岡NGOフォーラム代表

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授(特別教員)	氏名 A. L. デュラン (4202)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	-------------	------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) テープ・ビデオ教材の活用	2003. 4 ~	文学や経済学をテーマにした語学の授業において、聴覚教材を組み入れ、学生の理解深める。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの導入	2003. 4 ~	「時事英語」において、毎時間語彙力をチェックするための小テストを行うことにより、学生による自主学習を促し、語彙力増強を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課題の出題	2003. 4 ~	語学の授業において、授業内容を効果的に理解させるために、次週の講義内容に関する課題を出題し、学生の自主学習を促している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による発言を主体にした授業	2003. 4 ~	語学の授業において、学生に自発的に発表させる授業形態をとっている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Initiation of Revolution: The Significance of September 30, 1930 in Cuba	2007.12	西南学院大学論集: 第42巻第3号	1~23

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 東 茂樹 (4203)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	講義最終回の15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 映像の活用	2007.4～	タイなど東南アジアの経済状況を示す映像を講義で流し、学生の理解を深めるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 副教材プリントの作成	2007.4～	副教材プリント(パワーポイントのスライド)を作成し、配布を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座	2008.5.29	「FTAで関係が深まる東南アジア経済」:自由貿易協定(FTA)と東南アジア経済について一般向けに解説。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『FTAの政治経済学—アジア・ラテンアメリカ7カ国のFTA交渉』(査読)	共著	2007.11	ジェトロ・アジア経済研究所	東 茂樹編	3～22(序章)、61～104(第2章)
国家の制度能力と産業政策—タイとマレーシアを事例として(査読)	共著	2004.12	ジェトロ・アジア経済研究所:『国家の制度能力と産業政策』	黒岩郁雄編	131～167
東南アジアの産業集積—タイ自動車産業の集積と競争力—	共著	2005.8	御茶の水書房:『東アジア都市論の構想—東アジアの都市間競争とシビル・ソサエティ構想—』	田坂敏雄編	147～170
タイ・中国企業の海外投資—CPグループ、華源集団を事例として—(査読)	共著	2006.1	ジェトロ・アジア経済研究所:『中国・ASEAN経済関係の展開—相互投資とFTAの時代へ—』	大西康雄編	125～158
タイの二輪車産業—日本ブランド寡占体制における地場企業の対応と対抗—(査読)	共著	2006.9	ジェトロ・アジア経済研究所:『アジアの二輪車産業—地場企業の勃興と産業発展のダイナミズム—』	佐藤百合・大原盛樹編	243～280
タイの経済政策と2006年9月クーデタ	共著	2008.12	めこん:『現代タイ動向2006–2008』	日本タイ協会編	194～216
自動車部品産業の成長—地場中小サプライヤーの高度化—(査読)	共著	2008.12	ジェトロ・アジア経済研究所:『中国—産業高度化の潮流』	今井健一・丁可編	117～150
タイ経済の回復と金融・企業改革の進展	共著	2009.6	晃洋書房:東アジア経済の変容—通貨危機後10年の回顧	西澤信善・北原淳編	137～160
「工業」「国内総生産」「国際収支」「物価」「対外債務」「投資奨励法」「東部臨海工業地域」の用語解説	分担執筆	2009.9	めこん:タイ事典	日本タイ学会編	

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
FTA交渉における政策決定過程－日本の二国間EPA交渉相手国を事例に－	2007.12	西南学院大学論集：第42巻第3号	25～43
通貨危機後10年のタイ経済－金融・企業改革と社会セーフティネットの構築－	2009. 3	西南学院大学論集：第43巻第4号	25～58

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
タイ金型産業の競争力－自動車産業との関連で－	単独執筆	2004.12	国際東アジア研究センター：『東アジアへの視点』第15巻5号	東 茂樹	14～27
タイの中小企業政策とタクシン政権	単独執筆	2005. 2	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第113号	東 茂樹	28～31
拡大するタイの自動車産業－現状と今後の課題	単独執筆	2006. 3	素形材センター：『素形材』第47巻3号	東 茂樹	1～8
タイの自動車産業と自由貿易協定	単独執筆	2006. 5	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第128号	東 茂樹	22～25
中国企業のタイ投資－華源集団の事例	単独執筆	2006. 8	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第131号	東 茂樹	13～15
タイ企業の中国投資－CPグループの事例	単独執筆	2006. 8	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第131号	東 茂樹	8～12
タイ軍事クーデターの背景と民主化の展望	単独執筆	2006.12	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第135号	東 茂樹	36～39
タイ－金融制度改革の進展と「市場との対話」(特集：アジア通貨危機から10年)	単独執筆	2007. 9	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第144号	東 茂樹	14～17
発展途上国のFTA交渉－日本とのEPA交渉過程を事例に	単独執筆	2007.12	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第147号	東 茂樹	2～3
タイ－官僚主導の交渉から説明責任の重視へ(特集：発展途上国のFTA)	単独執筆	2007.12	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第147号	東 茂樹	6～9
ASEAN－アジアにおけるFTA網の中核(特集：発展途上国のFTA)	単独執筆	2007.12	ジェトロ・アジア経済研究所：『アジ研ワールド・トレンド』第147号	東 茂樹	4～5
タイの金型産業と経営の特徴	単独執筆	2008. 3	素形材センター：『素形材』第49巻3号	東 茂樹	26～31
タイの日系企業と労使関係	単独執筆	2009. 5	日本在外企業協会：月刊グローバル経営2009年5月号	東 茂樹	4～9

講演会

開催日時	講演名称	場所
2007. 6.25	どう変わるタイの経済政策	三井住友銀行丸の内クラブ(日本タイ協会主催)
2008. 1.29	どうなる? 総選挙後のタイ政治	シンガポール・グッドウッドホテル(時事通信社トップセミナー)
2008.12. 6	FTAで経済関係が深まる日本と東南アジア	東京国際フォーラムガラス棟(SGR Aフォーラム)
2009. 4.27	タイの雇用・労働事情	銀座ラフィナート(日本在外企業協会主催)

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10.15	アジア企業の海外投資－タイのCPグループ、中国華源集団を事例として	日本国際経済学会第64回全国大会
2006. 7. 9	タックシン政権5年間の評価	日本タイ学会第8回大会
2006.10.28	FTA交渉における政策決定過程－日本の二国間EPAを事例に	2006年度アジア政経学会全国大会
2007. 6.10	タックシン政権の経済成長戦略と貧困解消政策	東南アジア学会第77回研究大会
2007. 7. 7	タイの政治経済は2006年9月クーデタにより変わるか	日本タイ学会第9回大会
2007. 7.28	タイのFTA政策－日タイEPAを事例にして－	日本国際経済学会九州・山口地区研究会
2007.11. 2	The Policy Making Process in FTA Negotiations: A Case Study of Japanese Bilateral EPAs	The 2007 Six Universities Annual Conference on Regionalism and Multilateralism in the Asia-Pacific
2008. 1. 9	The Thai Economy after the Currency Crisis	The 10th International Conference on Thai Studies
2008.10.11	Regional Integration and Economic Effect of FTA	Taiwan-East Asia Conference on Free Trade Agreement
2009. 1.22	アジア危機からの回復過程－タイの事例	「東アジア回復の政治経済学」研究会

社会活動

期間	活動内容
2008. 6.17 ~ 2009. 3.31	日本在外企業協会「海外派遣者ハンドブック:タイ編」作成委員会主査

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 河村 朗 (4204)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業アンケートの実施とその活用	2004. 4 ~ 2009. 1	担当する全ての講義で授業アンケートを実施し、授業内容や授業方法などの改善に活用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施とフィードバック	2004. 4 ~ 2009. 1	経済理論Ⅱ(ミクロ経済)、経済学概論Ⅰ、経済学概論Ⅱ、国際経済論、ビジネス経済学において毎回小テストを実施し、次回にその答案を学生にフィードバックするとともに、問題の解説、答案のコメントなどを行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「ペルシャ湾岸産油国の中東和平貢献」『中東和平と世界経済』	共著	2007. 9	五紘舎	梅津和郎、中津孝司、河村朗、佐藤千景	53~88

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
原油価格高騰の背景とサウジアラビアの石油政策—生産余力に焦点を当てて	単著	2005. 2	社団法人石油学会: ペトロテックVol.28 No.2		124~129
中東諸国における天然ガス産業の開発と外資—サウジアラビアとカタールの比較	単著	2005. 3	関西国際大学: 研究紀要第6号		23~32
クレムリンのエネルギー資源戦略	単著	2006. 2	社団法人石油学会: ペトロテックVol.29 No.2	中津孝司著	133
カタールのLNG戦略と今後の展望	単著	2008. 3	関西国際大学: 研究紀要第9号		55~66
なぜペルシャ湾岸諸国は天然ガスを輸入するのか—ドルフィン・プロジェクトを中心として—	単著	2009. 3	関西国際大学: 研究紀要第10号		151~162

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10.16	サウジアラビアにおける天然ガス産業の開発と外資	日本国際経済学会
2006. 5.28	サウジアラビアの天然ガス政策と外資導入の背景	日本経済政策学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 前田 芳人 (4205)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2000.4～	『授業科目:国際経済システム論』 年4回講義の最後20分を使って、授業評価を実施し講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2000.4～	『授業科目:基礎演習』 教科書を読了した後、感想文を書いてもらい、授業の進め方に活用している。年3回行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2000.4～	『授業科目:基礎演習』 夏休みの宿題(指定の本3冊の感想文それぞれ400字詰原稿用紙5枚)の発表会を行い討議をし問題意識を高めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2000.4～	『授業科目:演習Ⅰ』 夏休みの宿題(指定の本4冊の感想文それぞれ400字詰原稿用紙5枚)の提出。討議をして問題のありかを共有する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教材の充実並びに参考書の提示	2000.4～	『授業科目:国際経済システム論、基礎演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ』 授業に関係する常に新しい統計資料やニュースそして参考文献を提示し学生の幅の広い思考に心掛けている。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書	2006.2.28	『授業科目:国際経済システム論』 専門科目「国際経済システム論」についての教科書を出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 比較文明学会九州支部のシンポジウムにおける講演	2007.10.13	一般を対象とするシンポジウムの講演者として参加した

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
国際分業論と現代世界	単著	2006.2	ミネルヴァ書房		323

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
国際分業論と農業—経済学における聖と俗—	2004.9	西南学院大学論集:第39巻第2号	41～79

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

文明論としての経済学	単著	2007. 7	比較文明学会九州支部: 文明研究・九州創刊号	96～98
宗像沖ノ島と「聖なる社会」・「聖なる経済」	単著	2008. 7	比較文明学会九州支部: 文明研究・九州第2号	比較文明学会九州支部 40～45

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.12.27	宗教と経済—インド文明の岐路	比較文明学会九州支部
2007. 3.24	グローバリゼーションと経済学の課題	国際経済学会九州・山口地区研究会
2007. 7.23	沖ノ島と聖なる経済	経済 比較文明学会九州支部
2007.10.13	宗像沖ノ島と聖なる社会・聖なる経済	比較文明学会九州支部 シンポジウム
2009. 3.28	人間の経済と市場—K. ポランニーの本来的市場論の構造—	比較文明学会 九州支部研究会(第35回)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 村岡 伸秋 (4206)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2003. 4 ~	<p>1. 「中国経済論」: 第1回授業では、1年間の講義計画を解説するとともに、学生に中国経済に関する各自の疑問、質問を書かせた(食生活に関する質問が圧倒的に多かったので、1年間の講義全体において自分の経験や知識をこうした具体的疑問に答えるよう工夫して伝えた)。 また、中国の白地図を配布して、中国経済を地理的空間において視覚的にとらえるよう工夫した。 さらに人口やGDP、生産量、輸出量、輸入量などの各種経済データの詳細なものを配布し、中国経済を他国との比較や過去との比較で把握するよう努めた。 そして、毎回の授業においては、至近の世界経済や中国経済に関するトピックを伝え、リアルタイムでの中国の動向を解説した。 毎回講義録を配布し、できるだけ一つのテーマで完結的に中国経済を理解しよう努めた。</p> <p>2. 他学部向け「経済学2・B」は、経済学の原理をできるだけ平易に理解できるように努めた。具体的には、人類の全歴史における近代資本主義経済の到達段階における特徴をよりよく理解できるように、経済史、経済学史の相関関係をビジュアルに捉えるイラストを配布し、それに沿った解説を行った。また、毎週の世界経済や日本経済の最新の出来事を解説する時間を設け、時事問題と経済理論の関連の具体的理解に努めた。 毎回の授業ではその日のテーマごとの講義録(教科書に代わるもの)を配布した。</p> <p>3. 「演習1」・「演習2」・「基礎演習」では、毎回、学生自身に一週間の世界と日本の社会・政治・経済関連の新聞報道によるニュースのレポートを行わせ、それに基づいた現実問題のディスカッションを行った。あわせて、担当者自ら作成の講義録と指定テキストの輪読制でのディスカッションを行った。</p> <p>4. 「経済英語」ではテキスト学習以外に毎回、ミニ単語テストや英語の教養を広げる練習問題を解かせた。また、4月の第1週に、担当者の作成した約1500語を収録した「経済英語単語集(English Words of Economics)」を配布した。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2003. 4 ~	<p>作成した教科書、教材、参考書: 1. 「中国経済論」: A4版180ページの「講義録」(タイトルは無し) 2. 「経済学2・B」: A4版75ページの「講義録」(タイトルは無し)</p>

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
中国村庄の政治と経済(1)	2005. 1	西南学院大学論集: 第39巻第3号	125~178
中国村庄の政治と経済(2)	2005. 3	西南学院大学論集: 第39巻第4号	79~157

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
分税制実施(1994年)以後の中国地方政府の財政問題		2005. 6	:学会フルペーパー(比較経済体制第45回大会:桜美林大学)		1~13

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 6. 4	分税制実施(1994年)以後の中国地方政府の財政問題	比較経済体制第45回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 尾上 修悟 (4207)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003.4～	「授業科目:国際金融論、演習、基礎演習」授業内容の不明な点やレポートに関する質問をメールで受け付け、授業の理解度の向上に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003.4～	「授業科目:国際金融論」前期と後期の各々について、名1回授業評価を行い、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの活用	2003.4～	「授業科目:国際金融論」シラバスに示された計画に沿って、各単元終了時に小テストを行い、学生の理解力の向上に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義に関連した参考資料の配布	2003.4～	「授業科目:演習」講義内容に関連した参考資料を内外の新聞から作成し、配布を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2003.4～	「授業科目:国際金融論」専門科目「国際金融論」に関する教科書の出版を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を表したプリントの配布	2003.4～	「授業科目:国際金融論」講義概要を表したプリントを作成し、授業の毎に配布を行っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「資本輸出」と「南北問題」	分担執筆	2005.12	弘文堂:国際政治事典	猪口孝、田中明彦、恒川 惠市、薬師寺泰蔵、山内 昌之	431、730
資本輸出、世界経済、第三世界、低開発、不均等発展	単独執筆	2006.4	弘文堂:歴史学事典第13巻、所有と生産	尾上修悟	251、367～368、396 ～398、422～423、 523～524

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
フランスにおけるユーロ懐疑主義の展開	2006.3	西南学院大学論集:第40巻第4号	19～60
フランスの金融自由化と金融システムの改変	2006.12	西南学院大学論集:第41巻第3号	81～120

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
フランスにおけるユーロ導入と失業問題—ヨーロッパ憲法条約批准否決の経済的背景をめぐって—	単独執筆	2006. 5	京都大学経済学会:京都大学経済学会・経済論叢第176巻第3号	尾上修悟	277-300
ヘッジファンドとグローバル金融リスク—フランス銀行編の研究・調査書をめぐって—	単独執筆	2008. 7	世界経済研究協会:世界経済評論第52巻第7号		17~29
フランスにおける市場金融の発展と金融危機	単独執筆	2009. 1	関東学院大学経済学会:経済系第238集		47~78

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 3. 4	フランスにおけるユーロ懐疑主義の展開-憲法条約批准の否決とパリ暴動の背景	国際経済学会九州・山口地区部会
2006. 3.20	フランスにおけるユーロ導入と失業問題-ヨーロッパ憲法条約批准否決の経済的背景	EUIJ 東京コンソーシアム
2006. 3.25	ユーロと経済・通貨同盟下の経済政策をめぐる諸問題-フランスでの議論を中心として	日本金融学会西日本部会

社会活動

期間	活動内容
2006.10. 1 ~	日本国際経済学会幹事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 立石 剛 (4208)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003.4～	『アメリカ経済論』『基礎演習』ほか メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットを利用した資料収集と統計分析	2007.4～	『基礎演習Ⅱ』 インターネットで公表されている資料を収集し、それに基づいて統計分析する手法を学生に修得させている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	『アメリカ経済論』『アメリカ経済史』ほか 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003.4～	『アメリカ経済論』『演習Ⅰ』ほか 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料のネット配信	2005.4～	『アメリカ経済論』『アメリカ経済史』ほか 講義資料をネット上からダウンロードできるようにし、学生の予習を促した。また印刷余部も減少し、エコにも貢献した。
2 作成した教科書、教材、参考書 テキスト関連の課題プリント作成	2006.4～	『演習Ⅰ』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。
2 作成した教科書、教材、参考書 経済関連の英単語・フレーズ一覧の作成	2007.4～	『経済英語Ⅱ』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。それに基づいて小テストを行い、ボキャブラリーを増やすよう促した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡アメリカンセンターでの講演に参加	2007.10.24	『演習Ⅰ』 福岡アメリカンセンターでの講演会に学生とともに参加し、学生の問題関心を広げるよう促した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代世界経済システム:グローバル市場主義とアメリカ・ヨーロッパ・東アジアの対応	共著	2004.10	八千代出版	星野 郁、津守 貴之	272
「国際金融システム不安とドル本位制」	分担執筆	2005.5	日本評論社:『現代アメリカ経済』	萩原伸次郎、中本悟	201～225
「経済摩擦と構造調整」	分担執筆	2005.8	有斐閣:『国際経済政策論』	新岡智、板木雅彦、増田 正人	151～168

「双子の赤字とプラザ合意」	分担執筆	2005. 8	有斐閣:『国際経済政策論』	新岡智、板木雅彦、増田正人	135～150
アメリカ通商政策と覇権	分担執筆	2007.11	同文館出版:『国際経済関係の焦点—揺れる覇権と通貨—』	新岡智・上川孝夫	第4章

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
アメリカ経済再編と市場主義—「ニュー・エコノミー」の本質—	2004. 6	西南学院大学論集:第39巻第1号	235～298
アメリカ通商システム再編と「新しい」国際分業	2004. 9	西南学院大学論集:第39巻第2号	133～175
アメリカ通商政策と貿易自由化—貿易自由化をめぐる労使間妥協枠組みの弱体化—	2006.12	西南学院大学論集:第41巻第3号	121～145

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 5. 8	西南学院大学 公開講座「経済と経済学の現在」第2回担当	西南学院大学

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 6.14	陳友駿氏 「米中間の反ダンピング紛争」に対する討論	日本国際経済学会 第50回関西支部総会
2008.10.12	中本悟氏 「アメリカにおけるオフショアリングの展開」に対する討論	日本国際経済学会 第67回全国大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 教授	氏名 上垣 彰 (4209)	大学院における研究指導担当資格 有
---------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ミニレポートの活用	2003. 4 ~	授業科目「比較経済体制論」において、毎回授業の最初に授業内容に関する課題を出して学生にミニレポートとして書かせ、翌週にその内容について批評している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールを活用した授業サポート	2003. 4 ~	ゼミに関しては、メールによる参考文献の紹介、論文指導等を適宜行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目「比較経済体制論」、「世界と日本の経済」、「経済英語」について授業時間を使って授業評価を行い、講義の改善に努めている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ロシア・東欧経済	共著	2004.10	日本国際問題研究所	西村 可明(編者)	143~164
ロシア・東欧経済論	共著	2004.11	ミネルヴァ書房	大津 定美、吉井 昌彦 (編者)	107~128
経済グローバリゼーション下のロシア	単著	2005.12	日本評論社		314
Central and Eastern Europe under the Globalization of the International Financial Market	分担執筆	2005. 4	Slovak Foreign Policy Associatin and Slavic Research Center: 『Regional Integration in the East and West: Challenge and Responsess』	Alesander Duleba Tadayuki Hayashi (eds.)	173~199
『ルーマニアを知るための60章』六鹿茂夫(編)	分担執筆	2007.10	明石書店:明石書店 エリアスタディーズ66	上垣彰	316-323, 328-331

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
東欧後進国家と EU: ルーマニアを例として	2006. 3	西南学院大学論集: 第40巻第4号	1~18
旧ソ連における「ロシア貿易」: 推計	2007.12	西南学院大学論集: 第42巻第3号	179~212

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
プーチン「強権政治」—5つのスタイル	単著	2006. 7	毎日新聞社:エコノミスト		36~38
Population,Labor Force,and Social Disparity in Romania	単著	2006. 7	Maruzen Co,Ltd:Economics of Intergenerational Equity in Transition Economics	M.Kuboniwa,Y.Nishimura	277~295

ルーマニアにおける年金改革	共著	2006.11	ミネルヴァ書房:移行経済国の年金改革	西村可明(編著)	187~206
国際社会のグローバル化	単著	2007. 9	法律文化社:『新時代の国際関係論:グローバル化のなかの「場」と「主体」』第3章	高田和夫(編著)	51~76
ロシアからの資本逃避	単著	2008. 6	北海道大学出版会:田畑伸一郎編著『石油・ガスとロシア経済』第7章	上垣彰	151~174
「比較の意義について:経済学の立場から」	単著	2009. 1	:『比較経済研究』第46巻(1号)	上垣彰	35~51

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 5.31	比較の意義について	比較経済体制学会
2008. 8.29	Fiscal Policy under Budget Surplus and Balance of Payments Surplus in Russia	10th Bi-annual Conference of European Association for Comparative Economic Studies
2008.11.21	Russia's International Financing under High Oil Price	National Convention of the American Association for the Advancement of Slavic Studies
2008.12. 5	EU Integration and "Backwardness" of New Member States: In Case of Romania and Bulgaria	Slavic Research Center Workshop on "Post-Communist Transformations: the Countries of Central and Eastern Europe and Russia in Comparative Perspective"
2009.10. 1	International Labor Movement in Wider Black Sea Region	International Conference on the Black Sea International Relations
2009.10.17	金融危機・石油価格下落下のロシア経済	ロシア東欧学会

社会活動

期間	活動内容
2004. 6 ~ 2005. 6	『比較経済体制学会年報』編集委員長
2008. 4. 1 ~	北海道大学スラブ研究センター運営委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 李 善英 (4231)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 4 ~	授業評価を実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施	2007. 4 ~	『授業科目:国際経済学・経済英語』学期中に20分位の小テストを2回実施して、授業内容の理解度を確認している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2007. 4 ~	『授業科目:国際経済学』メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2007. 4 ~	『授業科目:ゼミナール』メールでの課題の受付によって添削などのやり取りを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2007. 4 ~	『ミクロ経済学実習』毎回問題のプリントを作成し、配布を行っている。。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2007. 4 ~ 2007. 9	『国際経済学』講義内容に沿ったデータ、時事問題などのプリントを作成し、配布を行った。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
釜山の貿易構造—対日貿易を中心として—	単著	2006. 6	慶星大学校出版部:慶星大学校産業開発研究所商経研究第22巻1号		37~61

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 石塚 史樹 (4232)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 演習時における特別知識の伝授	2009.4～	演習(三年)の授業において隔週で独語の新聞を読解する(特に経済記事)トレーニングを開始した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館サービスの活用	2009.5～	演習(四年生)の授業において、論文作製の為の資料データベース検索を教授する図書館(西南学院大)のサービスを利用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア機器の活用	2009.6～	ヨーロッパ経済論の授業において、マネージャー層の労働の状況を見せるために、独のDVDを視聴させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作製	2007.4～2008.2	ヨーロッパ経済論においてドイツのマネジメントについて講義するために教科書『現代ドイツ企業の形成と変容』を作製した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 公開講座での講義	2008.6～	一般客向けに2008年6月の公開講座(西南学院大)において、欧州の成果主義賃金について講義した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『現代日本企業:企業体制』第6章「日本の労使関係と企業再構築」(長谷川治清著)	共著	2005.12	有斐閣	工藤章、桶川 武郎、グレ ン. D. フック	151～176
『現代日本企業:グローバル・レビュー』第3巻第5章「アメリカ:電気通信市場規制における米独自比較」(マーク. C. ティルトン著)	共著	2006.3	有斐閣	工藤章、桶川 武郎、グレ ン. D. フック	119～142
現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容	単著	2008.2	明石書店		268
「ドイツ管理層職員による労使関係の展開」(柴田徳太郎編『制度と組織の歴史分析』第2部「多様な労使関係の分析」第4章	共著	2007.6	桜井書店:柴田徳太郎編『制度と組織の歴史分析』第2部「多様な労使関係の分析」第4章著書	石塚史樹	pp.197-235(39頁)

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
1990年代における旧東ドイツ地域の管理層職員の雇用条件:化学産業の事例	2005.6	西南学院大学論集:第40巻第1号	1～28

事業再構築がドイツ管理層職員の雇用に与えた影響	2005.10	西南学院大学論集:第40巻第2号	1~46
Der Wirtschaftswandel und die deutschen Manager	2006. 9	西南学院大学論集:第41巻第2号	1~37
グローバリゼーション下におけるドイツ手工業 (Handwerk)の展開	2008. 9	西南学院大学論集:第43巻第1・2合併号	1~35

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
検証:ジャパン・ポスト・システム	単著	2008.11	東京市政調査会:都市問題(東京市政調査会)Vol. 99, No. 11	石塚史樹	pp. 70-81
事業再構築におけるドイツ管理層職員の俸給構造の変 動:BASF社の事例	単著	2008.12	法政大学大原社会問題研究所:大原社会問題研究所雑 誌2008年特別号(No. 602)	石塚史樹	pp. 2-32

講演会

開催日時	講演名称	場所
2009. 2.23 ~ 2009. 2.24	1990年代におけるドイツ管理層職員の状況	東京大学大学院経済学研究科

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 2. 3	「ドイツ、ヘキスト社における事業再構築と管理層職員」	社会政策学会九州部会
2007.12. 8	事業再構築における管理層職員の俸給構造の変動	日本国際経済学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 経済学部	職名 准教授	氏名 三宅 伸治 (4233)	大学院における研究指導担当資格 無
---------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2005. 4 ~ 2006. 1	授業科目「経済政策II」,「外書講読I」,「演習I」,「演習II」:メールによる質問を受け付け, 授業内容の理解を助けた.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 使用するレジュメのWeb上での配布	2005. 4 ~ 2006. 1	授業科目「経済政策II」: 講義で使用するレジュメ・資料をWebページでダウンロードできるようにした.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006. 4 ~ 2007. 1	授業科目「経済政策I」,「演習I」,「演習II」:メールによる質問を受け付け, 授業内容の理解を助けた.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 政府が開設したwebページの活用	2006. 4 ~ 2007. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」: 制度的な解説・データについては, (とくに近年の制度変更等については)官庁の発表資料をあわせて紹介した.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 使用するレジュメのWeb上での配布	2006. 4 ~ 2007. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」: 講義で使用するレジュメ・資料をWebページでダウンロードできるようにした.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 使用する資料等のWeb上での配布	2008. 4 ~ 2009. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」において, 配布資料をMoodle上で事前配布することにより, 講義時間を有効に利用した.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 公的機関の作成したwebページの活用	2008. 4 ~ 2009. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」において, 教科書の解説と平行して, 財務省, 日本銀行等が公表する最新のデータを紹介・解説した.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新聞記事の活用	2008. 4 ~ 2009. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」において, 教科書の解説と平行して, ほぼ全ての項目について, 関連する新聞記事を紹介し, 理論モデルが, 現実経済の問題をどのように抽象化しているかを解説した.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 電子メールによる授業サポート	2008. 4 ~ 2009. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」,「演習I」,「演習II」において, メールによる質問を受け付け, 授業内容の理解を助けた.
2 作成した教科書,教材,参考書 新聞記事の活用	2005. 4 ~ 2006. 1	授業科目「経済政策II」: 解説する理論モデルに対応する現実経済の問題を, 新聞記事の中から探し, 配布・説明した.
2 作成した教科書,教材,参考書 新聞記事の活用	2006. 4 ~ 2007. 1	授業科目「経済政策I」,「マクロ経済学II」: 解説する理論モデルに対応する現実経済の問題を, 新聞記事の中から探し, 配布・説明した. 理論モデルの丸暗記防止に役立てた.

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Adjustment Costs for Employment in a Search Equilibrium Model: A Steady State Analysis	2007. 2	西南学院大学論集: 第41巻第4号	27~38
失業と経済成長: 若年失業と中高年失業を区別した世代重複モデルによる分析	2007.12	西南学院大学論集: 第42巻第3号	45-70

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
(研究ノート)“Bargaining Power, Elasticity of Substitution, and Economic Growth in a Simple Overlapping Generation Model”	単著	2005. 3	: 社会科学研究(釧路公立大学紀要)第17号		77~87

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10.29	労働部門選択、所得配分と経済成長	西日本理論経済学会
2007. 6. 9 ~ 2007. 6.10	失業と経済成長: 世代重複モデルによる分析	日本応用経済学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 石森 久広 (5101)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『行政救済法』につき授業評価を行い、全学結果との比較において自己の分析を行い、授業改善に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	『専門演習Ⅱ』『専門演習Ⅲ』においてメーリングリストを作成し演習テーマの相談やゼミのフォローを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	『法と行政活動(法科大学院)』につき授業評価を行い、FD研究会で自己の分析を行うとともに、コメントを学生に示して次年度への対応に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	『行政法総論』につき授業評価を行い、全学結果との比較において自己の分析を行い、授業改善に役立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~	『行政法総論』『行政救済法』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2004. 4 ~	『法と行政活動(法科大学院)』 予習項目を含む講義概要を示したレジュメを作成し、授業前に学内教育支援システムにアップロードしている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
政策法務の道しるべ—憲法が考える法律と条例の関係	単著	2008. 8	仮登録		120頁
「財政のコントロール」ファンダメンタル地方自治法	分担執筆	2004. 4	法律文化社:	高田敏 村上武則	300~306
「第10章 新税条例」政策法務の新展開	分担執筆	2004.11	ぎょうせい:	磯崎初人	389~400
「第20章 損失補償」ケースブック行政法(第2版)	分担執筆	2005. 3	弘文堂:	芝池義一 高木光	415~432
「財政民主主義」財政法の基本課題	分担執筆	2005. 5	勁草書房:	日本財政法学会	21~35
新法律用語を学ぶ人のために	分担執筆	2007. 5	世界思想社:	大野真義=中川淳編集代 表	計30項目

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
国民健康保険事業の保険者の地位	単独執筆	2006. 5	有斐閣:行政判例百選 I (第5版)別冊ジュリストNo. 181		4-5
土地開発公社買収価格・補償価格情報関係文書	単独執筆	2006. 6	行政管理研究センター:季報 情報公開・個人情報保護 vol.21		12-16
公益法人が行った鯨類捕獲調査の調査要綱、結果報告書等	単独執筆	2006. 9	行政管理研究センター:季報 情報公開・個人情報保護 vol.22		17~21
県が元議員の構成団体に行った補助金が公益上の必要性を欠くとして違法とされた事例	単独執筆	2006. 9	第一法規:法令解説資料総覧No.296		78-80
訴訟記録に記載された氏名等・押印された個人の印影	単独執筆	2006.12	行政管理研究センター:季報 情報公開・個人情報保護 vol.23		12~16
事業用地・代替地の取得価格等に関する文書	単独執筆	2007. 3	行政管理研究センター:季報 情報公開・個人情報保護 vol.24		12~16
省エネ法に基づく定期報告書数値情報	単独執筆	2008. 6	行政管理研究センター:季報情報公開個人情報保護 Vol.29		28-32頁
「決算審査の法意」	単独執筆	2008.12	有斐閣:憲法の争点新・法律学争点シリーズ3	大石眞・石川健治(編)	304-305
農薬薬効試験成績記載文書の開示決定に対する第三者の取消請求	単独執筆	2009. 3	行政管理研究センター:季報情報公開個人情報保護 Vol.32		**

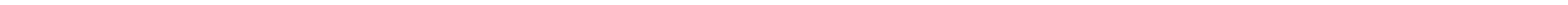
講演会

開催日時	講演名称	場所
2008.10. 9	「家庭の教育力、地域の教育力」	伊万里市立黒川小学校
2009. 1. 8	「政策法務について」	福岡市役所
2009. 2.19	「政策評価の質の向上」(総務省パネルディスカッション)	名古屋市

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2004. 9 ~ 2005. 2	熊本市自治基本条例作定アドバイザー
2004.11	中核市サミット2004 in 宮崎コーディネーター
2005. 6 ~	九州管区行政評価局苦情処理推進会議委員
2006. 4. 1 ~	情報公開・個人情報保護審査会委員(宇土市、荒尾市、久山町、篠栗町、宇美町、福岡地区水道事業団)
2006. 4. 1 ~	総務省九州管区行政評価局苦情処理推進会議委員
2006. 4. 1 ~	熊本県介護保険審査会委員
2006. 6. 1 ~	宗像市市民参画等推進審議会
2006.10. 1 ~	福岡市コミュニティ関連施策のあり方検討会委員
2008. 8. 1 ~	福岡市指定管理者選定委員会委員



1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 神宮 典夫 (5102)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの利用	2003. 4 ~	『授業科目:法制史』毎年、数回、ビデオを利用して、イメージしにくい古代ローマについて、学生が理解できるよう、工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:法制史』毎年、6月の講義において授業評価を実施し、講義の改善に努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	『授業科目:イタリア語B2』毎年10月の講義において授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの利用	2004. 4 ~ 2005. 3	『ラテン語初級I』数回、ビデオを利用して、古代ローマ社会について、学生が理解できるように工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの利用	2005. 4 ~ 2006. 3	『ラテン語初級II』数回、ビデオを利用して、古代ローマ社会について、学生が理解できるよう工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの利用	2006. 4 ~ 2007. 3	『ラテン語初級I』数回、ビデオを利用して、古代ローマ社会について、学生が理解できるよう工夫した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの利用	2007. 4 ~	『ラテン語初級II』数回、ビデオを利用して、古代ローマ社会について、学生が理解できるよう工夫している。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Pensiero dell' epoca di Edo— Confucianesimo, illuminismo e il pensiero della rivoluzione.	単著	2004.12	: Universit di Torino, Rivista di Diritto Romano 2004-V		1~13
Guerra e pace Nella Costituzione giapponese		2006.12	G.Giappichelli: Diritto Pubblico Comparato ed Europeo 2006-IV		1466~1491

講演会

開催日時	講演名称	場所
2004.12	アレキサンドリア大学(イタリア) 主催学術講演会	アレキサンドリア大学(イタリア)
2005. 3	トリノ大学(イタリア) 憲法学 研究室主催学術講演会	トリノ大学(イタリア)
2005.12.16	ミラノ大学法学部ローマ 法研究室主催学術講演会	ミラノ大学(イタリア)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 3.15	Storia dell'universita in Giappone - Dal punto di vista dell'insegnamento e degli studi	Convegno dello scambio universitario

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 菊池 高志 (5103)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	[授業科目; 個別的労使関係法 団体的労使関係法] 講義期間途中で受講生アンケートを実施し、理解度を確かめるとともに、講義進行の再検討を行う。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	[授業科目; 個別的労使関係法 社会保障法] 最終講義の際に全学統一の学生授業評価に参加している。
2 作成した教科書、教材、参考書 段階的習得指導	2003. 4 ~	[授業科目; 個別的労使関係法 社会保障法] 講義期間中に複数回のクイズを実施し、習得知識確認を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義要旨の配布	2003. 4 ~	[授業科目; 個別的労使関係法 団体的労使関係法 社会保障法] 毎回の講義概要・重点事項のプリント配布を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義テキストの改訂	2005. 4 ~	[授業科目; 個別的労使関係法 団体的労使関係法] 1999刊行の講義テキスト第4版
2 作成した教科書、教材、参考書 レポート添削	2006. 4 ~	[授業科目; 専門演習 I、II] 毎回の提出レポートにコメントを加えて返却し、随時、レポートの書き方の個別指導を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義テキストの改訂	2008. 4 ~	[授業科目; 個別的労使関係法 団体的労使関係法] 1999刊行の講義テキスト第4版の補遺

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
高年齢者雇用—政策の到達点—	単著	2005. 5	日本評論社: 法律時報77巻 5号		38~43

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 小山 雅亀 (5104)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4. 1 ~ 2007. 7. 20	「刑事訴訟法」大学が実施する授業評価を実施するとともに、法学部独自の「ご意見頂戴」という独自の授業評価も行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義の参考となる資料の作成	2005. 4. 1 ~ 2007. 7. 20	「刑事訴訟法」刑事手続の実際が理解できるように資料を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 設問の作成	2005. 4. 1 ~ 2007. 7. 20	「専門演習ⅠおよびⅡ」各班が検討して報告すべき設例を実際の事件を参考に して作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 六法の編集	2003. 4. 1 ~ 2007. 7. 20	「刑事訴訟法」『模範六法』(三省堂)の刑事訴訟法の編についての編集に協力して いる。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 現場の体験	2003. 4. 1 ~ 2007. 7. 20	「刑事訴訟法」「専門演習Ⅱ」講義科目である「刑事訴訟法については、刑事裁判を 傍聴してレポートを提出することを課題として課し、ゼミナールである「専門演習Ⅱ」 においては、参考となる事件の——それが可能であることを前提に——現場(ない し関連場所)の取材を求めている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
第2編公訴第1章基本原則および第2章起訴手続	分担執筆	2006. 6	青林書院:現代青林講義・刑事訴訟法『第3版』	庭山英雄=岡部泰昌編	101~117

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
イギリスの刑事訴追制度の変容(補論) —2003年刑事司法法施行後の訴追方式について—	2007. 3	西南学院大学論集:第39巻第1号	61~82
イギリス検察庁の現在—ウェストミッドランド地区主席 検事とのインタビュー—	2008.11	西南学院大学論集:第41巻第1・2合併号	144~180
イギリスにおける告発(charge)の前と後(上)—2008年 反テロリズム法(The Counter-Terrorism Act 2008)を素 材に—	2009. 3	西南学院大学論集:第41巻第3・4合併号	33~158

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

2004年学界回顧・刑事訴訟法	共著	2004.12	日本評論社法律時報:76巻 13号	山名京子 共著	209～217
写しの証拠能力	単著	2005. 3	有斐閣:ジュリスト別冊刑訴法判例百選(第八版)		196～197
2005年度学界回顧・刑事訴訟法	共著	2005.12	日本評論社:法律時報77巻13号	山中京子共著	217～227
刑事訴訟法編の部分の編集	共同執筆	2007. 1	三省堂:模範六法平成19年度版平成19年度版	大須賀明他	2571～2828
伝聞法則の再構築	単著	2007. 5	日本評論社:刑事司法改革と刑事訴訟法下巻	村井敏邦他編	276～313

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2006. 4. 1 ～ 2007. 6.30	福岡県弁護士会綱紀委員会委員
2008.12 ～ 2009. 3	福岡県弁護士会綱紀委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 毛利 康俊 (5105)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2001.4～	『授業科目:法哲学』半期に一回自由記述式の授業評価を実施し、講義の改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005.4～	『授業科目:法律学の基礎』半期に一回マークシート式の授業評価を実施し、講義の改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課題添削	2005.4～	『授業科目:法律学の基礎』SAと協力しほぼ毎回課題添削を行っている(科目を担当した2005, 2007年)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施	2007.4～2009.1	『授業科目:法哲学』ほぼ毎回記述式の小テストを課し、次回に解答例を示している
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの作成	2001.4～	『授業科目:法哲学』講義概要を示したプリントを作成し配布を行っている
2 作成した教科書、教材、参考書 テキストの作成	2005	『授業科目:法律学の基礎』テキストを学内出版し毎回使用している
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの作成	2006.4～2006	『授業科目:法的文書処理法入門』講義概要を示したプリントを作成し配布を行っている
2 作成した教科書、教材、参考書 テキストの作成	2007.4～2008.1	『授業科目:法的文書処理法入門』テキストを学内出版し毎回使用している
4 その他の教育活動上特記すべき事項 学部FD委員会委員	2007.10～2009.6	委員としての活動

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ブリッジブック法哲学	分担	2004.9	信山社:		83～116

バーチャル体験 法学部ルーキー養成講座 第1章＝ 六法を引くコツを教えてあげよう	単著	2005. 4	日本評論社: 法学セミナー605号		
ルーマン 法と正義 のパラドクス	共訳	2006. 2	ミネルヴァ書房:	グンター・トイプナー編 土 方透監訳	156～202
「公共政策と生命倫理」の項	分担	2007. 1	丸善: 生命倫理百科事典第Ⅱ巻	日本生命倫理学会(著), 生命倫理百科事典 翻訳 刊行委員会(編集)	1048～1056
システム理論入門	共訳	2007. 4	新泉社:	ニクラス・ルーマン著 土 方透監訳	70～190
法的思考と司法的裁定、概念法学とその批判、ルール 懐疑主義とは、法律学における「議論」、日本における 法解釈論争、法解釈における利益衡量論、憲法判断 の方法、司法的裁定と判例の役割	分担執筆	2007. 5	ミネルヴァ書房: よくわかる法哲学・法思想1	深田三徳・濱真一郎	134～139, 146～ 155
ざわめきとしての法 — システム論的 legalization の再定 位のために —	単独執筆	2007. 9	有斐閣: 法社会学67号	毛利康俊	109～122

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「法律学の基礎」新設の経緯	2005. 7	西南学院大学論集: 第38巻第1号	113～117
西南カップについて	2005.10	西南学院大学論集: 第38巻第2号	13～19
リスク社会における科学評価のための法制度設計をめ ぐって—ルーマン派システム論アプローチの新展開と その周辺	2006. 2	西南学院大学論集: 第38巻第3・4合併号	1～102
SA制度の導入について	2006. 2	西南学院大学論集: 第38巻第3・4合併号	161～167

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2003. 5 ～ 2005. 4	筑紫野市政治倫理審査会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 奥 博司 (5106)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2003. 4 ~	特に目新しいことは行っていないが、強いて言えば学生の反応に留意しており、すべての授業において授業終了後、教室からゆっくり退出し、学生が質問に来やすい雰囲気作りに努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2003. 4 ~	すべての授業において、up-to-date toな社会的事件を素材に試験問題作りを行うよう努め、過去問をホームページに掲載している。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
金員の流用あるいは「詐取」を理由に懲戒解雇された事案における最近の裁判例 - ある労働仮処分事件の考察のための研究ノート -	2006. 2	西南学院大学論集: 第38巻第3・4合併号	103~120

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2006. 4 ~	熊本家庭裁判所家事調停委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 齊藤 芳浩 (5107)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	授業科目:憲法1 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008. 4 ~	授業科目:外国法1最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントを作成	2004. 4 ~	授業科目:憲法1 憲法2 外国法1 講義概要を示したプリントを作成し、配布を学内のインターネットを通じて毎回行っている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
裁判による条約の審査について(一)—統治行為論の射程—	2007. 8	西南学院大学論集:第40巻第1号	1~93
裁判による条約の審査について(二)—統治行為論の射程—	2007.11	西南学院大学論集:第40巻第2号	65~98
裁判による条約の審査について(三)・完—統治行為論の射程—	2008.11	西南学院大学論集:第41巻第1・2合併号	1~80

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「集会の自由と公園の使用不許可—皇居前広場事件」	単独執筆	2007. 2	有斐閣:高橋和之ほか編『憲法判例百選[第5版]』	齊藤芳浩	176~177
「私人間効力論の考察」	単独執筆	2007. 5	成文堂:佐藤幸治ほか編、阿倍照哉先生喜寿記念論文集『現代社会における国家と法』	齊藤芳浩	271~311
私人間効力論再考	単独執筆	2008.12	九州法学会:九州法学会会報2008年度		28~32

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 6.28 ~ 2008. 6.29	私人間効力論再考	九州法学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 坂梨 喬 (5108)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008. 4 ~	2008年に授業評価を行い授業の改善にやくだてている。また、授業の最後に質問の時間帯を設けて質問に応じたり、研究室への来室を奨励している。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代家事調停論	単著	2007. 8	判例タイムズ社:判例タイムズ1237号		48

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008.10.23	ニュースで見る法律問題 家族の変貌	西南コミュニティセンター

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2008. 1 ~ 2009.12	社団法人福岡県社会福祉士会 苦情解決委員会 第三者委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 勢一 智子 (5109)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003.4～	講義科目・演習科目すべての授業において、授業時間外のサポートとしてメールを活用している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業アンケートの実施	2003.4～	講義科目:行政法総論・行政救済法において学期途中に授業アンケートを実施し、授業の改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学外講師による特別講義	2003.4～	講義科目:行政法総論・行政救済法において、公務員などを招き、行政実務に触れる機会を積極的に作っている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) WebCTの活用	2007.4～	WebCTにより授業資料を事前に配布するなど、学生の授業への積極的な取り組みを促している
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要レジュメの作成	2003.4～	講義科目:行政法総論・行政救済法を中心に、講義概要を示したプリントを配布している
2 作成した教科書、教材、参考書 最新の立法・政策に関する資料の作成	2003.4～	講義科目・演習科目すべてにおいて、最新の行政動向につき、頻繁に関連資料の作成・配布を行っている
2 作成した教科書、教材、参考書 判例解説・用語集等の執筆	2004.4～	行政法判例百選などにおいて判例解説および法律専門用語などを解説した用語集等を執筆・編集し、それを教材として授業で使用している

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
確認・環境法用語230	共著	2009.1	成文堂	黒川哲志・奥田進一・大杉麻美・勢一智子編	
自然起因の健康リスク管理のための法政策－花粉起因リスクを素材として	分担執筆	2009.6	(社)産業環境管理協会:環境ビジネスリスクー環境法からのアプローチ	松村弓彦編	179－198

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

補償原則—ドイツ環境法にみる持続的発展のための調整原理	2004.10	西南学院大学論集:第37巻第1号	85~108
行政計画のグリーン化の法構造—ドイツ戦略的環境アセスメント導入法を素材として	2005.10	西南学院大学論集:第38巻第2号	15~59
Zu den rechtlichen Grundlagen des japanischen Entsorgungssystems fuer Siedlungsabfaelle	2006. 9	西南学院大学論集:Vol. 39, No. 2	75~91
協働型政策決定の法構造—自然再生推進法を素材として—	2009. 3	西南学院大学論集:第41巻第3・4合併号	197~238

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
戦略的環境アセスメントの意義と課題—環境配慮型行政システムの制度設計	単著	2005. 4	(社)産業環境管理協会:環境管理41巻4号		68~78
ドイツ戦略的環境審査導入のための国内法適合化法案	単著	2006. 3	(社)商事法務研究会:平成16年度世界各国の環境法制に係る比較法調査報告書		121~160
公有水面埋立免許と第三者の原告適格	単著	2006. 6	有斐閣:行政判例百選II(第5版)		348~349
自然保護の社会化への展開—自然保護法制における公用制限と損失補償	単著	2006.11	(社)産業環境管理協会:環境管理42巻11号		63~69
ドイツ一般廃棄物埋立令	単著	2007. 3	(社)商事法務研究会:平成17年度世界各国の環境法制に係る比較法調査報告書		129~148
ドイツ地下水制度	単独執筆	2007. 4	(社)環境情報科学センター:平成18年度地盤沈下対策再評価検討調査報告書—		2-100~2-114
住民監査請求期間徒過の正当理由	単独執筆	2007. 5	有斐閣:民商法雑誌135巻6号		1126-1132
収集運搬業許可取消処分請求事件(名古屋高金沢支判平成17年8月29日)	単独執筆	2007. 8	(社)全国産業廃棄物連合会:INDUST(いんだすと)22巻8号		5-7
産業廃棄物収集運搬業許可取消処分取消請求控訴事件	単独執筆	2008.11	有斐閣:環境法研究33号		161-175
花粉起因の健康リスク管理のための法政策のあり方	単独執筆	2008.12	(社)産業環境管理協会:環境管理44巻12号		57-66
ドイツ容器包装廃棄物令第5次改正	単独執筆	2009. 3	(社)商事法務研究会:平成20年度世界各国の環境法制に係る比較法調査報告書		69~93

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 1.29	ドイツ戦略的環境審査導入のための国内法適合化法案	平成16年度世界各国の環境法制に係る比較法調査研究会
2006. 4.22	ドイツ一般廃棄物埋立令について	平成17年度世界各国の環境法制に係る比較法調査研究会
2007. 6.16	収集運搬業許可取消処分請求事件(名古屋高金沢支判平成17年8月29日)	人間環境問題研究会

2007.11.17	自然再生推進法の課題	人間環境問題研究会
2009. 3.18	ドイツ容器包装廃棄物令第5次改正	平成20年度世界各国の環境法制に係る比較法調査研究会
2009. 8.31 ~ 2009. 9. 1	福岡地域における審査会の運用と課題—開示請求制度と審査会体制の相関性から	第7回情報公開・個人情報保護審査会等委員交流全国フォーラム

社会活動

期間	活動内容
2004. 6 ~ 2005. 6	古賀市補助金等検討委員会委員
2004. 8. 1 ~	福岡県市町村合併推進審査会委員
2004.10 ~	春日市個人情報保護審査会委員
2004.10 ~	春日・大野城・那珂川消防組合個人情報保護審査会委員
2004.10. 1 ~	福岡県個人情報保護審議会委員
2006. 7. 1 ~ 2006.12.31	福岡県共同公文書館基本構想検討委員会委員
2007. 1.14 ~	福岡県公害審査会委員
2007. 8. 1 ~	福岡市情報公開審議会委員
2008. 7. 1 ~	北九州市環境影響評価審査会委員
2008.12.24 ~	福岡県入札審議委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 田中 英司 (5110)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004.4 ~ 2005.3	講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4 ~ 2007.9	演習の最後15分間を使って、授業評価を実施し、演習の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したレジュメの作成	2004.4 ~ 2009.5	講義概要を示したレジュメを作成し、配布した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
ドイツにおける民法上の所有権の概念・内容と、所有権と不動産利用権との法的関係—現在の学説の概観的な確認とヨホウ物権法部分草案の検討—	2005.3	西南学院大学論集:第37巻第4号	258~282
住居をめぐる所有権と不動産利用権との法的関係の—断面(一)—ドイツの裁判例を素材として判断枠組みの再構成を模索する—	2006.2	西南学院大学論集:第38巻第3・4合併号	35~57
住居をめぐる所有権と不動産利用権との法的関係の—断面(二)—ドイツの裁判例を素材として判断枠組みの再構成を模索する—	2007.11	西南学院大学論集:第40巻第2号	1~45
住居をめぐる所有権と不動産利用権との法的関係の—断面(三)—ドイツの裁判例を素材として判断枠組みの再構成を模索する—	2008.3	西南学院大学論集:第40巻第3・4合併号	17~58
住居をめぐる所有権と不動産利用権との法的関係の—断面(四)—ドイツの裁判例を素材として判断枠組みの再構成を模索する—	2008.11	西南学院大学論集:第41巻第1・2合併号	81~113

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

一 賃借権の目的である土地と他の土地とにまたがって建築されている建物について、借地権設定者が、借地借家法二〇条二項、一九条三項に基づき、自ら当該建物及び賃借権の譲渡を受ける旨の申立てをすることは許されないものと解された事例(①事件)

二 賃借権の目的である土地と他の土地とにまたがって建築されている建物について、借地権設定者が、借地借家法一九条三項に基づき、自ら当該建物及び賃借権の譲渡を受ける旨の申立てをすることは許されないものと解された事例(②事件)

単著

2008.10

判例時報社:判例時報2011号(判例評論596号)

188~193

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 遠藤 美奈 (5131)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 裁判傍聴	2003.4～	演習科目において刑事裁判を傍聴している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの視聴	2003.4～	講義の内容に関連するビデオ教材を随時視聴している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 時事問題の解説	2003.4～	日常的に生じている憲法に関する時事問題を、講義中に解説している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールの活用	2003.4～	学生の質問および演習履修生のレジュメの添削にメールを利用している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レジュメの配布	2003.4～	講義内容の理解に資するため、講義内容をとりまとめたレジュメを配布している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) グループワーク	2003.4～	学生の自主的な学習を促進するため、演習ではグループワークをとりいれている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業アンケートの活用	2003.4～	少人数授業以外で授業アンケートを行い、学生の反応の把握と授業の質の向上に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディベート学習	2003.4～	論理的思考能力とプレゼンテーション能力を向上させるため、演習科目でディベートを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) OHCの利用	2003.4～	大教室講義においてOHCを利用し、写真・統計資料・政府組織図などの視覚資料や、法律条文、政府見解、重要語彙などをプロジェクターで提示している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 刑務所参観	2003.7～	演習科目において刑務所を参観している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地方自治体議会傍聴	2003.12～	演習科目において地方議会の審議を傍聴した。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レジュメのweb上での配布	2006.4～	[授業科目:憲法Ⅰ・Ⅱ、法律学の基礎]レジュメをwebCTシステムを通じて、学生にweb上で配布している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課題の添削	2006.5～2006.7	[授業科目:法律学の基礎]基礎科目において毎週課題を出題し、翌週添削を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 合同ゼミ	2006.11～	演習科目において学内の他ゼミおよび他大学法学部のゼミと合同ゼミを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レポート提出	2007.4～	基礎演習科目において感想文と論文2種類のレポートを提出させ、両者の差異を身につけさせている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義レジュメのWebによる配布	2007.9～	講義レジュメを事前にWebで配布し、学生の予習に資するとともに配布時間をなくすことで授業時間を確保している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメ	2003.4～	[授業科目:憲法Ⅰ・Ⅱ]講義のポイントを示すレジュメを作成している。
2 作成した教科書、教材、参考書 川岸令和・君塚正臣・藤井樹也・遠藤美奈・高橋義人『憲法[新版]』青林書院	2005.3.31	[授業科目:憲法Ⅰ・Ⅱ]講義の教科書として使用している。執筆担当部分:第2章 日本憲法史、第8章 経済的自由権、第9章 社会権、第12章 国会、19-28、163-195、237-265頁
2 作成した教科書、教材、参考書 富田麻理・横尾亘・田中慎一・釜谷真史・毛利康俊・相田芙美子・遠藤美奈・平井佐和子・山田憲一『西南学院大学法学部基礎演習資料集[第2版]』西南学院大学法学部	2006.4.1～	[授業科目:基礎演習]基礎演習指導用の資料集を作成し、活用した。執筆担当部分:第4章2. 市議会を傍聴しよう 76-78頁
2 作成した教科書、教材、参考書 一ノ澤直人・大下英希・田中慎一・遠藤美奈・富田麻理・横尾亘・釜谷真史・毛利康俊・前田敦・相田芙美子・平井佐和子・山田憲一『西南学院大学法学部演習資料集』西南学院大学法学部	2007.3.31～	[授業科目:演習]演習指導用の資料集を作成し、活用している。執筆担当部分:第1章 演習ってなに?、第7章2. 市議会を傍聴しよう、3-5、113-117頁
4 その他の教育活動上特記すべき事項 学内法律討論会における出題	2006.12.21	2006年度学内法律討論会(西南カップ)の討論課題(憲法)を作成し、出題した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座	2007.11.8～	西南学院大学2007年度後期公開講座「第5回 憲法を読んでみよう」

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

『憲法〔新版〕』担当部分:第2章 日本憲法史 第8章 経済的自由権 第9章 社会権 第12章 国会	共著	2005. 3	青林書院	川岸令和・遠藤美奈・君塚 正臣・藤井樹也・高橋義人 編	19~28、155~ 185、225~252
『日本国憲法』担当部分:「人間はみな平等」「憲法の禁 止する差別」「男女は平等」 「人間らしい生活をする権利」「生存権」「教育をうける 権利」「はたらく権利」 「はたらく人の権利」「国民の3つの義務」	分担執筆	2005. 3	ポプラ社:	共著者:五十嵐清治、笠 原秀、金井光男、浜憲治 監修:角替晃	88~103、116、117
社会権・生存権	分担執筆	2007. 2	法律文化社:現代社会保障・福祉小事典	佐藤進・小倉襄二監修、 山路克文・加藤博史編	8~9
「第10章 フィンランド憲法の歩み——ランド法から『フィン ランド基本法』まで」、「第11章 フィンランドの地方自 治——『住民の共同体』の分権と自立」、「第12章 ス ウェーデン語系住民の地位——二つの『国語』と言語 への権利」、「第13章 非武装と自治の島々——オーラ ンド諸島」	分担執筆	2008. 7	明石書店:フィンランドを知るための44章	百瀬宏・石野裕子編著	116-142

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
クオータ・民主主義・平等—フィンランドにおける普通選 挙権・女性参政権100年によせて	2006. 6	西南学院大学論集:第39巻第1号	1~39
解題:講演「『人間の尊厳についての三つのアプロ ーチ』講師 遠藤比呂通先生」	2008.11	西南学院大学論集:第41巻第1・2合併号	115~118

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「在外被爆者の健康管理手当受給権—在外被爆者手 当長崎訴訟控訴審判決」	単著	2005. 3	旬報社:賃金と社会保障1390号		
憲法に25条がおかれたことの意味—生存権に関する 今日的考察—	単著	2006. 3	国立社会保障・人口問題研究所:季刊社会保障研究41巻 4号		334~347
国民健康保険料と憲法84条	単著	2007. 4	有斐閣:ジュリスト臨時増刊 平成18年度重要判例解説 1332号	遠藤美奈	10~11
格差社会と社会権の現在	単著	2007. 9	日本評論社:法学セミナー634号	遠藤美奈	23~27
富江直子著『救貧の中の日本近代——生存の義務』	単著	2007.12	国立社会保障・人口問題研究所:季刊社会保障研究43巻 3号	遠藤美奈	307~311頁
消費者契約法9条1号と憲法29条	単著	2008. 2	有斐閣:判例セレクト2007法学教室330号別冊付録	遠藤美奈	9
障害福祉年金と児童扶養手当の併給禁止と違憲性— 堀木訴訟	単著	2008. 5	有斐閣:別冊ジュリスト『社会保障判例百選』〔第4版〕191 号	遠藤美奈	6-7

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008.11.21	2008年度立命館大学国際言語文化研究所秋季企画 連続講座「国民国家と多文化社会」第19シリーズ 格差 拡大社会とグローバリズム 主催:立命館大学言語文化研究所/ジェンダー・スタディーズ研究会	立命館大学明学館地階83教室

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.29	憲法25条と社会的連帯—日本国憲法における位置づけ	福祉権理論研究会
2005. 6.23	生存権と社会的連帯	生存権と社会的連帯
2005.10.22	高齢者福祉における保護と自由—憲法学の視点から	「高齢社会の法理論」研究会
2006. 5.21	憲法25条の基礎付けと解釈	福祉権理論研究会
2006.12.23	憲法25条で保障される「子どもの最低生活」に関する予備的考察—フィンランドとの比較研究の意義—	「21世紀高齢・少子社会の公法学的実証的研究」研究会
2007. 2.18	佐々木惣一の「人間必需ノ生活」権—「幻の」帝国憲法改正案における最低生活保障への権利—	福祉権理論研究会
2007. 3.25	「尊厳」に関する覚え書き	福祉権理論研究会
2007. 3.27	生を自由で自律的に構想するとはどのようなことか	社会保障法合宿
2007.12.23	堤修三『社会保障改革の立法政策的批判—2005/2006年介護・福祉・医療改革をめぐる—』(社会保障研究所、2007年)を読んで	「21世紀高齢・少子社会の公法学的実証的研究」研究会
2008. 3.19	『フィンランド・モデル』の社会構想—日本社会への寄与をさぐる—ための準備作業	社会保障法合宿
2008. 3.30	フィンランド・モデルと所得格差	福祉権理論研究会
2008. 8. 9	「生存」保障の憲法理論的考察のために	福祉権理論研究会
2008.10.13	福祉国家の憲法枠組み——フィンランドにおける社会保障の権利・平等・デモクラシー	全国憲法研究会秋季研究総会
2009. 3. 2	生存権の憲法学的検討	厚生労働科学研究費「格差と社会保障のあり方に関する研究」研究会

社会活動

期間	活動内容
2008. 5.17	日本弁護士連合会・東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会主催 第17回憲法記念行事「どうして生活は楽にならないのか——憲法の生存権、働く権利は確保されているのか」第3部パネルディスカッション パネリスト 場所:弁護士会館2階 クレオ
2009. 4 ~	福岡県開発審査会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 平井 佐和子 (5132)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	--------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:刑事法入門』 講義の期間後半において、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) SA(チューデントアシスタント)による授業サポート	2003. 4 ~	『授業科目:刑事法入門』 SAによる授業内容理解に関するサポートを実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 9 ~	『授業科目:刑事政策』 講義の期間後半において、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業アンケート	2003. 9 ~	『授業科目:刑事政策』 講義の終了時に講義の質問を記入してもらい、次回の講義において前回の疑問点の解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 9 ~	『授業科目:ゼミナール』 メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった疑問点などの解消に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 9 ~	『授業科目:刑事政策』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行なった。
2 作成した教科書、教材、参考書 刑事法入門の教科書の作成	2006. 3 ~	『授業科目:刑事法入門』 導入科目「刑事法入門」についてのテキストの出版を行なった。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
国家を越える刑事法	分担執筆	2006. 3	日本評論社:「市民」と刑事法	内田博文 佐々木光明	
社会内処遇と社会復帰	分担執筆	2006. 3	日本評論社:「市民」と刑事法	内田博文 佐々木光明	
社会内処遇と社会復帰—更生保護をめぐる問題—	分担執筆	2007. 3	日本評論社:『「市民」と刑事法』2版	内田博文・佐々木光明編	-

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

シンポジウム「司法における差別－ハンセン病問題と藤本事件－」	2005. 7	西南学院大学論集：第38巻第1号	87～111
「刑事法入門」導入について	2006. 2	西南学院大学論集：第38巻第3・4合併号	169～173
刑事事件におけるハンセン病問題－菊池医療刑務所の設立を中心として－	2006.11	西南学院大学論集：第39巻第3号	43～99
報道の自治を考える－報道被害とメディア不信－	2007. 2	西南学院大学論集：第39巻第4号	105～141

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「刑事法入門」における試み	単著	2005. 7	日本評論社：法学セミナー607号		44～47
菊地事件を再考する	単著	2005.12	ハンセン病市民学会：ハンセン病市民学会年報2005創刊号		
報道と人権－特に少年犯罪報道と関連して－	講演要旨	2008. 7	慶星大学：慶星法学17巻1号		1～7頁
人身売買問題の現在	単著	2009. 4	日本民主法律家協会：法と民主主義437号		43～47

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 5.30	慶星大学校法学研究所創立53周年学術大会	慶星大学校(大韓民国釜山市)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.15	藤本事件を再考する	ハンセン病市民学会
2006. 9.16	ハンセン病患者の刑事事件－菊池事件考－	日本刑法学会九州部会
2008. 9.12	窃盗罪の罰金刑導入について	刑法理論研究会
2009. 4.18	Current Problems of Commercial Sexual Exploitation of Children	日仏少年犯罪ワークショップ

社会活動

期間	活動内容
2004. 4 ～ 2005. 3	日弁連法務研究財団ハンセン病問題に関する検証会議研究協力者
2008. 5.30 ～	日本における犯罪報道と人権 慶星大学校創立53周年学術シンポジウム (於：慶星大学校)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 一ノ澤 直人 (5133)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容の説明	2003.4～	『授業科目:企業組織法、企業金融法、企業取引法Ⅰ、金融法(会社法・企業法総論・法学等 前任校を含む)』シラバスによる説明だけでなく、毎回の講義において講義の概要を、講義の最初と最後に説明して、学生が当該講義が内容が、全体との関係でどのような位置づけになるのかが理解しやすくなるように努めている。またその際に学習のポイントや練習問題を示すことにより、予習・復習に活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施	2003.4～	『授業科目:企業組織法、企業金融法、金融法、企業取引法Ⅰ(会社法・企業法総論・法学等 前任校を含む)』大学実施の授業評価を実施し、講義内容の改善に役立っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) アンケート・質問票の利用	2003.4～	『授業科目:企業組織法、企業金融法、金融法、企業取引法Ⅰ(会社法・企業法総論・法学等 前任校を含む)』西南学院法学部実施のアンケートや、各講義用に作成した質問票を利用することにより、講義期間中に、学生の学習上の疑問点や要望を講義へフィードバックするようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 基礎演習における「ディベート」の実施	2006.4～	『授業科目:基礎演習』本学法学部で導入されている「ディベート」による学部導入の演習を実施、SA等を活用することで、1年生が積極的に学部教育に必要とされる論理的思考等を身につけられるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの配布	2003.4～	『授業科目:企業組織法、企業取引法Ⅰ、金融法(会社法・企業法総論・法学等 前任校を含む)』、法律の改正等で、指定を予定した教科書等の改訂が、講義に間に合わない場合が多かったため、毎回の講義内容の概要を示したプリントを教材として、配布し利用した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料の作成・配布	2003.4～	『授業科目:企業組織法、企業金融法、企業取引法Ⅰ、金融法(会社法・企業法総論・法学等 前任校を含む)』テキストだけではなく、必要に応じて、図表、新聞記事等の講義関連資料を作成・配布し、学生の理解のための参考資料になるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 『よくわかる会社法』の執筆	2005.12～2007.4	『授業科目:企業組織法、企業金融法(会社法等 前任校を含む)』の講義内容を反映し、『よくわかる会社法』の担当部分の執筆に反映させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 『西南学院大学法学部演習資料集』の作成	2006.1～	『授業科目:基礎演習、専門演習Ⅰ、Ⅱ』法学部の基礎演習担当者が中心となって作成した資料集の作成に参加した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
実務解説 会社法Q&A	分担執筆	2006.5	ぎょうせい:『実務解説 会社法Q&A』	生駒和夫 根田正樹 須藤英章 永井和之 編集	1330～1356

実務解説 会社法Q&A(追録)	分担執筆	2006. 7	ぎょうせい:『実務解説 会社法Q&A 』	生駒和夫 根田正樹 須藤英章 永井和之 編集	925～932
「第二章 設立について」	分担執筆	2007. 5	ミネルヴァ書房:『よくわかる会社法』	永井和之編著	22 ～ 37
「横河電機製作所事件 一買取引受時における公正な価格の判断基準一」	分担執筆	2007. 7	経済法令研究会:『M&A判例の分析と展開』別冊金融・商事判例	野村修也 中東正文 編集	6～9
実務解説 会社法Q&A(追録)	分担執筆	2007. 8	ぎょうせい:『実務解説 会社法Q&A 』	生駒和夫 根田正樹 須藤英章 永井和之 編集	1330～1356
「役員の選解任」	分担執筆	2008. 5	財経詳報社:『一般社団法人・財団法人の法務と税務』	根田正樹・丸山秀平・坂田純一(編著)	86～91
「Ⅱ 設立について」	分担執筆	2009. 2	ミネルヴァ書房:『よくわかる会社法 [第2版]』	永井和之(編著)	23～40

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 前田 敦 (5134)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レポートの添削	2003. 4 ~	「授業科目:演習の各科目」 演習(ゼミナール)で扱う課題のレポートを二週間に一度の頻度で学生に提出させ、それにコメントや講評を付して返却している。これにより、資料を読みこなし、そこから得られる知識や自分の考えをまとめた量の文章に構成する能力の養成を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	「授業科目:すべての講義科目」 前期・後期に各1回ずつ授業評価アンケートを実施しており、その結果(とりわけ、自由記述欄の回答や要望)をもとに、授業方法全般の改善につなげている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 詳細なシラバスの作成・公開と説明	2003. 4 ~	「授業科目:すべての科目」 授業開始前からWebおよび冊子でのシラバス公開を行っており、学生はそれに目を通した上で履修科目を決定している。加えて、授業の第1回目には、授業の目的ないしねらい・進め方・使用教材等を説明するオリエンテーションを実施し、その際には、授業のスケジュール(1回ごとの内容)も示している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 法律条文の音読	2003. 4 ~	「授業科目:すべての講義科目」 講義の中で言及する法律(主に民法)の条文を、指名した学生に音読させ、それに指導や解説を加えている。これにより、重要な法律用語の正しい読み方および意味内容の周知を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新聞等のニュース資料を使った授業	2003. 4 ~	「授業科目:すべての講義科目」 国会会期中に審議されている法案、あるいは、可決成立した法律のうち、重要なものや民法と関わりのあるものを取り上げ、新聞記事等のコピーなどを配布して解説している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 裁判傍聴の実施	2003. 4 ~	「授業科目:演習の各科目」 法律の適用や司法作用の実際を知る試み、あるいは、1年次学生への法律学習に対する関心と意欲を喚起するための試みとして、授業の一環として福岡高等・地方裁判所に赴き、裁判(主として刑事裁判)の傍聴を行ない、その感想、新たに得られた知見等について、学生にレポートとしてまとめさせている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館ツアー(利用説明会)の実施	2005. 4 ~	「授業科目:基礎演習」 法律の学習に不可欠な図書・判例等の検索・収集に関わる能力と技術を学生が効率的に習得できるよう、大学図書館および司書職員の協力を得て、図書館ツアー(利用説明会)を授業の一環として実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディベートの実施	2005. 4 ~	「授業科目:基礎演習」 授業の一環としてパラメンタリー・ディベート(議会式ディベート)を実施し、1年次の学生が、与えられた議題(モーション)について、図書館を利用して資料・情報を収集し、それを自分の主張に沿った形で整理すること、自分の見解を口頭で発表すること、相手の発表を聴いてそれに的確に反論すること、審判としてディベート参加者の評価を行なうこと、などのトレーニングを行なった。学期末には、各クラスから代表チームを選出し、クラス対抗のディベート大会も開催している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講演会への授業振替	2006. 4 ~ 2006. 8	「授業科目:法律学の基礎」 授業と同時間帯に開催された二度の学内講演会(主催は法学部、講師として、森島昭夫名古屋大学名誉教授および森元美代治氏(特定非営利活動法人IDEAジャパン理事長)を招いた)への授業の振替を実施し、法律学と社会問題に対する学生の関心の喚起を図った。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課題添削の実施	2006. 4 ~ 2006. 8	「授業科目:法律学の基礎」講義内容の定着を図るために、週1回、合計10回の課題添削を実施した。内容は、法律の条文の分解(条文の論理構造を明確にするもの)や、要件・効果の抽出などである。1年次前期の必修科目で受講者が多いことから、授業とは別に時間と教室を確保し、チュードント・アシスタントの協力を仰ぎながら、学生と一対一の対面形式での指導を行なった。課題提出は任意としたが、7割近くの学生が参加した。また、成績評価の要素のひとつとして利用した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 出席カードの利用	2006. 4 ~ 2006. 8	「授業科目:法律学の基礎」入学直後(1年次前期)に必修として履修する科目であることを勧告し、学生の授業への出席を習慣付けることをねらいとして、授業時に出席カードを配付・記入させて学生の出席状況の把握を行ない、また、成績評価の要素のひとつとして利用した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義プリントの配布	2003. 4 ~	「授業科目:法律学の基礎をのぞくすべての講義科目」民法の講義科目では、教科書は使用せず(予習・復習のための参考書として適当なものは紹介)、毎回プリント(B4サイズ2枚程度)を配布している。プリントには、授業で扱う法制度や条文の定義、趣旨、要件・効果、解釈上の問題点、適用場面をイメージするための設例などを掲載しており、同時に、通常の講義でノートを取るべき内容については、プリントに書き込みができるようなスペースが設けられている。これにより、学生は、教科書とノートがひとつにまとまったものを授業終了時に手にすることになり、大学の定期試験のみならず、その後の法律学習の中で参照する資料としても活用できるようになっている。また、近年は、講義対象である民法およびそれに関連する法律の改正が頻繁に行われるようになっているが、改訂に時間を要する市販の教科書よりも迅速に法改正に対応した教材をプリントとして提供できるメリットは大きい。
2 作成した教科書、教材、参考書 オリジナルテキスト	2006. 4 ~ 2006. 8	「授業科目:法律学の基礎」前年度までの授業担当者が作成したオリジナルテキスト(『法律学の基礎2005』)に補足・訂正を加えて『法律学の基礎2006』として使用した。2006年度の補訂事項、および授業のノウハウは、2007年度の授業担当者に情報提供され引き継がれており、複数の教員の手によってテキストの充実が図られている。
2 作成した教科書、教材、参考書 オリジナルテキスト(『西南学院大学法学部演習資料集』)	2007. 4 ~	「授業科目:基礎演習」2005年度より、法学部教員によって執筆された『西南学院大学法学部基礎演習資料集』を、基礎演習で実施するパラメンタリー・ディベート(議会式ディベート)の手引きとして使用してきたが、これが2007年度には大幅に加筆され、演習(ゼミナール)での学習の意義、レポートの執筆方法、レジュメの作成方法、図書館の活用法、学習に関わる学内・学外施設・制度・行事の紹介といった新しい項目を盛り込んだ『西南学院大学法学部演習資料集』としてリニューアルされた。そのうちの「第4章 レジュメを作ろう」の項目を、2名の教員で共同執筆した。本テキストは、1年次学生対象の基礎演習の授業で主として使用されるほか、2年次以上の専門演習においても、学習のハンドブックないし副教材といった位置付けで利用されており、法学部教育の中で重要な役割を担うものとなりつつある。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 授業担当教員による情報交換・ディスカッション	2005. 4 ~	「授業科目:基礎演習」法学部教員有志による「法学基礎教育研究会」、『西南学院大学法学部演習資料集』の作成・改訂のための「テキスト編集委員会」、基礎演習におけるディベート実施のための打ち合わせなどが頻繁に開催され、基礎演習および1年次学生対象の入門科目の授業担当者が、授業運営方法についての情報交換とディスカッションを随時行なっている。また、メーリングリストによる情報交換も行われている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代民法用語辞典	分担執筆	2008. 8	税務経理協会	池田真朗編著	21・44・49・84・ 113・124

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「特定物売買にかかわる諸規定の考察－民法534条1項の理解のために」	単著	2004. 4	有斐閣:私法(日本私法学会)66号		135～142

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2007. 5. 1 ～	福岡市社会福祉協議会・契約能力判定委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 村山 淳子 (5135)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	すべての講義科目において、全学アンケート、学部アンケート、独自アンケートを随時組み合わせ、学生の意見を反映した講義づくりに努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004. 4 ~	すべての講義科目において、メールによる質問を受け付けることを講義初日に周知したうえで、質問があればすぐに返信している
2 作成した教科書、教材、参考書 確認演習問題の作成	2005. 4 ~	『授業科目：民法入門、民法Ⅲ』講義内容の理解度を確認するための演習問題を作成し、講義中に解かせている

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
別冊ジュリスト医事法判例百選(宇都木伸, 町野朔, 平林勝政, 甲斐克則編)	分担執筆	2006. 9	有斐閣	多数の執筆者による	212~213
ブリッジブック医事法	分担執筆	2008. 2	信山社	甲斐克則(編著)ほか18名	40~53

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
診療情報の第三者提供をめぐるわが国の法状況の考察—異質の法領域の架橋を志向して—	2004.10	西南学院大学論集: 第37巻第1号	55~84
民事判例研究	2005.10	西南学院大学論集: 第38巻第2号	93~99
医療契約論—その実体的解明—	2005.10	西南学院大学論集: 第38巻第2号	61~91
医療情報の第三者提供の体系化(一)	2006.11	西南学院大学論集: 第39巻第3号	1~42
医療情報の第三者提供の体系化(二)	2007. 2	西南学院大学論集: 第39巻第4号	25~48
医療情報の第三者提供の体系化(三・完)	2007. 8	西南学院大学論集: 第40巻第1号	95~134

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
子どもを用いた臨床試験	単独執筆	2004. 4	早稲田大学人間総合研究センター: 国際 BIOETHICS NET WORK ニュースレター第37号		8~11

診療情報の第三者提供をめぐるわが国の法状況の考察—異質の法領域の架橋を志向して—	単独執筆	2006. 6	日本評論社:年報医事法学21号	16~21
医療情報の第三者提供の体系化	単独執筆	2007. 7	日本評論社:年報医事法学22号	73~86
ドイツ医療情報法(査読)	単独執筆	2009. 3	早稲田大学法学会:早稲田法学第84巻第3号	251~281

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.11.27	診療情報の第三者提供をめぐるわが国の法状況の考察—異質の法領域の架橋を志向して—	日本医事法学会
2006.11.26	医療情報の第三者提供の体系化	日本医事法学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 大下 英希 (5136)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.10 ~	講義科目「刑法Ⅱ(各論)、法律学の基礎」 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義全体の評価を次年度に生かしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義アンケート	2006.10 ~	講義科目「刑法Ⅱ(各論)」 講義期間中、2~3回程度、講義のスタイル、進行速度、板書の使い方等について、学生にアンケートをとり、学生の理解や学習状況に合わせて講義を調整
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 時事問題に関する解説	2006.10 ~	講義科目「刑法Ⅱ(各論)、法律学の基礎」 講義開始後、少しの時間を使って、講義科目に関連する時事問題に対して解説を加え、講義へより興味関心をもたせるようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによるサポート	2006.10 ~	講義科目「刑法Ⅱ(各論)」 講義終了後、理解の難しかったところについてメールでの質問を受け付ける。重要なものについては次の講義の際にフォローすることを心掛けている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメ	2006.10 ~	講義科目「刑法Ⅱ(各論)」 講義に際して、その日に話す内容についての概略を記載したレジュメを配布。
2 作成した教科書、教材、参考書 未受レジュメのアップロード	2006.10 ~	講義科目「刑法Ⅱ(各論)」 欠席等により受取れなかったレジュメをアップロードしておき、いつでも受け取れるようにしている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 施設参観	2006. 4 ~	講義科目「専門演習Ⅱ」 刑事法ゼミとして、理論だけでなく実務状況を知るために、刑事施設を前後期それぞれ2か所程度参観。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
第17章 悪質商法と消費者保護 第18章 利殖商法と消費者金融の規制	分担執筆	2008.12	成文堂:新経済刑法入門	神山敏雄 斎藤豊治 浅田和茂 松宮孝明 (編著)	232~258
第5章2 違法性の基礎 第5章3 正当行為	分担執筆	2009. 1	法律文化社:ハイブリッド刑法総論	松宮孝明編	140~157

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
特定商取引法五九条の刑法上の問題	2007. 2	西南学院大学論集: 第39巻第4号	49～103
強制執行の本質と刑法九六条の二	2008. 3	西南学院大学論集: 第40巻第3・4合併号	59～124

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
自救行為について(一)	単独執筆	2005. 7	大阪市立大学法学会: 法学雑誌52巻1号		18～64
自救行為について(二)	単独執筆	2005.10	大阪市立大学法学会: 法学雑誌52巻2号		256～300
自救行為について(三・完)	単独執筆	2006. 1	大阪市立大学法学会: 法学雑誌52巻3号		494～531
W・フリッシュ「成功した刑法解釈学と成果のない刑法解釈学(コメント)」	分担執筆	2006. 8	大阪市立大学法学会: 法学雑誌53巻1号	A・エーザーほか編 浅田和茂監修	218～226
N. ヤーレボルク「刑法とイデオロギー(コメント)」	分担執筆	2007. 3	大阪市立大学法学会: 法学雑誌53巻3号	A.エーザー ほか編 浅田和茂監修	241～242
K. コルニルス「テーマ『将来の課題を前にした刑法学』に関する質疑応答レポート」	分担執筆	2007. 3	大阪市立大学法学会: 法学雑誌53巻3号	A.エーザーほか編 浅田和茂監修	244～246
H. プラントル「ドイツ刑法学は話すことを学ばなければならない(コメント)」	分担執筆	2007. 3	大阪市立大学法学会: 法学雑誌53巻3号	A.エーザーほか編 浅田和茂監修	224～226
占有自救について－緊急性要件をめぐって	単独執筆	2008. 8	大阪市立大学法学会: 法学雑誌55巻1号		183～224

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 1.27	自救行為と財産罪の保護法益	日本刑法学会九州部会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 田中 慎一 (5137)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義レジュメの作成	2005.4 ~ 2009.1	講義に際して、板書量を減らし効率的な講義を行うため、テキストその他資料をもとにした講義レジュメを作成・配布している。配布科目は以下の通り。 「企業取引法Ⅰ」(2005年・2008年・2009年)「企業取引法Ⅱ」(2005年・2008年) 「証券取引法」(2005年・2006年・2008年) 「企業組織法」「企業金融法」(2006年・2007年) 「金融法」(2008年)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価アンケートの実施	2005.6 ~ 2009	2005年度に着任以来、講義科目についてアンケートを実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 基礎演習クラス対抗ディベート大会の実施	2005.7 ~ 2009.7	基礎演習の担当者有志で協議して、演習が終わる前期の後半の講義時間を使って、クラス対抗ディベート大会を毎年実施している。 基礎演習に一応の目標を持たせることにより、学生のやる気を引き出す効果を高めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 演習用資料集の作成	2006.4 ~ 2009	1年生の基礎演習から4年生の演習まで手元に置いて使うことを念頭に置いた資料集を共著で作成した。テキストの作成は、着任前より行われているが、現在まで2006年以降テキスト作成の参加している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開演習「ニュースで見る法律問題」 第4回「企業不祥事」講師	2008.11.20	一般を対象とした公開講座で全6回中1回を担当。会社法を中心に企業不祥事に対する法律枠組みと問題点を時事問題や、実際の事例をおりませつつ、できるだけ平易に解説した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
第6編 国際会社法 第7編 会社訴訟・登記等 第8編 罰則	分担執筆	2006.6	法律文化社:入門講義 会社法<第2版>なし	西山芳喜=蓮井良憲(編)	270~294
第3編第8章 運送営業	分担執筆	2006.9	法律文化社:入門講義 商法総則・商行為法なし	蓮井良憲=西山芳喜(編)	167~187

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
商事判例研究	2005.10	西南学院大学論集:第38巻第2号	1~11

商事判例研究 「投資信託(MMF)受益者の解約返戻金請求権を差押えた債権者が投資信託受益権販売会社に対して取立権に基づく解約の実行と解約返戻金支払い請求することの可否」	2006.11	西南学院大学論集:第39巻第3号	93~104
公認会計士・監査法人の法定監査における不正の抑止に関する一考察	2008. 3	西南学院大学論集:第40巻第3・4合併号	296~273

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 山田 憲一 (5138)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 参考資料の紹介	2003. 4 ~	担当した講義及び演習科目において、参考資料の紹介を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メール・WEBによる授業のサポート	2003. 4 ~	特に演習科目において、メールやWEB(e-learningシステム等)を用いて、質問への回答、レポートの添削等を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 具体的事案の提示	2003. 4 ~	従来の法学教育は抽象的な議論に傾きがちであり、学習に際して具体的なイメージを持ちにくいことが理解を妨げている一面があった。近時は設例を豊富に掲載した教科書等も出てきているが、現場のイメージを伝えるにはなお不足があると考え、実際の裁判例や取引の実情をかなり詳細に紹介するようにした。これは特に2003年度[民法Ⅲ(債権総論)]、2004年度～2006年度[民法Ⅱ(物権)]、2007年度[民法Ⅲ(債権総論)]、2008年度[民法Ⅰ(総則)]において重点的に行ったが、他の講義科目においても可能な限り取り入れた。受講者のアンケート結果等によれば、これにより理解が深まっているようである。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 問題演習の実施	2003. 4 ~	従来の法学関連の講義は、専ら担当者から受講者に対して説明がなされるという形態のものが多かったが、これでは学習した内容が断片的な知識として定着するに止まり、事案処理等のできる思考力の養成にうまく結びつかない点が不十分であった。そこで、講義時間中に事例式の設問につき考える時間をとり、その後受講者に質問して理解度を確認することにした。これは特に2003年度[民法Ⅲ(債権総論)]、2004年度～2006年度[民法Ⅱ(物権)]、2007年度[民法Ⅲ(債権総論)]、2008年度[民法Ⅰ(総則)]、2004年度～2007年度[民法入門]において実施したが、担当した他の講義科目においても取り入れた。アンケートや期末試験の結果を見ると、これにより、学習した内容が頭の中で整理され、かなりの割合の学生が記述式的答案等に表現できる状態になるようである。
2 作成した教科書、教材、参考書 オリジナル・テキストの作成・レジュメ等の配布	2003. 4 ~	2003年度[民法Ⅲ(債権総論)]、2006年度～2007年度[民法入門]においてオリジナルテキストを作成した。また、2006年度～2007年度には、学部内の有志で作成した演習用資料集の一部を執筆した。加えて、すべての講義科目において、レジュメ・練習問題の解答例等、何らかの形でプリントを配布している。これらは、アンケート結果等を見る限り、口頭による情報伝達が正確さを欠きがちである点を補うものとして有用と言えるようである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育実践に関する研究会活動	2004. 1 ~	有志で教育内容・方法を検討する研究会を組織し、継続的に会合を持っている。私は、2004年1月及び2005年1月に、それぞれ「学部教育における思考力の養成について」、「ディベートから専門教育へ」とのテーマで報告した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育実践に関する文献の公表	2005. 6. 1	『覚えるよりも考えようー「民法入門」における試み』法学セミナー50巻6号66～69頁を公表した。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
覚えるよりも考えようー民法入門」における試み	単著	2005. 6	日本評論社: 法学セミナー50巻6号		66～69
ヨーロッパの観点からみた日本民法のアイデンティティについて(ドイツ年「民法シンポジウム」からの報告2)	共訳	2007. 2	有斐閣: 民商法雑誌135巻4=5号	カール・リーゼンフーバー 著 山田憲一・武田直大 他訳	603～633

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 横尾 亘 (5139)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディベート学習	2004. 4 ~	学部1年生のための基礎ゼミにおける議会式ディベートの導入。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 裁判傍聴	2004. 5 ~	学部1年生のための基礎ゼミにおける裁判傍聴の実施。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 7 ~	「企業組織法」「企業金融法」「企業取引法」「金融法」などの講義科目における授業評価アンケートの実施。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゼミ合宿の実施	2004. 8 ~	学部2年生、3年生のための専門ゼミにおける合宿の実施。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 他大学との合同ゼミの実施	2004.12 ~	学部2年生、3年生のための専門ゼミにおける、他大学との合同法律討論会の開催。関西大学・神戸学院大学・白鷗大学などと協力。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館ツアー(利用説明会)	2005. 4 ~	学部1年生のための基礎ゼミにおける図書館利用説明会の実施。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義レジュメの作成	2008. 4 ~	講義科目におけるレジュメの作成・配布。
2 作成した教科書、教材、参考書 基礎ゼミ向けテキストの作成	2006. 4 ~	遠藤＝一ノ澤＝大下＝田中慎＝富田＝横尾＝釜谷＝毛利＝前田＝相田＝平井＝山田著『西南学院大学法学部 演習資料集』の作成・出版。2008年度版については編集を担当。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義科目向けテキストの作成	2006. 6 ~ 2006. 9	蓮井良憲＝西山芳喜編『入門講義 会社法(第2版)』および『入門講義 商法総則・商行為法』(いずれも法律文化社)の作成・出版。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 法学部初年度教育についての学会報告	2007. 6.30	2007年に熊本大学にて開催された「九州法学会」における、「ディベート・模擬裁判を導入したゼミ教育について」と題する学会報告の実施。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 外国の大学とのシンポジウムの開催	2008. 3.18	韓国・東亜大学校法科大学を訪問し、合同シンポジウムを開催。「西南学院大学における法学教育の試み」と題する講演の実施。

4 その他の教育活動上特記すべき事項 研究会への参加	2006.4～	法学部教員有志による法学基礎教育研究会への参加。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 法学部FD委員会委員	2007.10～	委員としての活動。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
入門講義会社法(第2版)	分担執筆	2006.6	法律文化社	蓮井良憲 西山芳喜	103～111
入門講義商法総則・商行為法	分担執筆	2006.9	法律文化社	蓮井良憲 西山芳喜	36～41

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
西南カップについて	2005.10	西南学院大学論集:第38巻第2号	13～19

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「学界回顧2004(保険・海商・航空法)」	共同執筆	2004.12	日本評論社:法律時報76巻13号	鈴木達次、森川隆、横尾 亘	144～153
「議決権行使の代理人を株主に限定する定款規定の効力と私製委任状の受取りを拒否することの適否(宮崎地判平成14年4月25日)」	単独執筆	2005.2	慶應義塾大学法学研究会:法学研究78巻2号		75～83
設立登記前の株式会社と「最初の取締役」	単独執筆	2005.7	新青出版:商法の歴史と論理(倉澤康一郎先生古稀記念)		957～985
バーチャル体験法学部ルーキー養成講座第5章=ディベートを採り入れた基礎演習の実際	単独執筆	2005.9	日本評論社:法学セミナー50巻9号		66～69
「2005年学界回顧(商法)」	共同執筆	2005.12	日本評論社:法律時報77巻13号	高松基助 西山芳喜 横尾 亘 久保寛展	132～145
法学入門2006・会社法の話と論点	単独執筆	2006.4	日本評論社:法学セミナー51巻4号		28～31
「代表権のない者に対する預金の払戻と不実の商業登記(福岡高判平成16年5月25日)」	単独執筆	2006.4	慶應義塾大学法学研究会:法学研究79巻4号		61～72
「2006年学界回顧(商法)」	共同執筆	2006.12	日本評論社:法律時報78巻13号	鈴木千佳子 堀井智明 渋谷光義 横尾亘	142～152

「組織的な詐欺的商法を行った会社における名目的監査役の対第三者責任(東京地判平成17年11月29日)」	単独執筆	2007. 8	慶應義塾大学法学研究会: 法学研究80巻8号		75~83
2007年学界回顧(商法)	共同執筆	2007.12	日本評論社: 法律時報79巻13号	鈴木千佳子 堀井智明 渋谷光義 横尾亘	144~154
ディベート・模擬裁判を導入したゼミ教育について	単独執筆	2008. 2	九州法学会: 九州法学会会報2007年度版		5~8

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 6.30	「ディベート・模擬裁判を導入したゼミ教育について」	九州法学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 岩間 徹 (5201)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目「国際法I、II」「国際環境法」「専門演習I、II、III」において学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	授業科目「専門演習I、II、III」、メールによるレポート提出とそれに対するコメント、およびメールによる質問とそれに対する回答
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ソクラテスマソッドの活用	2003. 4 ~	授業科目「国際法I、II」「国際環境法」、特に「専門演習II、III」において、学生への問いかけとそれに対する応答を重視し、学生の考える力を向上すべく努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005. 4 ~	授業科目「専門演習II、III」ゼミ報告はパワーポイントを活用し、学生の発表能力の向上に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの作成	2003. 4 ~	授業科目「国際法I、II」「国際環境法」について講義概要を示したプリント(キーワードは空白)を作成し、また関連資料を複写し、学生に配布している
4 その他の教育活動上特記すべき事項 現場主義の採用	2007. 4 ~	授業科目「専門演習II」において、環境問題について現実を知ってもらうべく、必要に応じて現場につれていく

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
地球環境保全の法としくみ	共著	2004.11	コロナ社	松井三郎 浅野直人 他	1~31
環境リスク管理と法		2007.11	慈学社	岩間徹・柳憲一郎編	285-322
Multilateral Environmental Institutions and Coordinating Mechanisms	分担執筆	2004. 6	UNU Press: Emerging Forces in Environmental Governance	N. Kanie and P. M. Haas	15~34
Japan's Ramsar Sites and Wetland-related Legislation	分担執筆	2007. 2	Ramsar Wetlands Center Korea:	Current Issues on Wetland Conservation in Asia: In View of the Upcoming COP10	113~116

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 9. 3	九州大学・福岡女子大学・西南学院大学 国・公・私3大学共同シンポジウム	アクロス福岡イベントホール

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 6.20	Precautionary Principle and Risk Assessment/Management in International Environmental Law	Discussion Group on International Law.University of Edinburgh
2007. 9.24	Precautionary Principle and Risk Assessment/Management in International Law	Stockholm Environmental Law and Policy Centre.Stockholm University

社会活動

期間	活動内容
1992. 9 ~ 2004. 8	大牟田市公害健康被害認定審査会委員
2002. 9 ~ 2005. 3	IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 特別報告書執筆者
2004. 4 ~ 2006. 3	九州北部学術研究都市整備構想推進会議委員
2004. 4 ~ 2006. 3	春日市環境審議会 会長
2004. 9 ~ 2006. 3	大牟田市特定呼吸器疾病患者健康被害保護不服審査会委員
2004.12 ~	国連大学高等研究所 客員教授
2005. 1 ~ 2005. 3	経済産業省・二酸化炭素の海洋隔離に伴う環境予測技術開発評価検討会委員
2006. 4 ~	大牟田市特定呼吸器疾病患者健康被害保護不服審査会委員
2006. 4 ~	春日市環境審議会 会長
2006. 4 ~ 2007. 3	(財)地球環境産業技術研究機構 二酸化炭素地中貯留技術研究開発調査関係合同ワーキンググループ委員
2007. 2 ~	常陸太田大使(茨城県常陸太田市)
2007. 6 ~	筑紫野市環境審議会会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 河島 幸夫 (5202)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	授業科目:政治学原論、外交史、人権論、平和研究、専門演習 に授業評価を実施し、次年度の授業改善に努めている。 各授業末期
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レポート・論文の添削指導	2004. 4 ~	授業科目:専門演習1, 2, 3 レジュメ、レポート、論文の添削指導をして、学生の作文表現能力を向上させるように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 対話方式の活用	2004. 4 ~	授業科目:外交史、人権論、平和研究、専門演習 比較的人数なので、適宜、学生に質問して、学生の授業参加意識を高めるように努めている。面談時間を設け、研究室内で学生の勉強相談に応じている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの活用	2004. 4 ~	授業科目:政治学原論、外交史、人権論、平和研究、専門演習 各授業で適宜、ビデオを利用し、学生の興味を喚起している。
2 作成した教科書、教材、参考書	2004. 4 ~	授業科目:政治学原論、外交史、人権論、平和研究、専門演習 作成した教科書:『政治学原論』(改訂版3刷、2009年)、『政治と信仰の間で』(2刷、2005年)、『賀川豊彦の生涯と思想』(6刷、2007年)、『賀川豊彦と太平洋戦争』(3刷、2008年)、『世界平和への道』(改題版、2004年)、『ナチスと教会』(2006年)。それ以外に新聞・雑誌記事のコピー・プリントを副教材としてすべての授業科目で多用した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
政治と信仰の間で—ドイツ近現代史とキリスト教—	単著	2005. 2	創言社		285
ナチスと教会—ドイツ・プロテスタントの教会闘争—	単著	2006. 2	創文社		248
ナチズムにおける人間改良計画—(レーベンスポルン)(生命の泉)を中心に	分担	2008. 4	九州大学出版会:『生命の倫理—優生学の時代を越えて—』	山崎喜代子 編	125~156

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
アルフレート・フィヒトナー ドイツ社会福祉の現状と課題・2 (訳)	2005. 7	西南学院大学論集:第38巻第1号	33~45
母体保護法のナチス的系譜?—ひとつの素描	2006. 2	西南学院大学論集:第38巻第3・4合併号	1~33

Mein zeitgeschichtlicher Forschungsweg vom Protestantismus zum Katholizismus in Deutschland	2006.11	西南学院大学論集:第39巻第3号	187~204
ハンス・マイアー 第三帝国へのキリスト教的抵抗(訳)	2007. 8	西南学院大学論集:第40巻第1号	135~166
戦後ドイツの教会と平和問題—プロテスタント教会の姿勢と活動(1945-1990)—	2009. 3	西南学院大学論集:第41巻第3・4合併号	1~32

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 3.26	ナチス優生政策とキリスト教会	西日本ドイツ現代史学会
2008. 2.14	ナチズムへのキリスト教的抵抗	九州キリスト教社会福祉(ディアコニー)研究会
2008.10.31	戦後ドイツの教会と平和問題	キリスト教文化学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 古賀 衛 (5203)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ホームページによる学習指導	2003. 4 ~	ホームページに科目別のリンクページを作り、その中で参考書の紹介、過去の試験問題の公表、定期試験の解説・採点講評を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 模擬裁判口頭弁論	2003. 4 ~ 2007. 7	模擬国際裁判の授業で、学生を原告、被告、裁判官に分けて口頭弁論を行った。それを録画し、画像を見直しながら弁論内容にコメントし弁論術を指導した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 質問票記入によるソクラテス方式の実施	2003. 4 ~ 2007.10	講義は学生に質問してその答えについてコメントする形式(ソクラテスメソッド)を取り入れているが、質問された学生以外は考えない傾向があるので、予め質問項目を書いた紙を配り、学生全員に自分の答えを記入させ、講義の終わりに回収した。回収した解答はコピーを取り、学生に返した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 専門演習合宿	2003. 6 ~ 2007. 6	専門演習の研究報告会を学外の宿に泊まって行った。専門演習 I は若宮研修センター、II は久住高原、唐津、III は伊万里国民宿舎など。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 定期試験の解説書配布	2005. 1 ~ 2007. 7	定期試験の教室で、答案回収後に試験問題の解説書(試験のねらいと答案の評価基準など)を配布した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディベートの録画指導	2006. 4 ~ 2007. 7	1年生の基礎演習で、ディベートのグループ対抗戦を行い、それをハードディスクに録画したものを見せながら指導した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) SAによる1年次基礎演習グループ指導	2006. 4 ~ 2007. 7	1年生の基礎演習クラスを4つのグループに分け、各々に4年生のSA(スチューデントアシスタント)を配置し、SAを通じて指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書 レジュメ・資料の作成とウェブ上の公開	2003. 4 ~ 2007.10	講義(国際法 I、II、海洋法、国際紛争解決法、模擬国際裁判)で、毎回講義内容に沿ったレジュメと資料を配布し、それをPDFにしてホームページに掲載した。
2 作成した教科書、教材、参考書 海洋法教科書の分担執筆	2005. 4 ~	島田・林編『テキストブック海洋法』(有信堂)第9章「深海底」執筆。講義「海洋法」で使用。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学改革フォーラム発題報告	2006.12. 2	西南学院大学教職員による教育研究集会で、発題として法学部のカリキュラムの工夫と自分の教育活動を紹介した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 模擬国際裁判大学対抗戦	2003.12 ~ 2007.12	アメリカ学生国際法協会主催の模擬国際裁判大会国内予選に本学チームを出場させ、他大学学生との競技によって学生に勉学の刺激を与えた(毎年12月実施)。参加校教員の責務として、他大学間の試合の裁判官を行った。

4	その他の教育活動上特記すべき事項 ゼミ論文製本	2005. 3 ~ 2007. 3	専門演習Ⅲの最終的成果として、1人2万字以上の論文を書かせた。各々の論文をハードカバーで製本し、卒業式の日卒業証書と一緒に渡した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 国際合同ゼミ報告会	2007. 9.19	韓国釜山に専門演習Ⅰ～Ⅲの受講生を連れて行き、釜山の東亜大学校学生と合同研究会を行った。韓国と日本から各2名の学生が英語で研究報告を行い、議論した。終了後、日韓学生交流の夕食会を行った。

Ⅱ 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
海洋法テキストブック	分担執筆	2005. 4	有信堂高文社:	島田征夫 林司宣	110~130
国際関係法辞典	分担執筆	2005. 9	三省堂:	国際法学会(6項目)	4
排他的経済水域・大陸棚の管理	単著	2006. 3	海洋政策研究財団:海洋問題入門(平成17年度版)		88~92
海洋の法的枠組み	共同執筆	2007. 3	丸善:海洋問題入門(平成19年度版) 丸善	海洋政策研究財団	184~199
海洋問題入門第4章3	単著	2007.12	丸善:	海洋政策研究財団	187~199

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
西南カップについて	2005.10	西南学院大学論集:第38巻第2号	13~19

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
近代海洋法の発展過程	単著	2004.10	有信堂高文社:現代海洋法の潮流(海洋法の歴史的展開)第1巻	林忠男 杉原高嶺	25~56
深海底鉱物資源鉱区申請の国際法的分析	単著	2005. 4	(社)物理探査学会:	物理探査学会	8~13
ノース号事件と追跡権制度	単著	2007. 4	有信堂:現代海洋法の潮流(海洋法の主要事例とその影響)第2巻	栗林忠男・杉原高嶺編	100~127頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10. 8	海洋境界画定と手続法的问题	国際法学会秋季大会
2006. 7	18, 19世紀の海洋法プラクティス	九州国際法学会
2006.10.28	Regime of Semi-Enclosed Sea and Delimitation in UNCLOS 中日海洋法学会研究會 中国清華大学校	中日海洋法学会研究會

社会活動

期間	活動内容
----	------

2005. 4 ~ (財)海洋政策研究財団海洋管理教育委員会委員

2005. 4 ~ 2005.11 国際宇宙法学会2005年大会運営委員

2005. 6 ~ (社)福岡国際ミズの会理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 E. B. コヴリギン (5204)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-------------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Titles of courses	2003. 4 ~	a. 政治史 b. 国際政治経済論 c. 地域研究 (東アジア・オセアニア) d. 専門演習1 e. 専門演習 2
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) The problem of language	2003. 4 ~	Being a non-Japanese, I carry out my lectures (a,b,c) in English. However, before the beginning of each lecture I distribute the adequate number of Japanese-language copies to every student. Judging on the the results of questionnaires this practice is appreciated by most students, some of them say "一石二鳥". Seminars (d & e) are conducted in Japanese.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Use of multimedia	2003. 4 ~	During my courses (especially 政治史)I show my students several documentary videos in multimedia auditorium using appropriate devices. According to the results of questionnaires, demonstrating videos is appreciated by students.
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) Students' complaints	2003. 4 ~	Students not infrequently complain that there is much chattering (私語) during my lectures and ask me to be more strict toward the transgressors. In practice, it is difficult to do so if the number of students is too large.
2 作成した教科書、教材、参考書 Teaching material	2003. 4 ~	All my lectures on related subjects (a, b & c) have been translated into Japanese and are annually refreshed. There is a list of examination questions at the end of each print (プリント)。In a sense, each set of prints makes up a textbook for students.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Released material on the methods of education	2003. 4 ~	I have published at least two articles in Seinan bulletines: (1) considerations on the teaching of the Russian language and (2) material on the Japanese studies in the U.S. (Iniversity of Washington) and the U.K. (Oxford University).
4 その他の教育活動上特記すべき事項 Optimal size of classes	2003. 4 ~	It seems to me that something should be done with an abnormal number of students in certain classes. For example, in 2007 academic year I have 420 students registered for "国際政治経済論" and about 200 students registered for "地域研究". Under such circumstances, a teacher is not interested in the one-hundred-percent attendance. Besides, checking examination answers becomes a very exhausting process; To my mind, the number of students in each class should be limited to about 200 persons.
4 その他の教育活動上特記すべき事項 Problems of students' discipline	2003. 4 ~	During the classes not a few students are engaged in extraneous activities (preparing for other classes, reading, etc.) or simply sleep. There must be a single University policy towards such deviations; for example: should students be allowed to sleep or not.
4 その他の教育活動上特記すべき事項 Questionnaires	2003. 4 ~	Perhaps, some changes in yearly questionnaires distributed to the students are needed. A first-year or a second-year student can hardly answer the questions such as "Is the level of the professor's lectures high enough?" objectively.

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Japanese FTA Policy in Asia Pacific; Current Situation and Perspectives (co-author D.V.Suslov)	2006.11	西南学院大学論集: 第39巻第3号	19～68

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Russia-Japan:Problems of Economic Cooperation	単著	2004. 4	Vremia Dalnejo Vostoka (Khabarovsk): No.7		6、7
A book on Japan and the Japanese (a review of Irina Tikhotskaia's book "Socioeconomic Geography of Japan")	単著	2005. 5	Moscow University Publishers: Vestnik Moskovskogo Universiteta GeografiaNo.2		81～83
Free trade agreements as an instrument of Japan's economic policy at the start of the 21st century	共著	2008. 4	Russian Academy of Sciences (Khabarovsk): Prostranstvennaia EkonomikaNo.1, No.2		21～42, 60～89
New developments in Japan's foreign trade policy: Bilateral EPAs	共著	2008.12	Russian Academy of Sciences (Moscow): Znakomtes' IaponiaNo.48		2～16
New developments in Japan's foreign trade policy: Bilateral EPAs	共著	2009. 3	Russian Academy of Sciences (Moscow): Znakomtes' IaponiaNo.49		2～18

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 6.22	Individuals in Policy Making: Japan and Russia at the end of the 19th and the beginning of the 20th century(discussant)	The 12th Asian Studies Conference Japan(ASCJ)
2008. 9.21	Free Trade Agreements(FTAs) as a Tool of Japan's Trade Policy in the Early 21 century	12th International Conference of European Association of Japanese Studies(EAJS)(ヨーロッパ日本研究協会)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 大隈 一武 (5205)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目:国際取引法・経済法・国際商事仲裁・外国法学期の中間時点(6月初旬・11月初旬)に記名・自由記載のアンケート(受講の理由、これまでの授業で理解できていない項目、授業の内容・進め方に対する意見)を実施し、次の時間にそれに対する私の回答をしている。設問で、授業で理解できていない項目・内容の回答については、簡単に説明できるものはその時に、時間がかかるものについては改めて関連する授業時に説明している。受講している学生に学期中に反応すべきであり、大学で、学期末に画一的に行うアンケートは、無記名の、マークシートで機械的・無責任な回答があり、かつ集計が終わるのが学期終了後数カ月後になり授業改善に対して何の役にも立たない。 * 開始年10数年前・毎学期実施
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書	2003. 4 ~	教科書は1995年に国際商事仲裁・国際契約書について刊行したがもう古くなったので、最近では教科書を使用せず、授業の概要を項目的に示した紙コピーを作成し・配布して授業している。なお、授業内容の詳細を記述した資料は配布しない。それまで配布するのは学生がノートをとる能力を育てることにならないので、やるべきでない。開始年10数年前・毎学期実施 * 開始年は、対象の2003年~でよければそのようにしてください。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
International Commercial Arbitration; To Focus on the Party Autonomy	単著	2007. 2	九州大学出版会		315
Investment Disputes Settlement by Focusing on CSID Arbitration	分担執筆	2004. 5	National University of Singapore: The Role of Law in a Development Asia	Asian Law Institute	626~647

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Statutory Disputes Arbitration —Disputes Relating to COGSA—	2004.10	西南学院大学論集: 第37巻第1号	131~178
Bankruptcy Arbitration	2005. 2	西南学院大学論集: 第37巻第2・3合併号	89~128
Confirmation, Annulment, Recognition and Enforcement of Arbitral Awards	2005. 3	西南学院大学論集: 第37巻第4号	284~324
Arbitration and Party Autonomy	2005. 7	西南学院大学論集: 第38巻第1号	1~31
法の担い手たち—企業法務の視点から—	2007. 2	西南学院大学論集: 第39巻第4号	1~24

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
米英請負判例要覧	単著	2004. 4	国際商事法研究所:国際商事法務33巻3号～32巻4号		各1
アジア法学会 (ASLI) に出席して	単著	2004. 7	国際商事法研究所国際商事法務:32巻7号		2
米英請負判例要覧	単著	2005. 4	国際商事法務研究所:国際商事法務33巻4号～34巻3号		各1
アメリカ・ロースクールで S.J.D. (法学博士) 学位取得の記	単著	2005. 6	国際商事法務研究所:国際商事法務33巻6号		804～807
米英請負判例要覧	単著	2006. 4	国際商事法研究所:国際商事法務34巻4号～35巻3号		各1
米英請負判例一覽 (194～205)	単著	2008. 3	国際商事法研究所:国際商事法務35巻4号～36巻3号		各1

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 5.28	国際投資紛争解決— ICSID 仲裁に焦点をあてて—	アジア法学会

社会活動

期間	活動内容
2005. 4 ～ 2007. 3	福岡県弁護士会懲戒委員会委員
2005. 4 ～ 2008. 3	福岡県弁護士会懲戒委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 教授	氏名 仙石 学 (5206)	大学院における研究指導担当資格 有
--------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる研究指導	1998.4～	『授業科目:専門演習』 研究・調査課題をメールであらかじめ提出させ、事前に指導することで演習における報告をより充実したものとするように指導するとともに、日常的にもテーマの選択や資料調査に関して、メールでの指導を行っている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004.4～	『授業科目:比較政治学及び国際政治学』 半期に1回、大学の授業評価アンケートを利用して授業評価を実施し、講義の理解度や方向性を確認している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ホームページを通しての資料配付	2004.4～	『授業科目:比較政治学及び国際政治学』 講義概要を整理したハンドアウト(レジュメ)および講義計画などを、大学のホームページを利用して配布し、学生および教員の作業を効率化している
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を整理したハンドアウト(レジュメ)の作成	1996.4～	『授業科目:比較政治学及び国際政治学』 講義内容の理科を深めるために、講義概要を整理したハンドアウト(レジュメ)および講義計画を作成し配布している
2 作成した教科書、教材、参考書 ヨーロッパ政治の教科書の分担執筆	2004.8.15	『授業科目:地域研究III(ヨーロッパ)』 他大学の研究者と共同で、ヨーロッパ政治の講義用の教科書を出版した(『アクセス地域研究II: 先進デモクラシーの再構築』(日本経済評論社))
2 作成した教科書、教材、参考書 ヨーロッパ政治の教科書の分担執筆	2007.10.1	『授業科目:地域研究III(ヨーロッパ)』 他大学の研究者と共同で、ヨーロッパ政治の講義用の教科書を出版した(『地域のヨーロッパ: 多層化、再編、再生』(人文書院))

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
アクセス地域研究II—先進デモクラシーの再構築	分担執筆	2004.8	日本経済評論社:	小川有美(編)	213～236
地域のヨーロッパ—多層化、再編、再生	分担執筆	2007.10	人文書院:	宮島喬・若松邦弘・小森宏美(編)	248～272
汚職・腐敗・クライエンテリズムの政治学	分担執筆	2008.7	ミネルヴァ書房:	河田潤一(編)	300-325
<Post-Communist Transformations: The Countries of Central and Eastern Europe and Russia in Comparative Perspective>	分担執筆	2009.4	北海道大学:	T. Hayashi A. Ogushi(eds.)	145～178

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

ポーランドにおける執政の変容—権力分担のシステムから効率的統治のシステムへ	2004.10	西南学院大学論集:第37巻第1号	110~130
中東欧諸国の環境政策—欧州化(Europeanization)論の利用可能性	2006. 6	西南学院大学論集:第39巻第1号	64~102
東欧諸国の年金制度—比較政治学の視点からの多様性の説明の試み	2007. 2	西南学院大学論集:第39巻第4号	143~168
中東欧諸国の家族政策—「新しい社会的リスク(NSRs)」の視点から	2009. 3	西南学院大学論集:第41巻第3・4合併号	171~195

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ポーランドの対米・対欧州政策の変遷	単著	2004.12	日本国際問題研究所:国際問題537号(2004年12月号)		52~69
中東欧諸国の政策規定要因分析試論—チェコとポーランドの環境政策を題材として	単著	2005. 9	ロシア・東欧学会:ロシア・東欧研究(ロシア東欧学会年報)33号		16~25
ポーランドから見たアメリカ—二国間関係のみでは見えないもの	単著	2006. 1	藤原書店:環 24号		134~139
中東欧研究と比較政治学—いわゆるディシプリン指向の中での地域研究のあり方の考察(査読)	単著	2006. 6	北海道大学スラブ研究センター:スラヴ研究53号		1~25
世界の社会福祉年鑑2007年版(「ポーランド」の章を担当)	共同執筆	2007.11	旬報社:	荻原康生他(編)	163-181
EU-8の社会協議システム—政党政治の視点からの分析	単著	2008. 6	法政大学大原社会問題研究所:大原社会問題研究所雑誌595号		48-63
ポーランド政党・選挙データ	単著	2009. 3	京都大学地域研究統合情報センター:ポスト社会主義国政党・選挙ハンドブック	ポスト社会主義諸国の政党・選挙データベース作成研究会(仙石他10名)(編)	5~28

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.27	ポーランドにおける大統領制の変容—中東欧諸国との比較の視点から	日本比較政治学会 2004年度研究大会
2004.10. 9	ポスト社会主義の社会政策	ロシア・東欧学会 2004年度(第33回)大会
2004.12.18	中東欧4か国の選挙制度と政党システム	ワークショップ「新興民主主義国における選挙制度と政党システム」
2004.12.19	中東欧諸国の社会政策—ポーランド・チェコを中心に	2004年度第4回河田科研「政治汚職・腐敗、クライエンテリズム、社会資本に関する比較政治学研究」研究会
2005. 1.22	中東欧諸国の体制転換—比較政治学の視点から	民族学博物館スラブ研究センター連携研究「スラブ・ユーラシアの比較政治経済学」研究会

2006. 1.28	中東欧諸国の環境政策と欧州化	地域研究企画交流センター連携研究「スラブ・ユーラシアの比較政治経済学」研究会
2006. 7. 8	東欧諸国の年金制度改革ー比較政治学の視点から	スラブ研究センタープロジェクト合同研究会(京都大学地域研究統合情報センター・連携研究)
2007. 1.20	体制転換期の東欧における腐敗とクライエンテリズムーポーランドとスロヴァキアの比較から	2006年度第4回河田科研「政治汚職・腐敗、クライエンテリズム、社会資本に関する比較政治学的研究」研究会
2007. 3.17	ユーロリージョンの「限界」？ーポーランド西部国境領域を事例として	21世紀COE教育研究拠点プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」第12回東欧中域圏研究会
2007. 4.21	比較政治学における東中欧研究ー民主化研究からの「卒業」？	『民主化』と体制転換に関する合同研究会
2007. 6. 9	ポスト社会主義国の政党・選挙データベース作成のための基本方針	「ポスト社会主義国の政党・選挙データベース作成」研究会
2008. 2.17	EU-8 の社会協議システム	科学研究費補助金「旧ソ連・東欧地域における体制転換の総合的比較研究」(通称「林科研」)研究会
2008. 6.15	中東欧の場合:何が福祉のリベラル化を促進するのか	京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)国際シンポジウム「ポスト新自由主義時代のアンデス諸国ー社会変動の比較研究ー」
2008.12. 5	Welfare state institutions and welfare politics in Central and Eastern Europe: political background of institutional diversity	International workshop “Post-communist transformations; the countries of Central and Eastern Europe and Russia in comparative perspective”
2009. 4.26	「「ポスト社会主義国の政党・選挙データベース作成」研究会活動報告	平成20年度京都大学地域研究統合情報センター 全国共同利用研究報告会

社会活動

期間	活動内容
2007. 8. 1 ~ 2009. 7.31	日本学術振興会・特別研究員等審査会専門委員兼国際事業委員会書面審査員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 釜谷 真史 (5231)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施	2004. 4 ~ 2009. 3	『授業科目:国際私法、国際民事手続法』小テスト・ミニテストと同時に、授業のどの部分に関心がもてたか、あるいはもてなかったか、教員への要望といった点についてのアンケートをとり、授業内容の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポートの実施	2004. 4 ~ 2009. 3	『授業科目:国際私法、国際民事手続法、演習Ⅰ～Ⅲ、基礎演習』第1回目の授業でメールアドレスを告知し、随時質問を受け付けるようにしている。質問には原則メールで回答するが、必要に応じて授業内でフォローするなど、学生の理解度を高めるべく努力している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 小テストの実施	2004. 4 ~ 2009. 3	『授業科目:国際私法、国際民事手続法』授業時間およそ3回に1度のペースで小テストを実施し、採点の上返却している。結果は成績評価に加味している。小テスト実施前には試験範囲も含め事前告知することによって、学生に復習のきっかけを与え、効果的に授業内容を理解してもらうことを目的としている。授業評価によると、学生もこの小テストを有効活用できているようである。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ミニテストの実施	2007. 4 ~ 2009. 3	『授業科目:国際私法』小テストのない回には、出席カードの裏等を用いて、その日の授業に関するミニテストを実施し、学生がその日の授業の内容を振り返り、理解を深めることができるようにしている。授業評価によると、学生もこのミニテストを活用できているようである。
2 作成した教科書、教材、参考書 レジュメ作成	2004. 4 ~ 2009. 3	『授業科目:国際私法、国際民事手続法、演習Ⅰ～Ⅲ、基礎演習』毎回の授業内容について詳細なレジュメを準備している。とくに国際私法、国際民事手続法に関しては、通常のレジュメに加え、参考資料や裁判例判決文も用意し、学生がより効果的に学べるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 WebCTによるレジュメ公開	2007. 4 ~ 2009. 3	『授業科目:国際私法』レジュメをWebCTにより公開し、就職活動等により授業に出席できない場合や、予習をしたい場合などに対応できるようにしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 法学基礎教育研究会における報告	2006. 2.15	法学基礎教育に関する研究会において、ディベートを活用した全員参加型法学専門教育への試みについて報告した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 法学基礎教育研究会における報告	2007. 7.30	法学基礎教育に関する研究会において、図書館を利用した法学部教育について報告した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
公序(1)	分担執筆	2004. 7	有斐閣:国際私法判例百選	櫻田嘉章 道垣内正人	192~193
公序(1)	分担執筆	2007. 1	有斐閣:国際私法判例百選[新法対応補正版]	櫻田嘉章=道垣内正人編	196~197

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
外国判決「自動承認」制度の意義(上)	2005. 2	西南学院大学論集:第37巻第2・3合併号	1～55
外国判決「自動承認」制度の意義(下)	2005. 3	西南学院大学論集:第37巻第4号	47～91

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
中華人民共和国人民法院の判決についての相互の保証	単著	2005. 6	有斐閣:平成16年度重要判例解説(ジュリスト1291号)		301～303
死別による事実婚解消における韓国法上の財産分割・相続規定の準用の可否	単著	2005. 9	有斐閣:ジュリスト1296号		172～175
ディベート活用! レポート作成術	単著	2005. 9	日本評論社:法学セミナー2005年10月号		54～57
ダグマー・ケスター＝ヴァルチェン「平等取扱と契約自由」	共著	2006. 3	九州大学法政学会:法政研究72巻4号	釜谷真史＝角松生史	229～245

講演会

開催日時	講演名称	場所
2005. 9.21	第13回国際会社法研究会	西村ときわ法律事務所
2006. 3. 9	第16回国際会社法研究会	西村ときわ法律事務所

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 3.19	死別による事実婚解消における韓国法上の財産分割・相続規定の準用の可否	涉外判例研究会
2006.11.25	外国判決に基づく強制執行に対する執行債務者の権利主張——国際裁判管轄・準拠法・判断の効力についての序論的考察	関西国際私法研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 田村 元彦 (5232)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	授業科目『専門演習(基礎演習や教職総合演習も含む)』は、ゼミ形式の少人数授業のため、よりきめ細かい指導が必要であり、質問・連絡等のためにメールを活用している。また、学生の発表用のレジュメを当日までに添付で提出させるようにしている。専門演習ではゼミ生同士のメーリングリストを自主的に運営させてもいる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目『行政学』『地方自治論』『日本政治論』などで、数回に1度は学生の関心や読書傾向、授業中に視聴した映像等の感想をアンケートで書いてもらい、その際に自由記載欄等を設け、改善すべき点などを把握するように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	授業科目『行政学』『地方自治論』『日本政治論』などで、初回のガイダンスの際に、問い合わせ先のメールアドレスを教えている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント・資料の配布	2003. 4 ~	授業科目『行政学』『地方自治論』『日本政治論』などで、毎回プリント・資料を配布している。プリントは授業の概要等を示したレジュメで、資料は主に新聞・雑誌などの活字情報をコピーしたものである。
2 作成した教科書、教材、参考書 映像資料の活用	2003. 4 ~	授業科目『行政学』『地方自治論』『日本政治論』などで、数回は必ず映像を活用した講義を行っている。授業に関連する内容のドキュメンタリー映画やTV番組が主である。また学内外で、ドキュメンタリー映画の上映会を年に数回は実施している。例)『えんとこ』『びぐれっと』『レフトアローン』『ジャマイカ 楽園の真実』など。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 他大学との学生の交流	2003. 4 ~	授業科目『専門演習』では、毎年12月に九州大・佐賀大・熊本大・鹿児島大の政治学ゼミとの合同ゼミ合宿を行っている。2005年度はホスト校として企画・運営に携わり、「憲法改正」をテーマとして、政治家・ジャーナリスト・弁護士などをパネリストに迎えたシンポジウムも実施した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 ボランティア活動への参加	2003. 4 ~	授業科目『行政学』『地方自治論』『日本政治論』などで、聴講している学生にボランティア活動に関する情報を積極的に提供している。その際、自主的に参加を申し出た学生をできるだけ引率するようにしている。特に福岡市でホームレス(野宿者)支援活動をしているNPO法人「福岡おにぎりの会」の炊き出し・夜回りには、延べ数十人の学生を引率してきた。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
イン・ディス・ワールドの政治学—現実／イメージ／公共性—	2005. 2	西南学院大学論集: 第37巻第2・3合併号	56~88

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

無党派層は二大政党に囲い込まれるか	2004. 7	西日本新聞社:西日本新聞西日本新聞7月13日面		
総選挙をふりかえる 熱狂を排し連携と継続を	2005. 9	朝日新聞社:朝日新聞朝日新聞 9月29日夕刊(西部本社版)		
安倍政権誕生の背景を探る	2006. 9	朝日新聞社:朝日新聞9月29日夕刊(西部本社版)		
若さ・地方と政治 現実感取り込む努力もて	2007. 9	朝日新聞社:朝日新聞9月22日朝刊(全国版)		
日本における少年犯罪に関する政治的・社会的分析 単著	2008. 7	仮登録:慶星法學第17輯第1号	田村元彦	17~25
総選挙<<200Q>>	2009. 9	西日本新聞社:西日本新聞西日本新聞9月1日朝刊	田村元彦	9面

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2005. 6. 1 ~ 2006.11.30	西南学院大学消費生活協同組合 理事
2006.12. 1 ~ 2007. 5.31	西南学院大学消費生活協同組合 理事長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法学部	職名 准教授	氏名 富田 麻理 (5233)	大学院における研究指導担当資格 無
--------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容の説明	2002. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』で授業開始時に授業の説明を行っている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) アンケート・質問票の利用	2002. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』で授業開始時に授業の説明を行っている随時、アンケート、質問票を学生に配布、フォローアップにも努める
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業のサポート	2002. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』受講者を対象に、授業中に質問できなかった内容など、メールによる質問の受付、回答をしている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新聞、ニュース等を用いた授業	2002. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』その講義までの一週間で起きたニュースをコピー、配布するほか、学生にも要約を提出させている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』で講義の時間を用いて授業評価を行っている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) オフィスアワーの設置	2003. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』受講者を対象に、授業中に質問できなかった内容などの質問の受付、回答をしている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館ツアーの実施	2003. 4 ~	『授業科目:基礎演習』国際法の学習に不可欠な図書・判例、国際機関資料など検索・収集に係る能力と技術を学生が効率的に習得できるように、大学図書館および司書の方とともに、図書館のツアーを行った
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料の作成・配布	2002. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』で講義の資料の作成、配布を毎回行っている
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容の概要を示したプリントの作成	2002. 4 ~	『授業科目:国際法、国際人権法、基礎演習、英書講読入門、英書講読、専門演習 I、II、III』で講義概要を示したプリントの作成・配布を毎回行っている
2 作成した教科書、教材、参考書 基礎演習におけるディベートの実施	2002. 4 ~ 2005. 3	『授業科目:基礎演習』で、ディベートに基づいた演習を実施、SAを活用することで、1年生が積極的に学部教育に必要な知識等を身につけることを可能としている
2 作成した教科書、教材、参考書 『西南学院大学法学部演習資料集』の作成	2006. 4 ~	『授業科目:基礎演習、専門演習I,II』法学部の基礎演習担当者が中心となって作成した資料集の作成を行った

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
国連による平和と安全の維持	共同執筆	2007. 1	国際書院：第2巻	横田洋三編	240～249、809～830、842～860

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
自由権規約2条に関する一般的意見31「規約締約国の一般的法的義務の性質」(訳)	2005. 3	西南学院大学論集：第37巻第4号	171～178

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
新世紀における新たな国連		2004. 9	日本国際問題研究所：国際問題534	コフィ・アナン	2～7
バンコビッチ他対ベルギー他16カ国(2001年12月19日欧州人権裁判所管轄権)	単著	2004.10	信山社：国際人権15		111～112

講演会

開催日時	講演名称	場所
2004.11.20	フォーラム「21世紀の創造 人権と平和 ～地域から世界へ～」	西南学院大学

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.21	国際連合の新しい人権活動—人権高等弁務官事務所の活動を中心として—	九州国際連合研究会
2005. 5.29	国際連合による人権活動の新しい展開	日本国際連合学会

社会活動

期間	活動内容
2003. 8 ~ 2004. 8	国連大学 島根グローバルセミナー プログラム委員
2005. 8 ~ 2006. 5	国連大学 島根・山口グローバルセミナー プログラム委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 安楽 和夫 (6101)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2003. 4 ~	「自然科学概論 I」、「算数科教育研究」 講義をパワーポイントや資料画像をスライドショー等を用いて提示している。また学生の注意を途切れさせないように、最近では配付資料に空白を設け、授業の中で逐次記入させるような工夫を始めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	毎回の講義において、授業の最後5分~10分を使って、確認テストを実施したり、授業についての質問や要望、感想等を自由記述式で書かせている。質問や要望については、次の授業の折りに返答したり、要望を授業に反映させるように心がけている。また確認テストにより、学生がどの程度授業を理解できていたかなどを把握する材料として有効に活用している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ノンパラメトリック検定と頑健手法	分担執筆	2007. 5	朝倉書店 : 統計データ科学事典1	(編集者) 杉山高一 藤越康祝 杉浦成昭 国友直人	324-325

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 5.30 ~ 2007. 5.31	順序制約下でのAIC バイアス補正項の推定について (高知大学・野間口謙太郎との共同発表)	日本計算機統計学会第21回大会
2007. 5.30 ~ 2007. 5.31	生存関数のモデル比較 (長崎大学・菊池泰樹、高知大学・野間口謙太郎との共同発表)	日本計算機統計学会第21回大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授(特別教員)	氏名 中馬 充子 (6102)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) アダプテッド・スポーツの採用	1993.4～	『授業科目:スポーツ実習(保健コース)』本実習は通常の実技種目を、身体上の理由で受講できない学生を対象とする。学生の運動に対する自発的・自主的な態度のより一層の充実を図り、健康的な生活習慣の確立を目的として、障害部位の機能回復、機能向上を目的とした治療因子としての効果、レクリエーション効果及び心理的効果を期待するものである。個人差を考慮し、教務課・保健管理室との提携を図るなど、安全性を考慮したアダプテッド・スポーツを提供している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディベートディスカッションの活用	1999.10～	『授業科目:スポーツ理論』 「健康科学」の場における論理能力の育成を目的に、(1)客観的分析力、(2)論理的思考力、(3)発表能力、(4)聞き取り能力、(5)情報収集力などの大幅な向上が期待される「調べ纏めて発表する」ディベート方式の授業を導入している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ディベート教育に関する研究発表	2005.1	保健教育における高校大学間アーティキュレーションの検討 - 科学技術社会学理論の導入による意志決定能力育成の視点から - Seinan Ricerca, NO.9, 2005 西南学院大学2002(平14)年度特別研究C
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ディベート教育に関する実践発表	2006.10.28	ディベートディスカッション「ジョアンナは二分脊椎であると診断された子どもであっても出産するべきである」, 日本安全教育学会第7回福岡大会(於:西南学院大学)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育実践に関する発表(招待講演)	2007.8	講演4「大学におけるリスクコミュニケーション教育 — 生命倫理教育での実践を通して」、大阪府高等学校生物教育研究会 第3回生物教育シンポジウム 総合テーマ「リスクコミュニケーションと生物教育」 (大阪市立自然史博物館講堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育実践に関する発表	2007.9.14	大学保健体育に於ける特別支援教育の試み - 教務課・保健管理室との連携を通して - 第56回九州地区大学一般教育研究協議会(於:西南学院大学)
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開授業	2005.11	公開授業『スポーツ理論Ⅱ』 西南学院大学学校保健計画「教員・学生との連携による喫煙に関する健康教育及び喫煙支援活動」公開ディベート及び禁煙支援活動: 「キャンパス内、全面禁煙にするべし」
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開授業	2006.11	西南学院大学学校保健計画「教員・学生との連携による喫煙に関する健康教育及び喫煙支援活動」公開ディベート及び禁煙支援活動: 「タバコ購入にカード制を導入するべし」(公開授業・スポーツ理論Ⅱ)

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
近代日本の衛生思想成立過程における優生思想(第7章)	分担	2008.3	九州大学出版会:生命の倫理2	山崎喜代子	185～224

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
安全教育は成立し得るか	単著	2006. 4	日本安全教育学会:安全教育学研究第6巻第1号	中馬充子	1~2
日本安全教育学会第7回(平成18年度)福岡大会報告・学会彙報	単独執筆	2007. 4	日本安全教育学会:安全教育学研究第7巻第1号	日本安全教育学会平成18年度年次学会会長 中馬充子	69-75
大学保健体育における特別支援教育の試み - 教務課・保健管理室との連携を通して -	共同	2008. 2	九州地区大学一般教育研究会:第56回九州地区大学一般教育研究協議会議事録56	中馬充子, 高野一宏, 野本益寛, 森本利和, 佐藤誠, 波多江成彦, 野中英二, 牛尾幸世	128~132
事件・事故に関わる情報の共有化を基盤とする危機管理体制の構築について	単著	2008.12	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター:学校危機メンタルサポートセンターフォーラム報告書第5巻		87~89

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.10.28	ディベートディスカッション「ジョアンナは脊椎披裂であると診断された子どもであっても出産すべきである」企画:中馬充子, デイベーター:大隈靖子, 岡村亜矢, 澤村晴香, 塩田奈々, 野口理恵, 福永容子, 松田裕子, 水町智美, 山下美穂(児童教育学科07期生), 金芳顕二(児童教育学科97期生), 米森千恵(経済学科04期生)	日本安全教育学会第7回福岡大会
2006.10.29	生命の倫理と安全教育	日本安全教育学会第7回福岡大会
2007. 8.18	総合テーマ:リスクコミュニケーションと生物教育講演4:大学におけるリスクコミュニケーション教育—生命倫理教育での実践を通して	大阪府高等学校生物教育研究会 第3回生物教育シンポジウム
2007. 9.14	大学保健体育に於ける特別支援教育の試み - 教務課・保健管理室との連携を通して -	第56回九州地区大学一般教育研究協議会
2008. 3. 7	事件・事故に関わる情報の共有化と危機管理体制の構築について	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター第5回センターフォーラム
2009. 3. 6	犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステム構築の可能性と課題	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター第6回センターフォーラム

社会活動

期間	活動内容
2005. 4. 1 ~ 2007. 3.31	福岡市城南・早良・西保健所結核審査協議会委員
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	日本安全教育学会年次学会会長(2006年度第7回福岡大会)
2006. 6 ~ 2007. 5	日本安全教育学会事務局幹事(於:西南学院大学中馬充子研究室)
2007. 4. 1 ~	福岡市感染症診査協議会委員
2007. 6 ~	日本安全教育学会常任理事・事務局長(於:西南学院大学中馬充子研究室)
2008. 4 ~	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター共同研究員

2008. 4 ~ 九州大学病院臨床試験審査委員会委員

2008. 5 ~ 2009. 6 福岡市教育委員会「新たな教育改革の指針」策定に関する専門委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 藤野 力 (6103)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2003. 4 ~	「授業科目:自然科学概論Ⅱ」講義の内容をパワーポイントで表示し、工夫を凝らしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~	「授業科目:基礎演習」授業概要を示したプリントを作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003.10 ~	「授業科目:教職総合演習」授業概要を示したプリントを作成し、配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 公開講座における講演	2005.10.28	大学主催の一般を対象とする公開講座に講演者として参加した。「2005年日本映画の旅」
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座の企画と講演	2007. 5.11	大学主催の一般を対象とする公開講座を企画し、講演者として参加した。「映画の中の子どもたち」
4 その他の教育活動上特記すべき事項 公開講座の企画と講演	2008.10.24	大学主催の一般を対象とする公開講座を企画し、講演者として参加した。「戦争と映画」

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
算数科における発展的な学習	2007. 3	西南学院大学論集:第2巻第2号	183~201

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2004. 7. 9 ~ 2010. 7. 8	福岡市総合図書館運営審議会委員
2004.10. 1 ~ 2010. 3.31	福岡市総合図書館映像ホール・シネラ実行委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 藤田 尚充 (6104)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生のグループによる課題追究と発表 科目「基礎演習」で、グループでテーマを立て追究・発表する学生の協同学習を取り入れている。	2003. 4 ~ 2003.4?	科目「基礎演習」で、グループでテーマを立て追究・発表する学生の協同学習を取り入れている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地域のフィールドワークと報告	2003. 4 ~	科目「社会科概論」で、地域学習の教材研究の一環として自分で地域のフィールドワークをおこない、それを「テーマ研究」としてまとめる学習をおこなっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	ゼミ以外の授業科目で、前期・後期に学生の授業評価を実施して授業改善に役立っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生のグループによる調査活動と報告	2003. 4 ~ 2006. 3	科目「教職総合演習」で、学生のグループごとに九州の戦争遺跡(体験を含む)を調査し報告する活動を取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義・演習の概要・課題・評価についてプリント作成	2003. 4 ~	全ての科目でシラバスとは別に、その講義・演習の目的・概要と課題・評価方法・参考書についてプリントを用意し、最初の授業で配布し説明している。
2 作成した教科書、教材、参考書 「教職総合演習」の調査報告書	2003. 4 ~ 2005. 3	科目「教職総合演習」で、各グループが調査した戦争遺跡を冊子にし、記録として残すとともに次年度講義の参考書とした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡県人権教育研修会で講演	2004. 8.24	平成16年度第2回福岡県人権教育研修会(学校教育一学力と進路の保障一)で、「子どもを育む授業づくりー効果的な授業改善方策の視点一」のテーマで講演した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 科目「教職総合演習」の授業実践を発表	2005. 5.22	全国私立大学教職課程研究連絡協議会第25回研究大会で「教職総合演習」で取り組んでいる戦争遺跡調査の授業実践を発表した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 科目「教職総合演習」の授業実践を掲載	2006. 4.15	「教職総合演習の実践?戦争遺跡の調査?」として、授業科目「教職総合演習」で取り組んでいる学生のグループによる調査活動を、『教師教育研究』第19号で発表した
4 その他の教育活動上特記すべき事項 小学校の授業研究会での講師活動	2003. 4 ~	福岡市立城原小学校の全校或いは学年授業研究会の講師として、年3?6回 の授業観察・研究協議の活動をおこなっている
4 その他の教育活動上特記すべき事項 小学校の授業研究会での講師活動	2003. 4 ~	福岡県嘉麻市立碓井小学校の全校授業研究会の講師として、年3回の授業観察・研究協議の活動をおこなっている。

4	その他の教育活動上特記すべき事項 小学校の授業研究会での講師活動	2005. 4 ~	福岡市立西陵小学校の全校或いは学年授業研究会の講師として、年3?6回 の授業観察・研究協議の活動をおこなっている。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡市教育センターの人権教育研究室講師	2007. 4 ~	福岡市教育センターで、年間を通じておこなっている非常勤研究員(教師)の人権教育研究・研修授業に研究指導者として参加している。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「教職総合演習」の実践 一戦争遺跡の調査一	単著	2006. 4	全国私立大学教職課程研究連絡協議会:教師教育研究19号		73-84
相互行為としての学習活動を、今こそ！	単著	2007. 3	福岡県教育総合研究所:教育総研ニュースNo.14		2~6
市同研50周年に思うー思い出とこれからー	単著	2007. 5	福岡市人権教育研究会:福岡市同和教育研究会五十周年記念誌「ぬくもり」		28~32

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.22	教職総合演習と平和学習	全国私立大学教職員過程研究連絡協議会第25回研究大会

社会活動

期間	活動内容
2005. 1. 1 ~ 2008.12.31	福岡市同和問題啓発講師(福岡市人権啓発センター)
2007. 4.17 ~ 2010. 3.31	福岡市教育センター「人権教育」研究指導者

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 深谷 潤 (6105)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	学期末に学生による授業評価を受けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004. 4 ~	『演習I』『演習II』『生活指導論』『道徳教育の研究』『キリスト教教育学特講』他学部、大学院すべての授業においてメールによる質問・相談等を受け付けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2007. 9 ~ 2008. 1	授業科目『生活指導論』『道徳教育の研究』において、パワーポイントを活用し、授業方法を工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書 道徳教育の研究の資料集作成	2005. 6 ~ 2007. 7	授業科目『道徳教育の研究』(教職)において、他教員と共に学習指導案資料集を3集作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 生活指導論の教科書作成	2007. 9 ~	授業科目『生活指導論』において、ミネルヴァ書房より『新しい生徒指導・進路指導』を出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 公開講座における講演	2006.11.11	大学の公開講座「キリスト教における音楽と教育」を主テーマに「キリスト教における音楽の意義」と題した講演を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 一般教育研究協議会での講演	2007. 9.15	九州地区大学一般教育研究協議会にて、知の形成と教養教育-方法・体制・組織の在り方-に関して、「教養教育としてのキリスト教教育」と題する講演をシンポジストの一人として行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 第37回ファカルティ・リトリート 建学の精神の現代的意味	2008. 3. 7	大学宗教部主催のリトリートで、左題の下「大学の理念と授業の間」を副題に発題を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
パイディア クリステイ	単著	2004. 8	理想社	(原案者)W.イェーガー	124~136
戦後の公教育の変遷をたどる	分担執筆	2007. 5	教文館:教会教育の歩み	NCC教育部歴史編纂委員 会(編)	194~200
第1章 生徒指導とは何か 第5章 生徒指導と教育課程	分担執筆	2007.10	ミネルヴァ書房:新しい生徒指導・進路指導	加澤恒雄・広岡義之(編 著)	1~13、68~81

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Religious Education in a Non-Religious Society	2004. 9	西南学院大学論集: 第4巻第1号	31～48
宗教的情操教育の課題と道徳教育	2005. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	87～109
児童生徒の問題行動事例にみる指導方法の分析—学生の授業レポートを中心に—	2005. 9	西南学院大学論集: 第1巻第1号	105～114
大学におけるキリスト教教育の可能性	2006. 7	西南学院大学論集: 第2巻第1号	1～15
保育現場における実践カリキュラムの研究—西南学院舞鶴幼稚園を中心に—	2007. 2	西南学院大学論集: 第2巻第2号	11～34
キリスト教教育における音楽の意義に関する一考察	2007. 8	西南学院大学論集: 第3巻第1号	1～14
日本人の道徳観とヤスパース哲学—和辻哲郎の「人間存在」を中心に—	2008. 2	西南学院大学論集: 第3巻第2号	57～73
建学の精神の現代的意味—西南学院大学の理念を事例として—	2008. 7	西南学院大学論集: 第4巻第1号	1～13

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
日本のキリスト教教育における「キリスト教文化倫理学」の意義と課題	単著	2005. 3	国際基督教大学: 教育研究47号		23～31
戦後のキリスト教教育理論の変遷—公教育との関係から—	単著	2005. 9	聖和大学キリスト教と教育研究所: 聖和キリスト教教育フォーラム報告		38～57
「キリスト教に基づく教育」に関する一考察(査読)	単著	2006. 7	日本キリスト教教育学会: キリスト教教育論集14号		1～11
現代日本のキリスト教教育理論の特徴に関する一考察	単著	2007. 3	国際基督教大学: 教育研究49号		11～20
現代日本のキリスト教教育理論に関する一考察—キリスト教大学と「教育の神学」—	単著	2008. 3	国際基督教大学: 教育研究50号	深谷 潤	1～9

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.17	授業実践報告<道徳教育の研究>	第16回福岡授業研究交流会
2005. 2. 3	生活指導論(進路指導を含む)の授業研究	第19回福岡授業研究交流会
2005. 6.11	「キリスト教に基づく教育」の萌芽—1950年代のキリスト教教育理論が提起するもの—	日本キリスト教教育学会第17回大会
2005. 9.13	戦後のキリスト教教育理論の変遷—公教育との関係から—	聖和キリスト教教育フォーラム
2005.12.10	ヤスパースとプロテスタント神学の対話	日本ヤスパース協会第22回大会
2006. 7.31	舞鶴幼稚園のキリスト教保育	西南保育カリキュラム研究会(第3回)

2007. 6.23	「キリスト教教育を担う者」	日本キリスト教社会福祉学会第48回大会
2007. 9.15	教養教育としてのキリスト教教育	九州地区大学一般教育研究協議会
2008. 8. 2	The Japanese Moral Framework and Jaspers' Philosophy	Sixth International Jaspers Conference (第6回国際ヤスパーズ会議)

社会活動

期間	活動内容
2005. 7 ~ 2007. 6	福岡市私立幼稚園連盟 経営委員会委員
2009. 4 ~	社団法人キリスト教保育連盟 福岡地区 地区委員長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 古田 雅憲 (6106)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントによる講義	2006.4 ~ 2009.5	[授業科目:保育内容の研究(言葉)、児童文学、国語学概論Ⅰ、国語教育研究、国語学概論Ⅱ] 毎回の講義内容をパワーポイントを援用して視覚化すると同時に、画面と連動した手元資料(キーワード等を穴埋め・記入式としたもの)を準備配布している。受講生の興味関心を高めるとともに、講義内容の定着をはかる工夫である。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 200字作文形式の出席カード	2006.4 ~ 2009.5	[授業科目:保育内容の研究(言葉)、児童文学、国語学概論Ⅰ、国語教育研究、国語学概論Ⅱ] 毎回の講義末5~10分を使って、本時の講義内容を踏まえた小論文の作成を課している。感想や質問だけでなく、発展的な展望や批判的な意見を良しとしている。またカードのうち数枚について、講義内容の深化・定着をはかる目的で、次回講義時に披瀝しコメントする。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4 ~ 2009.5	[授業科目:保育内容の研究(言葉)、児童文学、国語学概論Ⅰ、国語教育研究、国語学概論Ⅱ] 最終講義の最後15分を使って、学生による授業評価を行い、講義内容・方法等の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 模擬授業形式によるゼミナール	2007.4 ~ 2009.5	[授業科目:演習Ⅰ]毎回受講生1名が任意の小学校国語科教材を取り上げ、事前に行った教材研究・指導案作成を踏まえて45分間の模擬授業を実践する。その授業を承けて、後半45分では全員討論による検証作業を行っている。小学校教員を目指す受講生の実践力向上を主たる目的とする。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントによる講義に連動した講義資料(穴埋め、書き込み式)の工夫	2006.4 ~ 2009.5	[授業科目:保育内容の研究(言葉)、児童文学、国語学概論Ⅰ、国語科教育研究、国語学概論Ⅱ] パワーポイントで視覚化した講義内容の定着をはかるために、画面と連動した手元資料(キーワード等を穴埋め・記入式としたもの)を作成配布している。受講生の集中力を維持し、また講義内容をコンパクトに集約する上で効果的と判断している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第24回「福岡授業研究交流会」における研究発表	2007.2.15	学校教員および学生を対象とする標記の会において、「古典絵画を援用する国語教室の試みー中学校での古典導入教育を手がかりにー」と題して、実践研究発表を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 「西新チルドレンズミュージアム」実行委員	2006.5	主として福岡市西部の小学校児童を対象とする「チレドレンズミュージアム」を企画運営する標記の団体に、実行委員の一人として携わっている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「とびだす絵巻物をつくる～絵解きを通して古典に親しむ～」	分担執筆	2006.10	上毛新聞社出版局:『群馬大学研究室から 新時代への視点』	群馬大学地域連携推進室	3~4

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

ビジュアル・シンキングの国語教育への援用について	2006. 7	西南学院大学論集：第2巻第1号	17～40
映像メディアを援用した「扇の的」の授業提案－幼児・児童のための古典教育を展望しながら－	2007. 8	西南学院大学論集：第3巻第1号	15～52
撫子文様の含意について －石山寺蔵「源氏物語画帖」四百画面を例に－	2008. 2	西南学院大学論集：第3巻第2号	75～92
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集：第4巻第2号	97～137
新指導要領に準拠する古典教材の構想－高学年児童のための「源氏物語」の学習－	2009. 2	西南学院大学論集：第4巻第2号	1～17

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『林原本平家物語絵巻・殿上闇討事』授業化の構想	単著	2005. 3	群馬大学臨床教育センター：群馬大学教育実践研究22号		15～27
『高山寺明恵上人行状(仮名行状)』の副詞等	単著	2005. 3	群馬大学教育学部：群馬大学教育学部紀要54号		13～32
『京童』挿絵小考(その三)－草木図像を中心に－	共著	2005. 4	群馬大学語文学会：語学と文学41号	松本拓也	29～45
『高山寺明恵上人行状(仮名行状)』の仮名書き語彙	単著	2006. 3	群馬大学教育学部：群馬大学教育学部紀要55号		1～20
幼児教育における古典絵画の援用について－群大図書館蔵『新田岩松家旧蔵粉本』の学習材化－	単著	2007. 3	群馬大学語文学会：語学と文学43号		12-31

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 2.15	古典絵画を援用する国語教室の試み～中学校での古典導入教育を手がかりに～	第24回福岡授業研究交流会

社会活動

期間	活動内容
2006. 5 ～	西新チルドレンズ・ミュージアム実行委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 磯 望 (6107)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	---------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎時間小レポート課題を提出	2000.4～	授業科目:環境地理Ⅰ・環境地理Ⅱ・環境の科学・理科概論Ⅱ・自然地理学・地誌学・保育内容の研究(環境)・理科教育研究では、ほぼ毎時間授業終了前15分間を、授業に関連するレポートや応用問題を解く時間とし、すべてを回収して採点している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2000.4～	すべての授業で、学生がメールで質問でき、それにすぐに答えている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フィールドワークの実施	2000.4～	授業科目:基礎演習・演習Ⅰでは、生物採集および地形観察等を目的としたフィールドワークを行っている。また、演習Ⅱでもテーマに応じてフィールドを実施することがある。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイント及びパソコンの活用	2003.4～	授業科目:理科概論Ⅱなどで、パワーポイントを用いた授業を行っている。また、授業科目:演習Ⅰ・演習Ⅱ・教職総合演習では、学生の発表にパワーポイントを利用している。また、図形処理ソフトの利用やGISソフトの利用および衛星画像の利用などを指導している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	授業科目:環境地理Ⅰ、環境地理Ⅱ、地誌学では2001年度から、2006年度を除いて継続して授業評価を受けている。授業科目:基礎演習は、本学の授業評価の開始前から、独自に作成した評価項目で学生から授業評価を受けてきたが、2007年度には、本学評価制度による授業評価も併用するようになった。また、授業科目:自然地理学・教職総合演習も、2007年度から本学の授業評価を受けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 英語による授業	2009.1～	授業科目:留学生別科科目「日本の自然界B」で、パワーポイントを利用し、日本の地形を中心に英語で紹介した。府フィールドワーク形式の実業も実施し、現場でのディスカッション等を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料を示したハンドアウトの作成	2000.4～	授業科目:演習Ⅰ・演習Ⅱを除くすべての授業科目で、毎時間A4版1～2枚程度のハンドアウトを作成配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 九州地区大学一般教育研究協議会発表	2007.9.14	「教養としての災害教育―災害知見の体系化―」口頭発表
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 キリスト教学校教育同盟 第96回総会シンポジウムパネリスト	2008.6.13～	シンポジウム「キリスト教学校のミッションをどう伝えるか」において、「大学チャペルの活性化を求めて」と題して発題。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 西南学院大学公開講座講師	2004.10	「都市を歩く第3部:日本編北の街から南の街へ」の「盛岡と北上川―自然と都市―」を担当

4	その他の教育活動上特記すべき事項 太宰府発見塾(太宰府市まると博物館推進プロジェクト会議主催)講師	2005. 4	「太宰府市の自然環境―太宰府市の風景とその変化」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡県高等学校地理研究会講師	2005. 6	「福岡県西方沖地震と福岡県の活断層」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 「太宰府市史」全巻完結記念太宰府講演会講師	2005. 6	「太宰府市の環境変化と人の営み」
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡市防災士養成講座「博多あんあん塾」講師	2005. 9 ~	「地震Ⅱ(活断層)」(年1回担当)
4	その他の教育活動上特記すべき事項 西南学院大学公開講座講師	2005.10	「災害と社会」の「福岡県西方沖地震の被害と警固断層」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 第1回震災対策技術展/自然災害対策技術展九州「シンポジウム」講師	2006. 3	シンポジウム「震災と人間―震災の前後にできること」の運営と「福岡県西方沖地震の影響と活断層の調査」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 防災士研修講座(福岡会場)講師	2006. 6	「地震のしくみと被害」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡県自主防災組織リーダー研修会講師	2006.11	「福岡県の活断層と地震防災対策について」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナー出前講座in愛宕公民館講師	2007. 2.25	「地震時の防災や減災のために―福岡県西方沖地震の経験を生かす―」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナーシンポジウムパネリスト	2007. 3.24	「いま、福岡の地震は？」パネラー
4	その他の教育活動上特記すべき事項 学士会福岡支部例会卓話講師	2007. 5.16	「警固断層の活動履歴と被害予測」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 キリスト教保育連盟永年勤続者表彰	2007. 8 ~	保育内容研究の講義、舞鶴幼稚園園長などの活動により表彰。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナー出前講座in西戸崎公民館講師	2007. 9.15	「地震と津波について―福岡県西方沖地震と警固断層地震―」講演

4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡県建築士会福岡支部災害研究会講師	2007. 9.20	「警固断層について」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナー出前講座in福重公民館講師	2007.10.13	「地震から身を守る—福岡県西方沖地震と警固断層地震—」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナー出前講座in香住丘公民館講師	2007.11.11	「地震から身を守る—福岡県西方沖地震の経験と将来の地震予測—」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 「百道会」(西南学院同窓会)例会講演	2007.11.14	「福岡県西方沖地震と警固断層」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナー出前講座in東花畑公民館講師	2008. 2.24	「地震から身を守る—福岡県西方沖地震の経験と地震への備え—」講演
4	その他の教育活動上特記すべき事項 読売防災セミナーシンポジウムパネリスト	2008. 3.15	「助け合いの街づくりへ」シンポジウム総括パネリスト
4	その他の教育活動上特記すべき事項 理科支援員等配置事業に伴う特別講師	2008.10.16 ~ 2008.10.17	福岡市立西新小学校において、5年生を対象に、「台風を研究しよう」の授業を実施した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
太宰府市史 通史編 I	共著	2005. 3	太宰府市	高倉洋彰・磯望・小林茂・石松好雄・長洋一	1~1124
衛星データによる土地被覆の季節的変化と経年的変化の比較研究(平成16~平成17年度科研費補助金基盤研究C一般, 16500653研究成果報告書)	単著	2006. 3	西南学院大学学術研究所	磯望	1~82
福岡県の地名	分担	2004.10	平凡社:日本歴史地名大系41巻	有馬学監修	27~29他
第一章 地理	分担	2006. 3	勝山町:勝山町史上巻	勝山町史 編纂委員会	8~26
福岡県西方沖地震の不思議	分担	2007.12	新人物往来社:福岡県のおもしろ事典	半田隆夫・堂前亮平編	210~211

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
ため池の景観分類から見た環境景観の地域性— 福岡県京都郡勝山町のため池 —	2005. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	151~171
現地調査から見た福岡県西方沖地震被害の特徴	2005. 9	西南学院大学論集:第1巻第1号	61~104

園児の生活環境の長期的変化と保育課題の変化 「保育現場における実践的カリキュラムの研究第8章」	2007. 3	西南学院大学論集: 第2巻第2号	131~143
オアフ島ホノルル火山活動によるタフリングの地形分析	2007. 8	西南学院大学論集: 第3巻第1号	125~147
地震防災のためのGISによる地域情報化の研究—福岡 県西方沖地震と警固断層の検討事例—	2008. 2	西南学院大学論集: 第3巻第2号	93~120
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007 年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	97~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
2003年福岡豪雨による太宰府市原川流域の土石流と 斜面崩壊の地形・地質特性(査読)	共著	2004. 7	土木学会西部支部: 第2回土砂災害に対するシンポジウ ム論文集	黒木貴一・磯望・後藤健 介	93~98
2003年九州豪雨による太宰府市四王寺山脈の崩壊と 土石流の地形・地質的特性	共著	2004.12	地域防災研究会: 地域防災研究論文集第1巻	磯望・黒木貴一・後藤健 介	1~6
今山遺跡第8次調査地点の地形と地質	共著	2005. 3	福岡市教育委員会: 福岡市埋蔵文化財調査報告書835集	磯望・下山正一	173~176
砂礫から見た西新町遺跡基盤の古環境	共著	2005. 3	福岡県教育委員会: 福岡県文化財調査報告書200集	磯望・梶原忠裕	147~150
福岡県西方沖地震について(速報)	単著	2005. 4	土砂管理研究会: 2005土砂災害に関する緊急フォーラム	磯望	27~28
警固断層、薬院地区(福岡市)でのトレンチ調査報告 (査読)	共著	2005. 6	活断層研究会: 活断層研究25号	下山正一・磯望・松田時 彦・市原秀彦・千田昇・岡 村真・茂木透・鈴木貞臣・ 落合秀治・長沢新一・今 西肇・川畑史子・矢ヶ部秀 美・樗木政昭・松浦一樹	117~128
福岡市街地の警固断層について	共著	2005. 6	九大西部地区自然災害資料センター: Western Japan NDIC News33号	下山正一・松田時彦・磯 望・市原秀彦・千田昇・岡 村真・茂木透・鈴木貞臣・ 落合英治・長沢新一・今 西隆・川畑史子・矢ヶ部秀 美・樗木政昭・松浦一樹	7~12
2003年九州豪雨における浸水状況から見た福岡市博 多駅周辺の土地条件(査読)	共著	2005. 8	東北地理学会: 季刊地理学57巻2号	黒木貴一・磯望・後藤健 介 張麻依子	63~78
アンケートとGISによる福岡県西方沖地震の実態調査 の試み	共著	2006. 2	自然災害研究協議会西部地区部会: 自然災害研究協議 会西部地区部会報30号	黒木量一・磯望・後藤健 介	127~130
GISによる2万5千分の1地形図からの詳細土地利用 データ作成とその利用	共著	2006. 2	福岡教育大学: 福岡教育大学紀要第55号第2分冊	黒木貴一・磯望・後藤健 介	39~48
台風14号による大淀川流域の氾濫被害—衛星画像と 現地調査による分析—	共著	2006. 2	自然災害研究協議会西部地区部会: 自然災害研究協議 会西部地区部会報30号	磯望・後藤健介・黒木量 一・大平明夫	25~28
衛星画像による北部九州の土地被覆の経年的変化	共著	2006. 3	西南学院大学学術研究所: 平成16~17年度科研費補助 金基盤研究C一般研究成果報告書16500653	西木真織・後藤健介・磯 望	29~43

北部九州で認められる衛星画像の季節的变化	共著	2006. 3	西南学院大学学術研究所:平成16年度科研費補助金(基盤研究C一般)研究代表者磯望16500653	磯望・西木真織・後藤健介	57～73
台風14号による大淀川下流洪水氾濫区域の実態と地形・土地条件の特徴	共著	2006. 3	九州大学工学研究院:平成17年度科研費補助金(特別研究促進費)研究代表者;善功企17800003	磯望・黒木貴一・後藤健介	182～187
2003年九州豪雨時の御笠川における実態鏡による流速測定(査読)	共著	2006.12	国際地図学会:地図第44巻, 第4号	黒木貴一・磯望・後藤健介・張麻衣子	1～8
空中写真による斜面災害地の土地被覆分類—相知町を対象として	共著	2007. 2	自然災害研究協議会西部地区部会:自然災害研究協議会西部地区部会報第31号	黒木貴一・磯望・後藤健介・黒田圭介・辻真弓	65～68
衛星データとGISによる環境変化解析—太宰府市の例—	共著	2007. 2	福岡教育大学:福岡教育大学紀要第56号第2分冊	黒木貴一・磯望・後藤健介・宗建郎	13～24
総合的な防災対策の九州圏におけるあり方	単著	2007. 7	国土交通省九州地方整備局:九州圏広域地方計画に関する提言集第1集	磯 望	11～15
2003年九州豪雨による太宰府原川流域の斜面崩壊と谷壁斜面の地形・地質的特性(査読)	共著	2007. 9	日本応用地質学会:応用地質第48巻第4号	黒木貴一・磯望・後藤健介	170～179
衛星データで見た太宰府市の山地斜面における土地被覆の季節変動	共著	2008. 2	福岡教育大学:福岡教育大学紀要第57号, 第2分冊	黒木貴一・磯望・後藤健介	11～21
雲仙普賢岳噴火以降の地形・植生環境の変化—火砕流堆積地域を中心に—	共著	2008. 2	自然災害研究協議会西部地区部会:自然災害研究協議会西部地区部会報・論文集第32号	磯望・黒木貴一・後藤健介・黒田圭介・宗建郎	57～60
衛星画像による太宰府市周辺土地被覆変化の特性	共著	2008. 3	太宰府市史資料室:年報太宰府第2号	磯望・西木真織・後藤健介・黒木貴一・宗建郎	54～66
デジタルカメラによるリモートセンシングの方法とその利用(査読)	共著	2008. 6	国際地図学会:地図第46巻第2号	黒木貴一・後藤健介・磯望	1～9
雲仙の火砕流堆積地における侵食量評価の試み	共著	2008. 8	土木学会西部支部:第4回土砂災害に関するシンポジウム論文集	黒木貴一・磯望・後藤健介	55～60
福岡平野東縁部に位置する宇美断層の特徴について(査読)	共著	2008.10	日本活断層学会:活断層研究第29号	下山正一・磯望・千田昇・岡村眞・松岡裕美・池田安隆・松田時彦・竹村博士・石村大輔・松末和之・松山尚典・山盛邦生	59～70
1982年長崎豪雨の被災地における環境変化	共著	2009. 2	自然災害研究協議会西部地区部会:自然災害研究協議会西部地区部会報・論文集第33号	黒木貴一・磯望・後藤健介・宗建郎・黒田圭介	29～32
LANDSATデータによる植物活性度変化と土地条件の関心の分析	共著	2009. 2	福岡教育大学:「人工衛星データによる斜面特性の評価の詳細研究」平成18～20年度科研費補助金(基盤研究C一般)研究成果報告書、研究代表者黒木貴一18500780	黒木貴一・磯望	36～45
雲仙火砕流堆積地における侵食量評価	共著	2009. 2	福岡教育大学:「人工衛星データによる斜面特性の評価の詳細研究」平成18～20年度科研費補助金(基盤研究C一般)研究成果報告書、研究代表者黒木貴一18500780	黒木貴一・磯望	100～106
雲仙平成噴火以降の地形・土壌・植生変化の特徴	単著	2009. 2	福岡教育大学:「人工衛星データによる斜面特性の評価の詳細研究」平成18～20年度科研費補助金(基盤研究C一般)研究成果報告書、研究代表者黒木貴一18500780	磯 望	30～35

衛星データによる被災地の環境指標解析	共著	2009. 2	自然災害研究協議会西部地区部会：自然災害研究協議会西部地区部会報・論文集第33号	後藤健介・黒木貴一・磯望・宗建郎・黒田圭介・Vu Dinh Thiem・溝田勉	75～78
相知町の斜面災害地に対する空中写真による土地被覆分類	共著	2009. 2	福岡教育大学：「人工衛星データによる斜面特性の評価の詳細研究」平成18～20年度科研費補助金(基盤研究c一般)研究成果報告書、研究代表者黒木貴一18500780	黒木貴一・磯望・後藤健介・黒田圭介	61～67
長崎豪雨災害地の環境変化に対する総合的調査	共著	2009. 2	福岡教育大学：「人工衛星データによる斜面特性の評価の詳細研究」平成18～20年度科研費補助金(基盤研究c一般)研究成果報告書、研究代表者黒木貴一18500780	黒木貴一・磯望・後藤健介・宗建郎・黒田圭介	131～136
防災のための空中写真判読の工夫	共著	2009. 3	地域防災研究会：地域防災研究論文集No.2	黒木貴一・磯望・後藤健介	1～8

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 8. 4	2003年福岡豪雨による太宰府市原川流域の土石流と斜面崩壊の地形・地質的特性	土木学会西部支部第2回土砂災害に関するシンポジウム
2004. 8.27 ～ 2004. 8.28	再来した土石流災害と斜面崩壊の特性—太宰府市四王寺山脈の事例—	日本第四紀学会2004年大会
2004.11.20	行政資料を利用した過去の災害履歴調査—福岡県太宰府市の例—	日本災害情報学会
2005. 3.28 ～ 2005. 3.29	GIS による地形図からの土地利用データ作成とその利用	日本地理学会春季学術大会
2005. 3.28 ～ 2005. 3.29	GIS を用いた土地利用区分から見た衛星データ反射率特性の微細研究	日本地理学会春季学術大会
2005. 3.28 ～ 2005. 3.29	2005年3月20日発生の福岡県西方沖地震による被害	日本地理学会春季学術大会
2005. 3.28 ～ 2005. 3.29	ため池周辺の景観区分と環境景観地域区分試案—福岡県京都郡勝山町の場合—	日本地理学会春季学術大会
2005. 4.16	福岡県西方沖地震について(速報)	総合土砂管理研究会
2005. 5	実体鏡を用いた2003年九州豪雨時の御笠川の流速測定	東北地理学会春季学術大会
2005. 5.14 ～ 2005. 5.15	福岡県西方沖地震災害について	日本地形学連合
2005. 5.15	衛星データと GIS による雲仙火砕流被災地およびその周辺の環境変化解析	日本地形学連合
2005. 7.24	福岡県西方沖地震と警固断層の調査	福岡地理学会例会
2005. 8.26 ～ 2005. 8.27	福岡県西方沖地震による被害分布の特徴	2005年日本第四紀学会大会
2005. 8.26 ～ 2005. 8.27	太宰府市におけるため池周辺景観の変遷	2005年日本第四紀学会大会
2005. 9.17	アンケートと踏査による福岡県西方沖地震の被害分布	日本地理学会秋季大会
2005. 9.17 ～ 2005. 9.18	大淀川下流域における台風14号による浸水被害	日本地理学会秋季学術大会
2005.10	太宰府市原川流域における2003年九州豪雨による斜面崩壊地の地形・地質条件	日本応用地質学会
2005.11.17	福岡県西方沖地震の被害分布の特徴	第24回日本自然災害学会学術講演会

2005.11.18	台風14号による大淀川流域の洪水氾濫の実態	第24回日本自然災害学会学術講演会
2006. 1.29	2005年台風14号による大淀川下流域の氾濫被害の実態	福岡地理学会例会
2006. 2.18	福岡県西方沖地震とその影響	日本安全教育学会2005年度研究集会
2006. 3.28 ~ 2006. 3.29	幼稚園の都市的環境と保育課題の特徴の関係ー福岡市内の幼稚園を例にしてー	日本地理学会春季学術大会
2006. 3.28 ~ 2006. 3.29	ランドサットデータに現れる季節変動特性ー北部九州の事例ー	日本地理学会春季学術大会
2006. 3.28 ~ 2006. 3.29	アンケートによる福岡県西方沖地震の影響調査	日本地理学会春季学術大会
2006. 3.29	衛星データと GIS による太宰府市の環境変化解析	日本地理学会春季学術大会
2006. 8. 5 ~ 2006. 8. 6	LANDSATデータによる北部九州の地表の季節変動	日本第四紀学会50周年記念大会
2006. 8. 5 ~ 2006. 8. 6	人工衛星データとDEMによる地表の季節変動の観察	日本第四紀学会50周年記念大会
2006. 9.23 ~ 2006. 9.24	ランドサットデータによる斜面の地形区分の試み	日本地理学会秋季学術大会
2006. 9.23 ~ 2006. 9.24	2005年台風14号による大淀川下流浸水域の特徴	日本地理学会秋季学術大会
2006.10.29	福岡県西方沖地震の震動体感とその影響	日本災害情報学会大会
2006.10.29	2005年宮崎水害から考えられる感染リスクマネジメント	日本安全教育学会大会
2007. 1.28	福岡県西方沖地震の液状化と警固断層周辺のGISによる検討	福岡地理学会
2007. 3. 4	Damages caused by 2005 West-off Fukuoka Earthquake and Ground Conditions	The International Symposium on Geomorphological Approaches to Investigations to Natural Hazards and Environmental Change in Taiwan and Japan,
2007. 3.20 ~ 2007. 3.21	衛星データによる環境把握の試みーLANDSATデータとQuick Birdデータを用いた太宰府市周辺地域の環境解析	日本地理学会春季学術大会
2007. 3.20 ~ 2007. 3.21	デジタルカメラによるリモートセンシングの試み	日本地理学会春季学術大会
2007. 3.20 ~ 2007. 3.21	福岡県西方沖地震の噴砂と警固断層周辺の土地利用のGISによる検討	日本地理学会春季学術大会
2007. 3.20 ~ 2007. 3.21	ハワイ州オアフ島のホノルル火山活動に伴う火山地形	日本地理学会春季学術大会
2007. 3.20 ~ 2007. 3.21	唐津市相知町田頭地区の2006年9月16日土砂・洪水災害	日本地理学会春季学術大会
2007. 9.14	教養としての災害教育ー災害知見の体系化ー	九州地区大学一般教育研究協議会
2007.10. 6 ~ 2007.10. 7	画像処理ソフトとGISを利用した接峰面図の作成と地形解析の検討ーオアフ島タフリング地形を例にして	日本地理学会秋季学術大会
2007.10. 6 ~ 2007.10. 7	雲仙噴火以降の植物活性度変化と土地条件	日本地理学会秋季学術大会
2007.10.11 ~ 2007.10.12	災害と環境調査における空中写真のGIS解析	日本応用地質学会研究発表会
2007.11.19 ~ 2007.11.20	Relations between the change of topography and the change of NDVI after recent Unzen eruption,	世界都市火山会議
2008. 3.29 ~ 2008. 3.30	急傾斜地における衛星データを用いた環境指標解析	日本地理学会春季学術大会

2008. 3.29 ~ 2008. 3.30	植物活性度変化の区分とそれに関連する雲仙の地形	日本地理学会春季学術大会
2008. 3.29 ~ 2008. 3.30	GISを利用した考古学情報データベース作成－福岡市史における試み－	日本地理学会春季学術大会
2008. 3.29 ~ 2008. 3.30	GISを利用した簡便な堆積・侵食量算出方式－雲仙・普賢岳を例にして－	日本地理学会春季学術大会
2009. 3.28 ~ 2009. 3.29	土砂崩壊地における衛星データを用いた長期モニタリングによる環境変動調査	日本地理学会春季学術大会
2009. 3.28 ~ 2009. 3.29	1982年長崎豪雨による被災地の環境変化と土地被覆分類	日本地理学会春季学術大会

社会活動

期間	活動内容
1985. 4 ~ 2006. 3	Museum Kyushu 編集委員
2001. 5 ~ 2005.11	九州国立博物館(仮称)常設展示実施計画検討に係る協力者
2002. 5 ~ 2006. 3	勝山町史執筆委員
2004. 3 ~	福岡県五ヶ山ダム環境配慮アドバイザー
2004. 7 ~ 2006. 7	福岡地理学会委員長
2005. 2 ~	福岡県国土利用計画審議会委員
2005. 4 ~	福岡市史編集委員会考古部会専門委員
2005. 6 ~ 2007. 3	福岡県宇美断層調査検討委員会委員長
2005.11 ~ 2009. 3.31	福岡市警固断層調査検討委員会委員長
2006. 3 ~ 2008. 3	日本地理学会学会賞候補者選考委員
2006. 4 ~	日本地理学会代議員
2006. 9 ~ 2008.11.30	太宰府市史編さん委員会委員
2007. 1 ~ 2008. 3	福岡市建築物耐震対策検討委員会委員
2007. 3 ~	国土交通省 九州圏広域地方計画ブレ協議会 検討小委員会委員
2007. 3 ~ 2008. 3	日本地理学会奨励賞候補者賞選考小委員会委員長
2008. 8. 1 ~	福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会建設専門部会委員
2008.12. 1 ~	太宰府市公文書館構想調査研究委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 黒木 重雄 (6108)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 絵画指導において自作を教材として用いる試み	2003. 4 ~	『授業科目:演習』自作の制作過程を実際に公開し、詳細に解説することによって「絵画とは何か?」を考えさせる手がかりとしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『授業科目:図画工作科教育研究、造形基礎、保育内容の研究(表現)』授業評価を実施している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 作品集サイト	2003. 4 ~	「絵画指導において自作を教材として用いる試み」の一環として、自分自身の作品集サイトを編集し、一制作者としての興味関心の変遷をウェブ上で紹介している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 授業で制作した作品の展覧会	2003. 4 ~	『授業科目:造形基礎、教職総合演習、演習』学生が制作した作品を学生ホールや屋外に展示することによって、制作者としての意識を高めると共に、美術に親しみやすい環境作りをしている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
絵画の指導についての模索 —自作を教材として用いる試み—	2008. 2	西南学院大学論集:第3巻第2号	187~198
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
黒木重雄アーティスト・トーク	単著	2005.11	熊本市現代美術館:Art Gamadas3巻	黒木重雄	368~374

2 専任教員の教育・研究業績(芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員)

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 黒木 重雄 (6108)	
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場所	開催日時	発表・展示等の内容等
熊本市現代美術館常設展示	熊本市現代美術館	2004. 4 ~ 2005. 3	作品「オタマジャクシ」、アクリル画、182.0×227.5cm
熊本市現代美術館収蔵作品展	熊本市現代美術館	2004.12.23 ~ 2005. 1.16	作品「Statement」、アクリル画、152.0×121.5cm 作品「Outlet-2」、アクリル画、121.5×152.0cm 作品「House」、アクリル画、182.0×227.5cm
第14回青木繁記念大賞公募展	石橋美術館(久留米)	2005. 3.11 ~ 2005. 3.27	作品「冷蔵庫の上」、アクリル画、130.3×162.0cm、優秀賞
動物ひょうきん属大図鑑	兵庫県立美術館	2005.11.19 ~ 2006. 3. 5	作品「ANIMAL ARCH」アクリル画、130.3×227.4cm
第15回青木繁記念大賞公募展	石橋美術館(久留米)	2006. 3.10 ~ 2006. 3.26	作品「青いバケツ」アクリル画、130.3×162.0cm
第15回 英展	田川市美術館	2006. 7.11 ~ 2006. 7.30	出品委嘱 作品「Cooking」、アクリル画、130.3×162.0cm
黒木重雄展	ギャラリー山口(東京)	2007. 3.19 ~ 2007. 3.24	個展 作品「Ribbon」、アクリル画、162.0×130.3cm 作品「Three Amigos」、アクリル画、162.0×130.3cm 他7点
宮崎県美術連盟と郷土出身作家展	宮崎県立美術館	2007. 4.24 ~ 2007. 5. 7	出品委嘱 作品「Ribbon」、アクリル画、162.0×130.3cm 作品「冷蔵庫の上」、アクリル画、130.3×162.0cm
Friends of Hitoshi Nakazato Exhibit	Ice Box Projects Space(フィラデルフィア、アメリカ)	2007.10. 4 ~ 2007.10.14	出品委嘱 作品「Octopus Wiener」、木版画、76.3×56.2cm
黒木重雄展	ギャラリー山口(東京)	2008. 9. 8 ~ 2008. 9.13	個展 作品「Ophelia」、アクリル画、182.0×227.5cm 作品「Angel Ring」、アクリル画、227.5×182.0cm 他6点
Painting Pink Pajamas	Contemporary Art Center of Peoria (イリノイ、アメリカ)	2008.11. 8 ~ 2009. 1. 2	出品委嘱 作品「Wish upon a atar」、アクリル画、72.8×41.2cm 作品「Happiness」、アクリル画、72.8×60.8cm 他1点

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 松村 敬治 (6109)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004.7 ~ 2007.6	『授業科目:生活の化学I』最終講義の最後の15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善につとめている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004.12 ~ 2006.12	『授業科目:生活の化学II』最終講義の最後の15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善につとめている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) OHPの活用	2005.4 ~ 2007.7	『授業科目:自然科学概論I』OHPを利用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2005.4 ~ 2007.9	『授業科目:教職総合演習』メールによる質問を受け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2005.4 ~ 2007.9	『授業科目:生活の化学I・II』メールによる質問を受け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005.4 ~ 2007.9	『授業科目:演習I・II』パワーポイントを利用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) OHPの活用	2005.4 ~ 2007.9	『授業科目:生活の化学I・II』OHPをときどき利用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) OHPの活用	2005.10 ~ 2007.1	『授業科目:理科教育研究』OHPを利用し、工夫を凝らして行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2005.10 ~ 2007.3	『授業科目:環境の科学II』メールによる質問を受け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2006.4 ~ 2007.9	『授業科目:教職総合演習』パワーポイントを利用し、工夫を凝らして行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2003.4 ~ 2007.7	『授業科目:自然科学概論I』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。

2	作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2003. 4 ~ 2007. 7	『授業科目：生活の化学I・II』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2003.10 ~ 2007. 1	『授業科目：環境の科学II』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2003.10 ~ 2007. 1	『授業科目：理科教育研究』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2006. 8	日本理科教育学会で虹ボードの演示実験を使った環境教育と理科教育について発表を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2006. 8	西南学院大学のリカレント講座で教育関係者を対象に授業中での安全の心得と実践について講演。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2007. 2	福岡授業研究交流会で理科教育で実施する実験・実習における安全教育について発表を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2007. 9	九州地区大学一般教育研究会において理科教育を効果的に行うための演示実験について発表を行った。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「虹ボード」を用いた可視スペクトルを実感する教材－ 「虹ボード」の製作から小・中学校の理科教育への応 用まで－	2006. 2	西南学院大学論集：第1巻第2号	109～140
小学校の理科教育における安全の留意点と教員養成 課程での安全教育	2007. 3	西南学院大学論集：第2巻第2号	203～220
小学校理科の安全教育につながる教員養成課程での ガラス細工の実習	2009. 2	西南学院大学論集：第4巻第2号	75～96

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
視覚教材『虹ボード』を用いた理科教育と環境教育	単著	2006. 8	日本理科教育学会：日本理科教育学会発表論集第4号		219
Fourier transform microwave spectroscopy of isotopically substituted diacetylenes: rs-structure, quadrupole coupling, and anisotropic nuclear spin-spin interaction	共著	2006. 9	Elsevier: J. Mol. Spectroscopy240巻1号	K. Matsumura, R.D.Suenram, F.J.Lovas, T.Tanaka	120～126

Erratum to "Fourier transform microwave spectroscopy of isotopically substituted diacetylenes: ν_2 -structure, quadrupole coupling, and anisotropic nuclear spin-spin interaction" [J.Mol.Spectrosc.(2006)120-126]	共著	2007. 2	Elsevier: J. Mol. Spectroscopy 242巻1号	K. Matsumura, R.D.Suenram, F.J.Lovas, T.Tanaka	76
教員養成課程や教養教育の理科の講義で行う効果的な 演示実験	単著	2008. 3	九州地区一般教育研究協議会: 第56回九州地区大学一般教育研究協議会議事録		47~49

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 9.23	ジアセチレン-dとその ^{13}C 同位体種のフーリエ変換マイクロ波分光—超微細構造の解析と分子構造の決定—	分子構造総合討論会2006
2007. 3. 1	小学校の理科教育における安全の留意点と教員養成課程での安全教育	第25回福岡授業研究交流会
2007. 9.14	教員養成課程や教養教育の理科の講義で行う効果的な演示実験	第56回九州地区大学一般教育研究協議会

社会活動

期間	活動内容
2006. 8. 1 ~ 2006. 8. 3	西南学院大学2006年度リカレント講座
2008. 2.27	小学校理科支援員等配置事業に係る特別講師(福岡県)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 松永 裕二 (6110)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) NIE(Newspaper in Education)の実践	2000. 4 ~	『授業科目:教育の理念と歴史』、『授業科目:教師論』、『授業科目:生涯学習概論』 NIE(Newspaper in Education)とは「教育に新聞を」の意であるが、これらの授業では、毎回講義内容に関連する新聞記事を補助プリント教材として配布し講義の導入や討論の材料として活用している。また、児童教育学科学生と全学教職課程履修生を対象とする「教職総合演習」においては、ゼミ生個々人でのまたグループによる学習に際して新聞記事を活用させNIEを本格的に実践している。講義・演習におけるNIEの実践は、学生に「教育の現実」を直視させ自ら考え、討論するきっかけを作り学習意欲を高める上で効果が大きい。また、近年における大学生の活字離れ傾向は、西南学院大学においても顕著になりつつあるが、大学におけるNIEの実践は、この予防にも効果的である。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 演習・卒論指導などにおけるe-mailの活用	2002. 4 ~	『授業科目:演習Ⅰ』、『授業科目:演習Ⅱ』、『授業科目:教職総合演習』これらの演習科目や卒論指導では、学生との連絡、授業に関する質問や要望、課題レポートの受け付けなどにe-mailを活用している。児童教育学科では、卒業論文の中間報告(発表会を毎年12月の第一土曜日に実施)を全員に必修として課している。そのレジュメ作成のための個別指導も、e-mailによって行っている。卒業論文の作成においても、e-mail(大学研究室および自宅宛の添付書類)による卒論草稿の添削指導を個別的にかなりの回数繰り返し、卒業論文の質の維持と向上に努めている。e-mailによるこのような個別指導は、学生の満足感・達成感を高める上で非常に有効である。なお、3年ほど前からは受講生の全員が携帯電話を使用するようになったので、学生への連絡などでは携帯電話メールの活用度合いが高まっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2003. 4 ~	『授業科目:教育の理念と歴史』、『授業科目:教師論』、『授業科目:生涯学習概論』講義後半の授業評価期間中に授業評価を実施し、その結果を次の学期の講義改善に活用するように努めている(評価結果を持ち寄っての教員有志による授業改善のための研究会に参加、受講生への評価結果および改善点についての報告など)。
2 作成した教科書、教材、参考書 「大学生の体験的『教師像』—自由記述アンケートの分析に基づいて—」を教材として利用	2005.10 ~	『授業科目:教師論』 左記は、「教師論」の受講者を対象に2004(平成16)年4月12日に実施した「これまでに印象に残った先生について」の自由記述アンケートの内容を分析したものである。教師論では、最初の授業で受講生に「印象に残った先生」についてまず発表させそれをレポートとして提出させている。次の授業でそのレポート内容の要約を示すが、その際上記の分析結果も紹介して教師の理想像を考察する上での参考にさせている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 授業改善のための研究会に参加	2003. 4 ~	人間科学部児童教育学科教員有志による授業改善のための研究会(福岡授業研究交流会)に出席して、学生による授業評価の結果を報告してアドバイスを受けた。他の大学教員や小学校教員の授業実践報告を聴くなどしたりして、自己の授業改善に努めている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 教員採用試験受験指導	2002. 4 ~	児童教育学科の教員採用試験受験者に対して、教員有志で受験指導を行っている。松永は、主として小論文の添削や教育時事問題に関する講義を担当しているが、このような指導の結果、この数年来教員採用試験の合格者数は急増している。

4 その他の教育活動上特記すべき事項
 ゲストスピーカーとして実務家(現職、退職教員)の招聘

2002.10 ~

『授業科目:教師論』「教師論」では、学校現場における教員の実態と諸問題を理解させるために現場の先生(全学教職課程の教師論では公立中学校を退職した元校長、児童教育学科の教師論ではOBの現職小学校教員)を招聘して、教員としての自覚・責任や理想の教師像についてご自身の経験を踏まえた講義(1回、2時間)をしてもらっている。講義の後には、講師との質疑応答、討論の時間を設けて講義が一方的な講演で終わらないように配慮している。受講生による受講後の感想によれば、現場教師としての経験が豊かであつた自分の教育観をもった外部講師の話を聴くことによって、教職へのモチベーションがこれまで以上に高まることが判明した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
大学生の体験的「教師像」－自由記述アンケートの分析に基づいて－	2005. 9	西南学院大学論集:第1巻第1号	133～165
幼大連携の現状と課題－附属幼稚園全国アンケート調査の結果に基づいて－	2007. 3	西南学院大学論集:第2巻第2号	157～182
ロシア連邦における第7回(2007年)統一国家試験の結果について	2008. 2	西南学院大学論集:第3巻第2号	35～55

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ロシアの大学受験事情	単著	2004. 5	ユーラシア研究所:ユーラシア研究所第30号		46～51
統一国家試験(Единый государственный экзамен)によって英才児の選抜は可能か	単著	2005. 3	都留文科大学:『ロシアにおける英才教育と学校の多様化・個性化に関する総合的調査研究』(平成14～16年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)(海外)、課題番号14401006、研究代表・都留文科大学・福田誠治、最終報告書)		122～147
統一ヨーロッパ・プロセスの方向における高等教育前職業教育	単訳	2006. 3	首都大学東京:『ロシア連邦のキャリア教育に関する総合的調査研究－グローバル化する中等・労働教育を中心として－』(平成17～19年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査、課題番号17402042、研究代表・首都大学東京・岩崎正吾、平成17年度中間報告書)		175～177
ニジェゴロド州教育統計資料2005年	単訳	2006. 3	首都大学東京:『ロシア連邦のキャリア教育に関する総合的調査研究－グローバル化する中等・労働教育を中心として－』(平成17～19年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査、課題番号17402042、研究代表・首都大学東京・岩崎正吾、平成17年度中間報告書)		169～174
「中等職業教育機関標準規程(2002年12月23日正)」	共訳	2006. 3	首都大学東京:『ロシア連邦のキャリア教育に関する総合的調査研究－グローバル化する中等・労働教育を中心として－』(平成17～19年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査、課題番号17402042、研究代表・首都大学東京・岩崎正吾、平成17年度中間報告書)		150～158

ロシア連邦の学校教育と児童生徒の資質・能力	単著	2007. 3	国立教育政策研究所:『諸外国における学校教育と児童生徒の資質・能力』(平成18年度調査研究等特別推進経費調査研究報告書、研究代表者・国立教育政策研究所次長・山根徹夫)	187～189
カザフスタン 2006年の教育の現状と発展に関する国家報告(概観)	共訳	2009. 3	筑波大学:『ポストソ連時代における中央アジア諸国の教育戦略に関する総合的比較研究』(平成20～22年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査、研究代表・筑波大学・嶺井明子、平成20年度中間報告書)	147～191
2008年度カザフスタン現地調査報告	共著	2009. 3	筑波大学:『ポストソ連時代における中央アジア諸国の教育戦略に関する総合的比較研究』(平成20～22年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査、研究代表・筑波大学・嶺井明子、平成20年度中間報告書)	65～85

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 6.26	ロシアの英才教育に関する総合的研究(共同発表)	日本比較教育学会
2008. 9.28	カザフスタン共和国現地調査(2008,9/12～9/19)報告	ロシア・ソビエト教育研究会9月定例研究会

社会活動

期間	活動内容
1997. 7 ～ 2007. 6	福岡市早良市民センター運営審議会副委員長
2007. 7 ～	福岡市早良市民センター運営審議会委員長
2008. 9. 1 ～ 2009. 3.31	福岡市立香椎第一中学校・学校関係者評価委員会委員長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 中村 奈良江 (6111)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	--------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義以外での勉強会の実施	1996. 4 ~	①心理統計の勉強会の実施:開講されている授業では不足する統計学を春休み期間中に6日~8日間、1日2時間から4時間で毎年実施している。参加者は3年生のゼミ生を中心に心理学の授業をとっている学生であれば自由参加で行っている。毎年10人から20人の参加である。平成14年度は始めて2年生にも連絡し、参加者が増えた。従来は4年次で作成する卒論のデータ分析の知識を補充するものとして行っているが、2年生に実施したことにより、3年生の前期に行われる「教育心理学基礎実験」での授業が円滑に行われた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義以外での勉強会の実施	1996. 4 ~	②心理学に関する英文の読書会の実施:大学院受験を希望する学生を中心に、英文の教科書、論文、専門書を読み合わせを実施している。英文の心理学書を読む事により英語を理解するだけでなく、内容について議論を行うことによって理解がさらに深まる効果が認められている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 演習形式授業の事前指導時間の設定	2000. 4 ~	「演習I」および「認知心理学I・II」では、指定された教科書、または、自分で選択した論文を学生自身がまとめレジュメ形式にして発表することから、発表の前週に相談時間を設けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 読書フォーラムへの参加	2006. 9.23 ~	福岡市主催
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) チルドレンミュージアムへの参加	2007.11.17 ~	於)福岡市立高取小学校 西新チルドレンミュージアム主催 於)福岡市立百道浜小学校
2 作成した教科書、教材、参考書 『生活にいかす心理学』古城和子編	2000. 4 ~ 2006. 1	「心理学」の教科書として使用
2 作成した教科書、教材、参考書 『知性と感性の心理学』行馬次朗・箱田裕司編	2000.10 ~ 2007. 1	「認知心理学II」の教科書として使用
2 作成した教科書、教材、参考書 『心理学リーディングス-素朴だけれど不思議な日々の出来事と人間心理』山口裕幸編	2001. 4 ~ 2007. 1	「心理学」の講義での参考図書として使用
2 作成した教科書、教材、参考書 『発達・学習の心理学』弓野憲一	2001.10 ~ 2007. 1	「教育心理学」(九州大学の非常勤)の参考図書として使用
4 その他の教育活動上特記すべき事項 高等学校への出張講師	2004.11.11	福岡県立城南高校

4	その他の教育活動上特記すべき事項 高等学校への出張講師	2004.11.11 ~ 2006. 6	2004年福岡県立早良高校 2005年福岡県立糸島高校 2008年福岡県立城南高校 に訪問している。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡市西区グループ研修	2008. 4 ~	西区の保育園の子育て支援に関する研修の指導。 年鑑10回各2時間。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡子育てパーク 子育てWeb講座	2009. 4 ~ 2009. 9	月に1回児童期向けの子育てに関するヒントを掲載。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡市早良区子育てサロンサポーター研修会講師	2009. 6.30	子育てサポーターの研修会に於いて、各サロンで何を指すことが重要であるか について講演した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
行動空間のイメージ —大人の行動空間のイメージの特徴と形成過程モデル—	単著	2009. 2	ナカニシヤ出版	中村奈良江	全ページ

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
どんな目印の属性が重要か？	2004. 9	西南学院大学論集:第4巻第1号	13~29
空間イメージの再考—サーヴェイ・マップの特徴の見直しから—	2006. 2	西南学院大学論集:第1巻第2号	25~44
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取組	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97~137(99-100,102)

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.11. 6 ~ 2006.11. 7	大人におけるルート・マップ型表象の特徴の再考	日本イメージ心理学会第7回大会
2008. 9.19 ~ 2008. 9.21	サーヴェイ・マップはどういうときに作成されるか？	日本心理学会第72回大会
2009. 8.26 ~ 2009. 8.28	方向感覚の違いによるカーナビゲーションの利用状態	日本心理学会第73回大会

社会活動

期間	活動内容
1996. 6 ~	福岡市明るい選挙推進協議会・委員
2000. 6 ~	福岡市個人情報審議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 西野 祥子 (6112)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育実践力育成のための工夫(1)	2000.4～	家庭科という教科の独自性でもある「生きた社会を舞台にした授業実践」ができる教師教育に努めるため、STS教育の方法(社会的・文化的文脈の導入と学習者主体の授業づくり)を取り入れ、教育効果を上げている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育実践力育成のための工夫(2)	2000.4～	全員参加の模擬授業の導入により、授業づくり、授業研究、授業評価について、総合的に学ぶ機会を準備している。また、4年生等、教育実習経験者を模擬授業に活用しており、彼らによる助言が学習者に非常に役立っている。また、お互いが意見を自由に述べられる学習の雰囲気づくりに日頃から努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インタラクティブな学習環境の保障	2000.4～	常に学生の生活と学習内容を結びつけるための授業方法の工夫をしている。発言しやすい等、授業に積極的に参加することを楽しめるような雰囲気づくりに努めるとともに、学習者相互による学び合いの重要性にも配慮している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。また、出席カードの裏面を活用し、授業の理解度を確認し、次時の授業で補足説明を行ったり、学生の疑問に答えるようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地域社会の資源や行事の活用	2006.4～	生活に関わる地域の資源(環境や水、ごみに関する諸施設や商店街など)の授業への活用や、「食育祭inふくおか」「福岡市子ども読書フォーラム」などの行事への参加を授業に導入し、学習意欲の向上に役立てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 他大学の大学院生との合同授業の実施	2009.4～	国公立4大学コンソーシアムへ参加し、大学院の講義「教科教育学特論」を九州大学、九州産業大学、福岡工業大学に公開している。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業実践映像記録の作成と活用	2000.4～	諸学校の研究授業の映像記録をとり、家庭科教育研究の授業に活用している。よい授業づくりのための基本的要素を理解させるために、非常に有効である。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成(家庭科教育研究・家庭概論)	2008.10～	『改訂 生活と教育をつなぐ人間学 一思想と実践一』を執筆。それは、家庭科教育学原論と家庭科の授業づくりを有効に結びつける教科書が皆無なか、STS教育の導入(Home Economics in the Community)による統合の教科としての家庭科の授業実践を目指すものである。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 小・中学校教師との授業研究	2000.4～	福岡県教職員組合の家庭科部会との共同研究者として、授業づくりについての助言・授業研究のサポートを行っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
保育現場における実践的カリキュラムの研究 —西南学院舞鶴幼稚園を中心に—	2007. 3	西南学院大学論集:第2巻第2号	1~182

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
環境教育に関する態度測定尺度の開発	共著	2004.10	(社)日本家政学会:日本家政学会誌Vol.55No.10	住田和子	815~822

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 6.29	エレン・リチャーズの『ユーセニクス』にみる家庭科の今日的意義—家庭科の本質—	日本家庭科教育学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 大瀨 順彦 (6113)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:自然科学概論Ⅱ』最終講義の最後の20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:環境の科学Ⅰ』最終講義の最後の20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:物理学入門Ⅱ』最終講義の最後の20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:物理学入門Ⅰ』最終講義の最後の20分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005. 4 ~	『授業科目:教職総合演習』演習の課題に、パワーポイントを利用し、授業の工夫を凝らして行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントを作成	2003. 4 ~	『授業科目:環境の科学Ⅰ』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントを作成	2003.10 ~	『授業科目:理科教育研究』講義概要及び実験実習内容を示したプリントを作成し、配布を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 一般教育研究協議会自然科学部会の座長	2007. 9.14	第56回九州地区大学一般教育研究協議会の自然科学部会で、6件の発表者の座長を務めて、司会を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 サイエンスミュージアム:「科学の公園」構築に向けた活動	1994.11 ~	サイエンスミュージアム:「科学の公園」の構築に向けて、「おもしろ科学実験教室」活動を展開している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 科学講演:「科学を語る会」の活動	1997.11 ~	年度毎に統一テーマを設定して、科学の様々な分野の講師を招いて、これまで合計36回の後援会を開催企画した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 子どもの『安全な居場所』:「西新チルドレンズミュージアム」の活動	2006. 5 ~	五感を通したものづくりの楽しさ、科学や自然現象の不思議さを体験し発見する、遊びと学びの『場』を提供した。

4	その他の教育活動上特記すべき事項 NPO法人・科学の公園の活動	2007. 8 ~	NPO法人・科学の公園の社員として、福岡県下での「出前科学実験教室」活動へ参加して、実験を行った。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 福岡県小学校理科支援員等配置事業に係る特別講師	2008. 2.28 ~ 2008. 2.29	理科特別講師として、福岡県朝倉郡東峰村立小石原小学校及び福岡県飯塚市立蓮台寺小学校において、「浮沈子の作成」と「IC(集積回路)の世界」の実験・観察授業を行なった。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
理科教育における「ゆとり教育」と学力低下問題について—新学習指導要領と学力低下の影響についての考察—	2006. 2	西南学院大学論集: 第1巻第2号	79~108
『新・小学校学習指導要領解説・理科編における問題点について』へのコメント	2006. 2	西南学院大学論集: 第1巻第2号	141~144
小学校の理科教育における安全の留意点と教員養成課程での安全教育	2007. 3	西南学院大学論集: 第2巻第2号	203~220
児童教育学科学生の自己効力感に関する一考察—福岡市子ども読書フォーラム参加を通して—	2008. 2	西南学院大学論集: 第3巻第2号	149~177頁
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	97~137
小学校理科の安全教育につながる教員養成課程でのガラス細工の実習	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	75~96

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.12. 9	私立文系大学での物理教育(理科教育)の20年—大学教育から大学の地域貢献活動への展開—	第112回日本物理学会九州支部例会

社会活動

期間	活動内容
1993.12 ~ 2006. 3.31	科学公園をつくらんかい(会) 会員
1997.11 ~ 2005. 3.31	科学を語る会・運営委員(会員)
1998.12 ~ 2006. 3.31	科学公園をつくらんかい(会) 副会長
2005. 4. 1 ~	科学を語る会・副会長
2006. 3. 1 ~	西新チルドレンズミュージアム実行委員会・実行委員長
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	科学の公園をつくる会・副会長

2006. 8. 1 ~	NPO法人・科学の公園・社員
2007. 4. 1 ~	科学の公園をつくる会・会長
2008. 2.28 ~ 2008. 2.29	福岡県小学校理科支援員等配置事業に係る特別講師

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 瀬川 啓子 (6114)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	「音楽理論」最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、授業内容の難易度を把握することにより、指導内容・方法の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	「音楽A(器楽基礎)」最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、課題曲の難易度を把握することにより、課題曲の見直し、指導方法の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~	「音楽A(器楽入門)」最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、課題曲の難易度を把握することにより、課題曲の見直し、指導方法の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~	「音楽A(器楽応用)」最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、課題曲の難易度を把握することにより、課題曲の選曲や曲数の見直し、指導方法の改善を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「音楽A(器楽入門)、音楽A(器楽基礎)授業記録ノート」の作成	2008. 4 ~	「音楽A(器楽入門)、音楽A(器楽基礎)」毎時間ごとに課題曲についての練習上の問題点や、曲に対する感想などを記録する「授業記録ノート」を作成させることにより、指導法の改善や課題曲の選曲に役立っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 「応用用曲集」サブテキストの作成	2004. 4 ~	「音楽A(器楽応用)」幼児・児童の表現活動のためのマーチ・スキップ・ワルツを集めた「応用用曲集」を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 サブテキストとしてプリント作成	2005. 4 ~	「音楽A(器楽基礎)」・「音楽A(器楽入門)」学生自身が意欲的に楽しんでピアノ練習に取り組み、音楽表現の喜びを見い出すことが出来るように、サブテキストとして曲集プリントを作成した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97~137

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 8.28	研究演奏「バラード第3番 Op.47」(ショパン作曲)	全国大学音楽教育学会 第24回全国大会

社会活動

期間	活動内容
2009. 2.22 ~	全国大学音楽教育学会九州地区学会 県役員

2 専任教員の教育・研究業績(芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員)

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 瀬川 啓子 (6114)	
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場所	開催日時	発表・展示等の内容等
福岡合唱協会第59回定期演奏会	アクロス福岡シンフォニーホール	2005.10.14	・2台のピアノと混声合唱のための「唱歌の四季」(三善晃編曲)・ロシア民謡
ジョイフル・スーベニールコンサート	福岡市中央市民センター	2005.11.20	「九友合唱団」のピアノを担当し、6曲演奏する。
「ララの会」演奏会	ファイネスト福岡	2006. 9.10	[ピアノ独奏] [曲目]・ノクターンOp.72-1 遺作(ショパン作曲) ・ノクターン嬰ハ短調遺作(ショパン作曲) ・愛の夢(リスト作曲)
西南ゆりの会 ミニコンサート	西鉄グランドホテル「ザ・コンサバトリーサブミューズ」	2007. 3. 2	[ヴァイオリンの伴奏] [曲目]・ウィーン奇想曲(クライスラー作曲) ・ベートーヴェンの主題によるロンディーノ(クライスラー作曲) ・華麗なるポロネーズ(ウィニアフスキー作曲)
西南コミュニティセンターオープニングセレモニーミニコンサート	西南コミュニティセンターホール	2007. 3.31	[ヴァイオリンの伴奏][曲目]・歌の翼に(メンデルスゾーン作曲)・チゴイネルワイゼン(サラサーテ作曲)
「百道会(西南同窓会)」ミニ・コンサート	JALリゾート シーホークホテル福岡「ソトコトクラブ」	2007.10.25	[ヴァイオリンの伴奏][曲目]・エストレリータ(ポンセ作曲)・序奏とタランテラ(サラサーテ作曲)・メロディー(チャイコフスキー作曲)・チャルダッシュ(モンティ作曲)
第2回ホームカミングデー ミニ・コンサート	西南コミュニティセンターホール	2007.11.17	[ヴァイオリンの伴奏][曲目]・アヴェ・マリア(グノー作曲)・ラ・カンパネラ(パガニーニ作曲)・ユーモレスク(ドヴォルザーク作曲)・「カルメン幻想曲」より「序奏」・「第1曲」(サラサーテ作曲)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 田中 孝志 (6115)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~	『授業科目:発達心理学Ⅰ』『授業科目:演習Ⅰおよび演習Ⅱ』『授業科目:心理学研究法』『授業科目:子どもの発達と学習』 メールによる質問を受け付け, できるだけ早く学生の授業内容に関する疑問を解消することを目的としている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要の図解プリント	2008. 4 ~ 2008. 7	『授業科目:心理学研究法』 毎回の講義内容の概要を可能な限り図解し, 学生の理解度を高めるためのプリントを作成し, 配布した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
青年のコミュニケーションと対人関係に対する意識の検討—社会的スキルの観点から—	2004. 9	西南学院大学論集:第4巻第1号	1~12
大学生のコミュニケーション・ツールとしての携帯電話利用の分析	2005. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	65~85
大学生の呼びかけ語の研究	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	19~35

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 田代 裕一 (6116)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオ教材の活用	1991.4～	「教育の内容と方法」「教育方法論」、「教育課程論」、「教科外活動の研究」などにおいてビデオなどの視聴覚教材を組み入れることで、教育実践を具体的に理解させることに取り組んでいる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フィールドワークの実施	1993.4～	「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」において、福岡県を中心とする小学校の訪問および、授業研究会への参加を組み入れている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義コメント表の活用	2001.4～	平成13年度から、講義内容へのコメントを毎回、書かせることで、思考力、表現力、文書作成能力、など、将来の教師にとって必要な能力を育成する指導を、児童教育学科および全学教職課程での担当のすべての科目において行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 模擬授業の実施	2001.4～	「社会科教育法Ⅱ」「公民科教育法Ⅱ」では受講者全員に模擬授業を体験させ、教育実習への準備をさせている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の活用	2002.4～	大学の授業評価活動の一環として、「教育課程論」「教育方法論」「教科外活動の研究」「教育の内容と方法」などで学生の授業評価を受けている。講義への工夫、学生のコミュニケーションの促進、授業への熱意などでは比較的、良い評価となっていたが、板書などには課題があることがわかったので、改善に取り組んでいる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゲストスピーカーの招聘	2002.5～	特に「教育実習指導」において、ゲストスピーカーを招聘し、学生に教育の実際を解説してもらっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) スクールサポートラーニング(SSL)の実践	2003.4～	「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」で、福岡市立百道小学校と連携して、スクールサポート・ラーニングという活動を行っている。小学校の授業や行事を日常的にゼミの学生が支援することで、学校教育について総合的・体験的に学んでいくという取り組みである。
2 作成した教科書、教材、参考書 学習指導案資料集の作成と活用	2004.6～2007.6	平成16年から、教職課程主任として教育実習の指導を効果的に行うために、「指導案資料集」を内容教科系(社会科、公民科、地理歴史科など)、語学系(英語・フランス語)、道徳教育系の3つに分けて編集し、製本した。教育実習指導で資料として活用した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 九州教育経営学会での発表(増田健太郎と共同)「小学生と大学生との交流授業 ―学生サポーターの活用による―」	2004.6.26	「教育の内容と方法」で行っている百道小との交流授業や、その実施を担ったゼミ学生(演習Ⅰ、演習Ⅱ)のSSL(スクールサポート・ラーニング)の意義・成果・課題について発表した。(九州教育経営学会第66回定例研究会)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡授業研究交流会での実践発表 「『公民科教育法』における模擬授業とその指導」	2005.3.5	公民科教育法Ⅱでは学生に模擬授業をさせているが、その模擬授業、およびその後の批評会をビデオで記録し、望ましい模擬授業の支援・準備のあり方について考察した結果を発表した。(第21回福岡授業研究交流会)

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
これからの学校と“評価力”の向上	分担執筆	2006. 1	教育開発研究所:	八尾坂 修編	138～141
こんなとき、こう創る 子どもの学び・教師の学び(第3章の2「教師が他の教師の授業を観るときの視点がわからない」の項 担当)	分担執筆	2006. 9	教育開発研究所:	小林宏己編	134～137
信頼を創造する公立学校の挑戦(第11章の2「授業づくり(学習指導)の特徴」の項 担当)	分担執筆	2007. 3	ぎょうせい:	八尾坂修・増田健太郎・伊藤文一編著	149～154
生き方が育つ教育へ(第4章第7節「いじめ問題をどう捉え、どう対処していくか」の項担当)	分担執筆	2008. 8	黎明書房:	社会科の初志をつらぬく会	155～162

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
小学生と大学生の交流授業	2004. 9	西南学院大学論集:第4巻第1号	63～77
授業における発言の様相 — 解釈 — 中学校1年生の社会科を事例に —	2005. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	111～133
授業における発言の様相—解釈 — 中学校2年生の社会科を事例に—	2005. 9	西南学院大学論集:第1巻第1号	1～24
「公民科教育法」における模擬授業の実践研究	2005. 9	西南学院大学論集:第1巻第1号	115～132
授業における発言の様相—解釈 — 中学校3年生の社会科と総合的な学習を事例に—	2006. 2	西南学院大学論集:第1巻第2号	45～68
保育現場における実践的カリキュラムの研究 —西南学院舞鶴幼稚園を中心に—	2007. 3	西南学院大学論集:第2巻第2号	1～182(担当箇所は1～4、35～58)
授業実践の様相—解釈的研究 —「発言表」を使用する授業分析—	2008. 2	西南学院大学論集:第3巻第2号	1～33
児童教育学科学生の自己効力感に関する一考察 福岡市子ども読書フォーラム参加を通して	2008. 2	西南学院大学論集:第3巻第2号	153～155
授業実践の様相—解釈的研究—小学校の生活科・社会科を事例に—	2008. 7	西南学院大学論集:第4巻第1号	15～47
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97～137(担当箇所はⅡ.プロジェクト2「小学校との交流授業」104～108)

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「教職課程」の運営に関する調査—授業評価・研修・指導体制を中心に	共著	2004. 5	全国私立大学教職課程研究連絡協議会:教師教育研究第17号	三木やよいと共著	53～56
小学校の「総合学習」で育つもの	単著	2004. 7	社会科の初志をつらぬく会:考える子ども288号		4～6

授業分析の継承と発展－「発言表」の開発	単著	2004.11	社会科の初志をつらぬく会：考える子ども291号		31～32
小学校と大学との連携によるカリキュラム開発－「総合的な学習の時間」と「演習」を中心に－（査読）	共著	2005. 2	日本カリキュラム学会：カリキュラム研究第14号	増田健太郎と共著	36～41
特別活動の実践研究－発言表による授業の様相－解釈－	単著	2005. 6	九州教育経営学会：九州教育経営学会研究紀要第11号		67～75
「豊かな学力」を育てる授業	単著	2006.11	社会科の初志をつらぬく会：考える子ども305号		4～8
保育施設および小学校における教育内容・方法と教育経営 —英国スコットランドの勅任視学官(HMI)による報告書の検討—（査読）	共著	2007. 6	九州教育経営学会：九州教育経営学会研究紀要第13号	田代勢津子と共著	19～27(担当19および23～27)
初志の会の役割 —「教職大学院」を超える授業実践研究の場—to	単著	2007. 7	社会科の初志をつらぬく会：考える子ども309号		18～20
大学生と小学生との合同授業—教師教育の観点から—	単著	2008. 5	全国私立大学教職課程研究連絡協議会：教師教育研究第21号		47～55
保育施設および小学校における教育内容・方法と教育経営 —ウエストバーンズ小学校(幼児クラスを含む)の事例研究—（査読）	共著	2008. 6	九州教育経営学会：九州教育経営学会研究紀要第14号	田代勢津子と共著	55～64(担当55～56, および58～64)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.26	小学生と大学生との交流授業 —学生サポーターの活用による—(増田健太郎と共同発表)	九州教育経営学会第59回定例研究会
2004. 7. 3	小学校と大学との連携によるカリキュラム開発の事例研究	第15回日本カリキュラム学会
2005. 3. 5	「公民科教育法」における模擬授業とその指導	第21回 福岡授業研究交流会
2005. 8. 8	中等教育における授業分析	社会科の初志をつらぬく会テーマ別分科会第48回全国研究集会
2005. 8.25	授業実践の様相—解釈的研究—中学校社会科(公民的分野)を事例に—	日本教育学会第64回大会
2005.10. 7	英国スコットランドの保育評価—勅任調査官(HMI)による報告書の分析—	第23回福岡授業研究交流会
2006.10.28	保育現場における実践的カリキュラムの研究 —西南学院舞鶴幼稚園の「鬼ごっこ」を中心に— (田代勢津子と共同発表)	九州教育経営学会第66回定例研究会
2007. 2.15	「福岡市子ども読書フォーラムについて」 …学生アンケートの集計結果報告	第24回福岡授業研究交流会
2007. 5.20	大学と小学校との合同授業 —「教育の内容と方法」において—	全国私立大学教職課程研究連絡協議会第27回研究大会
2007. 8.30	授業実践の様相—解釈的研究 —小学校低学年の授業を事例に—	日本教育学会第66回大会
2007. 9.29	授業実践の様相—解釈的研究 —小学校中学年の授業を事例に—	日本教育方法学会第43回大会

社会活動

期間	活動内容
2004. 4 ~ 2005. 3	福岡市立百道小学校での SSL (スクールサポートラーニング) 活動
2004. 4 ~ 2005. 3	社会科の初志をつらぬく会 (個を育てる教師のつどい) 西部地区研究部長
2005. 4 ~ 2006. 3	社会科の初志をつらぬく会 (個を育てる教師のつどい) 西部地区研究部長
2006. 4 ~ 2007. 3	社会科の初志をつらぬく会 (個を育てる教師のつどい) 西部地区研究部長
2007. 4 ~ 2008. 3	社会科の初志をつらぬく会 (個を育てる教師のつどい) 西部地区研究部長
2008. 4 ~ 2009. 5	福岡市立百道小学校 学校サポーター会議 会員
2008. 4 ~ 2009. 5	社会科の初志をつらぬく会 (個を育てる教師のつどい) 西部地区研究部長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 渡邊 均 (6117)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ポートフォリオ・システムとしての情報機器の活用	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「音楽B(音楽基礎)」「音楽E(合奏及び合奏)」「教職総合演習」(2年生対象)「教育情報処理」(1年生対象)において、学習の運営・評価システムとして情報機器を活用している。いわばデジタル・ポートフォリオ・システムである。学生の実演・実習の記録・参照・評価資料として、デジタル録音機器、デジタルカメラ、コンピュータを活用し、個別的な学習情報や多様なスタイルの学習情報の記録や管理に努め、学習者の自律的な学習を促す手立てとしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 自主学習システムとしての録音機器の活用	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「音楽B(音楽応用)」「音楽E(合奏及び合奏)」において、自主学習システムとして多重録音機器を活用している。独唱練習や声楽アンサンブルの練習において、伴奏や他のパートを伴っての練習は、通常、個人では十分には行なえないが、多重録音機器を用いることによりその問題をある程度解消した形で個人練習が行なえるようになる。また、練習のサポート機能や録音による学習記録蓄積機能だけでなく、それを聴かせ吟味させることで学習者自身へのフィードバックが可能で、こういった形で学習環境の改善が進められている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メーリングリストの活用	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「教職総合演習」(2年生対象)「教育情報処理」(1年生対象)において、授業受講者のためにメーリングリストを開設し、教員と受講者全員を登録し、これを用いて情報提供・共有、質問、回答や指導を行なった。これによって、授業時間等に制約を受けない形での指導者・学習者間、学習者相互の学習情報の共有が可能となり、自主的な学習を促すとともにクラスとしての学び合いの成果も上がってきている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) フィールドワークの実施	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「教職総合演習」(2年生対象)「演習Ⅱ」において、「教職総合演習」では「音を通しての現代考」という比較的幅広いテーマの下、「演習Ⅱ」では卒業研究との関連から、学習者それぞれの個別の課題要求に基づき課題要求に則したフィールドワークを設定し実施した。どちらの場合においても、一次情報の収集の仕方、分類・整理の仕方、発表としてのデータのまとめ方などを経験してみることで、研究的な取り組みにおける一次情報の取り扱いについての重要性の認識が高まるとともに、そのフィールドワークが卒業研究へも反映されていく例が多く見られた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地域の文化的な営みの中での学習・発表の推進	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「音楽B(音楽応用)」「音楽E(合奏及び合奏)」「演習Ⅱ」において、音楽活動や研究活動が実践を通して育まれ磨かれていくことを実際に身を持って体験し理解してもらうために、研修や情報収集・発表の場を地域の多様な文化的な営みの中に求め、実地に体験するよう指導するとともに、地域の芸術文化振興の諸機関や学校・園との連携を次第に広げていっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学外の実践家との交流促進	2003. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において助教授として担当した「演習Ⅱ」において、卒業研究との関連から学習者それぞれの個別の課題要求に応じて学外の実践家との交流をよう促進した。交流は保育施設・養護施設・幼稚園・小学校・芸術文化事業団体等に及んだ。単にフィールドワークとしての現場に入りデータを得てくるだけではなく、その現場における熟達者の仕事、考え方、問題解決の方法に接することで、実践家の立場から研究を進めていくことをねらいとして行なっているものである。

1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義への実践家の招聘	2003. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において助教授として担当した「教職総合演習」(2年生対象)において、「総合的な学習の時間」を公立学校で実際に組織・運営している立場から、また管理職として学校経営に関わっている立場からの極めて実践的な視点を講義内容に位置づけるため、「総合的な学習」に共同で研究的に取り組んできた公立学校教師を講義に招聘し、「『総合的な学習』の今後の課題」と題した講義を共同で行なった。実践的なデータのみならず、具体的な子どもたちの学習の姿を通して今後の課題を見通すことのできる内容となった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価	2003. 7 ~	平成16年度以降、本学においても本格的な導入が検討されている学生による授業評価に向けて、試験的に行った平成15年度前期の授業評価(科目は「音楽C:声楽基礎」)において、次のように、概ね良好ということのできる評価結果を得ている。139名の受講者のうち、回答を得られたのは63名からであった。一部を紹介すると、授業の満足度を尋ねる質問項目に対する回答が「とてもよかった」とする学生が33/63、「まずまずよかった」とする学生が29/63、「少し不満」とする学生が1/63、「全く不満」とする学生が0/63であった。ひとりを除く学生が概ね満足する回答を示しており、いたって良好な状況であると言えよう。不満とする内容も一クラスの学生数に起因するもので、指導自体の問題よりもう少し大きな意味での問題を提起していたが、来年度から直ちに修正の可能な問題であった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価	2004. 4 ~	平成16年以降の学生による授業評価についても、定期的に「音楽B(声楽基礎・応用)」「音楽C(合奏及び合唱)」「音楽概論Ⅰ・Ⅱ」「教育情報処理」等で実施してきており、総じて全学平均より高い評価ポイントを得てきている。演習・実習形式の授業が多いこともあるが、講義形式のものであっても、学生の主体的な探究活動を必要とする学習場面を展開していることが、総じて高評価を得ている要因と考えられる。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメ・講義資料(音楽B「声楽基礎」)(音楽概論ⅠⅡ)(音楽科教育研究)	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「音楽B(声楽基礎)」「音楽概論(ⅠⅡ)」において、講義のオリエンテーション、講義内での基本的な思考・実習方法を解説した資料、及び毎回の学習課題を示した資料を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメ・講義資料(教職総合演習)	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科において講師(専任)・助教授として担当した「教職総合演習」において、演習のオリエンテーションから、参考資料、実施課題、そして評価資料まで、演習の内容・進め方すべてを包括的に盛り込んだ資料を作成した。この資料はすべて学生のポートフォリオに組み込まれ、これに沿って学生のグループ活動が進められるものである。この内容は、学術論文21に掲載されている。
2 作成した教科書、教材、参考書 『教育実習の手引き』『実習日誌』	2003. 9 ~	従来から本学の小学校教育実習に際し使用されてきたものの増刷に伴い、小学校教育実習主任としてその内容の修正・加筆を担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡県教職員組合教育研究集会助言者	2002. 8 ~	福岡県教職員組合の依頼に基づき、教育研究集会(音楽科)の助言者を務めた。小中学校それぞれの教育現場における研究レポートの発表、討論が行なわれた後の指導助言を担当し、まとめとしてそこでの討論の論点を「不易と流行」という観点からいったん整理したのち、それぞれの実践の優れた点、今後の検討を要する点を指摘し、参加者全員の課題として再提示した。数年来混迷していた議論に対して、一通り問題点を整理できた研究集会となった。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡県中学校音楽教育研究会筑後支部研究会講師	2003. 8 ~	福岡県中学校音楽教育研究会筑後支部研究会の依頼により、夏期研修会において二つのワークショップを行なった。それぞれ「多重録音機器を利用したの授業改造」と「総合的な学習と音楽」と題された内容であった。音楽の授業に何らかの教師支援システムを導入することで音楽の授業の「実際」を改善していくひとつの具体的な方法を提供したものが前者であり、各学校で「総合的な学習」のカリキュラムの構築が進む中で各教科のカリキュラムの整理の必要性が現実的な問題となる中、総合的な学習と音楽科のカリキュラムの整理のための考え方を提案したものが後者であった。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 西南学院創立記念音楽会の企画・運営統括責任者	2006. 4 ~ 2009. 3	平成18年の学院創立90周年を記念して毎年開催されることとなった「創立記念音楽会」の統括責任者として企画から運営・指導に携わる。イベントとして以上に教育的な観点から、地域の演奏家やプロの演奏家と学生やOBが音楽を通して交流することができる機会として計画・実施。教会カンタータやマニフィカートなど、日頃では演奏する機会も珍しい作品にも意欲的に取り組んだ。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニングの企画・運営責任者	2007. 4 ~	平成19年度から3年間の学内GPIにおける教育方法・内容改善プログラムとして採用された「人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング」の統括責任者としてプログラムの推進に携わる。本学においても地域資源を活用する視点での教育プログラムは各分野で取り組まれるようになってきているが、学部としての取り組みとなった最初のもので、将来的には全学的拡大と再組織化を期待したものとされている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 トーク&アコースティック・ライブ～歌を楽しんで、心を育み、たおやかな子を育てるために～	2007.11 ~	子どもと音楽の分野で活躍中の中西圭三氏・小西貴雄氏を招いてトーク&ライブを開催。保育・教育のみならず子どもの貧困や児童虐待をめぐり、アーティストとしての音楽文化の創造について学生や一般の方々にトークを通してメッセージが発信される貴重な機会となった。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 シンポジウム1. 芸術とイメージ～話題提供：音楽とイメージ	2007.12 ~	イメージ心理学会第7回大会におけるシンポジウム1.「芸術とイメージ」において「音楽とイメージ」の観点から話題提供者として参画した。音楽のプロセス・モデルのいくつかを示し、そこからどのような学習指導スタイルが導かれ、どのように学習が展開されるべきか、解説した。異なる分野からの意見交換がなされ、刺激的な機会が提供された。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)難民支援事業 ダイアログネット・チャリティー・コンサート2009～We Are The BRIDGE in Seinan～企画・運営・指導	2009. 7 ~	人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニングの「アート・プロジェクト」として、学生が地域の一般市民とNPO法人、そしてアーティストと共同で社会的に意義のある芸術活動を展開するための機会を提供し、さらにその活動に際しては指導者としても関わった。コンサート当日までの学生の変容や成長には著しいものがあり、また当日の演奏パフォーマンスもさることながら、満員となった聴衆へのアピール、チャリティーとしての成果も大きなものがあり、学生・一般参加者・聴衆、そして参加したアーティストにとっても貴重な機会となっていた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 岡山市立岡輝中学校「みどりの林檎2009」講演会(講師、助言者)	2009.10 ~	岡山市立岡輝中学校の人権教育の取り組み及び講演会としての「みどりの林檎2009」における講師と、この取り組みの全体的な設計についての助言者として参画した。講演会は児童の保育・教育の研究者の渡邊均、保育・教育・子どもの貧困・児童虐待をテーマに創作活動中の音楽家中西圭三氏、そして子どもの貧困問題から執筆・教育活動へと活動の場を広げている生田武志氏の三者によるトーク・ライブとなり、中学生にとっても、一般の聴衆にとっても貴重な機会となった。また、この講演会は同校の総合的な学習のプログラムの一環でもあり、そうしたカリキュラムデザイン、学習活動の設計の視点から指導助言を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 西南学院大学文学部児童教育学科教員選考委員会による評価	2001. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科の教員選考委員会において、全国公募による応募者の中から、音楽教育学・音楽の教育研究上の能力を認められた結果、教授会で承認され、「音楽B(音楽基礎)」「音楽E(合奏及び合唱)」「音楽概論Ⅰ」「音楽概論Ⅱ」「音楽科教育研究」担当の講師(専任)として就任した。

4	その他の教育活動上特記すべき事項 西南学院大学文学部児童教育学科昇任人事委員会による評価	2003. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科の教員昇任人事委員会において、平成13年4月からの西南学院大学文学部児童教育学科講師(専任)として就任以降の教育研究業績と、またそれ以前の教育研究業績により、音楽教育学・声楽の教育研究上の能力を認められた結果、教授会で承認され、「音楽B(声楽基礎)」「音楽E(合奏及び合唱)」「音楽概論Ⅰ」「音楽概論Ⅱ」「音楽科教育研究」「教職総合演習」「保育内容の研究(表現)」「教育実習研究」「教育情報処理」担当の助教授に昇任した。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 西南学院大学大学院人間科学研究科設置委員会による評価	2006. 4 ~	西南学院大学大学院人間科学研究科設置のための担当教員人事委員会において、平成15年4月からの西南学院大学文学部児童教育学科助教授としての教育研究業績と、またそれ以前の教育研究業績により、音楽教育学・声楽の教育研究上の能力を認められた結果、「教科教育学特論」の助教授として承認された。
4	その他の教育活動上特記すべき事項 西南学院人間科学部児童教育学科昇任人事委員会による評価	2009. 4 ~	西南学院大学文学部児童教育学科の教員昇任人事委員会において、平成15年4月からの西南学院大学文学部児童教育学科助教授としての教育研究業績と、またそれ以前の教育研究業績により、音楽教育学・声楽の教育研究上の能力を認められた結果、教授会で承認され、「音楽B(声楽基礎)」「音楽E(合奏及び合唱)」「音楽概論Ⅰ」「音楽概論Ⅱ」「音楽科教育研究」「教職総合演習」「保育内容の研究(表現)」「教育実習研究」「教育情報処理」担当の教授に昇任した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
学習指導の設計システムとしての“Understanding by Design”: 過去と現在	2005. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	173~203
保育現場における実践的カリキュラムの研究 —西南学院舞鶴幼稚園を中心に—	2007. 3	西南学院大学論集: 第2巻第2号	1~182
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニングの概要	2008. 2	西南学院大学論集: 第3巻第2号	223~238
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	97~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
芸術とイメージ	分担執筆	2007.12	日本イメージ心理学会: イメージ心理学研究第4巻 第1号 2006	中村奈良江 行場次朗 渡邊 均 高野尚子 長谷川浩一 安藤花恵	20~27,37~38

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.11. 6 ~ 2006.11. 7	シンポジウム1「芸術とイメージ」: 「音楽とイメージ」	日本イメージ心理学会第7回大会

社会活動

期間	活動内容
2006. 4 ~	西南バツハ・カンタータ・フェライン指揮者
2006. 7 ~	福岡バツハコレギウム合唱指揮者(客員)

2 専任教員の教育・研究業績(芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員)

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 渡邊 均 (6117)	
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場所	開催日時	発表・展示等の内容等
西南学院創立90周年記念演奏会	西南学院大学ランキンチャペル	2006. 6. 2	・カンタータ4番「キリスト死に繋がれしが」(J. S. バッハ/大村恵美子訳)(指導) ・Motette Nr.3 "Jesu, meine Freude"(J. S. Bach)(合唱指揮)
福岡バッハコレギウム第61回定期演奏会	西南学院大学博物館(2F講堂)	2006. 6.25	・Kantate Nr.173 "Erhohtes Fleisch und Blut"(テノール・ソリスト)
福岡バッハコレギウム第62回定期演奏会	西南学院大学博物館(2F講堂)	2006.12. 3	・Kantate Nr.140 "Wachet auf, ruft uns die Stimme"(合唱指揮)
福岡バッハコレギウム第63回定期演奏会	西南学院大学博物館(2F講堂)	2007. 7. 8	・"Herr, Auf Dich Traue Ich(SVW377)", "Die mit Tranen saen werden mit Freuden ernten(SVW378)"(Geistliche Chormusik op.11)(H.Schutz)(合唱指揮) ・Kantate Nr.22 "Jesus nahm zu sich die Zwoelfe(BWV22)"(J.S.Bach)(合唱指揮)
西南コミュニティークリスマス第2部(西南バロック音楽祭)	西南学院中学・高等学校チャペル	2007.12.21	・Kantate Nr.140 "Wachet auf, ruft uns die Stimme(BWV140)"(J.S.Bach)(指揮, バリトン・ソリスト)
福岡バッハコレギウム第64回定期演奏会(創立30周年記念)	西南学院大学博物館(2F講堂)	2008. 1.26 ~ 2008. 1.27	・Kantate Nr.147 "Herz und Mund und Tat und Leben(BWV147)"(J.S.Bach)(テノール・ソリスト, 合唱指揮)
西南学院創立92周年記念音楽会	西南学院大学チャペル	2008. 5.24	・"Herr, Auf Dich Traue Ich(SVW377)", "Die mit Tranen saen werden mit Freuden ernten(SVW378)"(Geistliche Chormusik op.11)(H.Schutz)(合唱指揮) ・Magnificat D dur(BWV243)(J.S.Bach)(テノール・ソリスト, 合唱指揮)
福岡バッハコレギウム第65回定期演奏会	西南学院大学博物館(2F講堂)	2008.11.16	・Kantate Nr.47 "Wer sich selbst erhoht, der soll erniedriget werden(BWV47)"(J.S.Bach)(合唱指揮)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 米谷 光弘 (6118)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイント・OHC等の教育工学の活用	2003. 4 ~	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育指導研究法・幼児体育概論・保育総合演習・演習等』の講義では、パワーポイントとOHC等を活用し、学会・講習会などの最新情報をまとめ、工夫を凝らして行なっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ITを活用したメディア教材コンテンツの活用	2003. 4 ~	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育指導研究法・幼児体育概論・幼児体育実技・保育総合演習・演習等』の講義では、コンピュータ・ITを活用することにより、DVD/VHS・カセットテープ/CD等新しいメディア教材コンテンツとして独自に制作し、工夫を凝らしている。(特に、保育原理では認定こども園調査による浜田作品:今と昔のこどもとの比較記録映像、保育課程総論では、世界各国の保育教材指導法の記録映像、保育内容研究健康では保育園保健学会(北九州小児医師会作成の健康便り、保育指導研究法では、西島作品・世界の伝承遊び等を紹介する。)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 最新の現代的課題(トピック・データ)の提供	2003. 4 ~	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育総合演習等』では、パワーポイントとOHC等を利用し、NII(その日の新聞記事)やインターネットからの最新の現代的課題(トピック・データ等)を提供し、授業の導入とする。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ポートフォリオ(カード・ファイル等)の作成と活用	2003. 4 ~	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育総合演習等』では、パワーポイントとOHC等を利用し、NII(その日の新聞記事)やインターネットからの最新の現代的課題(トピック・データ等)を提供し、授業の導入とする。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ポートフォリオ(カード・ファイル等)の作成と活用	2003. 4 ~	『授業科目:幼児体育実技』では、毎時間の授業のグループワークの一環として、園児にみたてた学生に対し体育遊びの指導を計画・実施し、各種体育遊びの系統的・段階的指導案の作成と記録・運動会レポート・体操・演技・競技種目の内容等と提供資料をファイリングし、各自のオリジナル指導ポートフォリオを作成する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地域社会(公共施設)でのフィールドワークの実施	2003. 4 ~	『授業科目:保育指導研究法・幼児体育概論等』では、本学大学図書館・大学情報センター・近隣の国公立博物館・図書館・美術館などにおいて資料収集を実施する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 保育・教育現場でのアクションリサーチの実施	2003. 4 ~	『授業科目:演習・保育総合演習・保育指導研究法・幼児体育実技等』では、近隣の保育所・幼稚園・小学校・医療・福祉施設等で、アクションリサーチを実施する。(実践型交流授業として、学生による園児指導の機会を実施する)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ゲストスピーカーの招聘とリカレント教育	2003. 4 ~	『授業科目:保育原理・保育内容総論・演習・保育総合演習等』では、保育・教育・医療・福祉現場などの著名な専門家・実践家・指導者等をゲストスピーカーとして招聘し、講話してもらっている。(卒業生・ゼミOB等のリカレント教育を兼ねる)
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) グループワークによる模擬こども園づくりの実施	2003. 4 ~	『授業科目:保育原理Ⅱ等』では、グループワークによる幼保連携一体化・保育一元化・総合施設等の視点から、模擬こども園づくりを実施し、その成果を発表する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) グループワークによる研究成果の発表会の実施	2003. 4 ~	『授業科目:演習・保育総合演習・保育指導研究法・幼児体育概論等』では、近隣の保育所・幼稚園・小学校・医療・福祉施設等でアクションリサーチし、その成果を発表する。

1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 出席カードによる授業評価・感想・要望の把握	2003. 4 ～	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育指導研究法・幼児体育概論・保育総合演習・演習等』の講義では、授業終了後、出席カードの裏に授業評価の一環として授業感想・要望を記入したものを回収し、次回の授業内容に反映させている。(授業取組み姿勢のチェック)。
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大学授業評価活動(無記名式)による授業評価	2003. 4 ～	大学の授業評価活動の一環として、『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育指導研究法・幼児体育・保育総合演習等』で実施した結果、無から有を生み出す考えさせる問題発見・課題解決学習が主流であり、提出物・課題(研究成果の発表)などが多いことの負担や授業説明が分かりにくい点が指摘されてきた。子どもの代弁者として、保育・教育のプロを養成する使命を大切にしながら、2人態勢やTAの導入などを含め、知的好奇心を高めながら興味・関心を促す授業改善に取り組んでいる。
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ～	『授業科目:演習ゼミナール・保育総合演習等』メールによる進行状況・質問等を確認し、データベースの作成・報告の転送・演習内容などの指導に努めている。
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義概要、研究テーマ等のWEB上での公開	2003. 4 ～	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育指導研究法・幼児体育概論・幼児体育実技・保育総合演習・演習等』の講義では、事前に講義概要をWEB上で公開し、最初の授業で講義の内容と計画・1日の流れを、講義前にも説明するように努めた。演習・保育総合演習・幼児体育概論・幼児体育実技等は、先方の都合が優先するため、臨機応変に対応し、事前にアナウンスした。
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ～	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・保育指導研究法・幼児体育概論・幼児体育実技・保育総合演習・演習等』の講義では、事前に説明すると同時に、補助資料を配布し、提出物については、提出日時を指定し、以前の優秀作品を提示する。(評価については、学生とともに班ごとに優秀作品を選出し、全員の前で紹介し賞賛した。)
2	作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成・出版	2003. 4 ～	『授業科目:保育原理・保育課程総論・保育内容研究健康・幼児体育概論・幼児体育実技等』の講義では、これまで出版した著書(教科名と同様の出版物)の中から選択し、教科書として利用している。
2	作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成・出版	2003. 4 ～	『授業科目:幼児体育概論・幼児体育実技等』の講義では、日本幼児体育学会認定幼児体育指導者講習会テキスト(初級・中級)として編纂した著書と単著・編著の中から選択し、教科書として利用している。
2	作成した教科書、教材、参考書 DVDデジタル教材の作成・協力	2003. 4 ～	浜田作品として、今と昔の子どもの比較するため、DVD作品の制作過程で助言し、DVD化に協力した。
2	作成した教科書、教材、参考書 幼児健康管理評価システムの開発と教材化	2003. 4 ～	科研の研究成果一環として、幼児健康管理評価システムを開発できた機器を活用して、健康教材として紹介した。
2	作成した教科書、教材、参考書 幼児体育教材の開発と製作	2003. 4 ～	幼児のオリジナルの体育遊びの教材の開発過程に携わり、制作段階からアイデアを提供した。(パラバルーン・アヒルホッケー・びたっち・サーキットユニット等)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学会・講習会・研修会・フォーラムにおける講演	2003. 4 ～	各県教育委員会主催等の保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の保育所保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・保護者等を対象とした講習会・研修会・フォーラム等における講演。 教育・研究成果を国際学会や全国学会で招へい講演した。。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本学術会議・新聞社・大学主催における講演	2003. 4 ～	日本学術会議特別委員会・西日本スポーツ新聞社・福岡大学医学部小児科学等での講演(これまでの専門領域における研究及び教育成果を発表した。シンポジウムによる講演)
4 その他の教育活動上特記すべき事項 全国保育士養成協議会の第3者評価	2003. 4 ～	全国保育士養成協議会の第3者評価の評価項目を検討した。(九州地区代表)
4 その他の教育活動上特記すべき事項 日本保育学会課題研究委員会における活動	2003. 4 ～	日本保育学会課題研究委員会委員長として、現代的保育重要課題について取り組んでいる。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 認定こども園についての調査研究	2003. 4 ～	子ども未来財団児童健全育成調査研究の研究代表者として、総合施設モデル事業及び文部科学省幼児教育改善・充実調査研究の研究代表者として、認定こども園の調査研究に取り組んできた。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 福岡市保育所設定・運営希望者の審査	2003. 4 ～	福岡市社会福祉施設整備等補助対象施設設定委員会(委員長)として取り組んだ。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
保育ライブラリ[保育の現場を知る]保育所実習	共著	2004. 9	北大路書房	共同編著者:民秋言・安藤和彦・米谷光弘、中西利恵	143
保育ライブラリ[保育の現場を知る]施設実習	共著	2004. 9	北大路書房	共同編著者:民秋言・安藤和彦・米谷光弘、中山正雄	168
保育ライブラリ[保育の現場を知る]幼稚園実習	共著	2004. 9	北大路書房	共同編著者:民秋言・安藤和彦・米谷光弘・上月素子	151
日本幼児体育学会編「幼児体育理論と実践(初級)」	共著	2007. 1	大学教育出版	日本幼児体育学会編編集代表前橋明他	213
幼児体育 理論と実践(初級)	共著	2007. 1	大学教育出版	共同編集:日本幼児体育学会編 編集代表 前橋明・米谷光弘他	213
幼児体育 理論と実践(中級)	共著	2008. 8	大学教育出版	共同編集:日本幼児体育学会編 編集代表 前橋明・米谷光弘他	256
「子どものこころ」の見方、育て方ー理解し、育み、守るためにー	分担執筆	2006. 7	培風館:--	編集者:田中敏隆・松原達哉・金澤一郎	168～174
事例から学ぶ子どもを育む母親援助の実際	分担執筆	2007. 3	保育出版社:--	監修:今井章子 編者:上野恭裕	18～20

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	97~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
幼児を取り巻く環境条件が及ぼす心身発達への影響	共著	2006. 8	日本学術振興会提出: 日本学術振興会科研報告書	代表米谷光弘他	219
児童健全育成に関する調査研究「子どもの健全育成における児童福祉施設の役割に関する調査研究—総合施設における取り組みの動向と今後の課題—	共著	2007. 2	仮登録:	代表: 米谷光弘 共同研究者: 大戸美也 子・関口はつ江・平田智 久・山崎晃・七木田敦・山 縣文治※日本保育学会課 題研究委員会による調査 研究	
児童健全育成に関する調査研究: 子どもの健全育成におけるに関する調査研究—総合施設における取り組みの動向と今後の課題	共著	2007. 2	財団法人こども未来財団: 財団法人こども未来財団平成18年度児童関連サービス調査研究等事業報告書	代表米谷光弘他	192
児童健全育成に関する調査研究: 子どもの健全育成におけるに関する調査研究—総合施設における取り組みの動向と今後の課題—【2分冊】—総合施設における取り組みの現状と保育の実際—(訪問インタビュー調査を通して)—	共著	2007. 4	財団法人こども未来財団: 財団法人こども未来財団財団法人こども未来財団 平成18年度児童関連サービス調査研究等事業報告書	代表米谷光弘他	184
幼児体育学研究の再考: 「温故知新から繋故創新へ」実践の理論化・理論の両立を目指して—	単著	2007. 7	日本幼児体育学会: 幼児体育学研究1巻1号		73~78
「幼児体育学研究」の創刊に寄せて	単著	2007. 7	日本幼児体育学会: 幼児体育学研究1巻1号		1
保育者養成における「幼児体育」授業研究—実践型交流授業におけるその成果—	共著	2007. 7	日本幼児体育学会: 幼児体育学研究1巻1号	原田健次・米谷光弘・三 村寛一	49~60
子どもの力を育てるための心身の健康・発達権—子どもの元気な地球の力—	単著	2008. 2	日本保育協会: 保育界2月号		
健やかな成長を援助する望ましい保育 —全面的な発育・発達を保障する教育—	単著	2008. 3	日本保育協会: 保育界3月号		26~27
『幼児の心身発達及び健康管理評価システムの開発と保育現場への応用的研究』	共著	2008. 3	仮登録:	代表: 米谷光弘 共同研究者: 原田 昭子、三村寛一、堀田昇、 史一華※堀田昇(前橋明 に変更)	
調和的健康と総合的体力づくり —健康保育に活かす遊びの位置づけ—	単著	2008. 4	日本保育協会: 保育界4月号		39~41
保育環境が及ぼす健康への影響 —第2の身体部位からみた健康問題—	単著	2008. 5	日本保育協会: 保育界5月号		18~20

生活構造全体からみた運動習慣性の見直し —遊育・食育・寝育のススメ—	単著	2008. 6	日本保育協会:保育界6月号	22~24
明日をよりよく生きるための遊びの保育 —子どもの笑顔は未来のバロメーター—	単著	2008. 7	日本保育協会:保育界7月号	38~39
身近な生活環境の見直しによる健康生活と保育 —今、砂場で学んでいますか?—	単著	2008. 8	日本保育協会:保育界8月号	28~30
身近な園庭環境の見直しによる健康生活と保育 —今、遊具で楽しめていますか?—	単著	2008. 9	日本保育協会:保育界9月号	50~52
『幼児教育の改善・充実調査研究事業』(認定こども園)	共著	2008.11	仮登録:	代表:米谷光弘 共同研究者:山崎晃・七木田敦・山口圭介・菊野春雄・安藤和彦・小林紀子・星永・丹羽孝・亀谷和史・原田健次・浜崎幸夫他
『幼児期のストレス・疲労が及ぼす心身の健康への影響の調査』	単著	2008.11	仮登録:	

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 5.15	園生活における心身発達と運動活動量との関係 —その3—歩数計の導入による運動習慣性が及ぼす健康生活と遊びへの影響—(共同)	日本保育学会第57回大会
2004. 5.15	無線タグシステムを用いた幼児の行動分析プログラム(共同)	日本保育学会第57回大会
2004. 5.15	園生活における心身発達と運動活動量との関係—その3—健康評価管理システムの導入とその効果—	日本保育学会第57回大会
2004. 5.16	幼稚園の園舎環境の改善が幼児の健康へ及ぼす影響—欠席率の変化と欠席理由から—(共同)	日本保育学会第57回大会
2004. 5.16	子どもの『からだ』を育てる—保育に生かす遊びの実践—[準備委員会企画ワークショップ](共同)	日本保育学会第57回大会大会
2004. 8. 8	ライフコーダからみた幼児における一日の活動量の検討(共同)	日本教育医学会第52回大会
2004. 9. 5	保育現場における幼児の健康管理評価システムの導入による実証的研究(共同)	第1回子ども会議「日本子ども学会」(学術集会)
2005. 5.21	幼稚園の園舎環境の改善が幼児の健康へ及ぼす影響—その2—(共同)	日本保育学会第58回大会
2005. 5.22	保育者養成における実践型交流授業の取り組みとその成果—園外保育の導入による自尊感情の変化「幼児教育」受講学生の場合(共同)	日本保育学会第58回大会
2005. 5.22	我が国の幼保一元化は果たして可能なのか?—守屋理論による保育一元化の再考—[自主シンポジウム](共同)	日本保育学会第58回大会

2005. 5.22	園生活における心身発達と運動活動量との関係(その4ー公立幼稚園の研究会における歩数計導入とその効果ー)	日本保育学会第58回大会
2005. 8	21世紀の幼児体育の進む道	第1回アジア幼児体育・健康福祉シンポジウム(早稲田大学)
2005. 8.20	幼児期における骨密度と運動能力に関する研究(共同)	第11回日韓中健康教育シンポジウム兼第53回日本教育医学会
2005. 8.20	幼児の弁当から見た体格・運動能力の検討(共同)	第11回日韓中健康教育シンポジウム兼第53回日本教育医学会
2005. 9. 3	最新デジタル教育コンテンツの独自開発に関する実験的研究ー幼児期からのグリッドマークとスキャナー操作過程の検証ー[ポスター セッション](共同)	日本子ども学会第2回子ども学会議(学術集会)
2005.12. 3	学会資格のあり方についてーラウンドテーブルー保育におけるカウンセラー資格の予備調査(共同)	日本乳幼児教育学会第15回大会
2005.12. 4	幼児期の発汗量・血流量・皮膚温と生活習慣の関連について(共同)	日本乳幼児教育学会第15回大会
2006. 5.20	園生活における心身発達と運動活動量との関係(その5)	日本保育学会第59回大会
2006. 5.20	幼稚園の園舎環境が幼児の健康へ及ぼす影響3(共同)	日本保育学会第59回大会
2006. 5.21	幼稚園と保育所の一体的運営の課題[学会課題研究委員会企画シンポジウム](共同)	日本保育学会第59回大会
2006. 6.25	日本の子どもの危機を救う、食育への期待ー幼児期からの遊育・食育・寝食のすすめー[学会企画シンポジウム](共同)	日本食育学術会議第1回大会
2006. 7.22	今、なぜ幼児体育なのか？生き生きとした子どもを育むために[学会企画シンポジウム](共同)	日本幼児体育学会第2回大会
2006. 8.19	保育者養成における幼児体育遊びの指導カリキュラムの検討	第2回アジア幼児体育・健康福祉シンポジウム
2006.11.25	小児医療からみた乳幼児の心の健康[教育講演](共同)	日本乳幼児教育学会第16回大会
2006.11.26	保育・子育て支援の現場から見た相談と資格について[学会企画シンポジウム](共同)	日本乳幼児教育学会第16回大会
2006.11.26	幼児の健康生活を支える幼児体育の役割と課題[自主企画シンポジウム](共同)	日本乳幼児教育学会第16回大会
2007. 3. 3	高校生スポーツ選手とその指導者を対象とした、アンチドーピングアンケート調査について(共同)	兵庫体育・スポーツ科学会第17回大会
2007. 5.19	幼稚園の園環境の改善が幼児の健康へ及ぼす影響	日本保育学会第60回大会
2007. 5.19	子どものための保育所・幼稚園・認定子ども園の未来への提言ー保育の本質の視点から検討するー	日本保育学会第60回大会学会企画シンポジウム
2007. 5.20	園生活における心身発達と運動活動量との関係その6ー実践型交流授業における健康管理評価システムの活用の試みー	日本保育学会第60回大会
2007. 6.24	園生活における心身発達と運動活動量との関係その6ー実践型交流授業における健康管理評価システムの活用の試みー	日本保育学会第60回大会

2007. 8. 4	幼児体育の実践から実証的研の道－理論の実践化と実践の理論化への道標－[学会長・ 日本幼児体育学会 基調講演]	
2007. 8.25	幼児運動遊戯国際学術研究会を迎えて【開幕致詞】(共同)	第3回アジア幼児体育・健康福祉シンポジウム(国際幼児運動遊戯 研究会)
2007. 8.25	幼児における加齢と接地足跡に関する研究(共同)	第3回アジア幼児体育・健康福祉シンポジウム(国際幼児運動遊戯 研究会)

社会活動

期間	活動内容
1995. 4. 1 ～	日本乳幼児教育学会常任理事 (理事1995～, 常任理事1997～2001, 2003～現在至る) 編集委員・学会賞審査委員等歴任 将来計画委員会(現企画・広報委員会: 委員長2003～現在)
2001.10 ～	福岡市社会福祉施設整備等補助対象施設設定委員会(委員長)(～2003まで)
2002.10 ～	福岡市保育所設定・運営希望者選定委員会(委員長)(～2003まで)
2003. 2 ～	社団法人全国保育士養成協議会児童福祉施設福祉サービス第三者評価・評価調査者
2003. 4 ～	日本スポーツ心理学会・九州スポーツ心理学会会員(1988～現在に至る)
2003. 4 ～	日本教育医学会会員(1981～)、評議員(1987～現在に至る)
2003. 4 ～	日本小児保健学会会員(1982～現在に至る)
2003. 4 ～	日本教育心理学会会員(1983～2006まで)
2003. 4 ～	日本体育学会員(発育発達学会・体育心理学会・兵庫スポーツ健康科学会)
2003. 4 ～	日本健康心理学会会員(1989～現在に至る)
2003. 4 ～	日本体力医学会会員(1993～現在に至る)
2003. 4 ～	日本子ども社会学会会員(1994～現在に至る)
2003. 4 ～	中国未来研究会教育分会少数民族教育研究中心理事(1995～現在に至る)
2003. 4 ～	中国敦煌吐魯番学会体育衛生研究委員会名誉理事(1997～現在に至る)
2003. 4 ～	ひかりのくに『保育とカリキュラム』編集委員オブザーバー(2002～2006まで)
2003. 4 ～	日本子ども学会設立賛同人・会員(～現在に至る)
2003. 4 ～	日本乳幼児教育学会会員(1991～)、理事(1995～) 常任理事(2003～現在に至る)
2003. 4. 1 ～	日本保育学会常任理事(2003～現在に至る) 組織検討委員・学会賞審査委員等歴任 課題研究委員会(委員長2006～)
2005. 4. 1 ～	アジア兼日本幼児体育学会会長(会長2005～現在に至る)
2006. 4 ～	日本食育学術会議: 理事(2006～現在に至る)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 吉岡 直子 (6119)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 外部講師による実践的教育の工夫	1998. 4 ~	『授業科目:公民課教育法(1)』、『授業科目:教師論(2)』において外部講師(中学及び高校教諭、弁護士)を招聘し、教育実践や司法の現場に触れる体験を試みている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2000. 4 ~	『授業科目:教育の制度と経営(1)』、『授業科目:教育の制度と経営(2)』等において授業評価を実施し、授業の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の主体性を重視した教育方法の工夫	2004. 4 ~	『授業科目:教科外活動の研究(2)』において、小集団によるディスカッションと共同研究を中心とする授業を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004. 4 ~	『授業科目:教師論(2)』、『授業科目:教科外活動の研究(2)』を中心に、メールによる質問等を受けつけている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を作成したプリント作成	2000. 4 ~	すべての授業において、講義概要を示したプリントを作成、配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 子どもの権利条約フォーラムにおける講演	2007. 6.23	市民及び行政担当者を対象とするフォーラムのパネリストとして参加した

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
解説 教育六法 2005	共著	2005. 2	三省堂	姉崎洋一 荒牧重人 小川正人 金子征史 喜多明人 戸波江二 広沢明	1164
解説 教育六法 2006	共著	2006. 2	三省堂	姉崎洋一 小川正人 金子征史 喜多明人 戸波江二 広沢明	1204
解説 教育六法2007	共著	2007. 3	三省堂	姉崎洋一・荒牧重人・小川正人・金子征史・喜多明人・戸波江二・広沢明・吉岡直子	

解説 教育六法2008	共著	2008. 3	三省堂	姉崎洋一・荒牧重人・小川正人・金子征史・喜多明人・戸波江二・広沢明・吉岡直子	1256
解説 教育六法 2009	共著	2009. 3	三省堂	姉崎洋一・荒牧重人・小川正人・金子征史・喜多明人・戸波江二・広沢明・吉岡直子	1256
教育「改革」、「教育再生」と教員人事制度の行方	分担執筆	2008. 3	学事出版：日本の教師教育改革	日本教師教育学会編	
教育学概論(13章 教育内容をめぐる教育裁判)	分担執筆	2009. 4	コレール社：	榊達雄・仙波克也	

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
自治体通学区域制度の現状と課題(2)	2005. 2	西南学院大学論集：第4巻第2号	135～150
災害時における学校の避難所機能の実態と課題－福岡県西方沖地震の事例－	2006. 2	西南学院大学論集：第1巻第2号	69～78
月刊・季刊まいづるに見る父親の子育てと幼稚園参加	2007. 3	西南学院大学論集：第2巻第2号	
志免町子どもの権利条例の制定	2007. 8	西南学院大学論集：第3巻第1号	53～71
日の丸・君が代判例一覧	2008. 2	西南学院大学論集：第3巻第2号	179～185

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
地方自治体における通学区域制度の現状課題－福岡県の場合	単著	2005. 3	：科研費報告書「日本型チャータースクールと公教育行財政様式の変容」	代表 久富善之	
「子どもにやさしいまち」をつくる 政策評価・検証とこれから	単著	2007. 2	日本評論社：子どもの権利研究10号		
災害時における学校の避難所機能と条件整備の課題－福岡県西方沖地震の例－	単著	2007. 3	有斐閣：日本教育法学会年報36号		
九州発の子どもの権利条例・志免町	単著	2007. 7	草土文化：子ども白書2007	日本子どもを守る会編	219
教育「改革」、「教育再生」と教員人事制度の行方	単著	2007. 9	学事出版：教師教育学会年報16巻	日本教師教育学会編	50～58
日の丸・君が代裁判の概観と判例動向－学テ最高裁判決大綱的基準説の継承をめぐって－	単著	2007.12	日本教育学会：教育学研究第74巻第4号		505～517
教育「改革」のゆくえ	単著	2008. 7	九州教育学会：九州教育学会研究紀要35巻		5～11
自治体における子どもの権利保障の課題－志免町子どもの権利条例の制定とその後－	単著	2008. 9	福岡県人権研究所：リベらしおん131号		12～20
教員採用・管理職登用をめぐる不正問題	単著	2009. 8	草土文化：子ども白書2009		162～163

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 5.28	「学校選択制」の現状と課題－福岡県・大分県4自治体の事例から－	日本教育法学会
2006. 1.28	学校の地域的基盤－災害時における避難所機能の実態と課題－	日本予防医学リスクマネジメント学会
2006. 2.18	災害と学校－学校の安全は地域の安全－	安全教育学会
2006. 5.26 ~ 2006. 5.27	災害時における学校の避難所機能と条件整備の課題－福岡県西方沖地震の例－	日本教育違法学会
2007. 5.25	教員免許更新制導入について九州地区大学	九州地区大学教職課程研究連絡協議会2007年度定期総会・研究協議会
2007.11.24	教育「改革」のゆくえ	九州教育学会

社会活動

期間	活動内容
1996. 8 ~	福岡自治体問題研究所理事
2001. 5 ~ 2005. 5	日本教育法学会理事
2002. 5 ~ 2004. 4	社団法人福岡県自治体問題研究所理事
2002.10 ~ 2005. 9	日本教師教育学会理事
2004. 7. 1 ~ 2006. 9. 4	志免町子どもの権利条例制定委員
2006. 4. 1 ~ 2007. 3.31	城南・早良. 西保健所結核審査協議会委員
2007. 9. 1 ~	志免町子どもの権利委員(委員長)
2008. 7 ~ 2009. 3	福岡市学校規模適正化検討委員会委員
2009. 6 ~	日本教育法学会理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 門田 理世 (6131)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Perception of Ideas of Inclusion in Early Childhood Education	2004. 9	西南学院大学論集: 第4巻第1号	49~61
保育現場における実践的カリキュラムの研究 —西南学院舞鶴幼稚園を中心に—	2007. 3	西南学院大学論集: 第2巻第2号	1~182
児童教育学科学生の自己効力感に関する一考察—福岡市子ども読書フォーラム参加を通して—	2008. 2	西南学院大学論集: 第3巻第2号	149~177
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	97~137

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 4.13	Images of Children's Intellectual Development from Two Culture: U.S. and Japanese Preschool Teachers' View of Children	American Educational Research Association
2004. 5.15	パートナーシップ形成へ向けた子育て支援	日本保育学会 第57回大会
2004. 5.15	日本の保育はどこへ向かうのか —東洋と西洋の対話を通じて—	日本保育学会 第57回大会
2004. 5.15	保育者の「知的発達」に対する実践的イメージの検討 —ビデオによる多声的方法を用いて—	日本保育学会 第57回大会
2004.11.27	ドイツ幼児教育総合施設における学び —日本との比較から—	日本乳幼児教育学会
2004.11.28	「良い保育者」イメージに関するビジュアルエスノグラフィー(2)—日米の幼児教育専攻学生の比較—	日本乳幼児教育学会

2004.11.28	「良い保育者」イメージに関するビジュアルエスノグラフィー(1)—保育者の保育経験による比較とビデオをめぐるカンファレンスの分析—	日本乳幼児教育学会
2004.12.21	A prospect and Issues of Study Childhood Education in Asia for 21st Century	East Asian Early Childhood Forum
2004.12.22	Provision for the Future Preschool Teacher in Japan	East Asian Early Childhood Education Forum
2005. 4.12	Who are the “Ploblem” Children in Japanese Culture?	全米教育学会(American Educational Research Association)
2005. 5.21	多声的エスノグラフィー法から読み解く保育者の暗黙的实践知(2)—幼小の連携を軸として—	日本保育学会
2005. 5.21	多声的エスノグラフィー法から読み解く保育者の暗黙的实践知(1)—保育実践の種類の違いに注目して—	日本保育学会
2005. 7.17	Parent and Child’s support system in University — from trial of the small group activity for offering child-rearing	Pacific Early Childhood Education Research Association
2005.12.26	A prospect and Issues of Early Childhood Education in Asia for 21st Century	2nd East Asian Early Childhood Education Forum
2005.12.27	Transition and Conpectivity from Early Childhood Education to primary school	2nd East Asian Early Childhood Education Forum
2006. 1.14	保育環境から読み取る保育者の想い—諸外国の実践現場を通して—	ながさき幼児教育研究会
2006. 2.23	幼小連携教育の世界的潮流	第3回初等教育研究会
2006. 4. 7	Research in Early Childhood: International Perspectives on Education, Development, and Disabilities	American Educational Research Association
2006. 4. 8	The Culture of Community of Practices: US Preschool Teachers’ views of Children’s Development	American Educational Research Association
2006. 5.20	日独保育者の保育観の比較検討(2)—保育者の登場しない場面の視聴を通して—	日本保育学会第59回大会
2006. 5.20	保育実践映像から読み解く日韓保育者の実践知	日本保育学会第59回大会
2006. 5.21	学びの保障—日英の幼小移門期における実証研究をベースに—	日本保育学会第59回大会
2007. 3.25	現場が語る実践:ビデオ映像がもたらす対話的機能	日本発達心理学会
2007. 3.30	Comparative study between German & Japanese preschool teachers’ perspectives — Keyword & Content Analysis	Leiden University Research
2007. 5.19	幼稚園教師の教材観生成プロセスについての一考察—子ども達との対話によって変容する教師のねらいに着目して—	第60回日本保育学会研究大会

2007. 5.19	保育者の実践を読み解く視点 —日独の保育実践ビデオを視聴した日米保育者の 語りを比較して—	第60回日本保育学会研究大会
2007. 5.20	保育者養成学科以外の学生を対象とした子ども・子 育てについての意識調査	第60回日本保育学会研究大会
2007. 7. 5	Preschool Teachers' Perception on Recording Practices(2)	PECERA(Pacific Early Childhood Education Reesearch Association)
2007. 7.16	医療と保育の連携における病棟保育士導入について の一考察 医学科・看護科学生の視点を通して	第17回全国病児保育研究大会
2007. 9. 8	明日の保育を考える:協働的な学びを培う保育実践	第3回長崎幼児教育研究会
2007. 9.13	四年制大学における保育士養成の意義	平成19年度全国保育士養成セミナー研究大会
2007. 9.30	集団における子ども同士のつながりを意識した保育 者の子どもへのかかわり	第4回日本質的心理学会
2007.10.13	Developing Quality Systems in Japanese Early Childhood Education Meanings of Higher Teacher Qualification	3rd East Asian Early Childhood Education Forum
2008. 4.18	Early Childhood Education Teacher Education Programs in Japan	Reconceptualizing early childhood education: A cultural approach
2008. 4.19	On-Site Trainings at Japanese Kindergarten	Reconceptualizing early childhood education: A cultural approach
2008. 5.18	幼稚園教師の同僚性のあり方について:保育実践を複数で見合う意義を通して	日本保育学会第61回大会
2008. 5.18	四年制養成課程における学びの専門家としての素地づくりに関する一考案	日本保育学会第61回大会
2008. 5.18	保育の質と評価を考える	日本保育学会第61回大会
社会活動		
期間	活動内容	
2002. 4 ~	American Educational Research Association (Symposium Organizer Presenter, and Chair)	
2002. 5 ~ 2004.12	Brooklyn Children's Museum Research Committee (Administrator,Japan side)	
2002. 7 ~ 2005. 7	Pacific Early Childhood Education Research Association (理事)	

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 高野 一宏 (6132)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2003. 4 ~	「授業科目:体育科教育研究」 講義に関する資料を示したプリント作成し、講義を行った

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
民族スポーツ「博多祇園山笠」の社会組織	分担	2004. 7	大修館書店:教養としてのスポーツ人類学	寒川恒夫	144~148

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ~	福岡県学校剣道連盟評議員(2002.4~現在まで)
2003. 4 ~	福岡県学生ハンドボール連盟理事(1991.4.1~2002.4~現在まで)
2003. 4 ~	九州学生ハンドボール連盟理事(1991.4.1~現在まで)
2003. 4 ~	九州学生剣道連盟評議員(2000.4.1現在まで 2002.4~)
2003. 4 ~ 2005. 3.31	日本体育学会スポーツ人類学専門分科会世話人(2002.4.1~2005.3.31)
2003. 4 ~ 2005.10.31	日本スポーツ史学会理事(2001.11.1~2005.10.31)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 井上 哲雄 (6201)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) OHC、パワーポイントの使用	2003. 4 ~	「心理学Ⅰ、Ⅱ」の授業では、講義内容に関連した図、グラフ、写真などをOHCやパワーポイント、VTRなどで視覚的に提示し、具体的なイメージを持てるように工夫している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	学期中に1回、講義時間の最後の15分を使用し、学生に講義についての授業評価を実施し、次期の授業に活かし工夫している。2005、2006年度は前期後期各2科目について、2007年度以降は講義科目のほとんど全部について実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書・教材・参考書	2003. 4 ~	講義科目のほとんどで、テキストの概要、キーワードや、補足説明などをプリントにして配布。2007年度よりプリントの一部は完成法のように空欄にして、授業中や復習で自分で書き込めるように工夫した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 2006年度後期公開講座 発達障害の理解と支援	2007. 3. 9 ~	5回シリーズの第4回「発達障害の心理学的理解」を担当した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 2007年度リカレント講座 これからの特別支援教育を考える	2007.11.17 ~	4回の講座のうち「第3回支援のあり方」と「第4回全体討論」を担当した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
保育現場における実践的カリキュラムの研究 —西南学院舞鶴幼稚園を中心に—	2007. 3	西南学院大学論集: 第2巻第2号	1~182(担当箇所は101~116)

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
我が家の幼児期の子育てをふり返って	単著	2006. 2	西南学院舞鶴幼稚園: 季刊まいづるNo.244	西南学院舞鶴幼稚園	8~9

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1998. 5 ~	福岡市立心身障がい福祉センター 療育課 発達障がい児療育スーパーバイザー
2005. 4 ~	福岡市障がい児保育指導委員会副委員長
2005. 6 ~	福岡市養護学校放課後等支援検討委員会 委員長

2008. 6. 2 ~ 2009. 3.31

福岡市不登校ひきこもり対策支援会議委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 賀戸 一郎 (6202)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「コメント用紙(ミニ・レポート)の活用	2003. 4 ~	演習形式の科目に関してはすべて毎回、演習形式の科目については時折、「コメント用紙(ミニ・レポート)」と称しているものを活用している。毎回講義ならびに演習の終了15~20分位時間を割いて、今日の講義ならびに演習に対する意見・異見を述べてもらう。個々の受講生に自主的に、今日の講義・演習で、分からなかったことや質問等を書いてもらっている。更に講義・演習のやり方・資料・教材・機器等の使い方の良し悪しについても書いてもらっている。質問や疑問点を中心にして、受講生全体に関係する内容と判断した場合には、自習の講義・演習の中で応答するように努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 新聞記事の活用	2003. 4 ~	講義形式の科目を中心にして、それぞれの科目に関連した一週間以内、祭日等で1周講義が飛ぶ場合には、2週間以内に読んだ新聞記事の中から学生各自が選択した一つの記事に限定して、取り上げた新聞名、朝・夕刊、年月日を明記した上で、講義開始の15分を使って、新聞の記事の内容の簡潔な紹介(6~7割)と取り上げた記事に関しての学生個々人の意見・異見を述べてもらう。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールの活用	2003. 4 ~	とりわけ少人数クラスの専門演習・ゼミや卒業論文作成過程及び社会福祉現場実習の巡回指導の補足で活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義内容整理した図表・新聞記事の活用	2003. 4 ~	講義概要を整理した図表や講義や演習のその日のテーマに即して新聞記事を講義テーマ毎に、平均6~8枚程度配布している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) VTR,CD等の活用	2003. 4 ~	講義形式の科目を中心にして、それぞれの科目に関連した一週間以内、祭日等で1周講義が飛ぶ場合には、2週間以内に読んだ新聞記事の中から学生各自が選択した一つの記事に限定して、取り上げた新聞名、朝・夕刊、年月日を明記した上で、講義開始の15分位を使って、新聞の記事の内容の簡潔な紹介(6~7割)と取り上げた記事に関しての学生個々人の意見・異見を述べてもらう(3~4割)。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) CD,VTR等視聴覚機器の活用	2003. 4 ~	各教科において、適切なものがあれば講義や演習の時間帯に変化をもたらすために活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) アウトリーチ	2007. 9 ~	社会福祉援助技術演習の時間体を活用した大学構内と大学の周辺のバリア及びバリアフリーの点検とその実態の報告書作成

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
岡田藤太郎	分担執筆	2004.10	筒井書房	同志社大学 社会福祉学 会他	154~161

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
幼老共生ケアに関する研究―「このゆびと一まれ」の実践を中心に―	2005. 2	西南学院大学論集：第4巻第2号	1～30
共生型グループホームに関する研究―宮城県の共生型グループホームモデル事業「ながさか」の実践を通して―	2006. 2	西南学院大学論集：第1巻第2号	1～24
2006年に創設された小規模多機能型居宅介護の総点検～原点としての宅老所ケアに照らし合わせて～	2006. 7	西南学院大学論集：第2巻第1号	41～68
松本健一 著『泥の文明』	2007. 3	西南学院大学論集：第2巻第2号	289～295
利用者を主体としたケアマネジメントに関する一考察―介護支援専門員が行っているケアマネジメントの現状を通して―	2008. 2	西南学院大学論集：第3巻第2号	121～148

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008.10.20	「協同労働の協同組合」法制化福岡県市民会議 第5回幹事会(拡大幹事会)	福岡県NPOボランティアセンター

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ～ 2004. 5	福岡県飯塚市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定作業委員会委員・委員長
2004. 6 ～ 2006. 5	飯塚市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会作業部会委員長
2005. 4 ～ 2006. 3	社会福祉法人飯塚市社会福祉協議会業務(まちづくり)担当理事
2005. 4 ～ 2006. 3	社会福祉法人飯塚市社会福祉協議会理事
2006. 1 ～ 2008.12	日本社会福祉学会学会誌「社会福祉学」投稿論文査読委員
2007. 1 ～	同志社社会福祉学会誌「同志社社会福祉学」投稿論文査読委員
2008. 2 ～ 2009. 3	「協同労働の協同組合」法制化をめざす福岡県市民会議幹事・代表(事務局センター事業団九州事業本部) 第1期
2008. 4 ～ 2010. 3	福岡県盲人会幹事
2009. 1 ～ 2011.12	日本社会福祉学会学会誌「社会福祉学」投稿論文査読委員
2009. 4 ～ 2010. 3	「協同労働の協同組合」法制化をめざす福岡県市民会議幹事・代表(事務局センター事業団九州事業本部) 第2期

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 森本 利和 (6203)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2007. 7 ~	担当する全ての講義において、授業評価を実施し、その結果を講義改善に活用している。板書方法等改善できる点は改善した。

II 研究活動

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
姿勢の歪みに関する研究— 左右脚長差が身体に及ぼす影響について —	2005. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	49~63

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2004. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	金鷲旗高校柔道大会役員
2004. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	全日本柔道体重別選手権大会役員
2004. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	九州学生柔道連盟常任理事
2004. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	福岡地区柔道協会常任理事
2005. 1. 1 ~ 2009. 5. 1	福岡県柔道協会常任理事
2005. 2. 1 ~ 2009. 5. 1	全日本柔道連盟顧問審判員
2009. 4. 1 ~	講道館柔道八段

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 野口 幸弘 (6204)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005. 4 ~	「地域福祉論」「障害者福祉論」「コミュニティワーク論」「障害児教育論」では講義をパワーポイントやビデオを利用し、具体的にイメージがつきやすいように工夫している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006. 4 ~	すべての授業において、授業評価を実施して講義の改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006. 4 ~	「ゼミナール」他すべての授業で、メールによる質問を受け付けているので、随時質問や意見などに対応している
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2005. 4 ~	「地域福祉論」「コミュニティワーク論」「障害者福祉論」「障害児教育論」その他の講義でもおおよそ講義概要を示したプリントは配布している
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 山口県立大学における集中講義	2005. 4 ~	「障害児教育総説」の講義を集中で3日間15時間行った(2005年度より3年間)

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代地域福祉学	分担	2006. 3	学文社:	竹原健二 編	147~164
地域における発達障害支援の実際とコーディネーターの役割	分担執筆	2009. 3	ふくろう出版:なしなし	発達障害の理解と支援	40~63

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
激しい行動障害のある人の地域生活を保障するために考えるべき要因	単著	2004. 7	日本特殊教育学会:特殊教育学研究42巻2号		167~172

自閉症青年の衝動的行動の改善における先行刺激操作と結果操作による介入の検討(査読)	共著	2005. 7	日本特殊教育学会: 特殊教育学研究43巻2号	131～138
障害をもつ子どもを地域で健やかに育てるために	単著	2006. 4	慶應義塾大学出版会: 教育と医学第54巻5号(635号)	74～82
行動援護 従業者養成研究テキスト	分担	2007. 7	NPO法人全国地域生活支援ネットワーク: テキスト編集委員会	66～70, 83～86

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 7.18 ～ 2005. 7.19	発達障害のある人の行動問題へのアプローチ	第3回日本福祉心理学会
2006. 3.21	軽度発達障害をもつ人の思春期・青年期の社会適応支援	日本臨床発達心理学会
2006. 7.16	行動問題を抱える人たちの地域支援に何が求められているか？	第4回日本福祉心理学会
2008. 9.19 ～ 2008. 9.21	行動問題が厳しくなった子どもの地域移行支援事例	日本特殊教育学会第46回大会

社会活動

期間	活動内容
2002. 4 ～	「雇用管理サポート事業」協力専門家
2003. 4 ～	福岡市立中央養護学校サポーター会議委員
2005. 4 ～	福岡市立発達教育センター専門委員チーム委員長
2005. 4 ～	福岡市立東福岡養護学校サポーター会議委員
2007. 4 ～ 2008. 3	「ピアサポート事業生活支援協力員」の選考委員
2008. 3. 1 ～ 2010. 6.30	社会福祉法人 福岡育児院理事
2008. 4. 1 ～ 2009. 6.30	「新たな教育改革の指針」策定に関する専門委員会委員
2008.11. 1 ～ 2009. 3.31	前原市障害者福祉計画策定委員
2009. 1.21 ～ 2012. 1.21	福岡市保健福祉審議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 野本 益寛 (6205)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2006. 4 ~	『授業科目:専門演習』メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2006. 4 ~	『授業科目:障害者スポーツ論』講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第56回九州地区大学一般教育研究協議会保健体育部会における発表	2007. 9.14	大学保健体育における特別支援教育の試み-教務課・保健管理室との連携を通して-を共同発表した。

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007. 9.14	大学保健体育における特別支援教育の試み—教務課・保健管理室との連携を通して—	第56回九州地区一般教育研究協議会保健体育部会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 新福 尚隆 (6206)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	「精神医学」、「精神衛生学」、「医学一般」等の担当科目に関して2004年本学に就任以来 毎年授業評価を行い授業の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2004. 4 ~	「精神医学」、「医学一般」等の講義に、本学就任した2004年以降、パワーポイントを必要に応じて使用している。また、非常勤講師は、パワーポイントを活用しての授業が殆どである。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2004. 4 ~	精神保健福祉養成セミナー作成の「精神保健学」(ヘルス出版)の第6章 世界の精神保健を担当執筆している。
2 作成した教科書、教材、参考書 プリントの作成	2005. 4 ~	教科書を使用しての講義が主であるが、必要に応じてプリントを作成し配布を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 放送大学	2005. 4 ~	「国際共生と健康」の主任講師として放送大学教育振興会より教科書「国際共生と健康」を執筆している。2004年よりNHKのラヂヲ放送がなされ5年間継続された。毎年約800名の受講者が参加した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 外国人専門家へ対する研修活動	2005. 4 ~	日本国際協力事業団の主催する、外国人を対象とした「麻薬研修」、「災害予防研修」、「エイズ予防研修」に毎年、講師として招聘され講義を行っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
飲酒文化の社会的役割—様々な飲酒形態、規制が必要な状況、関係者の責任と協力—	共訳	2007. 5	First publigned by Routledge	Gerry Atimson, Marcus Grant, Marie Choquet, Preston Garrison	1—349
メンタルヘルス	分担執筆	2005. 5	杏林書店: 国際保健医療学第2版	国際医療 医療学会	147~151
Long-Term Biopsychosocial Consequences of Disaster: Focus on Atomic Bomb Survivors	単独執筆	2008.10	Springer: Radiation Health Risk Sciences Springer	M.Nakashima、N.Takamura、K.Tsukasaki、Y.Nagayama、	263~270
社会精神医学研究とその成果—世界における研究とその成果	共著	2009. 3	医学書院: 社会精神医学単行本	日本社会精神医学会 編集 医学書院発行	86~92
医療人類学と精神医学—対話は可能か?	共著	2009. 3	国立民族博物館: 国立民族博物館調査報告 85 健康・医療・身体・生殖に関する医療人類学の応用的研究	波平恵美子編	195~202

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Ethnic differences in quality of life in adolescents among Chinese, Malay and Indians in Singapore.	共著	2005. 9	: Quality of Life Research2005 Sep:14(7)	Ng TP, Lim LC,Jin A. Shinfuku,N	1755～1768
A comparative study of food habits and body shape perception of university students in Japan and Korea.	共著	2005.10	: Nutr. Journal2005 Oct:31:4(1)	Sakamaki : R,Shinfuku,N et al.	-
阪神淡路大震災被害者の長期的健康被害	単著	2006. 3	医学書院: 精神医学48巻3号		247～254
Postnatal depression in Surabaya,Indonesia	共著	2006. 4	M.E Sharpe: International Journal of Mental Healthvol35,no 1, Spring 2006	Glen D,Edwards, N,Shinfuku et al.	62～74
ICDの過去、現在、未来—国際的視点から、操作的診断を考える	単独執筆	2006. 7	医学書院: 精神医学第48巻 第7号	新福尚隆	706～708
アジアから見た日本の精神医療	単独執筆	2006. 7	日本病院・地域精神医学会: 病院・地域精神医学第49巻 第2号	新福尚隆	117～122
Newer antidepressant drug use in East Asian psychiatric treatment settings:REAP (Research on East Asia Psychotropic Prescription) Study	共同執筆	2006.10	British Society of Psychopharmacology: British Journal of Pharmacology. Epub	Sim k, Lee NB, Shinfuku N, Tan Ch, Sartorius N et al	120～125
変貌する東アジア社会と精神保健問題	単著	2006.11	日本精神神経学会: 精神神経学雑誌108巻11号	新福尚隆	1151～1153
Prescription pattern of antipsychotic drugs for schizophrenia in patients in Japan: research on East Asia Psychotropic Prescription Pattern – Antipsychotic study.	共同執筆	2006.12	Blackwell Publishing: Psychiatry and Clinical Neurosciences Volume 60 Tome 6	Yoshimura R, Okamoto T, Nakamura J, Shinfuku N et al	778～779
多文化研究の多様性 多国間・多施設間共同研究	単独執筆	2007. 9	多文化間精神医学会: こころと文化第6巻第二号	新福尚隆	141—148
The usefulness of body image tests in the prevention of eating disorders.	共同執筆	2007.10	Kobe University: Kobe J Med Sci2007 Oct 61 (3)	Yamamoto C, Uemoto M, Shinfuku N, Maeda K.	79—91
日本における精神科疾患分類(ICDおよびDSM)に関するアンケート調査—New Zealand との比較も踏まえて—	共同執筆	2007.10	医学出版: 精神医学代9巻第10号	長峰正典、勝 強志、加藤隆弘、上原久美、藤沢大介、佐藤創一郎、吉野相英、野村総一郎、新福尚隆	1045—1062
International study on antidepressant prescription pattern at 20 teaching hospitals and major psychiatric institutions in East Asia—Analysis of 1898 cases from China, Japan, Korea, Singapore and Taiwan.	共同執筆	2007.10	Blackwell Publishing: Psychiatry Clin Neurosci.2007 Oct;61 (5)	Uchida N, Chong MY, Tan Ch, Nagai H, Tanaka M, Lee MS, Fujii S, Yang SY, Si Tian Mei, Sim K, Wei H, Ling HY, Nishimura R, Kawaguchi Y, Edwards G, Sartorius N, Shinfuku N.	522-8

Low doses of antipsychotic drugs for hospitalized schizophrenia patients in East Asia: 2004 vs. 2001.	共同執筆	2008. 8	Cambridge: Int J Neuropsychopharmacol.2009 Feb;12(1):	Sim K, Chuan Su H, Fujii S, Yang SY, Chong MY, Si T, Ling He Y, Kee Chung E, Huak Chan Y, Shinfuku N, Hoon Tan C, Ungvari G, Baldessarini RJ.	117-23.
中国における精神医療・保健福祉の現状と動向	共著	2008.10	日本社会精神医学会: 日本社会精神医学会雑誌第17巻 第2号 2008	趙 香花、新福尚隆	197-203
Pharmacotherapy for schizophrenic inpatients in East Asia—changes and challenges.	共著	2008.10	Taylor&Francis: Int Rev Psychiatry2008 Oct;20(5):	Shinfuku N, Tan CH.	460-8
Psychotropic prescription practices in east Asia: looking back and peering ahead.	共著	2008.11	Lippincott: Curr Opin Psychiatry2008 Nov;21(6):	Tan CH, Shinfuku N, Sim K.	645-50
High-dose antipsychotic use in schizophrenia: a comparison between the 2001 and 2004 Research on East Asia Psychotropic Prescription (REAP) studies.		2009. 3	Blackwell Publishing: Br J Clin Pharmacol.2009 Jan;67(1)	Sim K, Su HC, Fujii S, Yang SY, Chong MY, Ungvari G, Si T, He YL, Chung EK, Chan YH, Shinfuku N, Kua EH, Tan CH, Sartorius N.	110-7.
中国、日本、韓国、台湾における精神科疾病分類(ICD及びDSM)に関するアンケート調査	共著	2009. 3	医学書院: 精神医学51巻 第2号	高橋和久、長峯正典、新福尚隆	129-135

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 8.16 ~ 2008. 9.16	八女保健所における講演	八女保健所
2009. 3. 7	メンタルヘルスの集い(第23回日本精神保健会議)	東京 有楽町マリオン

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 9.12	Symposium: Forensic psychiatry in Asia.	第13回世界精神医学会
2005. 9.12	Symposium: Mental Health Services in East Asia.	第13回世界精神医学会
2005.10. 8	特別講演 アジアから見た日本の精神医療	第48回日本病院地域精神医学会総会
2005.11.24	Symposium: Disaster and mental health	第2回国際精神保健文化精神医学会議
2006. 5.11 ~ 2006. 5.13	変貌する東アジア社会と精神保健問題	第102回 日本精神神経学会総会 特別講演
2006. 7.12 ~ 2006. 7.16	Mental health services in East Asia—constraints and challenges	WPA International Congress
2006. 9.23 ~ 2006. 9.26	The Great Hanshin—Awaji Earthquake relextion after ten years.	The first world congress of Culture Psychiatry
2006.10. 5 ~ 2006.10. 8	1)Rapid socioeconomic changes on mental health in Asia—Epidemiology and possible countermeasures. 2)Mental health response to disaster in Japan	12th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting

2006.10.27 ~ 2006.10.28	精神医学における日本とアジアの交流—精神医学用語に関する研究	日本精神医学史 学会
2006.11.24 ~ 2006.11.26	Asian Federation of Psychiatric Associations –Japanese perspectives	3rd WPA Co sponsored International Mental Health and Cultural Psychaitry Conference
2007. 2.15 ~ 2007. 2.18	Future of Asian psychiatry	First International Meeting of WPA section of psychiatry in developping countries.
2007. 4.18 ~ 2007. 4.21	Research on psychiatric prescription pattern in East Asia	WPA Regional Meeting
2007. 8. 2 ~ 2007. 8. 5	Keynote Lecture:Psychaitry in Asia –past,present and future–	First World Congress of Asian Psychaitry
2007. 8.19 ~ 2007. 9.23	Symposium presentations –Psychiatric classification in Japan	WPA Regional Meeting
2007.10.12 ~ 2007.10.17	Plenary Symposium –Rapid Socio–cultural changes and aging in East Asia	International Psychogeriatric Association Silver Congress
2007.10.27 ~ 2007.10.28	「江戸前・中期における『乱気之者』の法的処遇に関する考察—御仕置裁許帳における精神障害者の判例を通じて—」	第11回精神医学史学会
2007.11. 3 ~ 2007.11. 4	シンポジウム Psychiatric classification in Japan,	第46回台湾精神医学会
2007.11. 3 ~ 2007.11. 4	特別講演 Globalization and the role of Asian Psychiatry,	第46回台湾精神医学会
2007.11.28 ~ 2007.12. 2	シンポジウム、Impact on mental health by rapid urbanization in Eastern Asia	World Psychiatric Association International Congress 2007,
2007.11.28 ~ 2007.12. 2	シンポジウム、Perspectives on psychiatric classification from East Asia,	World Psychiatric Association International Congress 2007,
2008. 1.31 ~ 2008. 2. 4	シンポジウム、Long term bio–psycho–social consequences of disaster,	The First International Symposium on the Establishment of a New Discipline “ Medical Care for Hibakusha ”,
2008. 3.21 ~ 2008. 3.22	シンポジウム 多国間共同研究の技法と作法	第15回多文化間精神医学会
2008. 5.14 ~ 2008. 5.17	Depression in East Asia	20th Pan Hellenic Psychaitric Congress
2008. 7.25 ~ 2008. 7.26	東アジアにおけるうつ病医療事情シンポジウム	第5回 日本うつ病学会 総会
2008. 8.26 ~ 2008. 8.29	International Colaboration in Research in Asia	11th ASEAN Psychiatric Congress
2008. 9.20 ~ 2008. 9.25	Quality of Life and Mental Health	14th World Congress of Psychiatry
2008.10.10 ~ 2008.10.11	東アジアにおける精神科診断の使用について—国際共同研究の結果から—	第28回 日本精神科診断学会
2008.12.18 ~ 2008.12.21	Rapid Socio–economic changes and aging in East Asia	12th East Asia Academy of Cultural Psychiatry(EAACP)
2009. 4. 1 ~ 2009. 4. 4	Mental health problems and challenges in East Asia	WPA International Congress–Treatment in Psychiatry
2009. 4.18 ~ 2009. 4.19	Psychiatry, law and criminality in Japan	Workshop on contemporary aspects of youth criminality

社会活動

期間	活動内容
2001. 4 ~	Advisory Editor International Journal of Mental Health,
2001. 4 ~	世界社会心理リハビリテーション学会 理事
2002. 4 ~	Advisory Editor, Psychiatry and Clinical Neurosciences

2002. 4 ~	社会精神医学会 理事
2003. 4 ~	Advisory Board, Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology
2005. 4 ~	多文化間精神医学会理事
2005. 4 ~ 2009. 3.31	放送大学客員教授 国際共生と健康 主任講師 ラヂオ放送
2005. 4 ~ 2009. 3.31	国立民族博物館研究員 医療人類学 (主任研究者 波平恵美子)
2005. 8.15 ~ 2005. 8.30	文部省中国国費留学生技術研修講師 (医学生物学部門) 於ける 長春
2005. 9 ~	世界精神医学会 東アジア地区代表 (モンゴル、中国、韓国、日本、台湾、香港地区)
2006. 6.20 ~ 2006. 6.22	国際協力機構 平成18年度麻薬行政官研修 講師
2006. 7.28 ~	国際協力機構 第4回 AIDS/ATL の疫学及び対策セミナー講師 (於ける熊本)
2006.12. 1 ~	国際協力機構 災害精神医学研修 講師 (於ける 神戸市心のケアセンター)
2006.12.18 ~ 2009. 3.31	福岡刑務所 「被害者の視点を取り入れた教育」プログラムの講師
2007. 3.28 ~ 2009. 3.31	財政制度審議会、たばこ事業等分科会 専門委員
2008. 4. 1 ~	日本社会精神医学会 常任理事 国際委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 進藤 啓子 (6207)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 課題レポートの作成	2003. 4. 1 ~ 2009. 8	社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ(20名程度)について、その日の授業の課題を1つ必ずあげて、書いてもらうことによりその日のまとめを行う。そして、そのレポートをチェックして学生に返すことにより、フィードバックをさせるように工夫した。最後にレポートの書き方を教えた上にタイトルを与えて書いてもらい、レポートの書き方の練習をする。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの使用と視聴覚教材の使用	2003.10. 1 ~ 2006. 1	介護概論において、必要な知識と技術を学習させるために、90分の授業の半分をパワーポイントで、実技は介護技術のVTRを使用して学習を行った。学生からはパワーポイントだけでは、授業について行くことが難しいとの声があったので、さらにパワーポイントの内容を重要な語句だけをぬいたプリントを用意して、進めていった。VTRは実技の具体的なイメージができて良かったという。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教材プリントの工夫	2004. 4. 1 ~ 2009. 8	対人関係論において、対人関係の理論だけでは興味が湧かないようなので、具体的に、対人関係に関する理論を使ったプリントを用意し、毎回、授業の最後に紹介したら、学生から興味をもてて良かったと声があった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 論文作成からプレゼンテーションまでの指導	2006. 4. 1 ~ 2009. 8	専門演習において、自分の希望する課題を決めて、筋を作成していく作業をしていく。前半に進めたところまでのレポートを提出してもらい、文章と内容をチェックして返す。後半は論文を作り上げた後、最後に各自がパワーポイントを作成し、発表会にする。つまり、この作業により論文の書き方、パソコンの使い方とプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第9回犯罪被害者支援全国経験交流会 合会、九州弁護士会連合会、大分県弁護士会	2007. 9. 1 主催：日本弁護士連	被害者参加手続、損害賠償命令制度と弁護士の役割について、パネルディスカッションを行った。参加等を認めた刑事訴訟法等改正における判事被害者支援と刑事弁護士との関係では、被害者の心理的配慮が必要不可欠である。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
学生のための精神医学 第2版	共著	2006. 3	医歯薬出版(株) :	太田保之、上野武治編集	212~22
障害児の特性の理解と発達援助	分担執筆	2007.11	ナカニシヤ出版: 第2版	昇地勝人・蘭香代子・長野恵子・吉川昌子 編	230~243

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
福祉科教育法における授業内容の検討ー教育実習アンケート調査を通して	2008. 2	西南学院大学論集: 第3巻第2号	199~221

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2005. 6 ~ 2006. 3	西警察署協議会委員
2006. 4 ~	早良警察署協議会委員
2006. 4 ~ 2007. 3	第2次福岡市立高等学校活性化検討委員会 委員
2006. 4 ~ 2009. 3.31	福岡県臨床心理士会 理事(被害者支援)
2007. 6. 1 ~	特定非営利活動法人福岡犯罪被害者支援センター理事
2007. 8. 2 ~ 2010. 3.31	福岡県障害者介護給付費等不服審査会委員
2008. 4 ~	福岡県社会福祉士会評価委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 舘 暁夫 (6208)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パソコンの活用	2005. 4 ~	『授業科目:社会福祉調査法』パソコンを活用して、講義を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義要項を示したプリント作成	2005. 4 ~	『精神保健福祉論 I、II、III』講義要項を示したプリントを作成し配布を行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2007. 4 ~	『授業科目:キリスト教社会福祉』パワーポイントを用いて授業を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
精神保健福祉用語辞典	共著	2004. 7	中央法規出版	石川 到覚 他	「職業リハビリテーション」他
精神保健福祉白書・2006年版	共著	2006. 1	中央法規出版	岡上和雄他	28
精神保健福祉白書2007年版	共著	2006.12	中央法規出版	岡上和雄 他	28
改定第3版 増補 精神保健福祉論	共著	2007. 3	へるす出版	柏木昭 他	39
精神保健福祉白書・2008年版	共著	2007.12	中央法規出版	猪俣好正 他	29
精神保健福祉白書・2009年版	共著	2008.12	中央法規出版	猪俣好正他	30
改訂第3版 精神保健福祉論	分担	2005. 1	へるす出版:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会		365~378 386~397

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
精神障害者の雇用率適用を巡る争点	単著	2004.11	全家連:レビュー50号		6~9
障害を持つ人々と共生できる社会	単著	2005. 1	慶應義塾大学出版会:教育と医学619号		82~89
制度改革と精神障害者の雇用・就労	単著	2005. 9	日本精神保健福祉連盟:広報紙「精神障害者雇用のこれからを考える」31号		1~7
障害者雇用促進法と精神障害者就業促進の課題	単著	2005. 9	日本障害者リハビリテーション協会:リハビリテーション研究124号		2~8

全国都道府県・政令都市における精神障害者社会適応訓練事業の現状と今後の動向	共著	2006. 4	国立精神・神経センター：平成17年厚生労働科学研究報告書	竹島正 他	17
精神障害者の就業促進の現状と課題	単著	2006.12	全国社会福祉協議会：月間福祉12月号		4

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1998. 4 ~ 2004. 6	精神保健福祉士国家試験委員
2002. 4 ~	NPO ストローク会理事
2004. 9 ~	労働政策審議会障害者雇用分科会委員
2005. 7 ~ 2007. 2	全国精神障害者家族会連合会理事
2007. 4 ~	厚生労働省委託精神障害者職業自立啓発事業企画委員会委員長
2007. 4 ~ 2009. 3	厚生労働省労働政策審議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 高谷 よね子 (6209)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) キャンパス内の学習をベースに、地域社会での福祉実践学習をプログラム化し、定期的に日曜日に実施。	2001. 4.10 ~ 2005. 3	今日の社会福祉士養成の課題であるコミュニティソーシャルワーカーの養成をめざし、公民館にて地域住民の居場所づくりに取り組む。2004年文部科学省の子どもの居場所事業を受託。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大学の地域社会における資源としての活用、社会学連携をめざし、早良区共働モデル創造支援事業を展開。	2006. 7. 1 ~ 2008. 3	西新校区を対象に、早良区、地区自治会、民生委員会などの支援のもと、学部・学年をこえて地域高齢者宅発の福祉サービス創造等に取り組む学生の影武者的指導にあたる。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地域福祉実践活動「防塁」	2008. 4. 1 ~	講義と実践を組み合わせたカリキュラム「地域福祉実践論」の導入にもとづき、地域社会へのアウトリーチ活動をソーシャルワーカーの専門技術を用いて展開する。
2 作成した教科書、教材、参考書 『これからの高齢者福祉』『社会福祉の新潮流高齢者福祉論』『地域福祉分析論』『地域福祉の理論と方法』	2003. 4 ~ 2009. 4	教科書の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「介護保険制度を支える 地域福祉実践活動」	2003.10 ~	日本社会福祉学会にて発表
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「地域福祉実践活動とコミュニティソーシャルワーカーの養成—居場所づくりを通して—」	2004. 6. 1 ~	日本社会福祉士学会にて発表
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「地域社会・地域住民との協働型社会福祉専門職教育—たまりば・居場所から地域の灯台をめざして」	2009.10.10 ~	日本社会福祉学会にて発表
4 その他の教育活動上特記すべき事項 社会福祉領域外の専門職との連携を密に、福祉コミュニティ創造を目指して、卒後教育、地域住民支援に取り組む	2005. 4 ~	姫路市にて地域住民・地方自治体・社会福祉協議会・病院・後期博士課程(看護)の学生らと毎月1回終日ミーティングを開催
4 その他の教育活動上特記すべき事項 京都社会福祉士会を核に、近畿全域の専門職養成のための実習教育の在り方の研究	2007. 3 ~	文科省・厚労省発に左右されるのではなく、実習現場と教育機関の専門職養成を巡る議論をもとに、今日求められる専門性の確保にむけてソーシャルワーカー養成協働策を模索する。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 inter-professional education	2009. 6. 1 ~	医師・看護師・薬剤師等との連携による社会福祉士の地域医療への貢献

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
高齢者福祉－事例と分析－	共著	2005. 3	学文社:		1～53、167～171、178～181、216～218
高齢者虐待対応マニュアル－ケアに携わるひとのための演習ソースブック	分担執筆	2005. 8	ミネルヴァ書房:		100～109、140～145
地域福祉分析論	分担執筆	2005. 9	学文社:		155～164
地域福祉の理論と方法	分担執筆	2008.12	弘文堂:		117～132

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
ソーシャルワーカーの自己実現－社会福祉士養成教育をめぐる－	2005. 9	西南学院大学論集:第1巻第1号	25～44
介護の社会化を問う－福祉と看護の視点から	2007. 8	西南学院大学論集:第3巻第1号	73～98
人間科学部コミュニティー・サービス・ラーニング(2007年度)の取り組み	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	97～137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
地域福祉実践活動「めだかのたまりば」とコミュニティソーシャルワーカーの養成	単独執筆	2004.10	医歯薬出版(株):月刊総合ケアVol.14 No.10	高谷よね子	89～92
地域福祉実践活動におけるコミュニティ・ソーシャルワーク	単独執筆	2005. 3	関西福祉大学:関西福祉大学 研究紀要第8号	高谷よね子	1～10
アメリカにおける老人ホーム等の施設内虐待防止の取り組みについて	単独執筆	2007. 3	(株)ワールドプランニング:高齢者虐待防止研究 Vol.3 No.1	高谷よね子	31～37
倫理綱領に基づく行動規範の意義と専門職団体の役割	単独執筆	2007. 4	(株)相川書房:ソーシャルワーク研究Vol.33 No.1	高谷よね子	10～15

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2003. 6 ～ 2007. 5	社団法人日本社会福祉士会倫理委員会委員
2004. 4 ～ 2005. 3	地域福祉実践行動「めだかのたまりば」文部科学省委託事業
2005. 3 ～	成年後見人
2006. 3 ～	京都府情報の公表制度調査者
2006. 7 ～ 2008. 3	早良区共働モデル創造支援事業
2007.10 ～	京都府第三者評価事業評価委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 教授	氏名 山崎 喜代子 (6210)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の主体的な計画立案と実施	2006.4～	授業科目『演習Ⅰ・Ⅱ』の受講生は地域環境のテーマを選択し、研究計画を立案し、繰り返し検討・精査・調査を進め、4年次には地方学会において発表をしている。また、授業科目「基礎演習」においても、学生ひとりひとりが関心ある社会的事件をレポートし、発表を通して、相互交流し、ディベートを行う。期末には、膨らましてきた自分のテーマについてのレポートを完成させて提出している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットの活用	2006.4～	「基礎演習」では図書館の利用法の講習の中でインターネットの利用の仕方を学び、続いてネットを利用しながら、自分の関心のある社会問題についてのレポートを書かせる。「生命科学Ⅱ脳と心」では、BMIなどの映像をインターネットを介して利用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2007.4～	担当する全ての講義において、授業評価を実施し、その結果を講義改善に活用している。また、次年度の授業冒頭に学生に情報提示をし、改善点を受講生に明らかにしている。また、毎回出席票の裏に授業に対する質問や要望を書かせ、次の授業の冒頭で回答し、また授業改善に利用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 地域に根ざした環境教育と市民教育の統合	2007.4～	『演習Ⅰ』においては、受講生は地域の環境調査を多様なアプローチで進め、さらに地域の青少年育成協議会と連携して、「生命の教室」を担う役割を担っている。演習Ⅰの学生が地域の子ども達を指導して「百道浜の植物」「百道浜海岸の生き物」「地域の生き物図鑑の作製」などを進めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2004.4～	授業科目『生活科教育研究』では教科書『植物の世界』『動物の世界』『生命の繋がり』を作成し、教科書として活用している。また、『卒業演習』においては、私の編著である『生命の倫理』を教科書として利用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表	2006.1～	「小学校教員養成課程における学生を対象にした生命教育と動物解剖実習に対する意識調査」(2006年1月日本生物教育学会第80回大会)「小学校教員養成課程における動物解剖実習の実習前後の学生の意識変化」(2006年11月日本生物教育学会九州支部研究発表会)「動物解剖と生命倫理」(2009年1月日本生物教育学会第83回大会)

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
生命の倫理2ー優生学の時代を越えてー		2008.3	九州大学出版会	山崎喜代子編	328
第2章米国優生学の開拓者 ダヴェンポートと遺伝学	分担	2008.3	九州大学出版会:生命の倫理2ー優生学の時代を越えてー	単著	35～74

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
福岡市百道浜植物相への帰化植物の侵入	2005.9	西南学院大学論集:第1巻第1号	45～60

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10. 9	動物園飼育下チンパンジーにおける描画研究の試み: 場面要因による行動の生起率の変化と運動の分析	日本動物心理学会第65回大会
2006. 1.29	小学校教員養成課程の学生を対象にした生命教育と動物解剖実習に対する意識調査	日本生物教育学会第80回大会
2006. 3.22	動物園飼育下チンパンジーにおける描画研究の試み: 場面要因による行動の相違と運動の分析	日本発達心理学会第17回大会
2006. 6.10	アフリカツメガエル卵神経胚期における神経同質誘導の検討 (I. Neant, C. Leclerc, M. Moreau との連名)	165回日仏生物学会例会
2006.10.29	特別講演「危険と危険回避の生物学」	日本安全教育学会第7回大会
2006.11.17	小学校教員養成課程における動物解剖実習の実習前後の学生の意識変化 (岡松芙美香・田中夢見・西野祥子との連名)	日本生物教育学会九州支部平成18年度研究発表会
2007. 1. 7	ニワトリを利用した生命尊重教育の教材開発: 食を通して生きることを考える (岡松芙美香・西野祥子との連名)	日本生物教育学会第82回全国大会
2007. 7. 7	アフリカツメガエル胚神経系分化における同質誘導の検討	第47回日本先天異常学会学術集会
2007.11.25	福岡市百道浜植物相への気化植物の侵入	第16回日本生物教育学会九州支部大会
2007.11.25	紫外線の生物への影響を計る実験的研究	第16回日本生物教育学会九州支部大会
2007.11.25	学校生活科における校内植物図鑑作成の試	第16回日本生物教育学会九州支部大会
2007.11.25	西南学院大学ビオトープの生態系調査および福岡市総合図書館小川・福岡市博物館池との比較調査	第16回日本生物教育学会九州支部大会
2007.11.25	イモリ外胚葉解離細胞の細胞培養系での分化	第16回日本生物教育学会九州支部大会
2007.11.25	樋井川汽水域での生態調査	第16回日本生物教育学会九州支部大会
2008. 1.27	生命尊重教育を目的としたブタ食肉生産過程の映像資料を用いた授業分析	第74回日本生物教育学会全国大会
2008.11.30	シンポジウム「優生学における科学の役割」	第20回日本生命倫理学会年次大会
2009. 1.11	「動物解剖実習に関する生命倫理的考察」	日本生物教育学会第86回全国大会
2009. 2.28	「生物学者ダヴェンポートを通して見る米国優生学」	第25回西日本生命倫理研究会

社会活動

期間	活動内容
2004. 4 ~ 2007. 3.30	日本先天異常学会評議員

2004. 7 ~ 2005. 7	九州大学病院臨床試験審査委員会委員
2007. 4 ~ 2008. 3	九州大学付属病院臨床試験審査委員会委員
2008. 4. 1 ~	九州大学病院臨床試験審査委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 安部 計彦 (6231)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 毎回のレポートによる考察力、表現力の向上	2005. 4 ~	「授業科目:家族福祉論、養護原理Ⅱ」 授業ごとにその日の内容を振り返らせ、自分の考えや感想を表現することを目的としてレポートを作成させる
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による校区地域福祉計画の作成	2007. 4 ~ 2008. 3	「授業科目:社会福祉援助技術演習Ⅲ~Ⅳ」 大学周辺の4校区を選び、福祉資源、社会資源などを学生が自分たちで調査し、現地調査なども行いながら、最終的には各校区ごとに福祉計画を作成する
4 その他の教育活動上特記すべき事項 卒論集の作成と配布	2006. 3 ~	「授業科目:専門演習」 専門演習で作成した卒論をゼミ独自に冊子としてまとめ、社会調査等でお世話になった関係機関に配布する

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
子どもを守る地域ネットワーク 活動実践ハンドブック	共同	2008.10	中央法規出版	安部 計彦	63~68,121~125,161~201
援助を受け入れない親にどうかかわるか	単独執筆	2006.11	金子書房:児童心理第60巻16号	安部 計彦	42~46
一時保護所の現状と課題	単独執筆	2007. 3	日本子ども虐待防止学会:子どもの虐待とネグレクト第8巻2号	安部 計彦	228~232
(1)家族再統合、(2)家庭裁判所承認による施設入所、(3)子ども虐待ホットライン、(4)子どもの虐待防止センター、(5)児童虐待、(6)児童虐待に関する立入調査、(7)児童虐待の防止等に関する法律、(8)児童虐待の予防、(9)児童虐待防止ネットワーク、(10)身体的虐待、(11)心理的虐待、(12)性的虐待、(13)トラウマ、(14)ネグレクト、(15)PTSD	単独執筆	2007. 3	大月書店:保育小辞典	安部 計彦	(1)46、(2)51、(3)106、(4)107、(5)134、(6)134~135、(9)135、(10)174、(11)175、(12)187、(13)236、(14)252、(15)274
児童虐待における学校ソーシャルワークの取り組み	単著	2008.10	中央法規出版:スクールソーシャルワーカー養成テキスト	安部 計彦	166~173

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
児童相談所の専門性を生かした援助	単著	2005. 7	金子書房:児童心理2005年8月臨時増刊		90~93
児童相談所一時保護所の運営に関する調査研究(総括報告)	単独執筆	2007. 2	自費出版:「児童相談所一時保護所の運営に関する調査研究(主任研究者安部 計彦)」報告書	安部 計彦	3~13

一時保護所の現状と課題	単独執筆	2007. 2	自費出版:「児童相談所一時保護所の運営に関する調査研究(主任研究者安部 計彦)」報告書	安部 計彦	14~30
ガイドライン策定に向けた検討	単著	2007. 2	自費出版:「児童相談所一時保護所の運営に関する調査研究(主任研究者安部 計彦)」報告書	安部 計彦	70~89
要保護児童の一時保護に関する研究(総括報告)	単独執筆	2007. 3	自費出版:「児童虐待等の子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究(主任研究者:奥山真紀子)」報告書 別刷	安部 計彦	3~12
児童相談所及び一時保護所の現状と課題	単独執筆	2007. 3	自費出版:「児童虐待等の子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・ケ移入・ケアに関する研究(主任研究者:奥山真紀子)の分担研究報告書(別刷)	安部 計彦	13~27
一時保護及び虐待相談減少の可能性	単独執筆	2007. 3	自費出版:「児童虐待等の子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究(主任研究者:奥山真紀子)」報告書 別刷	安部 計彦	137~147

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 6. 4	児童相談所一時保護所の規模別における課題の分析	日本子ども家庭福祉学会第7回全国大会
2006.11.12	全国の一時保護所の実態調査・研究を通してみえてくるもの	全国児童相談研究セミナー
2006.12. 8	一時保護所でのケア	第12回日本子ども虐待防止学会みやぎ大会
2007. 6.10	児童相談所一時保護所の現状と課題	日本子ども家庭福祉学会第8回全国大会
2007. 7. 8	児童虐待と学校ソーシャルワーク	日本学校ソーシャルワーク学会第2回大会
2007.12.15	児童虐待相談減少の可能性	日本子ども虐待防止学会第13回学術集会いえ大会
2008. 6. 8	児童相談所一時保護所における権利擁護の実態	日本子ども家庭福祉学会第9回全国大会

社会活動

期間	活動内容
2005. 4 ~	情緒障害児短期治療施設 大村椿の森学園 症例検討会 スーパーバイザー
2005. 7 ~	福岡県久留米児童相談所 事例検討委員会 委員
2006. 2 ~	「厚生労働省主催 児童相談所一時保護所職員研修」講師
2006. 8. 1 ~	福岡市児童福祉審議会 委員
2007. 4 ~	福岡県志免町子どもの権利救済員
2007.10 ~ 2008. 1	福岡市児童養護施設福岡育児院に関する審査委員会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 井手 順子 (6232)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
SAINS 入門— 2004年度版 —	共著	2004. 4	ムイスリ出版	吉武 春光	108
SAINS 入門—SAINS 04版—	共著	2005. 4	ムイスリ出版	吉武 春光	120

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Hand Movement Compensation on Visual Target Tracking for Patients with Movement Disorders	共著	2007. 1	Springer: Complex Medical Engineering1	Junko IDE, Takenao SUGI, Masatoshi NAKAMURA, Hiroshi SHIBASAKI	217~226

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 5.19	視標追跡運動モデルに基づいた運動機能補償法の定量評価	第43回 日本エム・イー学会大会
2004.11.17	視標追跡時の運動特徴を反映した補償器による手の動作改善効果	第34回 日本臨床神経生理学学会学術大会
2005. 4.26	Development of hand movement compensator based on mathematical models	6th Asian-Pacific conference on Medical and Biological Engineering (APCMBE 2005)
2005. 5.18	Hand Movement Compensation on Visual Target Trading for Patients with Movement Disorders	The First International Conference on Complex Medical Engineering (CME 2005)
2005. 7	Hand Movement Improvement on Visual Target Tracking by Model-Based Compensator	The XVth IFAC World Congress
2005.11.30	視標追跡動作時の手の運動補償における数式モデルの改善	第35回日本臨床神経生理学学会・学術大会
2006. 5.15 ~ 2006. 5.17	手の視標追跡運動における動作特徴を考慮した数式モデル構築	第45回日本生体医工学会大会
2006.11.29 ~ 2006.12. 1	視標追跡運動検査によるパーキンソン病患者DBS効果の定量評価	第36回日本臨床神経生理学学会学術大会

2007. 5.23 ~ 2007. 5.27	Quantitative Evaluation of Hand Movement on Visual Target Tracking for Patients with Parkinson's Disease	2007 IEEE/ICME International Conference on Complex Medical Engineering - CME2007
2007.11.21 ~ 2007.11.23	パーキンソン病患者の視標追跡検査による手の運動特性の自動評価	第37回日本臨床神経生理学会学術大会
2008. 5. 8	視標追跡検査を用いたパーキンソン病患者病態特徴の自動判定	第47回日本生体医工学会大会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 中里 操 (6233)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2008. 4 ~	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
所得保障と生活保護制度	分担執筆	2007. 3	家政教育社:		21

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 平 直子 (6234)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2002. 4 ~	授業科目「ソーシャルワーク論」「基礎演習」「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」において、最終講義の最後5分程度を使って、授業評価をし、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	授業科目「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習」において、最終講義の最後5分程度を使って、授業評価をし、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~ 2006. 3	授業科目「社会福祉援助技術演習Ⅲ・Ⅳ」において、最終講義の最後5分程度を使って、授業評価をし、講義の改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要・講義の教材の作成	2002. 4 ~	授業科目「ソーシャルワーク論」「基礎演習」「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」において、講義・演習の概要、及び授業で用いる教材を作成し、配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要・講義の教材の作成	2003. 4 ~	授業科目「専門演習」「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」において、講義・演習の概要、及び授業で用いる教材を作成し、配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要・講義の教材の作成	2005. 4 ~ 2006. 3	授業科目「社会福祉援助技術演習Ⅲ・Ⅳ」において、講義・演習の概要、及び授業で用いる教材を作成し、配布した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ストレングスモデル:精神障害者のためのケースマネジメント(第2版)	共訳	2008.12	金剛出版	チャールズ・A・ラップ リチャード・J・ゴスチャ	207-226
第1章第三節 欧米の精神保健福祉援助活動の形成と発展ーイギリス	分担執筆	2007. 1	中央法規出版:日本精神保健福祉士養成講座5改訂精神保健福祉援助技術総論-	精神保健福祉士養成校協会編	20~27
「精神障害者を支援する社会制度」	分担執筆	2007. 4	ミネルヴァ書房:新・社会福祉士養成テキストブック7巻	小澤温・北野誠一編集	143~172
海外の精神保健福祉援助活動の形成と発展:イギリス	分担執筆	2009. 2	中央法規出版:精神保健福祉援助技術総論新・精神保健福祉士養成講座5	日本精神保健福祉士養成校協会	30-38

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

障害年金における障害認定の問題点と今後のあり方 — 統合失調症の人の場合 —	2004. 9	西南学院大学論集: 第4巻第1号	79～90
Can Professionally Led 'Community Care' Type Services Enable Disabled People to Achieve 'Independent Living'? : Focusing on Community Care in Britain	2006. 7	西南学院大学論集: 第2巻第1号	69～94
The Challenges of User Involvement to Representative Democracy, Democratically Accountable Organisations and Structures and Traditional Social Care Services: Focusing on the Experience of Britain	2007. 3	西南学院大学論集: 第2巻第2号	249～274
Emancipatory Research with People with Learning Difficulties: Distinctive Research Issues and Responses from Researchers	2007. 8	西南学院大学論集: 第3巻第1号	99～124
Mental Health, Stigma and Discrimination: Consequences and the Roles of User Group in the Challenge	2009. 2	西南学院大学論集: 第4巻第2号	53～74

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
精神障害をもつ人へのホームヘルプサービス～サービスの意義・目的・特徴	単著	2004.11	日総研出版: 居宅ケアサービスVol.2 No.1		120～124
精神障害をもつ人へのホームヘルプサービス～精神障害をもつ人へのかかわり	単著	2005. 1	日総研出版: 居宅ケアサービスVol.2 No.2		103～107
精神障害をもつ人へのホームヘルプサービス～医療・保健・福祉機関との連携	単著	2005. 7	日総研出版: 居宅ケアサービスVol.2 No.5		90～95
ニュージーランドにおけるメンタルヘルスサービスへの当事者サービスへの当事者の参画	単著	2007. 3	RAC研究会: --	-	44～56

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008. 9. 2 ～ 2008. 9. 4	Challenging Stigma and Discrimination: The experience of mental health service users in Japan	Disability Studies Conference
2008.10.25 ～ 2008.10.26	スティグマ・偏見・差別へ挑む: 精神科医療ユーザーへの心理的影響と当事者活動	障害学会
2009. 3. 7	リーズ大学における障害学研究・教育及びイギリス精神医療保健福祉サービスへの当事者の参加	障害学研究会 九州部会

社会活動

期間	活動内容
----	------

2004. 6 ~ 2006. 5

福岡県精神医療審査会委員

2004. 9 ~ 2007. 9

社会福祉法人 たかとり福祉会 理事

2008.10. 2 ~

社会福祉法人 たかとり福祉会 理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部	職名 准教授	氏名 山本 裕子 (6235)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 視覚教材の作成と活用	2002. 4 ~	「ケースワーク論・グループワーク論・公衆衛生学・医療福祉論」ではスライドを作成し視覚教材を活用している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2002. 4 ~	E-mailやFaxを使用し、質疑や文書作成・論文指導に対応している
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 7 ~	「ケースワーク論」最終講義の20分を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 7 ~	「社会福祉援助技術 I・II・III・IV」最終講義に授業評価シートを配布し、学生の理解度把握と演習方法論の開発に努めている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004.12 ~	「グループワーク論」最終講義の20分を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教材	2002. 3 ~	「ケースワーク論・グループワーク論・公衆衛生学・医療福祉論」では講義計画書・資料を作成し配布している
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教材	2002. 4 ~	「社会福祉援助技術 I・II・III・IV」では演習計画書・演習教材・演習ツールを作成し配布し使用している
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育実践に関する発表	2005. 3 ~ 2006. 3	2年次学生に対する社会福祉援助技術演習のプロトコールを学科教員に文書で提供した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育実践に関する発表	2007. 3	2年次学生に対する社会福祉援助技術演習の進め方についてまとめ、学内の紀要に投稿した
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2005.12 ~	福岡県医療社会事業協会新人研修会等でソーシャルワーカー倫理綱領について講義を行い、卒業生、在生を含めた実践教育を実施している
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2007. 8 ~	NPO法人の理事として、年10回、社会的養護を必要とする子供への支援に関する研修会を企画運営し、卒業生、在生を含めた実践的教育を実施している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
記録検討支援事例から見る患者の権利促進の軌跡	共同執筆	2006. 7	明石書店:書籍1版	新・患者の権利オンブズマン	68～78
「スウェーデンにおける福祉国家建設と優生政策」	共同執筆	2008. 4	九州大学出版会:『生命の倫理2 優生学に時代を超えて』書籍	山崎喜代子編	157～183
Q4-8 「医療制度改革」により患者の権利にどのような影響がありますか Q6-3 福祉サービスにおける利用者の苦情はどのように解決されるのですか？	分担執筆	2009. 5	明石書店:Q&A医療・福祉と患者の権利第2版	特定非営利活動法人 患者の権利オンブズマン編	pp. 152－158、pp. 223－228

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
生活保護に「ケースワークがない」といわれる所以—判例と開示されたケース記録からの考察—	2005. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	31～47
2年次学生の社会福祉援助技術演習の概要	2007. 3	西南学院大学論集:第2巻第2号	275～295
SOSキンダードルフに学ぶ新たな社会的養護体制の構築—フィンランドの実践/福岡の挑戦—	2009. 2	西南学院大学論集:第4巻第2号	37～51

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「保護者のアルコール問題が子どもの福祉に及ぼす影響—児童虐待防止とアルコール医療者のかかわり—」	単著	2004. 4	九州アルコール関連問題学会:九州アルコール関連問題学会誌第5巻 第1号		86～94

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008.11. 1 ～ 2008.11. 2	「SOS子どもの村福岡」の挑戦	第34回全国児童相談所研究セミナー
2009. 5.15 ～ 2009. 5.16	「患者の人権を守るソーシャルワーク」をわが国のソーシャルワーカーは担うのか？	第29回日本医療社会事業学会

社会活動

期間	活動内容
2003. 6 ～	患者の権利オンブズマン理事:オンブズマン会議メンバー
2003. 8 ～	社会福祉法人「風」理事
2004. 4 ～	九州社会医学研究所評議員
2005. 1 ～	福岡県国土利用計画審議会委員
2005. 4 ～	中央・南保健所結核診査協議会委員

2005.10 ~	福岡市里親推進関係機関連絡会委員
2006. 6 ~	NPO法人子どもの村福岡理事
2007. 8 ~	福岡地方裁判所委員会委員
2009. 1.21 ~ 2011. 1.30	社会福祉法人ふくおか福祉サービス協会評議員、理事
2009. 4. 1 ~ 2011. 3.31	福岡市介護予防事業検討会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 後藤 新治 (7101)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	大学による授業評価制度開始とともに「美術史」「表象文化史(西洋美術史)」「基礎演習」に関して年に2度実施し、結果を受講生に公開している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの作成と活用	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	毎年「美術史」「表象文化史(西洋美術史)」「文化のダイナミズム」に関して、すべての授業内容をPPTで作成し、改良しながら活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業のサポート	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	「基礎演習」「専門演習」「卒論演習」のゼミに関して、授業中に質問・回答できない内容について、メールでの受付を行っている。内容に応じてその後面談(研究室)を実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 「出席票」の活用	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	「美術史」「表象文化史(西洋美術史)」「基礎演習」「文化基礎論」「専門演習」「卒論演習」に関して、出席票の裏面に授業評価や質問を記入させ、次回コピーして全員に配布している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) アートウォッチングの実施	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	毎年「美術史」「表象文化史(西洋美術史)」に関して、前期2回・後期2回「アートウォッチング」と称し、受講生を美術館や街中に連れ出し、アートの現場を直接肌で体験してもらっている。自由課題のレポートにはユニークな作品(自作の曲や小説など)が数多く提出され、コメントと評価を付して学期末全員に公開で返却している。
2 作成した教科書、教材、参考書 作品図版(カラー)の配布	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	「表象文化史(西洋美術史)」に関して、半期ごとに取り上げる作品のカラー図版を高画質で印刷して(A3版)、受講生全員に配布している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 各種美術講演会・フォーラムへの参加	2003. 4. 1 ~ 2009. 5. 1	近隣の公立や私立の美術館が主催する美術講演会やフォーラムに可能な限り講師として参加し、ゼミ生に呼びかけて聴講させている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
GEORGES ROUAULT: Les Chefs-d'œuvre de la Collection Idemitsu	共著	2008. 8	Pinacothèque de Paris	Marc Restellini, Shinji Goto, Françoise Künzi, Danielle Molinari, Camille Giertler	25-31, 62-233

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
近代日本美術史のルオー受容—1908年から1958年まで—(1)	2006. 5	西南学院大学論集: 第21巻第1号	87~112

ルオーとグロテスク	2007.10	西南学院大学論集:第22巻第1号	27~80
ルオーの未刊行版画作品について—出光美術館コレクションを中心に—	2008. 9	西南学院大学論集:第23巻第1号	93~115
ファントム・パリ・新チャペルーチャペル講話から3題—	2009. 9	西南学院大学論集:第24巻第1号	19~37

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
<新発見>のルオー作品—原画が奇跡的に姿現す—	単独執筆	2004. 6	:山陰中央新報6月16日号		1
ルオーの初期版画:『再生』と『ミセレーレ』(査読)	単独執筆	2004. 8	松下電工汐留ミュージアム:ルオー版画展ユビユ爺の再生ノミセレーレ展図録		4~6
「大学博物館」をつくる—教員と学生を学芸員にして—	単独執筆	2004. 9	:毎日新聞9月17日号		1
会員の本	単独執筆	2005. 3	九州藝術学会:デアルテ21号		1
野見山暁治氏の表紙	単独執筆	2005. 3	九州藝術学会:デアルテ21号		2
近代の日本のルオー受容のための予備的考察—1930年代を中心に—(査読)	単独執筆	2005. 5	松下電工汐留ミュージアム:ルオーと白樺派近代日本のルオー受容展図録		12~16
学芸員の実力試される場(「夏休み 美術館で遊ぼう」)	単独執筆	2005. 8	朝日新聞社:朝日新聞2005/8/15朝刊		9
見えない図書館—図書館長に就任して—	単独執筆	2005.11	西南学院大学図書館:図書館報159号		2
『ルオーと白樺派』展図録(会員の本)	単独執筆	2006. 3	九州藝術学会:デアルテ22号		1
「大学博物館」をつくる	単独執筆	2006. 5	西南学院大学:福岡市指定有形文化財 西南学院旧本館・講堂改修工事報告書		17~18
Acceptance of Georges Rouault in the Japanese Modern Art History : Focus on the Inter-War Period	単独執筆	2006. 5	Daejeon Museum of Art:Rouault International Symposium in Daejeon Museum of Art, Daejeon, Republic of Korea		7~13
蔵書ギャラリー no.1 LACERBA『ラチェルバ』	単独執筆	2006. 5	西南学院大学図書館:図書館報160		7
世界の図書館 あるいはマルタがマリアに変わる場所	単独執筆	2006.10	西南学院大学図書館:図書館報161		1
ルオーとグロテスク	単独執筆	2007. 3	松下電工汐留ミュージアム:展覧会チラシ		1
図書館のトマソン これはパイプオルガンではない	単独執筆	2007. 4	西南学院大学図書館:図書館報162		1
ルオーとグロテスク(査読)	単独執筆	2007. 5	松下電工汐留ミュージアム:ルオーとグロテスク展図録		6~18
野見山暁治著『アトリエ日記』「言葉が無力になる瞬間」	単独執筆	2007. 5	西日本新聞社:西日本新聞2007/5/13朝刊		14
近代日本美術史のルオー受容—戦間期を中心に—(査読)	単独執筆	2007. 9	北海道立三好好太郎美術館:ジョルジュ・ルオーと三好好太郎展図録		43~49
美術家と本(1)ルオーとヴォーラル あるいは「美術家の本」	単独執筆	2007.10	西南学院大学図書館:図書館報163		1
欄干に触れたとき(雲の柱・火の柱 62)	単独執筆	2007.12	西南学院大学:SEINAN SPIRIT163		26
熱情を秘めた静寂(美の美)	共同	2007.12	日本経済新聞社:日本経済新聞2007.12.16朝刊	松岡資明	20~21

ヴォーリズの赤煉瓦(紺碧の波)	単独執筆	2008. 3	西南学院大学:西南学院月報679	5
美術家と本(2)ドローネとサンドラール あるいは「同時性の本」	単独執筆	2008. 4	西南学院大学図書館:図書館報164	1
ルオー承認の略年譜	単独執筆	2008. 6	出光美術館:没後50年 ルオー大回顧展図録	242～251
ルオー展出品作品解説	単独執筆	2008. 6	出光美術館:没後50年 ルオー大回顧展図録	162～215
出光美術館所蔵のルオー未刊行版画作品 基本データ(109点)	単独執筆	2008. 6	出光美術館:没後50年 ルオー大回顧展図録	234～239
出光美術館所蔵のルオー未刊行版画作品について(査読)	単独執筆	2008. 6	出光美術館:没後50年 ルオー大回顧展図録	11～19
美術家と本(3)モホイ＝ナジとグロピウス あるいは「建築的な本」	単独執筆	2008.10	西南学院大学図書館:図書館報165	1
ファントムが落ちたとき	単独執筆	2008.12	西南学院大学:SEINAN SPIRIT167	26
美術家と本(4)デュシャンとセラヴィー あるいは「箱になった本」	単独執筆	2009. 4	西南学院大学図書館:図書館報166	1
卵からキューブー西南学院大学チャペル新築工事の経緯ー	単独執筆	2009. 5	西南学院:西南学院史紀要Vol.4	13～29
本学教授の新書紹介『GEROGES ROUAULT: Les Chefs-d'œuvre de la Collection Idemitsu』(共著)	単独執筆	2009.10	西南学院大学:SEINAN SPIRIT170	25

講演会

開催日時	講演名称	場所
2004. 5.10	西南学院大学公開講座「映画、まなざしの欲望」 ラング『メトロポリス』:ユートピアの悪夢	西南学院大学
2004. 5.16	20世紀美術への招待 絵画の自意識ー静物画の誕生から現代絵画までー	八代市立博物館未来の森ミュージアム
2004. 6.20	魂の詩ジョルジュ・ルオー展記念講演会 出光美術館のルオーコレクションについて	島根県立美術館
2004.11.18	福岡市文化芸術振興財団 エルミターージュ美術館展を10倍楽しめる講座	文化芸術情報館アトリエ・にぎわいプラザ
2004.12.18	開館30周年記念北九州市立美術館30年の歩み展講演会 ジョルジュ・ルオー『ミセレーレ』について	北九州市立美術館
2005.11. 7	西南学院高等学校後援会母の会研修会「絵画に描かれた楽器たちールネサンスからロココまで」	JALリゾートシーホークホテル福岡
2005.11.19 ~ 2005.12.11	「バロック・ロココの巨匠」展ミュージアム・コンサート 絵画に描かれた楽器たち(1)～(3)	福岡県立美術館
2007. 8. 4	「ルオーとグロテスク」展ギャラリー・トーク ルオーのグロテスク	松下電工汐留ミュージアム
2007. 9. 8	「ジョルジュ・ルオーと三岸好太郎」展講演会 ルオーと三岸好太郎	北海道立三岸好太郎美術館
2007.11.16	第29回大学祭市民大学講座「美術館へ行こう！世界の美術館を100倍楽しむ方法」 パリのケ・ブランリ美術館	西南学院大学
2008. 8. 6	「没後50年 ルオー大回顧展」水曜講演会 出光美術館所蔵のルオー未刊行版画作品について	出光美術館
2008. 9.10 ~ 2008. 9.12	「円形ホールフェア 18世紀音楽祭協会20年の歩みからバッハの現在形へ」	アクロス福岡

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006. 5.13	Acceptance of Georges Rouault in the Japanese Modern Art History : Focus on the Inter-War Period	Rouault International Symposium
2007. 7.20	W. M. ヴォーリズと西南学院大学博物館	全国大学史資料協議会西日本部会2007年度第2回研究会

社会活動

期間	活動内容
1993. 4 ~	西日本文化協会評議員
1996. 7 ~ 2007. 6	九州藝術学会幹事・デアルテ編集委員
1999. 4 ~	18世紀音楽祭協会(福岡古楽音楽祭)ボランティア
1999. 4 ~ 2009. 3	福岡県立美術館協議会委員
2000. 4 ~	福岡アジア美術館資料収集審査会委員
2005. 2 ~ 2009. 2	福岡市文化芸術振興財団アートリエ評価委員会委員
2005.12 ~ 2006. 2	福岡市文化芸術振興財団文化芸術情報館選定委員
2006. 6 ~	福岡市美術館協議会委員
2007. 3 ~ 2008. 9	福岡県立美術館将来構想検討委員会委員
2008. 2 ~	熊本県立美術館収集委員
2009. 5. 1 ~	パナソニック電工 汐留ミュージアム・ルオーコレクション・コンサルタント

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 邊土名 朝邦 (7102)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	「哲学」 自前のテキストを使用している。授業中、講義内容について疑問や感想を書かせ、それについて解説する。最終講義の最後の15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	「基礎演習ⅠA」(国際文化学部1年、前期完結) 中国の古代文化をテーマとしている。既成のテキストを用いるが、立体的な地形図、考古学の遺物(レプリカ)やOHPなどを用い、より視聴覚にうたて、古代文化を実感で理解できるようにしている。授業の節目でテーマについて討論し、ゼミの最終日には授業評価を実施し、より善い演習を目指している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	「専門演習Ⅰ」(国際文化学部2年) 「専門演習Ⅱ」(国際文化学部3年) 「専門演習Ⅲ」(国際文化学部4年) 予め講義概要と演習に関連した指定図書表をプリントして配布し、レポート、口頭発表、討論を重視している。演習最終日にはテーマの理解度と授業評価を実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	「漢文A・B」 既成の書物をテキストとして使っているが、漢和辞典をよく引かせ、漢字・漢文の訓読法に習熟させることに力を入れている。重要な項目(特に漢詩)については、その理解を深めるための資料や視聴教材を用いている。講読の最終回にはアンケートを書かせ、授業をより充実したものにすべく努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4～	「東アジア古典思想A・B」 中国古典を中心に東アジアの伝統的思想文化をテーマとしている。テキストは漢文資料が主で、それには必ず自前の書き下し文を付している。他に歴史地図・年表、さらに指定図書を用意している。できるだけOHPや他の視聴覚教材を用いる。講義の節目ごとに感想と疑問の処を書かせ講義の理解度をチェックしている。講義の最終回には座談会形式で授業評価を実施して、本講義のさらなる改善をはかっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	「卒業論文指導」 はじめに論文の書き方、資料収集の仕方について指導する。その後、毎回、輪番で提出したレポートに沿って口頭発表を行う。それを基に学生同士で質疑討論させて最後に教員がまとめる形式で進めている。必要な場合は国立国会図書館で図書・資料を探す。またテーマに関わる研究旅行を行う。メールによる質問も受け付けている。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
長崎の儒医 向井元升 「陶山先生事情(読下し)」	共著	2007.10	仮登録:新しい漢字漢文教育2007 第45号		31～39

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 井口 正俊 (7103)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 一つの事柄の説明を二重にする。	2003.4～	多人数の授業では、関心の強い学生とそうでない者、知識がすでにある学生とそうでない者の格差が大きい。そこをどう調整するかが、重要な課題となる。そこで、誰にでもわかるような簡単な説明と、高度な知識を含めた説明をうまく組み合わせ、どの学生もどこかの部分で理解できるように工夫する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業内容に現代性をもたせる。	2003.4～	(「哲学」の授業に関して) 「哲学」は普遍的な真理の追究という要素が強い学問である。しかし、その真理が時代(=現代)の中でどんな意味をもつかを語る事が重要であり、そこで如何に語るかということが、学生に哲学の授業に関心をもってもらえる最高のチャンスでもあるので、たとえばギリシアの思想の話をするときでも、昨日起こった事件とか、近況の政治情勢とかにかかわりを持たせて話すよう心がけている。例えば、その授業日の前後の起こる様々な事件を取り上げ「トピックスの時間」と名づけて、10-15分程度その事件の核心・解釈を哲学的に話している。これは学生に評判がいい。私の話し方にも熱がこもるし、多くの学生がその事件を聞き知っているので、実感的に興味をわくのであろう。さらにその話を、本講義の中にも組み入れ、哲学も単に机上の学問ではなく現実的な実生活に直結していることを自覚させるようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 多人数の授業でも教師と学生の相互の意思疎通を図る。	2003.4～	大きな章が終わり、話が一段落した段階で、B5版の紙を全員に配布し、質問・疑問・意見・希望などを自由に書いてもらい、学生の理解の程度、関心の場所等を把握し、また、ペーパーに書かれた質問を踏まえて、次の授業に生かしている。鋭い質問にはかなり丁寧に、誤解を与えたことに対しては、それを訂正し更なる正確な説明をするようにこころがけている。またそのペーパーを参考に個人的な指導もする。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 複数の教授が同席する授業をする。	2003.4～	(2年生以上の専門科目に関して) 受講生が比較的少なく、ゼミ形式でできる専門科目で実施している。 二人の教授が出席し、学生の発表に関して意見・感想を述べる。教授が話す内容が難しいところがあるため、学生は最初緊張するが、慣れてくると個人発表もディスカッションも活発になり、予習復習をする授業になる。時には辞めてしまう学生もいるが、残った学生は質の高い学生で、テキストを読む量も増え、高度な授業が可能となる。受講生の中に「やっと大学らしい授業を受けた」と語る学生も多く、このような高度な授業も専門科目として有意義なものだと考える。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) まず学生に話させる。	2003.4～	基礎演習・演習などの科目で、学生に発表させた後、すぐ教授がその発表に関して意見を述べるのではなく、まず、学生に質問や意見を述べることを促す。最初教授が話してしまうと、その知識や話し方に圧倒され、自由に話す機会を逃してしまい、学生は沈黙してしまうことになる。これは最近習得した教授方法である。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2006.12～	井口正俊・岩尾龍太郎編著『都市を歩く』(九州大学出版会)2006年12月、349頁 国際文化部の総合科目「文化のダイナミズム」の教科書として使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2005.9～	研究者としての倫理ー誰のため研究かー全教員研究懇談会のための講演、2005年9月、西南学院大学主催 研究だけでなく、誰のための研究かということで、教育活動にも触れておいた。

授業に対して、学生の理解力・関心度の個人差がますます大きくなる現今の大学において、その格差をどのように埋めていくかが、教育活動上大きな課題だと思われる。つまり、授業のレベルをどの辺に置くかという問題である。とくに大人数の授業においてその格差が大きい、基本的には高いレベルの学生を失望させないことが大切である。そのために、出席の取り方、単位の授与方法、小レポートの書き方などを踏まえて、個人的な指導が不可欠となる。しかし、それには時間的に限界がある。それを是正していくために、授業の在り方に様々な工夫をし、多様性のある授業形態を創出することが必須となる。その格差を考えて様々な試みをしているが、それは一人の教授だけでは不可能であり、全学で取り組むべき最も重要な教育活動の基本となると考える。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
都市を歩く—ローマから博多まで—	共著	2006.12	九州大学出版会	井口正俊 岩尾龍太郎	354
新体詩・唱歌・讚美歌—近代日本成立期における「翻訳」文化の一断面—	分担執筆	2005. 3	九州大学出版会：神と近代日本—キリスト教の受容と変容—	塩野和夫、今井尚生	34
「新たな貧困」への配慮—「マルチチュード」がコスモポリタンになるために	分担執筆	2008. 2	弦書房：文化のグローカリゼーションを読み解く	大谷 裕文	34~51

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
神話の忘却、あるいは神話の変容 —P. ブリュージェルの「絞首台の上のカササギ」考(1)—	2005. 2	西南学院大学論集：第19巻第2号	1~31
世俗化された黙示録的世界、あるいは終末論の遠隔化—P・ブリュージェルの『絞首台の上のカササギ』考(2)—	2006. 2	西南学院大学論集：第20巻第2号	1~22
形而上学と隠喩—その関係の新たな可能性のために—	2006. 5	西南学院大学論集：第21巻第1号	1~37
世界の集約と展開、あるいは世界の読解可能性—P.ブリュージェルの『絞首台の上のカササギ』考(3)	2007. 2	西南学院大学論集：第21巻第2号	1~26
特性のない絵画—P・ブリュージェルの絵画世界における「没個性化、脱主題化」の諸相(1)	2008. 9	西南学院大学論集：第23巻第1号	1~42

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 今井 尚生 (7104)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ビデオの活用	2003. 4 ~	『比較文明論』言葉による説明のみでは分かりにくい物理の内容について、VHSを使用しながら学生に解説し、学生の理解の助けとしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 理解度の確認	2003. 4 ~	『キリスト教学』毎回講義時の最後に、その講義内容について学生に小レポートを課し、理解度をチェックし、次の回の講義に利用する
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	各講義において大学の実施する授業アンケートに参加
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) スチューデント・アシスタント制度の利用	2007. 9 ~	『専門演習 I』演習における学生のプレゼンテーション能力を高めるため、演習に先立って、スチューデント・アシスタント(学部生)を連携して、発表の練習を徹底する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 図書館チューター制度の利用	2008. 4 ~	『専門演習 I』演習の発表に際して、学生が図書館の資料(主に辞書など)を利用したレジュメづくりに習熟するよう、チューターと連携して、レジュメの作成能力の向上を図る。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ティーチング・アシスタント制度の利用	2008. 9 ~	『演習 II』学生の卒論作成へ向けて、レポート作成や中間発表の技術を高めるため、ティーチング・アシスタント(大学院生)を連携して、学生の能力の向上を図る。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒論の個別指導の徹底	2009. 4 ~	卒論の中間レポートの作成に際し、学生の論理構成および文章表現の能力向上のため、個別指導を徹底し、修正をした上でレポートを提出させる。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
科学革命から進化論へ	分担執筆	2004. 4	北樹出版: 科学時代を生きる宗教	芦名定道他	121~139
西欧近代の「自然」概念とその受容	分担執筆	2005. 3	九州大学出版会: 神と近代日本	塩野和夫・今井尚生	93~112
ロンドン—ボズの描いた都市—	分担執筆	2006.11	九州大学出版会: 都市を歩く—ローマから博多まで—	井口正俊・岩尾龍太郎	107~126

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
村上陽一郎著『科学史からキリスト教をみる』(創文社)	単著	2004. 9	教文刊: 日本の神学第43号		225~230

安心・安全学の二つの次元	単著	2005. 3	萌書房:同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター 年報第2号	庭田茂吉	124～139
A・E・マクグラス著『神の科学』(教文館)	単著	2005. 7	キリスト新聞社:キリスト新聞第2931号		4
キルケゴールの処方箋 —可能性の不安に対峙する思索の試み—	単著	2006. 3	萌書房:同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター 年報第3号	庭田茂吉	35～50
ティリッヒとメイ—不安の本質の探究—	単著	2007. 3	現代キリスト教思想研究会:ティリッヒ研究第7号		21～36
ヒューマン・セキュリティについて三題	単著	2007. 7	ヒューマンセキュリティ・サイエンス学会:ヒューマンセキ リティ・サイエンス第2号	山形頼洋	1～7
宗教と科学	単著	2008. 3	萌書房:不安社会のアナトミー	庭田茂吉編著	38～55
現代的不安の源泉と本質	単著	2008. 3	萌書房:同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター 年報第5号	庭田茂吉	6～34
石川明人著『ティリッヒの宗教芸術論』	単著	2008. 9	教文館:日本の神学第47号		215～219

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 3.29	Tillich's Thought of Peace	第19回国際宗教学宗教史会議世界大会
2009. 9.13	キリスト教思想の新しい可能性—「宗教と科学」の問題圏より—	日本宗教学会第68回学術大会

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ～ 2008. 3	同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター客員フェロー
2008. 4 ～	福岡市男女共同参画推進センターアドバイザーの会 委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 岩尾 龍太郎 (7105)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2 作成した教科書、教材、参考書 プリント作成	2003. 4 ~	「倫理学」「専門演習」原則として毎回資料をプリントして渡す
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成・使用	2003. 4 ~	『ロビンソンの砦』『ロビンソン変形譚小史』『江戸時代のロビンソン』を全科目で使う
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書編集	2003. 4 ~	『異世界ユートピア・物語』『都市を歩く』を「文化のダイナミズム」教科書として編集
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書分担執筆	2005. 4 ~	『神と近代日本』『文化のグローカリゼーション』に分担執筆し講義を担当

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
都市を歩く		2006.11	九州大学出版会		
江戸時代のロビンソン	単著	2006.12	弦書房		

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
江戸時代の原ロビンソンたち―「鎖国」日ニッポンと ―イッポン船漂流―	2004. 9	西南学院大学論集：第19巻第1号	147～255
江戸時代の原ロビンソンたち 翻刻資料(一)	2004. 9	西南学院大学論集：第19巻第1号	257～278
唐泊孫太郎ボルネオ漂流記 基礎資料(一)	2005. 2	西南学院大学論集：第19巻第2号	175～202
テレマンは照れ人にあらず	2005. 2	西南学院大学論集：第19巻第2号	33～56
筑前唐泊孫太郎ボルネオ漂流記 基礎資料(二)	2005. 8	西南学院大学論集：第20巻第1号	145～172
江戸の造成―多摩ちゃんが見たもの―	2005. 8	西南学院大学論集：第20巻第1号	1～36
筑前唐泊孫太郎ボルネオ漂流記 基礎資料(三)	2006. 2	西南学院大学論集：第20巻第2号	277～305
初めに変態ありき―黒田麴廬『漂荒紀事』(一八五〇) を読む	2006. 2	西南学院大学論集：第20巻第2号	183～238

西南学院大所蔵写本『華夷九年録』	2006. 5	西南学院大学論集: 第21巻第1号	307～332
A-タルコフスキー; 歩むべき廃墟	2006. 5	西南学院大学論集: 第21巻第1号	39～86
開国前後のロビンソン・クルーソー・ゲーム	2007. 2	西南学院大学論集: 第21巻第2号	185～263
九州大学所蔵写本『華夷九年録』	2007. 3	西南学院大学論集: 第21巻第2号	299～322
黒澤明: 「七人の侍」はなぜ面白いか	2008. 9	西南学院大学論集: 第23巻第1号	43～92
漂流記を読む—シャクルトン南極探検隊の場合—	2009. 3	西南学院大学論集: 第23巻第2号	1～21

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Robinson's Fortress -A Materialist Reading of "Robinson Crusoe"	単著	2006. 8	慶星大学: The Journal of Humanities11-2		1～23

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.12	江戸時代の原ロビンソンたち	日本18世紀学会第26回全国大会
2005. 6.11	筑前唐泊孫太郎ボルネオ漂流記	日本18世紀学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 韓 景旭 (7106)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	『授業科目:東アジア文化論(A・B)』 講義を5~8回実施したあとに、授業評価を実施し、講義改善に努めている

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ある北朝鮮兵士の告白	単著	2006. 7	新潮新書		204
グローバル化時代における日本のカジノについて考える	分担執筆	2008. 2	弦書房:『文化のグローカリゼーションを読み解く』	大谷裕文	113~132
越境の民族誌	分担執筆	2008. 4	ナカニシヤ出版:『アジアから観る、考える』	片山隆裕	135~150

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
中国のトウガラシ	2005. 8	西南学院大学論集:第20巻第1号	75~92
韓国カジノの歴史と日本カジノの未来	2006. 2	西南学院大学論集:第20巻第2号	77~96
浅議過渡期外語教学的幾項措施	2007. 2	西南学院大学論集:第21巻第2号	109~118
ある女性脱北者の口述史	2009. 3	西南学院大学論集:第23巻第2号	59~86

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
北朝鮮の人口流出と中国朝鮮族の未来	単著	2007. 4	国立民俗学博物館:『国立民族学博物館調査報告』69	韓景旭	187~200

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1992. 4. 1 ~	日本文化人類学会会員(現在)、日本カジノ学会会員(現在)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 片山 隆裕 (7107)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(パワーポイントの活用)	2003. 4 ~	すべての担当授業科目において、パワーポイントを利用して、図版・写真・動画などを学生に提示しながら授業を実施し、学生の理解の深化を図っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(メールによる授業サポート)	2003. 4 ~	2年次、3年次、4年次の少人数のゼミ形式の授業「専門演習 I AB」(「専門演習 II AB」「演習 II AB」において、受講者のとのメールのやりとりを通じた授業サポート、レポート・卒論作成指導を実施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(学生とのコミュニケーションをとりながら授業を行う)	2003. 4 ~	すべての担当授業科目に関して、できるだけ学生とのコミュニケーションをとり、学生に発言をうながしながら、理解の深化を図るように工夫している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(インターネットの活用)	2007. 4 ~	すべての担当授業科目において、グーグル・アースなどを活用し、授業の行われている教室で学生が異文化体験をできるような工夫をして、異文化理解のための疑似体験授業を実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書(講義用教科書の作成)	2003. 4 ~	片山隆裕(編著)『アジアの文化人類学』(ナカニシヤ出版 1999年)、片山隆裕(編著)『アジアから観る、考える 一文化人類学入門』(ナカニシヤ出版 2008年)を作成・出版し、「比較文化論」「比較社会文化論」などの授業で活用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表・講演など	2005. 8	「初年次教育における教育実践・取り組みについての事例発表」(全国私立大学連盟研究大会、浜松市)
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2003. 4 ~	大学での授業内容に対する学生の理解度や興味・関心が多様化する中、いかにして内容のある授業を行い、学生に理解の深化を促すが大きな課題となっている。具体的には、授業のレベルをどの程度におくか、理解度の低い学生に基礎的なレベルから教えながら、理解度の高い学生の知的欲求を満たす、という半ば矛盾する教育実践の困難をどう克服するか、日々、考えながら授業を行っている。しかしながら、これは、個人レベルで解決できる問題ではなく、各教員の所属する学部や大学全体として、体系的組織的に取り組むべき課題であると思われる。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『都市を歩くーローマから博多まで』(「バンコクー天使の都の歴史と今を歩く」の章を執筆)	共著	2006.11	九州大学出版会	井口正俊・岩尾龍太郎(編著)	131~143
『文化のグローカリゼーションを読み解く』(→第4章 サッカーで読む現代世界~グローバリゼーション、ナショナリズム、ローカルのダイナミズム)	共著	2008. 2	弦書房	大谷裕文(編)	72~89
アジアから観る、考える一文化人類学入門	共著	2008. 3	ナカニシヤ出版	片山隆裕	1~212

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
「サービス・ガール」の周辺－現代タイの売買春をめぐるエスノグラフィーの試み－	2006. 2	西南学院大学論集：第20巻第2号	23～60
タイにおける山岳少数民族ツーリズム－歴史的経緯、影響、そして持続可能な観光開発の試み－	2006. 5	西南学院大学論集：第21巻第1号	113～146

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1993. 4 ～ 2005. 3	博物館等建設推進九州会議「Museum Kyushu」編集委員会委員
2006. 4. 1 ～	タイ・山岳少数民族支援ボランティア
2006. 4. 1 ～	タイ・エイズ孤児支援ボランティア
2006. 4. 1 ～ 2007. 3.31	Siam Society 会員
2006. 4. 1 ～ 2007. 3.31	福岡県立城南高等学校評議員
2006. 4. 1 ～ 2007. 3.31	福岡市男女共同参画推進センター「福岡市女性協会アドバイザーの会」委員
2006. 6. 1 ～	九州人類学会報・編集委員
2006.10.18 ～ 2006.10.23	全九州学生弓道選手権大会・大会副会長
2006.11. 1 ～ 2007. 3.31	アジア都市連携センター勉強会(委員)
2009. 7.18 ～	九州人類学会報・編集委員長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 宮平 望 (7108)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2007.4 ~ 2009.3	学生が国際文化の研究旅行奨励制度に参加したり、就職活動を終えた上級生にゼミに参加してもらい、それがゼミ学生のいい刺激になった。また、卒業生の職場を訪ねて、その様子を在学生在に紹介するなどした結果、その職に就く学生が増えてりして、極めて効果的であった。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
現代アメリカ神学思想 平和・人権・環境の理念	単著	2004.8	新教出版社	宮平望	313
ゴスペルエッセンス 君に贈る5つの話	単著	2004.12	新教出版社	宮平望	108
神の和の神学入門 21世紀の日本の神学	単著	2005.9	新教出版社	宮平望	97
戦争を鎮め、平和を築く神 21世紀日本のキリスト教3	単著	2005.12	一麦出版社	宮平望	240
マタイによる福音書 私訳と解説	単著	2006.9	新教出版社	宮平望	641
ゴスペルフォーラム 君に贈る5つの話	単著	2007.4	新教出版社	宮平望	130
マルコによる福音書 私訳と解説	単著	2008.2	新教出版社	宮平望	413
ゴスペルスピリット 君に贈る5つの話	単著	2008.9	新教出版社	宮平望	114
ルカによる福音書 私訳と解説	単著	2009.2	新教出版社	宮平望	717
キリスト教と日本の風土の接点—和と間の概念を中心として—	分担執筆	2005.3	九州大学出版会: 神と近代日本—キリスト教の受容と変容—	塩野和夫、今井尚生	115~147
現代アメリカの宗教と政治に関する神学的考察	分担執筆	2008.2	弦書房: 文化のグローカリゼーションを読み解く	大谷裕文	152~169

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
イギリス・ケンブリッジ研究滞在ノート	2004.9	西南学院大学論集: 第19巻第1号	65~118
日本の信仰の型としてのキリシタン 生月島を中心として	2005.2	西南学院大学論集: 第19巻第2号	57~69
現代学生気質 学生伝道のための参考資料	2006.5	西南学院大学論集: 第21巻第1号	291~305
現代アメリカの宗教と政治に関する神学的考察	2007.2	西南学院大学論集: 第21巻第2号	77~108

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『苦難を担い、救いへ導く神 21世紀日本のキリスト教2』著者から読者へ		2004. 5	一麦出版社:いちばくNo.10		10~11
栗林輝夫著『現代神学の最前線「バルト以後」の半世紀を読む』		2005. 1	財団法人キリスト教文書センター:本のひろば		18~19

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.10. 9	日本の信仰の型としてのキリシタン ―生月島を中心として	日本基督教学会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 森 泰男 (7109)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	「授業科目:キリスト教学Ⅰ」「同Ⅱ」授業期間中に適宜授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育機器の活用	2007.4～	「授業科目:文化のダイナミズムⅡ」OHCなどを利用して、工夫を凝らして講義を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2007.4～	「授業科目:演習Ⅱ」メールによる質問を受け付け、ゼミ生との意思疎通を図っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 文化のダイナミズムⅠ・Ⅱの教科書の作成	2005.4～	「授業科目:文化のダイナミズムⅠ」「同Ⅱ」教科書を出版し、活用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 一般教育研究協議会における実践報告	2007.9.14～2007.9.15	「第56回九州地区大学一般教育研究協議会」において、研究旅行奨励制度について報告を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
塩野和夫・今井尚生編『神と近代日本—キリスト教の受容と変容—』(「日本における自伝文学の受容とその展開—アウグスティヌス、ルソー、トルストイと日本の私小説—」の頁を執筆)	分担執筆	2005.3	九州大学出版会:塩野和夫・今井尚生編『神と近代日本—キリスト教の受容と変容—』	森 泰男	39～63
井口正俊・岩尾龍太郎編『都市を歩く—ローマから博多まで—』(「チューリヒ—多彩に輝く多面体—」の項を執筆)	分担執筆	2006.12	九州大学出版会:井口正俊・岩尾龍太郎編『都市を歩く—ローマから博多まで—』	森 泰男	49～66

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Augustine Standing between Ambrose and Jerome	2007.10	西南学院大学論集:第22巻第1号	1～9

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
----	------	----	----	-----	-----

アウグスティヌス『真の宗教』における「真」と「信」 (査読)	単著	2004. 9	九州大学: 哲学論文集第40輯		19～35
李慶愛著『内村鑑三のキリスト教思想—贖罪論と終末論を中心として—』	単著	2005. 9	日本基督教学会: 日本の神学第44号		195～200
存在と悪—アウグスティヌスの「コンウェルシオ」とプロティノスの「エピストロペー」をめぐって—(査読)	単著	2005.10	西日本哲学会: 西日本哲学年報第13号		117～131
宮谷宣史著『アウグスティヌスの神学』	単独執筆	2006. 6	日本宗教学会: 宗教研究第80巻第1輯 第348号	森 泰男	179～184
異文化体験を通して多民族・多文化・多宗教共生の平和な世界を目指す教育実践—研究旅行奨励制度の目指すもの—	単著	2008. 3	九州地区一般教育研究協議会: 第56回九州地区大学一般教育研究協議会議事録		35～43

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 9.26	Augustine Standing between Ambrose and Jerome	Western Pacific Rim Patristics Society Inaugural Conference 2004
2004.12. 5	存在と悪—アウグスティヌスの「コンウェルシオ」とプロティノスの「エピストロペー」をめぐって	西日本哲学会
2006. 9.30	On Augustine's Interpretation of the Apocalyptic Passages in the Synoptic Gospels	Western Pacific Rim Patristics Society 3rd Annual Conference
2008. 3.28	「394年のヒッポ・レギウス—アウグスティヌスの「転身」の文化史的意義について—」	日本基督教学会第53回九州部会
2008.12.20	「ケルト系修道院文化はローマ・カトリック教会に屈服したのか?—ウィットビー宗教会議の文化史的意義について—」	日本ケルト学会 九州支部研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 森田 英之 (7110)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2006.4 ~ 2007.1	各講義終了後学生に理解できるかたずねている
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4 ~ 2008.1	各講義終了後学生に理解できるかたずねている
4 その他の教育活動上特記すべき事項 講義内容を示したプリント作成	2007.4 ~ 2007.11	『授業科目:演習Ⅱ』論文作成の文法論に関しプリント作成
4 その他の教育活動上特記すべき事項 『都市を歩く』教科書の作成に参加	2007.11	リレー講義「文化ダイナミズム」の鹿児島県の項

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
鹿児島県の異国性出水の南は薩摩、北はジパング	分担執筆	2006.12	九州大学出版会:都市を歩く—ローマから博多まで—	井口 正俊 岩尾龍太郎 (編)	298~317

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
アメリカ南部世論の対日姿勢—サウスカロライナ:1945年—	2004.9	西南学院大学論集:第19巻第1号	19~32
アメリカ南部の世論と原爆投下—原因考察の一試論—	2007.2	西南学院大学論集:第21巻第2号	49~62
強固な黒人奴隷制の構築過程(上)—アメリカにおける人種主義の一起源—	2008.9	西南学院大学論集:第23巻第1号	117~125

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2006.7	アメリカ南部の世論と原爆投下	九州歴史科学研究会
2006.11	アメリカ南部の世論と原爆投下	中国・西国アメリカ学会

社会活動

期間	活動内容
2007.11 ~	出張講義(福岡県立筑前高校) 内容「アメリカ南部の歴史について」

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 中島 和男 (7111)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レポート及び口頭発表の割り当て	1974.4～	演習クラスにおいて学生に口頭レポートを割り当て、発表させ、その後質疑応答を通じて発表能力の開発を指導。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 試験答案の返却と検討、確認。	1974.4～	語学学習では試験答案は本人が確認しないと試験の意味を持たない。どこが不備だったのかなどを必ず本人に確認させ、まだ同時に採点の誤りをも訂正する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 担当授業外のグループ指導	1982.4～	三年次以上の演習クラスを中心に授業を延長または補完する形で時間外に実施。授業時間内に完了しない購読を補完する。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 卒論の公開発表会	1982.4～	卒業年次に作成した卒論を発表、それぞれ公表する時間を設ける。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる時間外質疑応答	2000.4～	一年次を主としてメールによる質問を受け付ける。これは教室では質問しにくい学生を中心に利用されている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施	2003.4～	一部の少人数クラスを除く全担当科目において在外研究期間を除き実施。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材。	2006.12～	『都市を歩く』を共同で出版。「プラハ」の項を執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法に関する発表	2003.5～	日本独文学会シンポジウム:ドイツ語教育に対する地域的取り組みとその問題:西日本支部の場合
4 その他の教育活動上特記すべき事項 教育方法に関する発表	2004.10～	「第二外国語の課題」九州地区一般教育研究協議会

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
プラハ私的案内	分担	2006.12	九州大学出版会:都市を歩く	井口正俊 岩尾龍太郎 編	67～85

初期新高ドイツ語期区分の問題 -社会言語学視点からの記述の試み-(査読) 分担執筆 2007.11 英宝社:藤原博先生追悼論文集-見よ、野のユリはいかに育つかを-単行本 94-118

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ことばの「誤用」考(査読)	単著	2004. 5	東アジア日本語教育・日本文化研究学会: 東アジア日本語教育・日本文化研究第7巻		113~124
ドイツ語教育に対する地域的取り組みとその課題(査読)	単著	2004.10	ドイツ語教育部会:ドイツ語教育9		121~125
第二外国語学習の課題	単著	2005. 1	九州地区一般教育研究協議会: 第53回九州地区一般教育研究協議会議事録		86~90
「役に立つ」語学とは何か -大学の外国語教育を改めて問う-	単著	2007. 9	九州地区一般教育研究協議会: 第56回九州地区一般教育研究協議会議事録		99~103
「国語」と「国家」-近代日本の言語政策-	単著	2008. 3	東アジア日本語教育・日本文化研究学会: 東アジア日本語教育・日本文化研究第十一輯		281~298

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 9.17	第二外国語学習の課題	第53回九州地区大学一般教育研究協議会
2004.11.13	言語干渉克服の方法—伝統的読解式授業の再評価—	東アジア日本語教育・日本文化研究学会
2005. 7. 2	「察し」のコミュニケーション	韓国言語文化教育学会
2007. 9.14	役に立つ語学とは何か —大学の外国語学習を改めて問う—	九州地区大学一般教育協議会
2007.10.27	「国語」と「国家」-近代日本の歩んだ道-	東アジア日本語教育・日本文化研究学会
2008. 8.26 ~ 2008. 8.30	Sprachenpolitik des Deutschen Kaiserreichs als Grundlage der japanischen Kolonisierung Asiens in der Zeit 1910-1945	Asiatische Germanistentagung 2008 in Kanazawa

社会活動

期間	活動内容
1997. 5 ~	夢みる子ども基金理事
2004.10 ~ 2005. 1	日本チェコ・スロヴァキア協会 (チェコセミナー講師)
2006. 5 ~	夢みるこども基金 常任理事

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授(特別教員)	氏名 M. マンケ (7112)	大学院における研究指導担当資格 無
-----------	-------------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる発表原稿の受付、また質問の対応	2003.4～	『授業科目:ドイツ事情』 メールによる学生発表の原稿を受け、発表準備のサポートに努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003.4～	各授業のために提供をしますが、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 出席カードの裏による授業サポート	2003.4～	各授業時間の最後5分を使って、授業中に質問できなかった内容などの解消に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003.4～	『授業科目:ドイツ語初級』 各授業時間の最後5分を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2007.4～	『授業科目:文化基礎論』 講義をパワーポイントとインターネットの画像を利用し、工夫を凝らして行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義の内容を補足するプリント作成	2003.4～	『授業科目:ドイツ語初級・ドイツ語会話』 教科書に不十分な文法的説明や会話例のプリントを作成し、配布を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義の内容を具体化するデータの資料作成	2003.4～	『授業科目:ドイツ事情』 講義内容を具体化するデータの資料を作成し、配布を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2007.4～	『授業科目:文化基礎論』 講義で扱う内容を詳しく示したプリントを作成し、配布を行っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Christliches” in Japans Lyrik. Zu religioesen Aspekten im Symbolismus der Meiji- und Taishou-Zeit.	分担執筆	2006.10	Bier'sche Verlagsanstalt Bonn: Referate des 12. Deutschsprachigen Japanologentages 2002 in Bonn, Band 1,		印刷中
旅人の広島・コンタクト・ゾーンとしての都市空間	分担執筆	2006.12	九州大学出版会: 都市を歩く・ローマから博多まで単行本	井口正俊・岩尾龍太郎編	278～297

隣人とグローバリゼーション	分担執筆	2007. 3	西南学院大学宗教部:チャペル講和集2006(平成18)年度 磯望編 第40号	98~104
Oda Makoto: Gyokusai—Japans Helden sterben schoen (Kapitel 1-4)		2007. 8	:DJF Quarterly (Magazin des Deutsch-Japanischen Friedensforums Berlin e.V.)	7~19
Zur Gewalt in Oda Makotos Roman Gyokusai: diskursive Oeffnung der gewaltlegitimierenden Instrumentalisierung von Kultur und Gender zur gewaltmindernden Funktion von Hybriditaet	分担執筆	2009. 9	仮登録:Bonner Asienstudien: Referate des 13. Deutschsprachigen Japanologentages8/2	Guenther Distelrath (Hg.) Kap. VI

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
Mori Ogais Maihime als ein (nicht nur) literarisches Beispiel fur das Zusammenspiel der Faktoren Nation, Kultur, Sozialschicht und Gender an einer Schnittstelle zwischen deutscher und japanischer Kultur	2004. 9	西南学院大学論集:第19巻第2号	33~64
Gender und Hiroshimas Atombombendenkmaeler: Repraesentationen und Performationen kultureller Erinnerung	2006. 5	西南学院大学論集:第21巻第1号	165~200
Akte des Fingierens bei Oota Youko und Kurihara Sadako	2007. 2	西南学院大学論集:第21巻第2号	63~75
Ota Yoko: Winter (Teil 1)	2009. 3	西南学院大学論集:第23巻第2号	87~97
Ota Yoko: Winter (Teil 2)	2009. 9	西南学院大学論集:第24巻 第1号	39-49

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
北村透谷におけるトランス・カルチャー 的表象生産—国家・文化・ジェンダー言 説との絡み合いを考慮して—		2006. 7	福岡ユネスコ協会:FUKUOKAUNESCO42	福岡ユネスコ協会	48~50

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.10.22	北村透谷におけるトランス・カルチャー的表象生産-国家・文化・ジェンダー言説との絡み合 いを考慮して—	第15回日本研究国際セミナー2005日本近代文学の回顧と展望- 21世紀を迎えて—
2006. 9.15	Zur Gewalt in Oda Makotos Roman Gyokusai – diskursive Oeffnung der gewaltlegitimierenden Instrumentalisierung von Kultur und Gender hin zur gewaltmindernden Funktion von Hybriditaet	13. Deutschsprachiger Japanologentag 2006

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 大谷 裕文 (7113)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア教育の実践(その1)	2003. 4.14 ~	国際文化学部の授業、総合科目(異世界・ユートピア)において、トンガ王国・サモア・クック諸島におけるフィールドワークにおいて撮影してきた写真・動画・音声録音を組み合わせて作成したパワーポイント・ファイルを活用して、議事現場体験ができるようなマルチメディア授業を行っている。なお、パワーポイント・ファイルは、フィールドワークの進展に合わせて毎年更新している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア教育の実践(その2)	2007. 5.21 ~	国際文化学部の授業、文化のダイナミズム(都市を歩く)において、ニュージーランド・オークランドの多民族状況について撮影してきた写真・動画・音声録音を組み合わせて作成したパワーポイント・ファイルを活用して、議事現場体験ができるようなマルチメディア授業を行っている。なお、パワーポイント・ファイルは、毎年更新していく予定である。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 一般教育研究協議会における司会	2007. 9.14	一般教育のあり方を討議する第56回九州地区一般教育研究協議会の全体部会に司会者として参加した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『文化のグローカリゼーションを読み解く』	単著	2008. 2	弦書房		
海のキリスト教	単著	2009. 4	明石書店		
台頭するカルト集団	分担執筆	2005. 4	山川出版社:クラブが創った国アメリカ	綾部恒雄	276~288
ポストコロニアル論	分担執筆	2006.11	弘文堂:文化人類学20の理論	綾部恒雄編	266~283
オークランド~多文化都市の形成と発展	分担執筆	2006.12	九州大学出版会:都市を歩く	井口正俊・岩尾龍太郎編	276~283
トンガ~揺らぐ王権	分担執筆	2009. 4	朝倉書店:講座オセアニア	熊谷圭治	

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 王 孝廉 (7114)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書	2007. 4 ~	授業科目:時事中国語 講義概要を示したプリントを作成し配布を行なった
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2007. 3.10	「中国の民族と神話」について、台湾東海大学学術研討会で講演を行なった

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
中國神話世界 下編	単著	2006. 1	台北洪業出版社		468
中國神話世界 上編	単著	2006. 1	台北洪業出版社		403

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
古典と現代—ウイグル族文学研究(中国語)	2007.10	西南学院大学論集:第22巻第1号	11~25

講演会

開催日時	講演名称	場所
2007. 3.10	台湾東海大学学術研討会	台湾
2008.12.15	中国神話研討会	上海華東師範大学
2009. 3.25	日本学者の中国西南民族研究	雲南民族大学

III 学会等および社会における主な活動

1 専任教員の教育・研究業績

所属	国際文化学部	職名	教授	氏名	K. J. シャフナー (7115)	大学院における研究指導担当資格	無
----	--------	----	----	----	--------------------	-----------------	---

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 7 ~	「授業科目:キリスト教学、ドイツ語初級II」学期の終わりの授業の最後の20分間を使って、授業評価のアンケートを実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2007. 4 ~	「授業科目:演習I」メールによる質問を受け付け、授業中に質問できなかった内容解消に努め、紹介できなかった資料を紹介した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 7 ~	「授業科目:演習I」学期の終わりの授業の最後の20分間を使って、授業評価のアンケートを実施し、授業の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 小テストと練習問題作成	2004. 4 ~	「授業科目:ドイツ語初級II」学生の理解を深め、それを確かめるための小テストと練習問題を作成し、訂正し、返した。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業概要を示したプリント作成	2004. 4 ~	「授業科目:キリスト教学I,II」講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントの活用	2005. 4 ~	「授業科目:キリスト教学I,II」講義をパワーポイントとOHPを利用し、工夫を凝らして行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントの活用	2007. 4 ~	「授業科目:基礎演習、演習I」ゼミ生の議論を活発化されるように映像を適用した。
2 作成した教科書、教材、参考書 パワーポイントの活用	2007. 4.16 ~ 2007. 4.23	「授業科目:文化のダイナミズムIA、生命倫理」2回ずつ担当した講義をパワーポイントとOHPを利用し、工夫を凝らして行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 海外FDセミナーへの参加	2006. 7.17 ~ 2006. 7.22	アメリカの優生学に関する教育者のためのセミナーに参加した。教材、教える方法、評価の仕方などを学んだ。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「ニューヨーク市—アメリカへの問」	分担執筆	2006.12	九州大学出版会:『都市を歩く—ローマから博多まで—』1	岩尾良太郎・井口正弘秀 編	129~143

「グローバル・ホームレス—米国の難民に対する対策」	分担執筆	2008. 2	弦書房:『文化のグローカリゼーションを読み解く』1	大谷裕文(編)	170—184
「人種差別主義に利用される科学—米国における優生学—」	分担執筆	2008. 3	九州大学出版会:『生命の倫理2—優生学の時代を越えて—』1	山崎喜代子編	75—97
「優生学時代の女性」	分担執筆	2008. 3	九州大学出版会:『生命の倫理2—優生学の時代を越えて—』1	山崎喜代子編	101—124

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
民主主義を守るための戦争—第一次世界大戦中の米国メノー派教徒の経験—	2004. 9	西南学院大学論集:第19巻第1号	1~17
The Evangel of Eugenics—Preachers for a Better Race in the 1920s—	2005. 8	西南学院大学論集:第20巻第1号	37~60
The Role of the Scientist in Society — A Look at the American Eugenics Movement—	2009. 3	西南学院大学論集:第23巻第2号	23~41

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005. 3.31	アメリカのドイツ系メノナイト信者と第一次世界大戦	日本キリスト教学会九州部会
2006. 3.27	生命の価値をはかる	日本基督教学会九州部会
2008.11.29 ~ 2008.11.30	公募シンポジウム2優生学における科学の役割 米国優生学における科学の役割	日本生命倫理学会 第20回年次大会

社会活動

期間	活動内容
2005.11 ~ 2006.11	30年記念フェスティバル・アジアハンドベル大会 実行委員会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 新谷 秀明 (7116)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア設備の活用	2003. 4 ~	『授業科目:中国文学、中国文学概論』 文学関係の講義科目では、受講生の文学に対する興味を喚起するため、できるだけ視聴覚教材を多用するように心がけている。たとえばOHCを使用して20世紀初頭の文芸雑誌の実物を見せる、作家の写真を見せる、DVDにより文芸作品を原作とした映画を見せる、中国の状況を伝えるドキュメント映像を見せる、などしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 対話形式の語学講義	2003. 4 ~	『授業科目:中国語初級、中国語中級』 語学の授業では発音指導、会話レスポンス能力の指導を充実させるため、学生との中国語による会話に重点を置いている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『授業科目:中国文学、中国文学概論、文献講読、演習等』 毎年、数科目についてまんべんなく授業評価を実施し、翌年度以降の講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 朗読用テキストの活用	2004. 4 ~	『授業科目:文献講読』 2年生用のゼミである「文献講読」の授業では、通常使う講読テキストのほかに、『児童三字経』という中国で子供向けに使われている読本を用意し、毎回授業のはじめ20分程度を朗読練習の時間に充てている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 留学生の授業参加	2005. 4 ~	『授業科目:文献講読、演習Ⅰ』 ゼミナールの学生には中国語の習得が必須となるが、それをサポートするため、中国からの交換留学生に依頼し、ゼミの時間に教室に来てもらっている。発音の指導、文献の読解、その他学生との交流など、多方面のサポートが行われ、実績をあげている。
2 作成した教科書、教材、参考書 中国語初級教科書の作成	2003. 4 ~	『授業科目:中国語初級』 2000年に作成、出版した『中国語の広場』(中国書店)を継続して使用している。2008年3月『おしゃれな中国語』(中国書店)を出版した。
2 作成した教科書、教材、参考書 オムニバス講義教科書の作成	2007. 4	『授業科目:文化のダイナミズム』 2006年に国際文化学科の教員と共著で『都市を歩く』を出版した。本学科の主要オムニバス講義である「文化のダイナミズム」の教科書として使用している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 福岡市中国語弁論大会への参加	2005.11	『授業科目:中国語中級、文献講読、演習等』 毎年福岡市の主催で行われている中国語の弁論大会への参加を学生に呼び掛けている。これまで指導した学生の中から3名が出場した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
アジアの都市共生	共著	2005. 9	九州大学出版会	出口敦(編)、王志剛 他	218

境外の文化	分担執筆	2004.11	汲古書院:	山田敬三	207~223
中国現代文学と九州	分担執筆	2005. 3	九州大学出版会:	岩佐昌暲	
上海—都市の深層を歩く	単著	2006.12	九州大学出版会:都市を歩く 1	井口正俊・岩尾龍太郎 編	201~219

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
岩佐昌暲著『八〇年代中国の内景』	単著	2005. 6	:西日本新聞		
母と娘の物語—王安憶『桃之夭夭』を読む	単独執筆	2007. 7	東方書店:『南腔北調論集 中国文化の伝統と現代』1	新谷秀明	629-640

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 9.16	由芥川賞到村上春樹—一個日本学者的文化観察(芥川賞から村上春樹まで—ある日本学者の文化観察)	東呉大学(台北)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 9.26	19世紀前期アメリカンボードの宣教思想	伝道科研第5回研究会

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 塩野 和夫 (7117)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業への希望を聞く	2003. 4 ~	『キリスト教学1』『キリスト教学2』『宗教学』最初の授業で講義の概要を示したうえで、学生の希望を書かせ、それを授業に生かしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~	『キリスト教学1』『キリスト教学2』『宗教学』最終の授業で授業評価を書かせ、それを授業に生かしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ディスカッション	2003. 4 ~	『キリスト教学1』『キリスト教学2』『宗教学』授業の後半に意見発表とディスカッションの時間を設け、訓練を施している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) レポート指導	2003. 4 ~	『キリスト教学1』『キリスト教学2』『宗教学』レポートの書き方についてアドバイスしたうえで、個別に指導している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業のサポート	2003. 4 ~	『文献購読』『演習1』『演習2』発表内容について質問を受け付けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 『宗教学』	2008. 4 ~	毎回の授業の概要を示す写真等をパワーポイントに収録し、冒頭で説明し、学生の理解に役立たせている。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2003. 4 ~	『キリスト教学1』『キリスト教学2』教科書を作成し、出版した。
2 作成した教科書、教材、参考書 補助教材の作成	2003. 4 ~	『キリスト教学2』『宗教学』補助教材を作成し、活用した。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2004. 4 ~ 2006. 7	『比較文化論』教科書を作成し、出版した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
The Philosophy of Missions of the American Board of Commissioners for Foreign Missions I 1810-1850	単著	2005. 3	自費出版		156

19世紀アメリカンボードの宣教思想 I 1810-1850	単著	2005. 3	新教出版社		223
禁教国日本の報道	単著	2007. 2	雄松堂出版		300
神(ゴッド)と近代日本	分担執筆	2005. 3	九州大学出版会: 神と近代日本—キリスト教の受容と変容—	塩野和夫、今井尚生	213~238
ボストン—多民族・多文化都市	分担執筆	2006.12	九州大学出版会: 都市を歩く	井口正俊 岩尾龍太郎	144~160

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
日本組合基督教会系新聞に見る基督教々育同盟会(二)	2005. 2	西南学院大学論集: 第19巻第2号	135~174
19世紀アメリカンボードの宣教思想 II 1851-1880(1)	2005. 8	西南学院大学論集: 第20巻第1号	61~74
日本組合基督教会系新聞に見る基督教々育同盟会(三)	2006. 2	西南学院大学論集: 第20巻第2号	239~276
19世紀アメリカンボードの宣教思想 II 1851-1880(2)	2006. 2	西南学院大学論集: 第20巻第2号	61~76
19世紀アメリカンボードの宣教思想 II 1851-1880(3)	2006. 5	西南学院大学論集: 第21巻第1号	147~163
九州におけるキリスト教受容の研究 西南学院大学学術研究所共同研究(A)研究報告	2008. 3	西南学院大学論集: 第22巻第2号	33~80
プロテスタントのアジア伝道	2008. 9	西南学院大学論集: 第23巻第1号	127~138
19世紀アメリカンボードの宣教思想 II 1851-1880(4)	2009. 3	西南学院大学論集: 第23巻第2号	43~57

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
教会が生まれるとき		2004. 6	日本キリスト教団出版局: 信徒の友6月号	日本キリスト教団出版局 信徒の友編集室	26~29
キリスト教学校教育同盟 西南地区関連史料(2)		2004. 6	キリスト教学校教育同盟: キリスト教学校教育同盟百年史 紀要第2号	キリスト教学校教育同盟 百年史編纂委員会	113~132
「賀川豊彦」「三浦綾子」		2005. 1	弘文堂: 現代宗教事典	井上順孝	83~84、484~485
アメリカン・ボード宣教師		2005. 3	財団法人キリスト教文書センター: 本のひろば		18~19
キリスト教学校教育同盟 西南地区関連史料(3)		2005. 6	キリスト教学校教育同盟百年史編纂委員会: キリスト教 学校教育同盟百年史紀要第3号		131~142
大里喜三先生と吉川英治『親鸞』		2005. 7	キリスト教育文書センター: 本のひろば2005年7月号		1
西南学院史の史料(1)		2006. 5	西南学院大学: 西南学院史紀要1号		60~77
西南学院史 史料研究(1)学院史編集室史		2006. 5	西南学院大学: 西南学院史紀要1号		16~39
キリスト教学校教育同盟 西南地区協議会の研究 I		2006. 6	キリスト教学校教育同盟: キリスト教学校教育同盟 百年 史紀要4号		1~27

教会教育の歩み	2007.10	財団法人キリスト教文書センター:本のひろば2007年8月号	8～9
D. W. ラーネッド	2007.10	日本キリスト教団出版局:信徒の友2007年6月号	19～20
訓令第十二号と創立者の幻(ヴィジョン)	2008. 6	キリスト教学校教育同盟:キリスト教学校教育同盟百年史紀要第6号	59～70

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 7. 2	日本組合教会系新聞に見る基督教々育同盟会(2)	キリスト教社会問題研究第3研究B班
2005. 3.31	南北戦争とアメリカンボード	日本キリスト教学会九州部会
2005. 7. 1	日本組合教会系新聞に見る基督教々育同盟会(3)	同志社大学人文科学研究所第3研究B班
2006. 3.27	キリスト教学校教育同盟 西南地区協議会の研究-1950年代から1970年-	日本キリスト教学会九州支部会
2007. 3.17	生月のカクレキリシタンと戦時下のプロテスタント	九州におけるキリスト教受容研究会

社会活動

期間	活動内容
2001. 6 ～	キリスト教学校教育同盟百年史編纂委員会 委員
2004. 4 ～	日本キリスト教団倉敷教会 百年史編纂委員会 助言者

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 高倉 洋彰 (7118)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫	2003. 4 ~	「博物館概論」「博物館資料論」「考古学」講義では授業を博物館実習室で行い、OHCやスライドなどを活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 6 ~	「博物館概論」「博物館資料論」講義の20分を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003.11 ~	「考古学」講義の20分を使って授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教材	2003. 4 ~	講義および演習では、テキストとは別に、わかりやすい講義要項や図表を作成配布して、使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法に関する講演	2003. 9.17 ~ 2007. 1.10	佐賀県神埼、福岡県西南学院・講倫館、長崎県壱岐、新潟県佐渡高校で、高校生を対象とする大学教育に関する出張講義を行った。佐渡高校のみは学内。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法に関する講演	2004. 6.25	全国教育長会議で博物館教育に関する講演を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育方法に関する講演	2004.11.15 ~	一般市民を対象とする公開講座に講師として参加した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2006. 4 ~	学内に設置された大学博物館を活用し、博物館学芸員科目の実践的教育を実施している。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 その他教育活動上特記すべき事項	2009. 7 ~	大学基準協会大学評価分科会主査として「大学評価」に実践的に関わるとともに、その経験を本学の教育全般の改善に資するよう努力している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
奈良 現代都市の基礎を育んだ街	分担執筆	2006.12	九州大学出版会: 都市を歩くーローマから博多までー	井口 正俊 岩尾龍太郎 (編)	263~277

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
刀箸考	2007. 3	西南学院大学論集: 第21巻第2号	27～48
中国における箸の出現と普及	2008. 3	西南学院大学論集: 第22巻第2号	1～32

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
水稻耕作技術体系的東伝	単著	2004. 5	吉林大学考古系: 边疆考古研究2		393～405
太宰府の古代寺院	単著	2005. 3	太宰府市: 太宰府市史通史編 I		715～741
府大寺観世音寺の創建	共著	2005. 3	太宰府市: 太宰府市史通史編 I	坂上康俊	742～761、782～789
弥生時代	単著	2005. 3	太宰府市: 太宰府市史通史編 I		261～314
『MUSEUM KYUSHU』に集った研究者達	単著	2006. 1	博物館等建設推進九州会議: MUSEUM KYUSHU21巻8号	高倉洋彰	41～46
考古学の方法による弥生時代の実年代	単著	2006. 5	日本考古学協会: 日本考古学協会第72回総会研究発表要旨	高倉洋彰	330～333
考古学からみた弥生時代の実年代	単著	2006. 5	島根考古学会: 島根考古学会誌23号	高倉洋彰	1～15
大学の知性の象徴・大学博物館	単著	2006. 5	西南学院大学: 福岡市指定有形文化財西南学院旧本館・講堂改修工事報告書	高倉洋彰	14～16
西漢帝国影響力的東界	単著	2006.10	中国社会科学院 考古研究所: 漢長安城与漢文化論文提要集	高倉洋彰	69
〈漢委奴国王〉金印下賜の意味	単著	2007. 3	福岡市立博物館: 市史研究ふくおか第2号	高倉洋彰	49～60
中世観世音寺の隆盛と衰退	単著	2007. 3	九州歴史資料館: 観世音寺考察編	高倉洋彰	213～220
漢の印制からみた「漢委奴国王」蛇鈕金印	単著	2007. 7	国華社: 国華 1341号	高倉洋彰	5～15
遣漢使節の道	単著	2008. 5	九州大学考古学研究室50周年記念論文集刊行会: 九州と東アジアの考古学単行本	高倉洋彰	179～200
日本考古学が置かれている研究環境の現状	単著	2008.11	日本考古学協会: 日本考古学26号	高倉洋彰(文責)	131～153

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 6.14	兵庫県立考古博物館講演会	兵庫県立考古博物館
2008. 7.26	中国・浙江工商大学日本文化研究所主催「対外往来」国際シンポジウム	浙江工商大学日本文化研究所(杭州湾大酒店)
2008.11.22	新潟県立歴史博物館講演会	新潟県立歴史博物館
2008.12. 6	放送大学講座	九州歴史資料館

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 6.18	国立歴史民俗博物館による弥生時代AMS年代測定結果に関する諸問題	Sociefy for East Asian Archaeology
2004.10. 9	九州地域と東アジアの交流	日本学術会議
2004.10.27	考古学の方法による弥生時代の実年代	日本考古学会
2006. 5.28	考古学的方法による弥生時代の実年代	日本考古学協会第72回総会
2006.10.28	西漢帝国影響力的東界	紀念漢長安城考古五十周年国際学術研討会

社会活動

期間	活動内容
1987. 4 ~ 2006. 3	太宰府市史編集委員会副委員長
1993. 6. 1 ~ 2008.12. 7	太宰府市史編さん委員会副会長
1993.11 ~ 2005. 1	福岡県三輪町文化財保護審議会委員
1995. 5 ~ 2005. 3	重要文化財福岡県平原方形周溝墓出土品修理委員会委員(文化庁)
1997. 8 ~ 2006. 3	博物館等建設推進九州会議運営委員長
1998. 3 ~ 2005. 3	宮崎県椎葉村博物館協議会委員
1998. 3 ~ 2005. 3	太宰府市国立博物館設置促進会議委員
1999. 6 ~ 2005. 3	九州国立博物館(仮称)設立準備専門家会議副主査(文化庁・福岡県)
2002. 2. 5 ~	文化審議会専門委員(文部科学省)
2002. 4. 1 ~	秋田市地蔵田遺跡環境整備指導委員会委員
2002.12 ~ 2005. 3	第19回国民文化祭太宰府市実行委員会委員
2003. 3 ~ 2004.12	九州歴史資料館将来構想検討委員会委員
2003. 9. 1 ~	北九州市立自然史・歴史博物館協議会委員
2003.11 ~ 2005.10	日本学術会議考古学研究連絡委員会専門委員
2004.10 ~ 2005. 3	国営吉野ヶ里歴史公園「南のムラ」実施設計検討委員会委員
2005. 7. 1 ~	九州国立博物館評議員会評議員
2005.10 ~ 2006. 3	国営吉野ヶ里歴史公園「南のムラ」実施設計検討委員会委員
2006. 7. 1 ~	福岡市博物館資料収集委員
2007. 4 ~	九州国立博物館評議員会副会長
2008. 1.29 ~ 2008.12.31	筑紫野市文化振興計画策定審議会委員
2008. 4. 1 ~	福岡県文化財保護審議会専門委員

2008. 5.14 ~ 2008.10.31

九州歴史資料館移転に伴う展示・教育普及工事基本設計業務プロポーザル選定委員会委員

2008.12. 8 ~

太宰府市公文書館構想調査研究委員会副会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 教授	氏名 堤 啓次郎 (7119)	大学院における研究指導担当資格 有
-----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2003. 4 ~ 2008. 5	[授業科目:日本史学] 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、授業の改善に努めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) グループ活動による学生の発表	2003. 4 ~ 2008. 5	授業科目:基礎演習 受講者を2~3人のグループに分け、グループでテーマ設定、学習、レジュメ製作、発表、全員での議論、をしている。 1年次に、自己の問題関心に基づく自主的な学習を経験してもらう。最近、コミュニケーションや自己表現が苦手な学生が増えているので、学生間のコミュニケーションと協力、集団的な学習を奨励する意味がある。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2003. 4 ~ 2008. 5	[授業科目:全授業] 質問、要望を受け、回答し、授業に反映させる。文献講読、演習Ⅰ・Ⅱなどでは、発表の準備や、学生間の連絡にも有効である。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 大学院生のゼミへの出席と助言	2007. 4 ~ 2007. 7	[授業科目:演習Ⅱ] ゼミナールでの卒論テーマの設定の時期に、大学院生に出席し、助言してもらった。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 7 ~	[授業科目:日本近代史] 最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、授業の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 史料のプリント配布	2003. 4 ~ 2008. 5	[授業科目:日本近代史、文献講読、演習Ⅰ・Ⅱ、文化のダイナミズム、日本史学] 史料の解説、史料による検証が基本であるので、史料の配布は不可欠である。演習系の授業では、史料を必ず声に出して読ませる。読む・体感する・理解することは、不可分である。授業全体を通じて「考える」ことを強調している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「国体」・「異人・耶穌」・「信教自由」	分担執筆	2005. 3	九州大学出版会: 神と近代日本—キリスト教の受容と変容—	塩野和夫、今井尚生	149~177
京都—近世と近代の刻印—	分担	2006.12	九州大学出版会:『都市を歩く—ローマから博多まで—』	井口正俊 岩尾龍太郎	244~262

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
士族反乱後における県治体制の再編(四)	2006. 2	西南学院大学論集: 第20巻第2号	153~182

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 准教授	氏名 赤尾 美秀 (7131)	大学院における研究指導担当資格 無
-----------	--------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ホームページの活用	2004. 4 ~	毎年、担当する科目ごとに、学内向けのサーバー上にホームページを開き、作成した教材・資料を提供している。ゲーテとトーマス・マンに関する文献データベースを閲覧できるようにしている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
神と近代日本	分担執筆	2005. 3	九州大学出版会:	塩野和夫 今井尚生	65~93

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 准教授	氏名 栗原 詩子 (7132)	大学院における研究指導担当資格 無
-----------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の主体的な計画立案と実施	2008. 4 ~	授業科目『文化創造論B』学生に、文化事業の提供をととした地域貢献について体験的に学習させるために、グループごとに調査・企画の計画を立案させ、その妥当性についてチェックした上、それを音楽会実施のかたちで実行に移した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットの活用	2008. 4 ~	担当するすべての科目において、インターネットを活用して副次教材を提供した。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2009. 4 ~	担当する講義4科目中、特に多人数であって、有意な統計結果が得られると考えられる1科目において、授業評価を実施し、その結果を講義改善に活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の作成	2009. 4 ~	授業科目『表象メディア論A』教科書『表象メディア論Aテキスト』を作成し、この教科書を活用して、実社会において、表象メディアがどのように論じられているか、具体的な資料を提示し、これについて議論を進める講義を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 他大学との合同ゼミナール	2008. 6.18	授業科目『文化創造論』の企画の一部として、韓国の東亜大学と合同ゼミを学会形式で、「福岡釜山音楽研究交流会—音で結ぶ恨と侘—寂」として実施した。担当グループの学生は、上演を含む研究発表6件の運営の他、東亜大学の教員/学生との議論を活発に行い、国際交流体験を充実させた。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ジャン・ファシナ著『若いピアニストへの手紙』	共訳	2004. 9	音楽之友社	栗原詩子・江原郊子	all
『メディアデザイン教育の諸相——カールスルーエ造形大学との交流によるメディアデザイン教育の実践研究——』	分担執筆	2005. 3	九州大学	栗原詩子・中村滋延	all
『やさしくわかる楽典』	分担執筆	2005.12	日本実業出版社	栗原詩子	all
『メッツラー音楽大事典 日本語デジタル版DVD-ROM』 (150名共訳)	共訳	2006. 4	教育芸術社	150名共訳	all
現代音楽を読み解く88のキーワード	単訳	2008. 4	音楽之友社	ジャン・イヴ・ポスール	all
名曲悪口事典 ベートーヴェン以降の名曲悪評集	共訳	2008. 6	音楽之友社	ニコラス・スロニムスキー (編集), 伊藤 制子(翻訳), 大田 美佐子(翻訳), 栗原 詩子(翻訳), 小岩 恭子 (翻訳), 古後 奈緒子(翻 訳)	全体の1/4

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
Musical Dictation Score of Norman McLaren's Animated Piece Synchromy	単著	2005. 1	九州大学:『芸術工学研究』九州大学芸術工学研究院紀要第4号		65～75
音楽の市民権とローマ賞作曲部門	単著	2005. 3	九州藝術学会:『デアルテ』第21号		85～104
Aesthetics of experimental animation: on dictational observation of Norman McLaren's Synchromy	単著	2005. 3	Asia Digital Art and Design Association: Asia Digital Art and Design Association vol.2		49～54
クラシック招待状「時空への旅誘う:きょう九響第259回定演」		2005. 4	西日本新聞社:西日本新聞		5
クラシック招待状「音楽に童話の香り:6月3日オルフェウス室内管弦楽団演奏会」		2005. 5	西日本新聞社:西日本新聞		5
クラシック招待状「情熱奏でる円熟の調べ:26日から植田伸子ピアノ演奏会」		2005. 6	西日本新聞社:西日本新聞		5
クラシック招待状「華添えるステップ:来月3日、響ホール室内合奏団自主公演」		2005. 7	西日本新聞社:西日本新聞		5
クラシック招待状「『音の対話』新たな魅力:22日から霧島国際音楽祭」		2005. 8	西日本新聞社:西日本新聞		5
クラシック招待状「忘れられた音色再現:あすから福岡古楽音楽祭」		2005. 9	西日本新聞社:西日本新聞		5
Performative and Auditory Characteristics of the Audiovisual CD Books Midnight Play and Alphabet based on Kveta Pacovska's Picture Books	単著	2006. 3	日本映像学会:『ICONICS』Vol.8		159～174
ノーマン・マクラレンの《シンクロミー》における音楽・画面構成・色彩の相互連関	単著	2006. 9	日本音楽学会:『音楽学』第52巻第1号		1～17
お出かけクラシック 4～5月「充実のアルゲリッチ音楽祭」		2007. 5	毎日新聞社:毎日新聞		5
時間芸術としてのアニメーション ——マクラレンの《リズムメティク》——	単著	2007. 6	美学会:『美學』第58巻		73～86
お出かけクラシック 5～6月「ノルディックの清潔な音」		2007. 6	毎日新聞社:毎日新聞		5
音楽分析的観点によるノーマン・マクラレンのアニメーション作品研究	単著	2007. 6	九州大学大学院:博士論文	栗原詩子	all
お出かけクラシック 7月「九響の多面的な魅力」		2007. 7	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 7～8月「音楽創りの現場で」		2007. 8	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 9月「晩夏のピアニストたち」		2007. 9	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 10月「エクセルシオと子供たち」		2007.10	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 11月「《椿姫》にみる具象と抽象」		2007.11	毎日新聞社:毎日新聞		5

お出かけクラシック 12月「ステージの創造性」		2007.12	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 1月「新年に硬派なプログラム」		2008.1	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 2月「躍動する音楽に静謐な時を聴く」		2008.2	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 3月「新フランスピアノ様式」		2008.3	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 4月「身体にしみこむメシアン」	単独執筆	2008.4	毎日新聞社:毎日新聞		5
「ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ——ある発見の物語」『福岡古楽音楽祭第10回記念特集号』十八世紀音楽祭協会編	単訳	2008.5	18世紀音楽協会:	デミトリー・バディアロフ	120～124
お出かけクラシック 5月「奏者の息遣いを聴く」	単独執筆	2008.5	毎日新聞社:毎日新聞		5
「福岡古楽音楽祭によせて」『福岡古楽音楽祭第10回記念特集号』十八世紀音楽祭協会編	単独執筆	2008.5	18世紀音楽協会:	栗原詩子	96～97
お出かけクラシック 6月「惜しまれる響きの乱れ」	単独執筆	2008.6	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 7月「ドラマチックな音に共感」	単独執筆	2008.7	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 8月「九州の夏の成果」	単独執筆	2008.8	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 9月「アマの献身、プロの舵取り」	単独執筆	2008.9	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 10月「雄弁さ示した四重奏」	単独執筆	2008.10	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 11月「現代音楽の揺り戻し」	単独執筆	2008.11	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 12月「ゲルギエフの魔術的指揮」	単独執筆	2008.12	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 1月「ランラン……アジア発の創造力」	単独執筆	2009.1	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 2月「リスト協奏曲 絶妙な調和」	単独執筆	2009.2	毎日新聞社:毎日新聞		5
お出かけクラシック 3月「迫られる「選択」と「実験」	単独執筆	2009.3	毎日新聞社:毎日新聞		5
日本演奏連盟主催「演連コンサートFUKUOKA 4——原絢子・幸田裕子ジョイント・リサイタル」曲目解説	単独執筆	2009.3	日本演奏連盟:	栗原詩子	1～4
オラトリオ名曲ブック:メシアン	単著	2009.4	日本キリスト教団出版局:礼拝と音楽141 (2009 Spring)	栗原詩子	22～23
お出かけクラシック 4月「カフェ空間が音楽広場に」	単独執筆	2009.4	毎日新聞社:毎日新聞2009.4.18	栗原詩子	5
科学と芸術——幻想から脱するための探求 (Science and Art: the Search for Disillusionment)	単訳	2009.4	九州大学:感性融合創造センター年報Vol.4 (2008)	ロバート・ダロル (Robert Darroll)	2～10
お出かけクラシック 5月「脳裏に音色刻む即興」	単独執筆	2009.5	毎日新聞社:毎日新聞2009.5.23	栗原詩子	5
映像音響詩 (Audio visuelles Gedicht) のジャンルの特性——中村滋延の3つの作品を中心に	講演,要旨	2009.5	日本映像学会:日本映像学会第35回大会要旨1	栗原詩子	19
お出かけクラシック 6月「宮廷音楽の威厳と穏当さ」	単独執筆	2009.6	毎日新聞社:毎日新聞2009.6.20	栗原詩子	5
日本音楽学会関西支部第342回例会報告	単独執筆	2009.9	日本音楽学会:日本音楽学会関西支部通信第97号	栗原詩子	30～31頁

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 8. 2	freq08 ワークショップ・コンサート —— 視覚音楽へのあらたな地平	アクロス福岡円形ホール
2009. 6.19 ~ 2009. 6.21	openFrameworksワークショップin福岡	九州大学

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 7	Investigation of Animation Aesthetics on dictational observation of Norman McLaren's Synchrony	2nd Annual Conference of Asia Digital Art and Design Association
2004.10	ノーマン・マクラレンの音楽性 —— 映像作品《シンクロミー》に流れる時間——	日本音楽学会第55回全国大会
2004.12	マルチメディア音楽作品《Freqlower》シリーズの演奏・上演システムの設計 —— フラクタル図形の音楽構成への応用—— (井内大輔との共同発表)	情報処理学会音楽情報科学第127回研究会
2004.12	新進音楽家留学助成制度の成立と展開 —— ローマ賞作曲部門の功罪——	日本音楽学会関西支部第317回定例研究会
2005. 3	ノーマン・マクラレンの音楽性 —— 映像作品《シンクロミー》の拍節・画面構成・色彩の時間的展開——	日本映像学会第31回大会研究発表
2005. 8	The Interrelated Development of Music, Color Selection, and Composition of the Screen Picture in Norman McLaren's Synchrony	Conference Music and the Moving Image
2006. 1	Formalistic Development in Rythmetic : Toward the aesthetic structure concealed behind the arithmetic motivation	4th Annual Conference of Asia Digital Art and Design Association
2006.12	メディアアート作品「O(ループ)」シリーズの演奏・上演システムの設計 —— フィードバック効果による映像表現を用いて——	情報処理学会第68回音楽情報科学研究会
2006.12	マルチ映像、マルチ音響を用いたメディアアート表現	情報処理学会第68回音楽情報科学研究会
2008. 6.19	映画分析のツールとしての音楽学	福岡釜山音楽研究交流会
2008. 6.29	ノーマン・マクラレンのリズム表現と音楽展開について —— 《モザイク》(1965)の分析から	日本アニメーション学会第10回全国大会
2009. 5.31	映像音響詩(Audio visuelles Gedicht)のジャンルの特性——中村滋延の3つの作品を中心に	日本映像学会第35回大会

社会活動

期間	活動内容
2003. 5 ~	Asia Digital Art and Design Association正会員
2003. 6 ~ 2008. 3	情報処理学会音楽情報科学研究会準登録会員
2004. 4 ~ 2004.12	インターカレッジコンピュータ音楽コンサート2004実行委員
2004. 4 ~ 2008. 3	九州大学大学院芸術工学研究院紀要編集事務局
2005. 4 ~	文化経済学会会員

2005. 4 ~ 2007. 3	日本音響学会会員
2006. 4 ~	美学会会員
2006. 4 ~	芸術工学会会員
2006. 4 ~	日本映像学会会員
2007. 6.30 ~	芸術工学会 会計
2009.11. 1 ~ 2011. 6.30	アクロス福岡アドバイザー会議委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 准教授	氏名 松原 知生 (7133)	大学院における研究指導担当資格 無
-----------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2005. 4 ~	ほぼすべての授業に関して授業評価を行ない、特に通年科目については、前期の授業評価の結果を後期に考慮するなどして、講義の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイントの活用	2005. 4 ~	ほぼすべての授業でパワーポイントを活用し、美術作品の映像を示すことで、視覚的にも授業内容を理解させるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用配布資料の作成	2005. 4 ~	『講義科目:西洋文化史、表象文化論』復習や試験対策に利することを目的に、上述のパワーポイントのファイルに基づいてプリントを作成し、授業の際に配布している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ピュグマリオン効果—シミュラクルの歴史人類学	単訳	2006. 6	ありな書房	ヴィクトル・I・ストイキツァ	414
ヴェネツィア絵画のきらめき—栄光のルネサンスから華麗なる18世紀へ	共訳	2007. 3	イデア・ジャパン	バベット・トレヴィザンほか	
甘美なる聖母の画家 ペルジーノ展	共訳	2007. 4	アートプランニングレイ	ヴィットーリア・ガリバルディ他	15~20
ミラノ展	共訳	2005. 9	日本読売新聞:	上村清雄、松原知生ほか	29~49、89~99、104~117、176、181~184
シエナ—闘の聖像	分担	2006.12	九州大学出版会:都市を歩く—ローマから博多まで	井口正俊・岩尾龍太郎編	27~48
レオナルドの時代の政治と宗教	分担	2007. 5	東京堂出版:レオナルド・ダ・ヴィンチの世界	池上英洋(編)	371~387

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
幻視の遠近法—ベッカフミ作《シエナの聖女カテリーナの聖痕拝受》再考	2005. 8	西南学院大学論集:第20巻第1号	93~114
石の中のイコン—ルネサンス期シエナにおける聖画像ターベルナークルムの制作と受容	2006. 5	西南学院大学論集:第21巻第1号	227~268
古美術の／というメディウム—戦後の川端文学の一側面	2007. 2	西南学院大学論集:第21巻第2号	265~298

〈白〉の画家—ジョヴァンニ・ディ・ロレンツォとカモッリーアの戦い	2007.10	西南学院大学論集:第22巻第1号	113~183
物質(化)への情熱—小林秀雄と骨董	2008.3	西南学院大学論集:第22巻第2号	101~144
「慈悲役」から「オジ役」へ?—生月島かくれキリシタンの役職の起源をめぐる覚書	2008.3	西南学院大学論集:第22巻第2号	51~54
「往生際」のトポグラフィ—つげ義春と古物	2009.3	西南学院大学論集:第23巻第2号	99~154

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
美術史学からイメージ人類学へ	単著	2006.6	ありな書房:ストイキツァ『ピュグマリオン効果』	松原知生	393~408
天のオクルス、あるいはベッカフーミ作《玉座の聖パウロ》について	単著	2006.6	地中海学会:地中海学研究第29号	松原知生	265~298
美術館と廃墟／廃墟としての美術館	単訳	2007.4	京都大学大学院人間・環境学研究科:イタリアにおける美術作品の保存・修復の思想と歴史—欧米各国との比較から(平成15~18年度科学研究費補助金(基盤(B)(2)代表者岡田温司)研究成果報告書)	ヴィクトル・I・ストイキツァ	41~53
残欠のフェティシズム—やきもの鑑賞における陶片・疵物考	単著	2007.4	京都大学大学院人間・環境学研究科:イタリアにおける美術作品の保存・修復の思想と歴史—欧米各国との比較から(平成15~18年度科学研究費補助金(基盤(B)(2)代表者岡田温司)研究成果報告書)	松原知生	353~373
カラスとトスカーナ大公—シエナ、フォンテジュスタ聖堂《ペストの聖母》をめぐる	単著	2007.11	(財)鹿島美術財団:鹿島美術研究年報第24号別冊	松原知生	55~64
アルベルト・ダ・カステッロ著『栄光なる聖母マリアの口ザリオ』	単著	2008.10	西南学院大学博物館:境界は出会いの場 非西欧圏のキリスト教文化 西南学院大学博物館新収蔵品展	米倉立子編	21, 30~31

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2005.6.26	天のオクルス、あるいはベッカフーミ作《玉座の聖パウロ》について	地中海学会
2006.3.1	イコンとヴィジョンのあわいに—シエナの画家ベッカフーミの初期作品について	国際文化談話会
2006.6.24	ルネサンス絵画とキリシタン美術	「九州におけるキリスト教の受容」第3回研究会
2008.5.16	カラスとトスカーナ大公—シエナ、フォンテジュスタ聖堂《ペストの聖母》をめぐる—	鹿島美術財団研究発表会
2008.7.26	文士たちの骨董愛好とその(反)美学—小林秀雄と川端康成を中心に—	『「東洋美学・東洋的思惟」を問う』第4回研究会

社会活動

期間	活動内容
2005.11.1 ~ 2006.7.1	表象文化論学会設立発起人

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 准教授	氏名 西村 将洋 (7134)	大学院における研究指導担当資格 無
-----------	--------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 音声教材の活用	2007.4～	『授業科目:日本現代文学、日本文学論、日本文化論、演習I(1)』 POPソングや、ラジオ放送朗読詩などを講義で鑑賞し、時代状況の理解や文学作品の分析に活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	『授業科目:日本現代文学、日本文学論、日本文化論』 講義の最後の5分間を利用して、授業内容に関する質問と、授業評価を兼ねた「コメント・カード」を配布し、講義の改善と、学生の理解の向上に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) AV機器の活用	2007.9～2008.3	『授業科目:日本近代文学作品研究』 明治期～昭和初期の大衆社会成立に関するDVDを鑑賞し、文学作品を読解する際の、時代状況の理解のために活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの作成	2007.4～2008.3	『授業科目:日本文学(4)、日本近代文学作品研究』 講義概要を示したプリントを作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書『文学で考える〈日本〉とは何か』	2007.4.2	『授業科目:演習I(1)』 演習で用いる教科書の作成に参加した(双文社出版、65～68頁)

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
本多秋五の文芸批評—芸術・歴史・人間	共著	2004.11	菁柿堂	文芸理論研究会編	155～173
コレクション・モダン都市文化 第5巻 モダン都市景観	単著	2004.12	ゆまに書房	西村将洋編	668
日本のアヴァンギャルド	共著	2005.5	世界思想社	和田博文編	78～79, 39, 58, 63, 75, 86, 94, 96
大衆文学の領域	共著	2005.6	大衆文学研究会	大衆文学研究会編	163～177
『わび・さび・幽玄—「日本的なるもの」の誕生』共著 2006年9月水声社	共著	2006.3	水声社	鈴木貞美・岩井茂樹編	419～446
技術と身体—日本「近代化」の思想	共著	2006.3	ミネルヴァ書房	木岡伸夫・鈴木貞美編	179～192
『言語都市・ベルリン1861-1945』	共著	2006.10	藤原書店	和田博文・真銅正宏・宮内淳子・和田桂子・西村将洋	37～47, 198～ 206, 285～319, 336～344, 362, 364, 368, 371, 381 ～382, 391～392, 395, 397, 429～ 464

『コレクション・モダン都市文化 第Ⅱ期 第21巻 モダン都市の電飾』	単著	2006.12	ゆまに書房	西村将洋	896
『〈外地〉日本語文学論』	共著	2007. 3	世界思想社	神谷忠孝・木村一信編	153～168
『言語都市・ロンドン1861-1945』 (担当項目「大英帝国と日本近代—階級闘争社会」「大英帝国と日本近代—ユートピア」「水田南陽1897-1899—翻案ミステリー小説と産業社会」「長谷川如是閑1910—日英博覧会の特派員」「長谷川天溪1910-1912—自然主義からフロイトへ」「坪内士行1911-1915—ロンドンの日本人役者」「矢内原忠雄1920-1921—キリスト教徒の植民政策学研究」「河合栄治郎1923-1925,1933—英国政治と革命の不可能性」「第二次世界大戦への道1933-1945」「タワー・ブリッジ」「水晶宮(クリスタル・パレス)」「ハイド・パーク」「セルフリッジ(百貨店)」「ボンド・ストリート」「マーブル・アーチ」「ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ」「ドルーリー・レーン座(劇場)」「ギルドホール(市庁舎)」「シティ」「大火記念塔」「三井物産倫敦支店」「テムズ河」「チャリング・クロス」「イートン校」「ウィンザー城」(共著)ロンドン関係・出版物年表)	共同執筆	2009. 6	藤原書店	和田博文、真銅正宏、西村将洋、宮内淳子、和田桂子の5名による共編著	全690頁(担当: 83-104, 231-242, 345-376, 417-425, 438-446, 487-494, 524-525, 527-529, 550, 566, 572-574, 583-584, 594, 601, 606-607, 627-667頁)
『ライブラリー・日本人のフランス体験、第5巻、パリへの憧憬と回想—「あみ・ど・ぱり」Ⅲ』 (全体の編集を担当し、論文「大戦空間の異文化交渉—『あみ・ど・ぱり』と国際情勢」インタビュー「『あみ・ど・ぱり』編集者、武藤叟をめぐって」〔略歴〕武藤叟(1898-1974)」「解題」「関連年表(戦争・世界情勢)」「主要参考文献」を執筆)	単著	2009. 7	ゆまに書房	西村将洋	全616頁

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
『日本現代小説大事典』	共著	2004. 7	明治書院:	浅井清・佐藤勝編	1242, 766-767, 1354, 394, 1381, 1008-1009, 1348, 133~134, 1349, 733~734, 1355, 293, 1310, 258~259, 1353, 773
「書評 紅野謙介著『投機としての文学』」	単著	2004. 9	昭和文学会: 昭和文学研究第49集		135~137
「大連の詩人たち—詩誌『亞』と地政学」	単著	2004.11	同志社大学国文学会: 同志社国文学第61号		447~458
「浪漫派の「ゴルフ」—『日本浪漫派』創刊前夜」	単著	2005. 5	日本近代文学会: 日本近代文学第72集		103~118
「日本近代文学における伝統性とモダニズム—一九二〇年代から一九四〇年代の異文化交渉と《日本的なもの》」		2006. 7	:	学位論文(同志社大学: 甲第272号)	
「板垣鷹穂と機械的生命—合理主義の彼方へ」単著2007年2月『彷徨月刊』第23巻第3号(彷徨舎)26-29頁	単著	2007. 2	彷徨社: 彷徨月刊第23巻第3号	彷徨月刊	26~29
「研究動向 保田與重郎」	単著	2007. 3	昭和文学会: 昭和文学研究第54集		88~91

『文学で考える・〈日本〉とは何か』(「金鍾漢」を担当)	共著	2007. 4	双文社出版:—	飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編	全197頁(執筆頁:67-68頁)
「鈴木志郎康」	単著	2007. 5	明治書院:『展望現代の詩歌』第三卷(詩Ⅲ)	飛高隆夫・野山嘉正編	189-215頁(全318頁)
「現代詩手帖」(1963年)、「日本未来派」(1964-1966年)	単著	2007.12	紀伊国屋書店:『戦後詩誌総覧①戦後詩のメディアⅠ』-	和田博文・杉浦静編	116-133, 578-595頁(全769頁)
「昭和の浪漫主義」「詩と写真」「岩佐東一郎」「坂本越郎」「城左門」「中野嘉一」「浅野晃」「八十島稔」「ドノゴンカ」「マヴォ」「MADAME BLANCHE」	単著	2008. 2	三省堂:『現代詩大事典』-	大岡信・中村稔ほか監修	18, 86, 251-252, 289-290, 330-331, 337-338, 472, 494, 606, 612, 670-671頁(全809頁)
菅本康之著『モダン・マルクス主義のシンクロニシティ—平林初之輔とヴァルター・ベンヤミン—』	単著	2008. 3	笠間書院:昭和文学研究第56集		199~202
「詩学」(1968-1969年)	単著	2008.12	日外アソシエーツ:『戦後詩誌総覧』第2巻(戦後詩のメディアⅡ)	和田博文・杉浦静(編)	484-516頁(全851頁)
「ユリイカ」(1974-1975年)	単著	2009. 1	日外アソシエーツ:『戦後詩誌総覧』第3巻(戦後詩のメディアⅢ)	和田博文・杉浦静(編)	221-278頁(全512頁)
読書教養講座		2009. 2	日本読売新聞:読売新聞2008年7月21日朝刊		第14面(全国版)
石原吉郎—シベリアへの記憶の詩学	単独執筆	2009. 4	世界思想社:『戦後詩のポエティクス1935~1959』-	和田博文編	135-151頁
「近代詩苑」「純粹詩」	単独執筆	2009. 6	紀伊国屋書店:『戦後詩誌総覧』第4巻(第二次世界大戦後の〈実存〉と〈思想〉)	和田博文・杉浦静編	7-11, 186-209頁(全511頁)
モダン・スポーツ批評—アドルノ・神原泰・中井正一	単独執筆	2009. 6	青弓社:『スポーツする文学』-	疋田雅昭ほか編	103-108頁
戦後思想と太宰治「トカトントン」	単独執筆	2009. 6	双文社出版:『新世紀 太宰治』-	松本和也ほか編	219-236頁
表現者の意識——西條八十と一九三〇年前後	単独執筆	2009. 7	中原中也の会:『中原中也の会会報』第26号	西村将洋	2頁
西南学院大学—読書教養講座(松浦理英子氏、多和田洋子氏との対談記事)		2009. 7	日本読売新聞:『読売新聞』(全国版)2009年7月25日朝刊		第30面
知らないことを知ってみる:研究室訪問—読む力(インタビュー記事)		2009. 8	アヴァンティ:『avanti福岡』第16巻9号		27頁
「今日」「詩炉」「詩炉通信」	単独執筆	2009.11	紀伊国屋書店:『戦後詩誌総覧』第5巻(感受性のコスモロジー)	和田博文・杉浦静編	58-65, 329-343頁(全559頁)

講演会

開催日時	講演名称	場所
2007.11.16	美術館という物語—大原美術館とく文化の記憶	西南学院大学
2008. 7. 1	対談「大学で日本文学を学ぶということ(私も日文卒です)」	西南学院大学
2009. 5.23	作家・松浦理英子氏との対談「書きながら読む」	西南学院大学
2009. 7.14	作家・多和田葉子氏との対談「紙のエロス、洋書は魔の薬」	西南学院大学
2009. 9. 5	「表現者の意識—西條八十と1930年代」	山口県湯田温泉: 中原中也記念館
2009. 9. 5	シンポジウム「西條八十と中原中也: 大衆文化の成立と流行をめぐって」	山口県湯田温泉: 中原中也記念館
2009.10. 6	「発想力・気づく力を鍛える『読み方』講座」	天神パークビル

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2007.12.25	ポスト自然主義の主体形成—長谷川天溪のロンドン体験	サントリー文化財団2007年度助成共同研究「1910-30年代日本における《作ること》の諸相とその精神史的意味」第6回会合
2008. 3. 5	異邦のニッポン —西欧モダニズムとく日本像の関係学・序説	国際文化談話会
2008.12.25	神話・言語・造形—保田與重郎について	科学研究費補助金基礎研究B「作ることの視点における1910-40年代日本近代化過程の思想史的研究」

社会活動

期間	活動内容
2008.12 ~	日本文学協会委員
2009.10 ~	第189回アヴァンティ・ゼミ講師(10月6日)

1 専任教員の教育・研究業績

所属 国際文化学部	職名 准教授	氏名 山田 順 (7135)	大学院における研究指導担当資格 無
-----------	--------	----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 受講学生の興味・関心・意識調査	2003. 4 ~	『授業科目:キリスト教学Ⅰ・Ⅱ,キリスト教人間学』:初回講義、最終回講義に、受講学生の授業テーマに関する興味・関心、および授業に対する要望・意見等を調査し、授業内容・方法の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業時間外の個別指導	2003. 4 ~	『授業科目:演習科目、卒論指導』: 1年生基礎演習から4年生演習において、授業時間外に時間を割いて、学生個人の能力・関心に応じた資料の収集方法、レジュメの作成、論文添削の個別指導を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2004. 4 ~	『授業科目:キリスト教学Ⅰ・Ⅱ,キリスト教人間学,イタリア語』: 毎学期、講義終了時期に本学が定める「授業評価」を実施し、翌年からの授業内容・方法の改善に努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育機器の活用	2007. 4 ~	『授業科目:文化のダイナミズム』: パワーポイントとOHCを活用し視覚教材を多用しながら授業を行うことで、受講学生の多くができるだけ容易に理解を深められるよう努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育機器の活用	2008. 4 ~	『授業科目:イタリア地中海文化論』: パワーポイントに加えインターネットを活用し、衛星写真による都市や遺跡の映像を提示しながら授業を行うことで、受講学生の多くが授業内容に興味をもち、できるだけ容易に理解を深められるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書、教科書作成	2006.12 ~	『授業科目:文化のダイナミズムⅠ』:「都市論」について、国際文化学部の教員と共著で教科書『都市を歩く』の出版を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
カタコンベ	分担執筆	2004. 4	創英社(三省堂):季刊 文化遺産17号	浅香 正(監修)	25~27
キリシタン時代の南蛮美術	分担	2006. 9	日本キリスト教団出版局:『講座 日本のキリスト芸術 2 美術・建築』	神田健次(編)	19~47
ローマ—時が堆積する街	分担	2006.12	九州大学出版会:『都市を歩く 博多からローマまで』	井口正俊・岩尾龍太郎(編)	11~26

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
キリスト教と太陽信仰の接点—サークル型聖堂と古代ローマの戦車競技場—	2006. 5	西南学院大学論集:第21巻第1号	201~225

初期キリスト教における聖人崇敬と民衆信仰 — 聖女ペトロニツラの図像とその意味 —	2007.10	西南学院大学論集: 第22巻1号	81~112
--	---------	------------------	--------

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ローマのキリスト教考古学とカタコンベ研究	単著	2004. 4	博物館等建設推進会議: 『Museum Kyushu』第77号		44, 65~69
ローマのカタコンベと巡礼	単著	2007. 3	科学研究費「環地中海の聖地巡礼と民衆信仰」研究会: 科学研究費研究会「環地中海の聖地巡礼と民衆信仰」報告書		
ローマの巡礼モニュメントとその異教性—4世紀のサークル型聖堂と太陽信仰を中心に—	単著	2007. 4	: 環地中海世界の聖地巡礼と民間信仰(科学研究費補助金・報告書)	研究代表者 関 哲行	15~30
ローマの初期キリスト教考古学(1) — ローマの地下世界: その発見と研究 —	単著	2007. 5	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第5号 2007第5号		5~6
ローマの初期キリスト教考古学(2) — 死者のための「地下都市」: カタコンベ —	単著	2007. 6	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第6号		5~6
ローマの初期キリスト教考古学(3) — カタコンベの発展: 共同墓地から巡礼聖地へ	単著	2007. 7	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第7号		5
ローマの初期キリスト教考古学(4) — 「死者」と共に生きたローマ人 —	単著	2007. 8	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第8号		4~5
ローマの初期キリスト教考古学(5) — サン・セバスティアーン聖堂とカタコンベ —	単著	2007. 9	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第9号		4~5
ローマの初期キリスト教考古学(6) — 「伝説の聖女」が眠るカタコンベ —	単著	2007.10	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第10号		5
ローマの初期キリスト教考古学(7) — 巨大地下墓所: サン・カリスト —	単著	2007.11	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2007第11号		5~6
ローマの初期キリスト教考古学(8) — 暗闇に響く「祈り」: カタコンベの図像学 —	単著	2007.12	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』 2007第12号		5~6
ローマの初期キリスト教考古学(9) — 世界最古の聖母像: カタコンベの図像学—	単著	2008. 1	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2008第1号		5
ローマの初期キリスト教考古学(10) — 幼き殉教聖女 アニェーゼの聖地—	単著	2008. 2	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2008第2号		5~6
ローマの初期キリスト教考古学(11) — カタコンベに迷い込んだ異教神—	単著	2008. 3	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2008第3号		5~6
日本における最初期のキリスト教会堂建築に関する研究ノート	単著	2008. 3	西南学院大学学術研究所: 国際文化論集第22巻第2号	九州におけるキリスト教受容の研究(西南学院大学学術研究所共同研究・報告書)研究代表者 塩野和夫	41~45
ローマの初期キリスト教考古学—最新の研究成果—	単著	2008. 4	名古屋日伊協会: 『名古屋日伊協会会報』2008第4号		5~6

講演会

開催日時	講演名称	場所
2007. 7.27	名古屋日伊協会定期講演会	名古屋日伊協会
2007. 9.22	西南学院大学博物館公開講演会	西南学院大学博物館

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.12. 4	初期キリスト教考古学とカタコンベ研究	コロキウム・パトリスティウム
2005.12. 3	ローマのカタコンベと巡礼	科学研究費研究会「環地中海の聖地巡礼と民衆信仰」
2007. 3.27	初期キリスト教における聖人崇敬と民衆信仰 －聖女ペトロニッラの図像とその意味－	日本基督教学会九州部会

1 専任教員の教育・研究業績

所属	国際文化学部	職名	准教授	氏名	尹 芝恵 (7136)	大学院における研究指導担当資格	無
----	--------	----	-----	----	-------------	-----------------	---

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) パワーポイント及びDVDなどの機材の活用	2007.4～	『授業科目:日本文化史AB、文化基礎論a、文化基礎論g』講義にパワーポイント及びDVDなどの機材を利用し、絵画作品などの映像資料を用いることで授業内容の理解を助けている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.7～	『授業科目:文化基礎論a、文化基礎論g、韓国語(3)』最終講義の最後15分間を使って、授業評価を実施し、講義の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内容を示したプリント作成	2007.4～	『授業科目:日本文化史AB、文化基礎論a、文化基礎論g』講義の概要を示したプリントを作成し、授業のはじめに配布することで授業のポイントを事前に示している。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
浮世絵に描かれた朝鮮通信使(査読)	単著	2004.7	広島芸術学会:芸術研究17号	尹芝恵	17～36
演出された朝鮮通信使—葛飾北斎の作品を中心に—	単著	2004.11	広島大学比較文化研究会:比較文化研究27号	尹芝恵	15～33
江戸絵画に描かれた朝鮮通信使の<楽隊>(査読)	単著	2005.12	島根県立大学総合政策学会:総合政策論叢10号	尹芝恵	73～89
演出された朝鮮通信使(日本語版を加筆修正し韓国版で掲載)	単著	2005.12	韓国朝鮮通信使学会:朝鮮通信使研究1号	尹芝恵	261～296
日本絵画の中の朝鮮通信使(深まる世界・日本・島根の絡み合い—講座北東アジアを見つめる)	単著	2006.3	島根県立大学:リポート216号	尹芝恵	67～76
葛飾北斎と朝鮮通信使	単著	2006.3	日韓美学研究会:日韓美学研究会報告書12号	尹芝恵	111～125
第12回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流大会記念特別展「朝鮮通信使の来日と文化の交流展」展覧会カタログ翻訳		2006.9	:朝鮮通信使資料館「御馳走一番館」	尹芝恵	
異国を見る目—朝鮮通信使にまつわる絵画を通した日韓比較文化研究—	単著	2007.11	(財)鹿島美術財団:鹿島美術研究年報第24号別冊	尹芝恵	356～366
朝鮮通信使と随行画員	単著	2008.3	(社)朝鮮通信史文化事業會:朝鮮通信使ジャーナル20号	尹芝恵	14～17
近世日本の絵画作品における朝鮮通信使の描き方—楽隊とその衣装に注目して(査読)	単著	2008.6	美学会:美学232号	尹芝恵	57～70

講演会

開催日時	講演名称	場所
2008. 2.16	岡山県立博物館平成19年度特別展「朝鮮通信使と岡山」記念講演	岡山県立博物館講堂
2008. 4.26	新宮町朝鮮通信使勉強会	新宮ソフィア

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004. 8. 6	葛飾北斎と朝鮮通信使	広島大学比較文化研究会
2006.10. 9	描かれた朝鮮通信使の楽隊	第57回美学会全国大会
2007. 5.19	日本人の目に朝鮮人はどのように映ったか—朝鮮通信使の楽隊に注目して—	縁地連朝鮮通信使関係地域史研究会
2007. 9.15	異文化を見る眼—日本人が描いた朝鮮・朝鮮人が描いた日本—	日韓フォーラム
2009. 2.18	朝鮮通信使と日本絵画について	2008年度国際文化学部談話会

社会活動

期間	活動内容
2005. 6	島根県立大学公開講座講師「21世紀・地球講座」(題目:「日本絵画の中の朝鮮通信使」)
2005.10	“社会福祉法人島根県社会福祉協議会、シマネスクくにびき学園西部校講師、2年社会文化科(題目:「韓国の文化②」)”
2006. 1	“社会福祉法人島根県社会福祉協議会、シマネスクくにびき学園西部校講師、1年社会文化科(題目:「韓国の文化①」)”
2006.10 ～	韓国朝鮮通信使学会渉外・広報理事
2007. 6.29	東洋経済日報13面記事 朝鮮通信使400周年特集「日本人の描いた朝鮮通信使」
2007. 8.12	日本経済新聞18面<美の美>交流する絵心——朝鮮通信使400周年上

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授(実務家教員・非常勤)	氏名 一瀬 悦朗 (9101)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	------------------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007.4～	授業評価を導入し、その結果を授業方法の改善に役立てている。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
北九州市小倉妻子殺人事件 (ケース報告)	福岡高裁判決	1997.12.4	単著	現代人文社:刑事弁護第37号	83～86

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授	氏名 紺谷 浩司 (9102)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004.4 ~ 2005.3	「授業科目:民事訴訟法第2特殊講義」随時、メールによる質疑を受け付ける態勢をとっていた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業形式の工夫	2004.4 ~ 2006.3	2004年・2005年とも受講生が数名の少人数だったため、基本的に演習形式で、討論を交えて授業を進めた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004.5 ~ 2006.3	「授業科目:民事訴訟法第2特殊講義」随時、メールによる質疑を受け付ける態勢をとっていた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 講義概要とプリント作成	2004.5 ~ 2006.3	「授業科目:民事訴訟法第2特殊講義」 授業で輪読するテキストのプリントを配布した。統計資料や図表などの資料のコピーを作成し配布した。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 修士論文の指導	2006.4 ~ 2007.3	2006年度「民事訴訟法第2特殊講義」では、成年後見制度をめぐる諸問題をテーマにとりあげる予定であったが、法学研究科の学生の受講希望者がいなかったため、不開講となった。しかし、社会福祉専攻の大学院生が、修士論文作成に当たり、成年後見制度について勉強をしたいので受講したいとの希望をもっていたので、前期の間、事実上開講し、毎週、関連の文献を紹介したり、主要な論文について論究を行った。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
ミクロネシア連邦『アジア憲法集』	単著	2004.12	明石書房	萩野芳夫 畑博行 畑中和 和夫	433~458
ミクロネシア連邦『アジア憲法集』[第2版]	単著	2007.6	明石書店	萩野芳夫 畑博行 畑中和 夫	443~468
明治初年代の「廣島裁判所民事取扱順序」について ――明治九年三月 山口裁判所民事課の「決議録」調査報告・その三――	共著	2005.9	広島修道大学:「修道法学」第28巻第1号	紺谷浩司 加藤高	115~142
司法権の独立と裁判所[第3版]	分担執筆	2006.9	法律文化社:	中川淳	197~216

本学「論集」で発表された論文その他

名称	年月	発行	該当頁
----	----	----	-----

明治初年代の「東京裁判所民事課事務節目」について—明治九年三月 山口裁判所民事課の「決議録」調査報告・その一—	2005. 3	西南学院大学論集: 第37巻第4号	93~170
明治初年代の「広島裁判所民事課事務節目」について—明治九年三月 山口裁判所民事課の「決議録」調査報告・その二—	2005. 7	西南学院大学論集: 第38巻第1号	23~85

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
広島における陪審裁判 —昭和初期の芸備日日新聞・中国新聞の報道ならびに刑事判決原本を中心に見る陪審裁判—	共著	2007. 3	広島修道大学: 修道法学29	広島修道大学「明治期の法と裁判」研究会	377-527
広島における陪審裁判(二)	共著	2007. 9	広島修道大学: 修道法学30	広島修道大学「明治期の法と裁判」研究会	377~527
「抗告」『基本コンメンタール 新民事訴訟法3[第3版]』	単著	2008. 3	日本評論社:	小室直人・賀集唱・松本博之・加藤新太郎	98~112
山口における陪審裁判(1) —予審終結決定書: 陪審公判始末簿および刑事判決書を中心に見る陪審裁判—	共著	2008. 9	広島修道大学: 修道法学第31巻第1号	広島修道大学「明治期の法と裁判」研究会 加藤 増田修 紺谷浩 司 矢野達雄	39~80

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1976. 4 ~ 2010. 3	家事調停委員(広島家庭裁判所)
1991. 1 ~ 2009.12	参与員(広島地方簡易裁判所)
1991.10 ~ 2007. 9	民事調停委員(広島地方・簡易裁判所)
2003. 1 ~ 2009.12	司法委員(広島簡易裁判所)
2004. 4 ~ 2010. 3	地方公務員公務災害補償基金 広島支部 審査会委員
2007. 4 ~ 2011. 3	福岡市感染症診査協議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授(実務家教員・非常勤)	氏名 松本 正文 (9103)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	------------------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2004. 4 ~	担当するすべての講義において、授業評価(アンケート)を実施し、その結果をその年及び来年度以降の講義内容の改善に生かしている。アンケート結果に対しては、当方からの「回答」を学内掲示板に掲示している。その他、授業に対する要望などは随時直接の口頭や電子メールなどにより受け付けて授業改善に取り入れている。例えば板書の方法、講義中での話し方、特に授業で取り上げてほしい項目など、学生からの要望をできるだけ取り入れて授業を行うよう努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の主体的な授業参加に対する評価	2006. 4 ~	授業中、学生が①積極的に自ら挙手して②適切または刮目すべき解答を述べたような場合には、「座布団1枚進呈!」という名目で平常点として名簿に記載し、最終的な成績評価において考慮することになっている。もし仮にその発言によって「失敗」してももちろんおとがめなし、とすることで、学生がやる気を出し、授業全体が活気づく。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットの活用	2007. 4 ~	学内で整備された「TKC教育システム」を使って、授業内容の事前の予告や事後の補足、レジュメの配布などに活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教材とその利用	2004. 4 ~	担当する各授業において、教員自身が弁護士として体験した実際の事件から工夫創作した、オリジナルの事例問題を作成し、これを事前に配布し、これについて解答を考えさせたり答案を提出させたりした上で、その解説講義を行っている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 夏期休暇や時休暇中の特別授業実施	2004. 4 ~	夏期休暇、冬期休暇中に、「スペシャル授業」として、学生の希望者有志を対象に、民事訴訟法や要件事実論について、オリジナルの事例問題を使っての特別授業を行っている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
新司法試験の問題と解説2006	分担	2006. 9	日本評論社: 法学セミナー	神長勲 他	201~207

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授(実務家教員・専任)	氏名 小野寺 雅之 (9104)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-----------------	------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 個別指導による授業サポート	2007.4～	研究室を学生のために常時開放し、授業内容、勉強方法、生活上の留意点等の質問及び答案の個別指導に対して随時対応している。
2 作成した教科書、教材、参考書 公判期日における発言要旨集を作成	2007.4～	『授業科目:模擬裁判』 第1回公判期日から判決に至るまでの訴訟関係者の発言要旨をまとめたシナリオを作成し、電子媒体で受講生に配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書 演習問題と解説を作成	2007.4～	『授業科目:刑事訴訟実務の基礎、刑事法総合演習Ⅰ・Ⅱ』 論述式演習問題と択一演習問題を作成し、解説と共に、電子媒体で受講生に配布した。

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
1993.4～2007.3	検事として刑事事件の捜査と公判を担当

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授(実務家教員・専任)	氏名 西郷 雅彦 (9105)	大学院における研究指導担当資格 無
----------	-----------------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
2 作成した教科書、教材、参考書 講義に使用するレジメの配布	2007.9～	授業科目「民事訴訟実務の基礎」「民事手続法入門」「破産法」 事前に法科大学院教育研究支援システムを利用し、レジメのファイルをアップロードしている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
建築訴訟の審理	分担執筆	2006.5	判例タイムズ社:		16～21

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授	氏名 沢野 直紀 (9106)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)学生の質問への対応	2003. 4 ~	すべての科目について、学生が授業直後、その他 研究室において質問し易いような雰囲気を作るように努力している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)の工夫 双方向授業	2004. 4 ~	すべての科目において、毎回、学生に基本的な質問をし、あるいはレジュメに記載した問題に答えさせるようにしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)法の工夫 成績評価方	2004.10 ~	授業科目:法科大学院『商法』 小テストを何回か行い、それに論述試験さらに平常点を加えて、きめの細かい成績評価を心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書、教材、参考書 補助教材としてのレジュメの作成	2004.10 ~	授業科目:法科大学院『商法』 毎回、予習や授業理解に資する目的で2~3枚のレジュメを事前に配布している。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
2005[上]平成16年度判例評論— PP ネゴ方式による買取りと信用状統一規則(略)	分担執筆	2005. 2	日本評論社:法律時報別冊私法判例リマークス30号	椿寿夫 他	82~85
ベーシックラーニング@ロースクール会社法	分担執筆	2006. 4	第一法規:	永井和之他	49
入門講義 商法総則・商行為法	分担執筆	2006. 9	法律文化社:	蓮井良憲他	215~231

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
株主の会計帳閲覧請求権(最判平成16年10月26日)	単著	2005. 9	判例時報社:判例時報1897号		190~194

講演会

開催日時	講演名称	場所
2009. 2.13	講演会『中小会社と新会社法』	福岡市中央区 福岡ビル会議室 日本証券アナリスト協会九州支部例会

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
----	------

2004. 4 ~ 2006. 3

福岡県弁護士会綱紀委員会委員

2006. 1 ~ 2006.11

平成18年公認会計士試験試験委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授	氏名 多田 利隆 (9107)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) プロジェクターによるパソコン画面の活用	2004. 4 ~	授業科目:法科大学院『民法Ⅰ(総則・物権)』、『民法Ⅲ(担保物権)』 板書に代えて、特に図や表の部分をプロジェクターでパソコンから投射しながら授業を進める方法を用いている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 電子媒体による授業サポート	2004. 4 ~	授業科目:法科大学院『民法Ⅰ 総則・物権』、『民法Ⅲ(担保物権)』 2006年度までは法科大学院事務室を通じてレジメを、また、2007年度からはTKC教育支援システムによって直接に、シラバス、各回の授業内容、予習の指示およびレジメ等を配信してきた。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 双方向・多方向授業の実施	2004. 4 ~	授業科目:法科大学院『民法Ⅰ 総則・物権』、『民法Ⅲ(担保物権)』、『民法演習Ⅱ』、『民法演習Ⅲ』 講義科目についても、事前の設問の提示と予習の指示を前提として、授業では教員と学生間の質疑応答を多用している。また、場合によっては学生どうしの議論を行わせている。演習科目については、双方向、多方向の質疑応答が中心的な役割を果たしている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 成績評価方法の工夫	2004. 4 ~	授業科目:法科大学院『民法Ⅰ 総則・物権』、『民法Ⅲ(担保物権)』、『民法演習Ⅱ』、『民法演習Ⅲ』 成績評価については、ペーパーテストのみならず、出席状況や授業への積極的な参加態度、発言内容、レポートの内容等を総合的に勘案して行っている。そのような方法については、事前にシラバスで学生に示しているほか、第一回目の授業でレジメに記したうえでより詳しく説明している。また、成績評価については、法科大学院全体で協議のうえ、S、Aの割合について申し合わせをしているほか、正式な成績の提出前に各教員が評価を持ち寄り、成績分布の適正さについてチェックを行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 試験内容・方法の工夫	2004. 4 ~	授業科目:法科大学院『民法Ⅰ 総則・物権』、『民法Ⅲ(担保物権)』、『民法演習Ⅱ』、『民法演習Ⅲ』 正確かつ多面的に学習成果や学力を計るために、事例式の論述問題を中心としつつ、多様な形式の問題を出題している。試験時間は2時間から3時間と長く取り、しっかり考えて論述する力が答案に現れるようにしている。なお、法科大学院の教員間の申し合わせにより、採点の衡平と適正さを期すために、定期試験においては答案には学生の氏名を記入せず試験番号のみを記入することになっている。また、やはり申し合わせにより、採点済みの答案はコピーの控えをとったうえで、学生に返還している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価アンケート	2004. 4 ~	授業科目:法科大学院『民法Ⅰ 総則・物権』、『民法Ⅲ(担保物権)』、『民法演習Ⅱ』、『民法演習Ⅲ』 毎学期、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果について学生に報告しコメントをしている。また、アンケート内容は自分で授業の改善に生かす工夫をしているほか、FD研究会で各教員が自分のアンケート結果を報告し、組織的な対応が必要であると考えられるものについては協議のうえ対処している。

2	作成した教科書、教材、参考書 授業補助教材としてのレジメの作成	2004. 4 ~	授業科目：法科大学院『民法Ⅰ総則・物権』、『民法Ⅲ（担保物権）』、『民法演習Ⅱ』、『民法演習Ⅲ』 毎回、予習や授業理解及び復習の補助とする目的で、レジメを作成し配布している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 中国吉林大学における講演	2004. 4	中国吉林大学法学院において、日本の法科大学院における教育内容や教育方法について連続2回にわたって講演した。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
物権法・担保物権法<改訂版>	分担	2004. 4	嵯峨野書院	多田利隆 柳澤秀吉	27~316 320~323
ホーンプック 民法Ⅱ 物権法 <改訂版>	分担	2005. 2	北樹出版		127~137

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
白紙委任状の転交付と代理権授与表示	単著	2008. 7	有斐閣：別冊ジュリスト『不動産取引判例百選』192号	安永正昭・鎌田薫・山野目章夫	20~21

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2008.10. 4	物権変動論から見たオンライン・システム	日本土地法学会

社会活動

期間	活動内容
2002.10 ~ 2010. 9	福岡市情報公開審査会委員(再任)
2003. 4 ~ 2010. 3	西日本高速道路株式会社九州支社(現西日本高速道路株式会社九州支社)入札監視委員会委員(再任)
2003. 9 ~ 2009. 8	福岡市個人情報保護審議会委員(再任)
2003.12 ~ 2005. 3	日本法科大学院協会理事
2004. 4 ~ 2005. 3	日本道路公団九州地区入札監視委員(再任)
2004. 4 ~ 2006. 3	大学入試センター適性試験実施方法研究会会員(再任)
2005. 4 ~ 2006. 3	日本道路公団九州地区入札監視委員会委員(西日本高速道路株式会社九州支社入札監視委員会委員)(再任)
2005. 4 ~ 2007. 3	福岡市政治倫理審査会委員
2005. 4 ~ 2009. 3	福岡県弁護士会懲戒委員会予備委員(再任)

2005. 4 ~ 2011. 3	福岡市政治倫理審査会委員(副委員長)(再任)
2006. 4 ~ 2010. 3	春日市溜池保全審議会委員(委員長)
2007. 4 ~ 2010. 3	福岡市固定資産評価審査委員会委員
2008. 4 ~ 2009. 3	財団法人大学基準協会法科大学院認証評価分科会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授	氏名 梅崎 進哉 (9108)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価	2007. 4 ~ 2007. 7	『法科大学院全担当科目』 講義終盤回の最後15分を使って授業評価を実施し、結果や自由記述に対するコメントを掲示している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) AV機器の活用	2007. 4 ~ 2007. 7	『刑事法演習』 刑事手続をビジュアルに示すビデオ教材を用いた。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントを配布	2007. 4 ~	『担当全科目』 講義概要を示したプリントを作成し、配布を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ビデオ教材の作成	2007. 4 ~	『刑事法演習』 刑事手続をビジュアルに示すビデオ教材を作成した。
2 作成した教科書、教材、参考書 論述実践訓練用練習問題の作成	2007. 4 ~	『拡大OH』 論述の訓練素材として有効利用できる事例問題教材を作成した。

II 研究活動

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
対談記事「西南学院大学法科大学院——「密着型教育」の実像」		2005.12	日本評論社：法学セミナー(雑誌)613号	編集者 中野芳明	1~3
書評『〈市民〉と刑事法』	単著	2006. 9	日本評論社：法学セミナー(雑誌)621号	編集者 中野芳明	117

III 学会等および社会における主な活動

学会における研究発表

年月日	題目	学会名
2004.11.13	個別(単独)報告「山口刑法総論と結果無価値刑法理論の変質」	第4回九州刑事法研究会
2008. 3.15	被害者の訴訟参加と刑事実体法	日本刑法学会九州部会

社会活動

期間	活動内容
2007. 4 ~ 2009. 3	大学入試センター適正試験実施方法研究会会員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授	氏名 和田 安夫 (9109)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施その活用	2007. 4 ~	担当する全ての講義において、大学が実施する授業評価を行い、その結果を授業改善に活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用レジメの作成	2007. 4 ~	民法Ⅱ、民法Ⅳについて、教科書として指定した本に引用されている判決の原文を整理したレジメを配布して学習の便宜をはかっている。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「第9章賃貸借」	共同執筆	2008. 4	悠々社:『法学講義民法5契約』	奥田昌道・池田真朗(編)	185~238

1 専任教員の教育・研究業績

所属 法務研究科	職名 教授	氏名 横田 守弘 (9110)	大学院における研究指導担当資格 有
----------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の質問への対応	2004. 4 ~	どの科目に限らず、学生は質問があれば常に研究室を訪れることができ、来訪があれば必ず対応するよう心がけている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) メールによる授業サポート	2004. 4 ~	授業科目:統治の基本構造、基本的人権の基礎、公法演習2において、学生からメールによる質問があれば、答えている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業におけるパソコン利用	2004. 4 ~	授業科目:統治の基本構造、基本的人権の基礎において、パソコン内に作成した図や文章をプロジェクターに映し、学生の理解に資するようになっている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価アンケート	2004. 4 ~	授業科目:統治の基本構造、基本的人権の基礎、公法演習2において、毎年度、授業評価アンケートを実施し、授業の改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリント作成	2004. 4 ~	どの科目に限らず、授業の内容、予習すべき事項について示したプリントや資料を事前に必ず学生に配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義概要を示したプリントの内容の電子シラバス化	2007. 4 ~	どの科目に限らず、授業の内容、予習すべき事項について示したプリントのファイルを授業前にTKC教育支援システムに掲載し、学生がダウンロードできるようにしている。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 大学公開講座における講師	2007.11 ~	2007年度公開講座「憲法入門—私たちの憲法学—」第8回を担当。

II 研究活動

著書

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
「法の下での平等・児童扶養手当事件」他	分担執筆	2008. 6	日本評論社:「事例研究 憲法」	木下智史・村田尚紀・渡辺康行[編著]	p.71~106、p.503~508

論文・資料など

名称	単共名称	年月	発行	著者名	該当頁
学校教育と教育(第6条)	単独執筆	2004. 4	日本評論社:法律時報臨時増刊		100~103
身障少年の教育を受ける権利	単独執筆	2007. 3	有斐閣:別冊ジュリスト憲法判例百選(第5版)II	高橋和之他編	312~313
学校選択と教育権論	単独執筆	2007. 5	世織書房:「教育のために」	田原宏人/大田直子編集	163~187

「君が代」ピアノ伴奏拒否事件上告審判決	単独執筆	2008. 9	エイデル研究所:季刊教育法158号	80～85
議院の自律権と司法審査	単独執筆	2008.12	有斐閣:ジュリスト増刊・憲法の争点(新・法律学の争点シリーズ) 大石眞・石川健治[編]	258～259

III 学会等および社会における主な活動

社会活動

期間	活動内容
2003. 4 ～ 2005. 3	前原市個人情報保護審議会委員
2005. 4 ～ 2007. 3	前原市個人情報保護審議会委員
2007. 4 ～ 2009. 3	前原市個人情報保護審議会委員
2009. 4 ～	前原市個人情報保護審議会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属 言語教育センター	職名 助教	氏名 ペニントン 和雅子 (9901)	大学院における研究指導担当資格 無
-------------	-------	---------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 実践的な英語授業の実施	2008.4～	特に、経済学部、商学部、法学部の学生を対象に、実社会で役に立つ実践的な英語授業を実施した。具体的には、学生は架空の会社に入社し、会社組織、財政状態などについて学んだ後、商品開発を行って、グループ毎にポスタープレゼンテーションを行った。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 授業評価の実施とその活用	2008.4～	担当する全ての講義について授業評価を実施し、結果を活用した。また、授業中にも授業についての意見や感想を書いてもらう機会を作り、学生の理解を確認しながら、次の授業計画に生かした。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 多読の導入	2009.4～	英会話のクラスに多読(extensive reading)を導入し、インプットとアウトプットのバランスが取れた授業を行った。学生には週に一冊、本を読む宿題を課し、それをを用いて、内容要約や感想などを共有し合う授業を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 教材の作成	2008.4～	英語専攻学科で、『英語音声演習』を担当。初心者に分かりやすい体系的な音声演習および発音記号表記練習のための教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学会での発表	2008.9～	IATEFL(イギリス、カーディフ)では、“Students’ self-error analysis of the TOEIC test”という題目でアクションリサーチの結果を報告。また、東アジア英語教育研究会およびJALT Fukuokaでは、ディベート授業の実践報告を行った。
4 その他の教育活動上特記すべき事項 英語指導力開発ワークショップ2008、2009	2008.7～	2008年は、小学校教育担当者コース、2009年は小学校および中高英語教育担当者コースのワークショップを担当し、小、中、高校での英語教育におけるティーチャートレーニングを実施した。

1 専任教員の教育・研究業績

所属 言語教育センター	職名 助教	氏名 J. マイオール (9902)	大学院における研究指導担当資格 無
-------------	-------	----------------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価の実施とその活用	2009. 4 ~	授業科目『英語』において授業評価を実施し、その結果を講義改善に活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生の主体的な授業参加	2009. 4 ~	授業科目『英語』において、学生に一方向的に講義を行うだけでなく、ペアワークによるロールプレイなど、学生が授業的に主体的に参加し、発言するように工夫を行っている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディアの活用	2009. 4 ~	DVDやCD等を教材として使用し、学生が興味を持って取り組みそうなメディアを教材として、日常会話などの学習に活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 教材の作成	2009. 4 ~	特に初年次の学生には、分かりやすく配慮した教材を作成している。教材には、クイズや音楽のコラム等も入れることにより、学生とのコミュニケーションツールとしても活用している。

1 専任教員の教育・研究業績

所属 言語教育センター	職名 助教	氏名 鳥越 千絵 (9903)	大学院における研究指導担当資格 無
-------------	-------	-----------------	-------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生による授業評価の実施と活用	2009. 4 ~	全講義において、5-6週目前後に中間授業評価を実施し、授業のプラス・マイナス面、改善点の提案などを学生に尋ねている。授業進行のペースや内容、板書についての意見などを取り入れ、少しでも学生にとって快適な授業環境を作るよう努めている。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 学生間、教員—学生間のクラス内interaction	2009. 4 ~	教員から学生に一方向的に講義を行うだけではなく、学生がお互いを助け合いながら学習ができるよう、授業の1/3は学生同士の英語インタビューやロールプレイ、発音練習のアクティビティーなどを行っている。また、その際には教室を巡回し、学生と1対1のコミュニケーションもとるように心掛けており、クラス内で発言をすることが苦手な学生であっても質問しやすくなるよう工夫している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) インターネットの活用	2009. 4 ~	全講義において、学生のBlackboard(WebCT)への登録を義務付けている。Blackboard上にハンドアウトや課題の説明などを掲示し、各自プリントアウトしたり、課題の提出・採点、質問やコメントなどの提出、欠席回数の確認などが随時できるようになっている。特にコメント欄は授業に関する質問だけではなく、英語全般に関する質問をするために利用されることが多く、学生・教員間の重要なクラス外コミュニケーションツールとして活用している。
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) マルチメディア機器の活用	2009. 4 ~	英語リスニングの講義においては、DVD/CDを主な教材として使用している。テキスト付属の音声・映像教材だけではなく、海外テレビドラマのように、学生が興味を持ちそうなメディアを副教材として使用し、日常英会話などの学習に活用している。 また、8コマ中6コマの講義においてはパワーポイントスライドを毎回使用し、予習課題の解答を確認したり、教科書以外の教材を提示したりしている。